日本の文化

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHU201
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（人文系）
授業科目名	日本の文化
科目責任者	岡本　直也
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	11000501　金曜日，1限
教室	講義室6
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	日本の文化　日本の歴史　伝統と行事　日本の風土	
学生の到達目標	１.「日本の文化」の具体的内容や歴史を学ぶことにより，人と接する上で必要な幅広い知識と教養を身につける。 ２.大学のカリキュラムと関連付けて「日本の文化」を主体的に学ぶことにより，自ら課題を解決する能力を身につける。 ３.様々な視点から「日本の文化」に接することにより，日本人としての誇りや豊かな人間性を身につける。	
授業内容	第1回	授業概要の説明及び「日本の文化」を学ぶ意味について（目標１）
	第2回	民話から見る「日本の文化」について（目標１）
	第3回	日本人の衣食住（衣食）の変遷について（目標１）
	第4回	日本人の衣食住（住）の変遷について（目標１，２）

第5回	伝統的な文化（美術・建築等）について(目標１)
第6回	伝統的な文化（能と狂言・歌舞伎等）について(目標１)
第7回	伝統的な行事（歳時）について（目標１，２）
第8回	学習指導要領における伝統文化の取り扱いについて（目標１，２）
第9回	学習指導要領における伝統文化の取り扱いについて（目標１，２）
第10回	「日本のしきたり」（冠婚葬祭）について（目標１，３）
第11回	「日本のしきたり」（生活）について（目標１，３）
第12回	文芸活動の歴史（俳句・短歌）と私たちの生活について（目標１，３）
第13回	習い事の歴史（茶道・華道・書道等）と私たちの生活について（目標１，３）
第14回	現代日本文化（ﾎﾟｯﾌﾟｶﾙﾁｬｰ等）とこれからの日本文化について（目標３）
第15回	授業で学んだことをどのように社会生活や個人生活に活かしていくかまとめる（目標１，３）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第2回　知っている童話や民話のあらすじが言えるように整理する。 第3回　選択した民話の内容を衣食住の視点から整理する。 第4回　平安期の貴族屋敷図面と江戸期の農家図面をもとに，空間の活用方法を考え，論理的に発表できるようにする。 第5回～第6回　授業課題となる「伝統的な文化」について，興味・関心のあるものについて調べ，発表できるようにする。 第7回　学生の育った家庭や地域の年中行事の様子を歳時記カレンダーにまとめ，特徴を発表できるようにする。 第8回～第9回　幼児や児童に対し，伝統文化について興味をもたせる指導方法を考える。 第10回～第11回　これまでの自らの生活・経験を振り返り，「しきたり」の必要性を感じたことを発言できるようにする。 第12回　俳句・短歌について，それぞれ1作品創作し，その意図を発表できるようにする。 第13回　伝統的習い事と現代的な習い事について，学生自らの体験等をもとに整理し，感想が言えるようにする。 第14回　現代ポップカルチャー（漫画，アニメ等）から興味のあるカルチャーを具体的に示せるようにし持ち寄り，その良さを積極的に説明できるようにする。 第15回　レポート作成の進捗状況を言える。
	復習	第1回　多様な日本の文化について分類・整理し，表にまとめる。 第2回　日本の民話に見られる「日本の文化」について，自ら視点を設定しまとめる。 第3回～第4回　日本の衣食住の変遷について，衣食住の項目ごとに一覧表に整理する。 第5回～第6回　映像鑑賞した作品・芸能について，現代社会において果たす働きをもとに感想を書く。 第7回　他の学生と自らの経験・体験した行事等の違いを整理する。 第8回～第9回　学習指導要領における「伝統文化の取り扱い」について発達段階に応じて，一覧表に整理する。 第10回～第11回　「しきたり」について，自らの生活に必要と思うもの，関係のあるもの，身につけたいもの等に分類整理し，分類理由を記述する。 第12回～第13回　今日の社会にしっかり根づく「日本の文化」について，自ら行ってみたいものを選択し，その歴史や良さについてまとめる。 第14回　現代の日本文化がこれからどうなるか，自らの考えをまとめる。

		第15回　「日本の文化」を学び，これからの自らのかかわり方を，学んだことを含め感想にまとめる。
	展開	日常生活において，目にする様々な事実・事象を「文化」の面から見直し，その成り立ちや現代社会における位置付け，かかわる人々等の視点から調べるようにしたい。
成績評価	評価の基準	1.「日本の文化」について幅広く理解し，他者に伝えることができることを基準とする。 2.講義内容について，論理的な見方・考え方ができることを基準とする。また，「日本の文化」に関する課題を選択させ，論理的な手法により自らの考えをまとめたレポートを書いて提出することを基準とする。 3.「日本の文化」に対する興味・関心を深め，積極的に日本文化に関わろうとすることを基準とする。
	評価の方法	最終レポート(70%)宿題や課題(20%)授業態度(10%)等を考慮して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	1.文化の範囲は広く，限定した教科書・参考書は用いない。必要な資料等は授業中に配布する。 2.受講人数にもよるが，写真・映像資料を積極的に活用するとともに，学生同士が互いに学びを深めあえる授業形態・授業方法を工夫する。	

道徳と福祉の心

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS101
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（人文系）
授業科目名	道徳と福祉の心
科目責任者	石野　高弘
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	11001001　水曜日，1限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	福祉の心　思いやり　共生社会　よりよく生きる力　学びに向かう力	
学生の到達目標	1.世界や日本の思想、文化に触れ、自己の感性を磨くことができる。 2.現代社会の福祉の現状と課題を把握し、望ましい在り方を考えることができる。 3.国際社会に生きる日本人として、より高い道徳性に基づき、行動しようとすることができる。	
授業内容	第1回	建学の精神「心の豊かなたくましい人間」とは何か、授業の進め方等のガイダンス（目標１）
	第2回	道徳と人間性について、人類の歴史やマズロー、フロイトなどから人間性を考え、人間として生きる喜びを知る（目標３）
	第3回	古代ギリシア哲学とキリスト教・イスラム教の思想について触れ、思いやりの心や現代の自分たちへの影響、自己の在り方生き方について考える（目標１）

第4回	中国思想と儒家・道家、インド思想と仏教について触れ、思いやりの心や現代の自分たちへの影響、自己の在り方生き方について考える（目標１）
第5回	日本の伝統的な人間観・自然観と神仏習合について触れ、思いやりの心や自分たちの生活との関わり、生き方についてを考える。（目標１）
第6回	コールバーグの認知発達論から、ジレンマ資料をつかって考え議論し、道徳の発達段階を知る。（目標３）
第7回	社会主義と資本主義の原理を確認し、現代社会の問題から、望ましい共生社会の在り方を考える。（目標３）
第8回	生命倫理について課題を知り、考え議論し、自己を高める（目標２）
第9回	家族の役割や家制度の歴史を知り、スウェーデンの社会福祉と対比させて、家族の在り方と社会福祉について考え議論し、自分なりの考えをもつ。（目標２）
第10回	生活困窮と社会福祉の概要を知り、その課題について考え議論し、自己を高める（目標２）
第11回	児童と社会福祉の概要を知り、その課題について考え議論し、自己を高める（目標２）
第12回	高齢者問題と社会福祉の概要を知るとともに、墓の有り様をとおして、その課題について考え議論し、自己を高める（目標２）
第13回	心身障害者と社会福祉の概要を知り、その課題について考え議論し、自己を高める（目標２）
第14回	持続可能な社会を目指すためにどのような課題があるかを知り、自分自身の問題として考え議論し、どのようなことが大切か考える（目標３）
第15回	アメリカ型社会とヨーロッパ型社会を比較し、自分自身の「豊かさ」について考え、自分の生き方・在り方を探る（目標３）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回：本学の「建学の精神と理念」を熟読しておく。 第2回：自分の善いところ、悪いところを書き出しておく。 第3回：イスラム教の戒律を具体的に調べておく。 第4回：自分が葬式をあげるとしたらどんな宗教の葬式をあげるか調べておく。 第5回：自宅周辺の神社仏閣について、３か所の名称と何を祭っているかを調べておく。 第6回：ピアジェの発達理論を調べておく。 第7回：「ポピュリズム「と「保護主義経済」、トランプ米大統領の政策について調べておく。 第8回：自分の死をどのように迎えたいか考えておく。 第9回：スウェーデンの社会保障制度について調べておく。 第10回：生活保護家庭が増加している原因を3つ以上考えておく。 第11～13回：居住する市町村町にある福祉施設の所在地と名称を調査しておく。 第14回：SDGｓの17の目標について調べておく。 上記以外：毎回、学習内容をお互いにシェアリングする時間を設けるので、事前に講義内容について研究し、自分自身で課題をもって講義に参加する。
	復習	第1回～第15回：①講義の概要②話し合いをした他の学生の意見や考え③話し合い後の自分の意見や考え等を講義終了後、ノートに毎回まとめる。
	展開	授業で得られた知識を踏まえて、教え合ったり、議論する時間を設けるので、自分自身の考えを持ち、議論をとおして自分自身の在り方生き方を考え、自己の道徳的実践力の向上を目指す。

成績評価	評価の基準	1.世界や日本の思想、文化の源流を学び、自己の感性を高めることができたか。 2.現代社会の福祉の現状と課題を把握し、望ましい在り方を考えることができたか。 3.国際社会に生きる人間として、よりよく生きようとする意欲をもつことができたか。
	評価の方法	講義を記録したノート50% 期末試験　50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業は、基本的にプレゼンテーションの後に学生間の議論、発表を中心とする。 参考文献等は、その都度紹介する。	

道徳と福祉の心

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHU101
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（人文系）
授業科目名	道徳と福祉の心
科目責任者	石野　高弘
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	11001002　水曜日，2限 11001003　水曜日，2限
教室	中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	福祉の心　思いやり　共生社会　よりよく生きる力　学びに向かう力	
学生の到達目標	1.世界や日本の思想、文化に触れ、自己の感性を磨くことができる。2.現代社会の福祉の現状と課題を把握し、望ましい在り方を考えることができる。 3.国際社会に生きる日本人として、より高い道徳性に基づき、行動しようとすることができる。	
授業内容	第1回	建学の精神「心の豊かなたくましい人間」とは何か、授業の進め方等のガイダンス（目標１）
	第2回	道徳と人間性について、人類の歴史やマズロー、フロイトなどから人間性を考え、人間として生きる喜びを知る（目標３）
	第3回	古代ギリシア哲学とキリスト教・イスラム教の思想について触れ、思いやりの心や現代の自分たちへの影響、自己の在り方生き方について考える（目標１）

第4回	中国思想と儒家・道家、インド思想と仏教について触れ、思いやりの心や現代の自分たちへの影響、自己の在り方生き方について考える（目標１）
第5回	日本の伝統的な人間観・自然観と神仏習合について触れ、思いやりの心や自分たちの生活との関わり、生き方についてを考える。（目標１）
第6回	コールバーグの認知発達論から、ジレンマ資料をつかって考え議論し、道徳の発達段階を知る。（目標３）
第7回	社会主義と資本主義の原理を確認し、現代社会の問題から、望ましい共生社会の在り方を考える。（目標３）
第8回	生命倫理について課題を知り、考え議論し、自己を高める（目標２）
第9回	家族の役割や家制度の歴史を知り、スウェーデンの社会福祉と対比させて、家族の在り方と社会福祉について考え議論し、自分なりの考えをもつ。（目標２）
第10回	生活困窮と社会福祉の概要を知り、その課題について考え議論し、自己を高める（目標２）
第11回	児童と社会福祉の概要を知り、その課題について考え議論し、自己を高める（目標２）
第12回	高齢者問題と社会福祉の概要を知るとともに、墓の有り様をとおして、その課題について考え議論し、自己を高める（目標２）
第13回	心身障害者と社会福祉の概要を知り、その課題について考え議論し、自己を高める（目標２）
第14回	持続可能な社会を目指すためにどのような課題があるかを知り、自分自身の問題として考え議論し、どのようなことが大切か考える（目標３）
第15回	アメリカ型社会とヨーロッパ型社会を比較し、自分自身の「豊かさ」について考え、自分の生き方・在り方を探る（目標３）

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回：本学の「建学の精神と理念」を熟読しておく。 第2回：自分の善いところ、悪いところを書き出しておく。 第3回：イスラム教の戒律を具体的に調べておく。 第4回：自分が葬式をあげるとしたらどんな宗教の葬式をあげるか調べておく。 第5回：自宅周辺の神社仏閣について、３か所の名称と何を祭っているかを調べておく。 第6回：ピアジェの発達理論を調べておく。 第7回：「ポピュリズム「と「保護主義経済」、トランプ米大統領の政策について調べておく。 第8回：自分の死をどのように迎えたいか考えておく。 第9回：スウェーデンの社会保障制度について調べておく。 第10回：生活保護家庭が増加している原因を3つ以上考えておく。 第11～13回：居住する市町村町にある福祉施設の所在地と名称を調査しておく。 第14回：SDGｓの17の目標について調べておく。 上記以外：毎回、学習内容をお互いにシェアリングする時間を設けるので、事前に講義内容について研究し、自分自身で課題をもって講義に参加する。
	復習	第1回～第15回：①講義の概要②話し合いをした他の学生の意見や考え③話し合い後の自分の意見や考え等を講義終了後、ノートに毎回まとめる。
	展開	授業で得られた知識を踏まえて、教え合ったり、議論する時間を設けるので、自分自身の考えを持ち、議論をとおして自分自身の在り方生き方を考え、自己の道徳的実践力の向上を目指す。

成績評価	評価の基準	1.世界や日本の思想、文化の源流を学び、自己の感性を高めることができたか。 2.現代社会の福祉の現状と課題を把握し、望ましい在り方を考えることができたか。 3.国際社会に生きる人間として、よりよく生きようとする意欲をもつことができたか。
	評価の方法	講義を記録したノート50% 期末試験　50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業は、基本的にプレゼンテーションの後に学生間の議論、発表を中心とする。 参考文献等は、その都度紹介する。	

音楽療法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS301
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（人文系）
授業科目名	音楽療法
科目責任者	池田　仁美
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	11003001　月曜日・3限（6/19，7/17），3･4限（6/26，7/3，7/10）
教室	講義室5
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	ＱＯＬの維持向上，楽しく歌う，身体表現	
学生の到達目標	1.音楽療法について理解を深め音楽活動ができるようになる 2.音楽活動について考え高齢者のＱＯＬの維持向上に役立つ力をつける 3.高齢者が楽しめる音楽活動を身につける	

授業内容

第1回	音楽療法の意義,授業の進め方等のガイダンス（目標1）
第2回	精神科病院・高齢者施設・通所施設での音楽療法（目標1）
第3回	季節の歌を使った音楽療法（目標2,3）
第4回	童謡・唱歌を使った音楽療法（目標2,3）
第5回	ナツメロを使った音楽療法①（目標2,3）レポート提出
第6回	ナツメロを使った音楽療法②（目標2,3）

	第7回	楽器を使った音楽療法（目標2,3）
	第8回	まとめ－高齢者が楽しめる音楽活動を想定し発表する。（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第2回　高齢者施設等の音楽活動を調べ発表できるように準備する。 第3回　高齢者の好む季節の歌を想定し，授業内で発表できるように準備する。 第4回　高齢者の好む童謡唱歌を調べ授業内で発表できるように準備する。 第5回　高齢者の好むナツメロを想定し授業内で発表できるように準備する。 第6回　高齢者の好むナツメロに振り付けし授業内で発表できるように準備する。 第7回　高齢者の曲に楽器のリズムを付け授業内で発表できるように準備する。 第8回　レポートを基にした音楽活動を想定し発表できるように準備する。
	復習	第3回～第7回 前回の授業内で使用した曲を暗譜で歌えるようにする。
	展開	高齢者が楽しめる音楽活動を提供できるように，より多くの曲を覚え，利用者の様子を観察しサポートできるようになる。
成績評価	評価の基準	1．音楽療法についての理解度，定着度。 2．QOLの維持向上に役立つ音楽活動能力が養われていること。 3．楽しめる音楽活動能力が養われていること。
	評価の方法	試験（25%），レポート（10%），授業内での発表等（20%），予習・復習への取り組み状況（20%）、目標への到達度（25%）
教科書	書籍名	歌の宝石箱
	著者名	呉竹英一編
	出版社	ドレミ音楽出版社
	価格	2,000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-285-14276-1
推薦図書等		
参考URL		
備考	推薦図書については，必要に応じて紹介する。	

法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS302
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	法学
科目責任者	金津　謙
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	12000001　土曜日，3限
教室	講義室3
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	社会福祉制度，法律，権利擁護，高齢者保護	
学生の到達目標	1．社会福祉制度と法律との関わり 2．成年後見制度についての習熟 3．介護現場におけるトラブルと法的対処への習熟	
授業内容	第1回	法律の全体像（目標１）
	第2回	憲法に規定される基本的人権概論（目標１）
	第3回	生存権と社会福祉（目標１）
	第4回	高齢者と悪質商法①／消費者契約法，特定商取引法概論（目標２）
	第5回	高齢者と悪質商法②／特定商取引法各論（目標２）
	第6回	悪質商法と損害の回復（目標２）

	第7回	高齢者の権利擁護①／成年後見制度概論（目標２）
	第8回	高齢者の権利擁護②／成年後見制度の実務（目標２）
	第9回	日常生活自立支援事業と法律の関わり（目標２）
	第10回	福祉と行政（法）の関わり（目標２）
	第11回	相続と遺言（目標３）
	第12回	福祉と労働（法）（目標３）
	第13回	福祉現場における事故と法的責任①／損害賠償制度概論（目標３）
	第14回	福祉現場における事故と法的責任②／損害賠償制度各論（目標３）
	第15回	社会福祉法のまとめと今後の課題（目標３）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　福祉について関心のある制度について調査しておくこと。 第2～14回　前週に指摘する教科書の該当箇所を熟読すること。 第15回　1～14回までの授業を復習してくること。
	復習	第1～15回　ノートを整理し、授業でわからなかった箇所を明確にすること。
	展開	新聞などで報道される福祉に関する問題について，法的視点から考察する。
成績評価	評価の基準	1.社会福祉制度と法律との関わりについて，授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。 2.成年後見制度について習熟し，制度の概要および今後の展望について自らの考えを持ち，それを的確に説明できること。 3.介護現場におけるトラブルと法的対処について理解し，その防止と策を自ら提案できることを合格基準とする。
	評価の方法	中間テスト(50%)，期末テスト(50%)
教科書	書籍名	新・社会福祉士養成講座19　権利擁護と成年後見制度 第3版
	著者名	社会福祉士養成講座編集委員会／編集
	出版社	中央法規出版
	価格	2,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4805835685
推薦図書等	書籍名	法学への一歩（第３版）
	著者名	河原 格 編著　高沢 弘明 ほか著
	出版社	八千代出版
	価格	2,300円+税
	ISBN・ISSN	978-4842915012
参考URL		
備考		

日本国憲法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSO101
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	日本国憲法
科目責任者	金津　謙
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	12000101　土曜日，1限 12000102　土曜日，2限
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	憲法，法律，基本的人権	
学生の到達目標	1.憲法の概要を理解する。 2.憲法の発展的課題について考察する。 3.教育，保育に関する憲法問題について理解する。	
授業内容	第1回	憲法の意義（目標１）
	第2回	憲法総論／日本国憲法史（目標１）
	第3回	国民主権という考え方／明治憲法と現行憲法との比較（目標２）
	第4回	平和主義／憲法９条と世界平和（目標２）
	第5回	基本的人権とはなにか／人権宣言の意義／基本的人権の限界（目標２）

	第6回	個人の思想の自由は制限されるか／法の下の平等・精神的自由権①（目標３）
	第7回	表現の自由とはなにか／法の下の平等・精神的自由権②（目標３）
	第8回	中間テスト（目標１）
	第9回	国民の経済活動を保証するルールとは／経済的自由（目標３）
	第10回	犯罪捜査・刑罰を科す上での基本ルールとは／人身の自由（目標３）
	第11回	ホームレスの存在は憲法違反か／社会権／生存権（目標３）
	第12回	義務教育はなぜ無料なのか／社会権／教育を受ける権利（目標３）
	第13回	国会の地位と権限・内閣の構造／統治機構概論（目標３）
	第14回	地方自治の推進と問題点（目標３）
	第15回	憲法のまとめと今後の課題（目標３）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　保育について関心のある制度について調査しておくこと。 第2～14回　前週に指摘する教科書の該当箇所を熟読すること。 第15回　1～14回までの授業を復習してくること。
	復習	第1～15回　ノートを整理し、授業でわからなかった箇所を明確にすること。
	展開	新聞等で報道される憲法問題について注目し，独自の考察を行う。

成績評価	評価の基準	1.憲法の概要について授業で扱った基礎的な内容が理解できる。 2.日本国憲法の今後の展開について自らの考えを持つことができる。 3.教育、保育に関する憲法問題について理解し，的確な考察が行えることができる。 を合格基準とする。
	評価の方法	中間テスト(50%)，期末テスト(50%)の総合評価

教科書	書籍名	法学への一歩（第３版）
	著者名	河原 格 編著　高沢 弘明 ほか著
	出版社	八千代出版
	価格	2,300円+税
	ISBN・ISSN	978-4842915012

推薦図書等	書籍名	ポケット六法 平成28年版
	著者名	井上 正仁／編集代表　山下 友信／編集代表
	出版社	有斐閣
	価格	1,852円+税
	ISBN・ISSN	978-4641009158

参考URL

備考

コンピュータ概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS201
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	コンピュータ概論
科目責任者	壁谷　彰慶
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	12000501　金曜日，3限
教室	ＰＣ室
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	Word Excel 文書作成 表計算　ICT	
学生の到達目標	1.Windowsの基本操作方法，Word，Excelの実習により文章作成，表計算を学ぶ。 2.教科書を理解して，応用力を身につける。 3.演習では基礎知識をもとに自由にファイル作成ができるようにする。	

授業内容

第1回	コンピュータの周辺機器とWindowsの基本知識 (目標1,2)
第2回	メモ帳，Wordによる入力，保存，ファイル管理 (目標1,2)
第3回	Wordの基本操作１（文字，文章入力，文書保存）(目標1,2)
第4回	Wordの基本操作２（編集機能）(目標2,3)
第5回	Wordの基本操作３（表，罫線）(目標2,3)
第6回	Wordの基本操作４（ビジュアルな文書，図形）(目標2,3)

	第7回	総合的な文章の作成 (目標2,3)
	第8回	Excelの基本操作１（ワークシート，セル，表）(目標1,2)
	第9回	Excelの基本操作２（計算式を用いた表の作成，挿入／削除など）(目標1,2)
	第10回	Excelの基本操作３（グラフの作成）(目標2,3)
	第11回	Excelの基本操作４（グラフの変更，装飾など）(目標2,3)
	第12回	Excelの基本操作５（関数の使い方）(目標2,3)
	第13回	Excelで基本操作６（データベース機能）(目標2,3)
	第14回	WORDとEXCELの操作（差し込み印刷：WORDで作成された文章にEXCELのデータを埋め込む）(目標2,3)
	第15回	まとめ（総合問題の提出）(目標2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第2～15回予習： ＊教科書の操作機能を一通り参照しておくこと ＊教員からの課題返却（学内メールを使用）に目を通しておくこと
	復習	第2～15回復習： ＊授業で学んだ操作を、教科書を参考すればできる程度にマスターしておくこと ＊授業で学んだ操作の発展的課題に自分でとりくみ、授業内で解決すべき疑問点を明確にしておくこと
	展開	授業内の課題とりくみと並行して、PCとインターネットについての周辺的知識も習得すること
成績評価	評価の基準	1.授業で扱ったアプリケーションソフトの操作方法と活用法の理解度・定着度 2.要求されたタスクに対して、習得済みの技能を応用する力 3.自分で文書を用途や状況に応じてアレンジする創造性
	評価の方法	授業内課題・定期課題で評価（課題はメールで提出）。 授業内課題　：50% 定期課題　　：50% とする。授業内課題は毎回，定期課題は3回を予定。
教科書	書籍名	『30時間でマスター Word＆Excel2010』
	著者名	実教出版編修部
	出版社	実教出版株式会社
	価格	926円
	ISBN・ISSN	440732094X
推薦図書等		
参考URL		
備考		

コンピュータ概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSO102
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	コンピュータ概論
科目責任者	壁谷　彰慶
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	12000502　水曜日，4限 12000503　水曜日，3限
教室	ＰＣ室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	Word Excel 文書作成 表計算　ICT	
学生の到達目標	1.Windowsの基本操作方法，Word，Excelの実習により文章作成，表計算を学ぶ。 2.教科書を理解して、応用力を身につける。 3.演習では基礎知識をもとに自由にファイル作成ができるようにする。	

授業内容

第1回	コンピュータの周辺機器とWindowsの基本知識 (目標1,2)
第2回	メモ帳，Wordによる入力，保存，ファイル管理 (目標1,2)
第3回	Wordの基本操作１（文字，文章入力，文書保存）（目標1,2)
第4回	Wordの基本操作２（編集機能）（目標2,3)

	第5回	Wordの基本操作３（表，罫線）（目標2,3）
	第6回	Wordの基本操作４（ビジュアルな文書，図形）（目標2,3）
	第7回	総合的な文章の作成 (目標2,3)
	第8回	Excelの基本操作１（ワークシート，セル，表）（目標1,2）
	第9回	Excelの基本操作２（計算式を用いた表の作成，挿入／削除など）(目標1,2)
	第10回	Excelの基本操作３（グラフの作成）（目標2,3）
	第11回	Excelの基本操作４（グラフの変更，装飾など）（目標2,3）
	第12回	Excelの基本操作５（関数の使い方）（目標2,3）
	第13回	Excelで基本操作６（データベース機能）（目標2,3）
	第14回	WORDとEXCELの操作（差し込み印刷：WORDで作成された文章にEXCELのデータを埋め込む）（目標2,3）
	第15回	まとめ（総合問題の提出）（目標2,3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第2～15回予習 ・教科書の操作機能を一通り参照しておくこと ・教員からの課題返却（学内メールを使用）に目を通しておくこと
	復習	第2～15回復習 ・授業で学んだ操作を，教科書を参考すればできる程度にマスターしておくこと ・授業で学んだ操作の発展的課題に自分でとりくみ，授業内で解決すべき疑問点を明確にしておくこと
	展開	授業内の課題とりくみと並行して，PCとインターネットについての周辺的知識も習得すること
成績評価	評価の基準	1.授業で扱ったアプリケーションソフトの操作方法と活用法の理解度・定着度 2.要求されたタスクに対して、習得済みの技能を応用する力 3.自分で文書を用途や状況に応じてアレンジする創造性
	評価の方法	授業内課題・定期課題で評価（課題はメールで提出）。 授業内課題　：50% 定期課題　　：50% とする。授業内課題は毎回、定期課題は3回を予定
教科書	書籍名	『30時間でマスター Word & Excel 2010』
	著者名	実教出版編修部
	出版社	実教出版株式会社
	価格	926円
	ISBN・ISSN	440732094X

推薦図書等

参考URL

備考

コンピュータ演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSO103
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	コンピュータ演習
科目責任者	荻原　尚
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	12000701　土曜日，3限
教室	ＰＣ室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	コンピュータ・グラフィック　Ｗｅｂデザイン　Ｆｌａｓｈアニメーション	
学生の到達目標	１．マルチメディアの基本であるコンピュータ・グラフィックとデジタル・オーディオの技術を身につける。 ２．Webデザイン技術を使った情報発信手法を学ぶ。 ３．Flashアニメーションを用いた総合的なマルチメディア表現・技術を身につける。	
授業内容	第1回	コンピュータの基本操作（目標1）
	第2回	グラフィックの種類と特徴（目標1）
	第3回	画像のファイル形式（目標1）
	第4回	ペイント系 CG（レイヤーの使い方）（目標1）

第5回	ペイント系 CG（範囲選択）（目標1）
第6回	フォトレタッチ（画像の合成技術）（目標1）
第7回	フォトレタッチ（色相、明度、彩度）（目標1）
第8回	フォトレタッチ（クイックマスク）（目標1）
第9回	フォトレタッチ（レイヤーマスク）（目標1）
第10回	フォトレタッチ（自由作品制作）（目標1）
第11回	Webデザインの基礎知識（目標2）
第12回	CSS（文字デザイン）（目標2）
第13回	CSS（レイアウト）（目標2）
第14回	ホームページの作成（TopPage）（目標2）
第15回	ホームページの作成（LinkPage）（目標2）
第16回	コンピュータ音楽の概要（目標1）
第17回	MIDIのしくみ（目標1）
第18回	MIDIファイルの作成（Pianoパート）（目標1）
第19回	MIDIファイルの作成（合奏データ）（目標1）
第20回	デジタル・オーディオの基礎知識（目標1）
第21回	PowerPointの基本操作（目標1）
第22回	プレゼンテーション（画像等の編集）（目標1）
第23回	プレゼンテーション（資料の作成）（目標1）
第24回	ドロー系 CG（基本操作）（目標1）
第25回	ドロー系 CG（パス演算）（目標1）
第26回	Flashアニメーションの基本操作（目標3）
第27回	Flashスプライトの使い方（目標3）
第28回	Flashボタンの作り方（目標3）
第29回	Flash紙芝居の作成（自由作品）（目標3）
第30回	Flash紙芝居の作成（作品発表）（目標3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回～３０回（共通）事前に指示したテーマについて、資料を集め，作品のアウトラインを考えておくこと。
	復習	第１回～３０回（共通）習作と課題作品を管理すること。 未完成の課題がある場合は、完成させておくこと。
	展開	本講義は，プレゼンテーションや教育指導に応用可能なので，様々な内容の独自作品を作成することを推奨する。

成績評価	評価の基準	１．各課題作品の完成度を基準として総合的に行う。 ２．各作品が正しく動作することを合格基準とする。 ３．技術を身につけることができたか。
	評価の方法	CG，Audio，Web、Flashの課題作品（各25%）の完成度で評価する。 筆記試験は行わない。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 データ保存用に USBメモリを用意することが望ましい。

推薦図書等

参考URL

備考

キャリアガイダンスⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSO104
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	キャリアガイダンスⅠ
科目責任者	川村　博子
担当教員	今井　訓子 清宮　宏臣
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	12000801　（前期）水曜日，2限，（後期）水曜日，1限
教室	（前期）講義室4，（後期）講義室1
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	自己理解　キャリアプラン　職業適性　職業選択　アサーション	
学生の到達目標	1.自らの就職観、勤労観を培うとともに自己の考え方・行動の傾向を知り、社会に適応できる方法を身につける。 2.将来の自分がイメージできるとともに就職活動に必要な心構えを身につける。	
授業内容	第1回	オリエンテーション (目標1) 担当教員: 川村　博子
	第2回	自己理解を深める (目標1) 担当教員: 担当教員全員
	第3回	キャリアプラン (目標2) 担当教員: 川村　博子

	第4回	グループワーク (目標1) 担当教員: 今井　訓子
	第5回	情報収集（キャリア支援室の利用）(目標1) 担当教員: 担当教員全員
	第6回	現場の期待する社会人基礎力 担当教員: 担当教員全員
	第7回	アサーティブ講座 (目標2) 担当教員: 担当教員全員
	第8回	卒業生の話を聞く会 (目標2) 担当教員: 担当教員全員
	第9回	作文添削 (目標2) 担当教員: 担当教員全員
	第10回	講演会 (目標2) 担当教員: 担当教員全員
	第11回	ストレスマネージメント講座 (目標2) 担当教員: 今井　訓子
	第12回	職場の話しを聞く会 (目標2) 担当教員: 担当教員全員
	第13回	講演会 (目標2) 担当教員: 担当教員全員
	第14回	講演会 (目標2) 担当教員: 担当教員全員
	第15回	内定者報告会 (目標2) 担当教員: 担当教員全員
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第１回　キャリアとは何かを事前に調べておくこと。 第２～１５回（共通）自分の進路について考える
	復習	第１回　職業選択の意味を復讐する。 第２～１５回（共通）指示されたレポート等の課題を期限までに提出のこと。
	展開	最新の図書等を読み、理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.自らの就職観、勤労観の理解度。 2.将来の自分がイメージできたか。就職活動に必要な心構えを身につけられたかどうか。
	評価の方法	提出レポート（８０%）授業参加態度等（２０%）を総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリアガイダンスⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSO104
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	キャリアガイダンスⅠ
科目責任者	田村　光子
担当教員	松原　敬子 佐藤　愼二 山本　邦晴 漆澤　恭子 相磯　友子 根本　曜子 堀　彰人 長嶺　章子 久留島　太郎 中澤　潤
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	12000802　（前期）水曜日，1限，（後期）月曜日，1限
教室	中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	キャリア支援，コミュニケーション力・ビジネスマナーの醸成	
学生の到達目標	1.社会で必要なコミュニケーション力やビジネスマナーを身につけ，望ましい職業選択ができる能力を高める 2.自分の長所・仕事観などに理解を深め，どのような職場で自分の長所を発揮できるか考える 3.講演，講習会および面接等通して，実際的な現場で必要な力を学び，その力を実習やボランティアなど実践の場につなげる	

授業内容	第1回	オリエンテーション・１年間の日程について（目標１） 担当教員: 田村　光子
	第2回	図書館ガイダンス（目標３） 担当教員: 田村　光子
	第3回	進路ガイダンス（１）進路選択について（目標２） 担当教員: 田村　光子
	第4回	面接指導－よりよい大学生活に向けて（目標１） 担当教員: 田村　光子
	第5回	公務員ガイダンス（目標３） 担当教員: 田村　光子
	第6回	作文添削講座（目標３） 担当教員: 田村　光子
	第7回	作文添削講座（目標３） 担当教員: 田村　光子
	第8回	卒業生の話を聞く会 （公務員講座（１）希望者のみ）（目標３） 担当教員: 担当教員全員
	第9回	卒業生の話を聞く会 （公務員講座（１）希望者のみ）（目標３） 担当教員: 担当教員全員
	第10回	キャリアデザインの作成（目標２） 担当教員: 田村　光子
	第11回	マナー講座（目標１） 担当教員: 田村　光子
	第12回	キャリア関連講演会（アサーティブ講座，ストレスマネージメント講座等）（目標３） 担当教員: 田村　光子
	第13回	キャリア関連講演会（アサーティブ講座，ストレスマネージメント講座等）（目標３） 担当教員: 田村　光子
	第14回	内定報告会（目標３） 担当教員: 担当教員全員
	第15回	進路ガイダンス（２）２年生にむけて （公務員講座（２）希望者のみ）（目標２） 担当教員: 田村　光子
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第1回～第15回　各回の授業内容を事前に確認しておくこと。
	復習	第1回～第15回　講義，講座等を振り返りレポートを作成する。
	展開	社会人としての基礎力を身に着けるために，担任の面接や個別指導，また実習およびボランティア等を経て，各人の目標や課題を明らかにする。
成績評価	評価の基準	到達目標1,2,3について，授業への意欲や態度と授業内のレポート提出状況およびその内容で評価する。
	評価の方法	授業への意欲や態度（６０%），授業内のレポート提出状況とその内容（４０%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		

参考URL

備考

キャリアガイダンスⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS303
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	キャリアガイダンスⅡ
科目責任者	川村　博子
担当教員	今井　訓子 清宮　宏臣
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	12001001　（前期）水曜日，2限，（後期）水曜日，1限
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	自己理解　職業選択　職場定着　アサーション　労働法	
学生の到達目標	1.自らの就職観、勤労観を培うとともに自己の考え方・行動の傾向を知り、社会に適応できる方法を身につける。 2.将来の自分がイメージできるとともに就職活動に必要な心構えを身につける。	
授業内容	第1回	オリエンテーション、自己理解を深める、職業選択について (目標1) 担当教員: 川村　博子
	第2回	グループワーク（目標2) 担当教員: 今井　訓子

	第3回	情報収集 (目標1) 担当教員: 担当教員全員
	第4回	履歴書の書き方(目標1) 担当教員: 清宮　宏臣
	第5回	現場の期待する社会人基礎力 担当教員: 担当教員全員
	第6回	アサーティブ講座 (目標2) 担当教員: 担当教員全員
	第7回	卒業生の話を聞く会 (目標2) 担当教員: 担当教員全員
	第8回	講演会 (目標2) 担当教員: 担当教員全員
	第9回	ストレスマネージメント講座 (目標2) 担当教員: 今井　訓子
	第10回	ライフプラン（保険）講座 (目標2) 担当教員: 今井　訓子
	第11回	職場定着のための労働・社会保障関係法の知識 (目標2) 担当教員: 川村　博子
	第12回	ハラスメント講座 (目標2) 担当教員: 川村　博子
	第13回	就職に向けての心構え (目標2) 担当教員: 担当教員全員
	第14回	グループ面談（進路希望）(目標2) 担当教員: 担当教員全員
	第15回	現場の話しを聞く会 (目標2) 担当教員: 担当教員全員
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第１回　キャリアとは何かを事前に調べておくこと。 第２～１５回（共通）自分の進路について考える
	復習	第１回　職業選択の意味を復讐する。 第２～１５回（共通）指示されたレポート等の課題を期限までに提出のこと。
	展開	最新の図書等で理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.自らの就職観、勤労観の理解度。 2.将来の自分がイメージできたか。就職活動に必要な心構えを身につけられたかどうか。
	評価の方法	提出レポート(80%)授業参加態度等(20%)を総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリアガイダンスⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSO301
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	キャリアガイダンスⅡ
科目責任者	長嶺　章子
担当教員	松原　敬子 佐藤　慎二 山本　邦晴 漆澤　恭子 田村　光子 相磯　友子 根本　曜子 堀　彰人 久留島　太郎 中澤　潤
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	12001002　（前期）水曜日，1限，（後期）月曜日，1限
教室	大講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	就職活動準備　就職試験対策　職業に関する知識　専門性の向上	
学生の到達目標	１．社会人としてのコミュニケーション力や，就職活動に必要な知識を 身につける。 ２．自分の長所・仕事観などに理解を深め，適職について考えたり自己の能力を高める。 ３．社会人として働く際に必要な知識を身につける。	

授業内容	第1回	オリエンテーション・報告・伝達について（目標１） 担当教員: 長嶺　章子
	第2回	マナー講座（目標１） 担当教員: 長嶺　章子
	第3回	保育士公務員模擬試験（目標１） 担当教員: 長嶺　章子
	第4回	保育士公務員模擬試験（目標１） 担当教員: 長嶺　章子
	第5回	作文講座（目標２） 担当教員: 長嶺　章子
	第6回	履歴書の書き方（目標１） 担当教員: 長嶺　章子
	第7回	卒業生の話を聞く会（目標２） 担当教員: 担当教員全員
	第8回	卒業生の話を聞く会（目標２） 担当教員: 担当教員全員
	第9回	就職活動の進め方（目標１） 担当教員: 長嶺　章子
	第10回	就職試験対策について（目標１・２） 担当教員: 長嶺　章子
	第11回	模擬面接講座（目標１・２） 担当教員: 長嶺　章子
	第12回	労働・社会保障関係法講座（目標３） 担当教員: 長嶺　章子
	第13回	アサーティブ講座（目標１） 担当教員: 担当教員全員
	第14回	ハラスメント講座（目標３） 担当教員: 長嶺　章子
	第15回	ストレスマネジメント講座・まとめ（目標３） 担当教員: 長嶺　章子
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第1回～第2回（共通）　さまざまなボランティアを体験し自己の職業選択に役立てる。積極的に行動する力を身につける。 第3回～第4回（共通）　過去の試験問題等を参考にしながら準備する。 第5回～第15回（共通）　さまざまなボランティアを体験し自己の職業選択に役立てる。積極的に行動する力を身につける。
	復習	第1回　就職活動における心構えを確認する。 第2回　学んだことを繰り返し練習して身につける。 第3回～第4回（共通）　結果を振り返り，今後の学習計画を立てる。 第5回～第6回（共通）　学んだことを繰り返し練習して身につける。 第7回～第8回（共通）　学んだことを自身の就職活動に活かしたり仕事観を深める。 第9回～第11回（共通）　授業で得た知識をもとに就職活動の計画を立てたり準備をする。 第12回～第15回（共通）　授業の内容をまとめ，知識・技能を高めるように努める。
	展開	「社会人になる」という自覚をもち、「自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的力（＝人間力）」や専門力を高めていく。
成績評価	評価の基準	１．コミュニケーション力が養われている。就職活動に関する知識を身につけ，見通しを持っている。

	２．自分の能力や適職についての理解が深まり，考えを整理して表現できる。意欲的に能力向上に努めている。 ３．社会人として働く際に必要な知識を身につけ，心構えができている。
	評価の方法　　提出物（７０％）　授業への意欲や態度（３０％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 進路ガイドブック，キャリアデザインノート
推薦図書等	
参考URL	
備考	

環境と人間

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS401
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（自然系）
授業科目名	環境と人間
科目責任者	村上　公信
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	12000901　木曜日，3限
教室	講義室2
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	地球生態系　循環型社会　持続可能な社会 Think Globally.Act Locally.	
学生の到達目標	１．自然環境や環境問題に関する基本概念について、身近な生活をとおして理解する。 ２．環境問題と人間生活との関わりについて、地球生態系の観点から科学的に学習する。 ３．地球が、すべての生き物にかけがいのない住みかであることを学び、私たち人間の役割について理解する。	
授業内容	第1回	原発事故が引き起こした環境問題とは（目標３）
	第2回	環境とは何か・環境問題とは何か（目標１）
	第3回	環境を形づくるもの－生態系（目標１）
	第4回	自然界の物質循環（目標１）
	第5回	大気の汚染（目標１,２）
	第6回	オゾン層の破壊と地球温暖化問題（目標１,２）
	第7回	水の汚染（目標１,２）
	第8回	酸性雨（目標１,２）

	第9回	土壌の汚染（目標１,２）
	第10回	騒音・振動・悪臭（目標２）
	第11回	環境と食の問題（目標２）
	第12回	環境汚染に対する行政上の対応（目標２,３）
	第13回	環境問題のための新技術（目標２,３）
	第14回	環境と共生するために（目標２,３）
	第15回	環境問題における私たちの役割（目標３）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　東日本大震災や原子力発電所事故によって引き起こされた環境問題について調べること及び自身の体験を思い出し授業に臨むこと。 第２回～第15回（共通）次回の授業内容について，教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持って授業に臨むこと。
	復習	第1回～第15回（共通）毎回の授業時間に配布されたプリントや教科書で，学習内容を確認し理解できなかったところは調べること。また，前時の授業で提出した確認レポートを見直して、学習内容の定着を図ること。
	展開	環境問題に関する新聞記事やDVD視聴を通じて、興味・関心を深めるとともに、授業内容の一層の理解を深める。環境問題と人間生活について、基本的な知識を習得するとともに、私たちの日常生活で実践できる環境行動について学ぶことができる。

成績評価	評価の基準	１.身近な自然環境や環境問題から地球規模で抱える環境について，授業で学習した基礎的な内容が理解できていること。 ２.日常生活において，環境問題について自らの考えて環境に優しい行動が実践できるようになること。
	評価の方法	毎時の確認レポート３０%、平常点（授業態度等）１０%、期末の筆記試験６０%の成績を総合して評価する。ただし、この比率は最終的に若干変更することもある。

教科書	書籍名	改訂新版　地球環境がわかる
	著者名	西岡秀三　宮崎忠國　村野健太郎
	出版社	株式会社技術評論社
	価格	本体1880円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7741-3786-４　C3044

推薦図書等	書籍名	地球の秘密
	著者名	坪田愛華
	出版社	出版文化社
	価格	本体1400円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-88338-307-8

参考URL	http://www.env.go.jp/ 環境省 http://www.nies.go.jp/ 国立環境研究所
備考	授業は講義形式で行う。毎授業時に、資料プリント、新聞記事、確認レポート等を配布するので、保存のためのA４版クリアファイルを用意するとよい。

総合英語

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS103
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（外国語）
授業科目名	総合英語
科目責任者	北條　洋子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	14000001　金曜日，3限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	異文化理解, 聞く力話す力, コミュニケーション, 健康	
学生の到達目標	1　英語を話す人々の生活習慣や考え方を簡単に説明できる。 2　英語を使って簡単なコミュニケーションができる。 3　健康生活に関する話題を取り入れながら，基礎的な英語で自分の考えを発表できる。	
授業内容	第1回	About English / 授業目標と進め方 / 英語の歴史と特徴 / 初対面の会話（目標1,2）
	第2回	St.Patrick's Day / 世界を見てみよう① / 名前を確認する会話 / 表現発表① / Introduction (目標1,2,3)
	第3回	Festivals / 世界を見てみよう② / 英語圏諸国での文化の変遷 / ほめ合う会話 / 1)A Healthy Life　（目標1,2,3）
	第4回	Symptoms / 困った時の訴え① / 介護機器の英語 / 具合の悪そうな子との会話 / 2)Inside Your Body（目標1,2,3）
	第5回	Food Culture(1) / 食の国民性① / 英語圏食文化の特徴 / けさの朝食の会話 / 3) The Right Food (目標1,2,3)

第6回	Food Culture(2) / 食の国民性② / 食文化の伝統 / Burger Shop での会話 / 4)Food Around the World (目標1,2,3)
第7回	Schools / 日本との違い① / 非言語コミュニケーション / 中高の思い出会話 / 表現発表② (目標1,2,3)
第8回	Castles / 日本との違い② / 国際人 / 会話を繋ぐ表現 / 5)Why Do You Wash?(目標1,2,3)
第9回	Postal System / 共に生きる① / 英国と米国の英語 / 電話で話す / 6)Exercise for Everyone (目標1,2,3)
第10回	Animals / 困った時の訴え① / 補助犬の役割 / 動物やペットの会話 / 7)Exercise & Your Body(目標1,2,3)
第11回	Happiness(1) / 困った時の訴え② / バリアフリー例/松葉杖の友人との会話 / 8)Protect Your Body (目標1,2,3)
第12回	Happiness(2) / 共に生きる② / 空港で見るUD例 /車いすを押す会話 / 9)Time Outdoors(目標1,2,3)
第13回	Communities / 共に生きる③ / 英語圏のコミュニティ意識と日本 / 道案内の会話 / 10)Rest & Sleep(目標1,2,3)
第14回	Courage & Efforts / 共に生きる④ /Mother Teresa / 話題を変える表現/原稿の作成 (目標1,2,3)
第15回	3Rs / 共に生きる⑤ / Gestures / 効果的な発表 /発表批評会 (目標1,3)

予習・復習の内容
（毎回180分程度）

予習	第１回～１５回（共通） ○ 初回配布の「課題一覧」を活用する。 ① 課題について、英語は辞書で，項目については百科事典などで必ず調べて，自分なりの意見を発表できるようにしておく。 ② 次時に行うテキスト本文の下調べをする。
復習	第１回～１５回（共通） ○ 初回配布の「課題一覧」を活用する。 ① テキストや授業プリントを用いて，授業の要点をまとめる。 ② 学習した英会話例は，常に友人と対話を練習する。 ③ 本時で扱ったテキストの本文を音読し，練習問題を解く。
展開	① 英語圏の人々の生活習慣について，関心を持って調べたり話したりする。 ② 学習した項目について，自分に当てはめて考えたり、健康について知識を深めたり，英語で表現したりする。 ③ ラジオやTVの英会話に継続して取り組んだり，英語検定やTOEICなどに挑戦したりするなど，自身の英語力を高める努力をする。

成績評価

評価の基準	1 英語を話す人々の生活習慣や考え方を簡単に説明できる。 2 場面に応じて，英語での簡単なコミュニケーションができる。 3 健康についての英語表現を言うことができる。 以上を合格基準とする。
評価の方法	① 3回行うPresentation発表と原稿 50%, ② 会話発表 20%, ③ 英語や英語圏の生活習慣についての期末試験 30% 以上の成績を総合する。 ただしこの比率は, 若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	How to Stay Healthy
著者名	Julie Penn
出版社	Oxford University Press

	価格	850円
	ISBN・ISSN	978-0-19-464445-7

推薦図書等	書籍名	Word by Word イラスト英和辞典(日英版)
	著者名	Steven J. Molinsky & Bill Bliss
	出版社	Pearson　Longman
	価格	3,067円
	ISBN・ISSN	978-0-13-148218-1

参考URL	www.mext.go.jp　文部科学省　外国語活動 www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/　　文部科学省　私の健康
備考	1 授業はPC画像で英語圏の様子を知り,グループやペアでの会話練習を行う。したがって，友人と一緒に「英語学習の雰囲気」を築くようにする。 2 授業は毎回授業プリントとテキストを使って行う。プリントは保存する。 3 活動は少しでも英語で行いたいが，不安な学生は申し出る。 4 英語力を更に向上させるため，課題や予習復習に積極的に取り組む。なお，初回配布の「課題一覧」を活用すること。 5 最終回で各自が満足いくような発表をし，外国人利用者の介護福祉にも取り組むことができるよう，努力を期待する。 以上が方針概略だが，要望や相談に応じ変更することもある。

総合英語Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GFO101
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（外国語）
授業科目名	総合英語Ⅰ
科目責任者	北條　洋子
授業形態	演習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	14000101　火曜日，3限 14000102　火曜日，4限 14000111　火曜日，4限 14000112　火曜日，3限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	異文化理解，聞く力話す力，コミュニケーション，児童英語指導，プリゼンテーション	
学生の到達目標	1.英語を話す人々の生活習慣や考え方を知り，簡単に説明することができる。 2.場面に応じた基礎的な英会話をすることができる。 3.欧米の児童に知られている歌やチャンツを題材に，簡単な児童英語を親しませることができる。	
授業内容	第1回	About English / 授業目標と進め方 / 英語学習の意義 / 初対面の会話 / 授業開き（目標1,2）
	第2回	St.Patrick's Day / 世界を見てみよう① / 名前を確認する会話 / 表現発表① / 児童英語授業の構成 （目標1,2,3）
	第3回	Festivals / 世界を見てみよう② / 文化の変遷 / ほめ合う会話 / 授業の導入 （目標1,2,3）

第4回	Kings' & Queens' / 日本との違い① / 言語の発達状況 / Mother Goose / 授業Warm-up（目標1,2,3）
第5回	Food Culture1 / 日本との違い② / 食文化の伝統 / けさの朝食の会話 / 表現発表② 目標1,2,3）
第6回	Food Culture2 / 日本との違い③ / Burger Shopでの会話 / 食べ物の歌を教える / 展開例1（目標1,2,3）
第7回	Schools　/ 日本との違い④ / 真の国際人 / 中高の思い出話 / 展開例2（目標1,2,3）
第8回	Postal System / 日本との違い⑤ / 英米の英語 / 電話での会話 / 表現発表③（目標1,2,3）
第9回	Symptoms / 共に生きる① / 温かい声かけ / 具合が悪そうな子との会話 / 耳口の歌を教える(目標1,2,3）
第10回	Animals / 困った時の訴え① / 動物とペットの会話 / 動物の歌を教える / 表現発表③（目標1,2,3）
第11回	Happiness1 / 困った時の訴え②/ 英語圏のまちづくり / 松葉杖の友人との会話 /終末例1（目標1,2,3）
第12回	Communities / 共に生きる② / コミュニティ意識 / 道案内の会話 / 終末例2（目標1,2,3）
第13回	Gestures / 共に生きる③ / 非言語コミュニケーション / 効果的な発表練習 / 指導技術例1 (目標1,2,3）
第14回	Courage & Efforts / 共に生きる④ / Helen Keller / 会話を繋ぐ表現 / 指導技術例2（目標1,2,3）
第15回	Numbers / 共に生きる⑤ / 数を入れる兄弟姉妹の英会話 / 指導技術例 / 発表原稿の検討（目標1,3）

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回～１５回（共通） 〇初回配布の「課題一覧」を活用する。 ①　課題について、英語は辞書で、項目については百科事典などで必ず調べ、自分なりの意見を発表できるようにしておく。
	復習	第１回～１５回（共通） 〇初回配布の「課題一覧」を活用する。 ①　授業プリントやテキストを用いて，授業内容を見直し、毎回必ずまとめておく。 ②　学習した英会話例は，常に友人３人と対話練習する。 ③　テキストで学習した歌や指導方法は，必ず見直し、歌ったり実践したりし，最終回の発表に備える。
	展開	①　毎時間学習した英語の歌やチャンツのメロディを検索して，歌ったり指導例を考えたりする。 ②　ラジオやテレビの英会話に継続して取り組み，保育検定や英語検定などの目標を持ち，各自英語力を向上させる努力をする。
成績評価	評価の基準	1　英語を話す人々の生活習慣や考え方を理解し，簡単に説明することができる。 2　児童との簡単な英語でのコミュニケーションができる。 3　児童に英語を親しませることができる発表ができる。 以上を合格基準とする。
	評価の方法	①　Presentation発表4回と原稿提出　50%, ②　会話発表　20%, ③　筆記試験（英語圏の背景など　30% 以上3点の成績を総合する。 ただしこの比率は, 最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	Songs & Chants
	著者名	松香洋子
	出版社	mpi
	価格	￥1296
	ISBN・ISSN	9784896430172
推薦図書等	書籍名	子どもと英語　増補改訂版
	著者名	松香洋子
	出版社	mpi
	価格	￥1296
	ISBN・ISSN	9784896434248
	書籍名	Word by Wordイラスト英和辞典(日英版)
	著者名	Stenven J.Molinsky & Bill Bliss
	出版社	Pearson Japan
	価格	￥3,067.
	ISBN・ISSN	978-0131935429
参考URL	www.mext.go.jp　文部科学省　外国語活動	
備考	①　授業は毎回テキストと授業プリントを使って行う。 ②　授業は <1>PC画像で英語圏の様子を知り, <2>グループ・ペアでの会話練習, <3>欧米の子どもの歌やチャンツを使って実践する参加型学習を行う。クラス一体となって「英語学習の雰囲気」を築くように。 ③　活動はできるだけ英語で行いたいが, 不安な学生は申し出る。 ④　最終回で満足いくような発表をし, 将来自信を持って児童英語に取り組むことができることを意識し, 復習に力を入れての努力を期待する。	

総合英語Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GFO201
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（外国語）
授業科目名	総合英語Ⅱ
科目責任者	マーク　レモン
授業形態	演習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	14000301　火曜日，3限 14000302　火曜日，4限 14000311　火曜日，4限 14000312　火曜日，3限
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	英語、外国語	
学生の到達目標	1.日常の英語機能の理解と使い方を養う。 2.積極的に英語を使うことに自信を得る。 3.英語という言語と、より親しい関係を築く。	
授業内容	第1回	Getting to know the teacher and self-introductions. (1,2,3)
	第2回	Clarifying meaning using questions. (1,2,3)
	第3回	Exchanging personal information in conversation. (1,2,3)
	第4回	Talking about events and holidays in Japan. (1,2,3)
	第5回	Expressing likes and dislikes.(1,2,3)

第6回	Describing weekly schedules and habits with adverbs of frequency. (1,2,3)
第7回	Review of past classes and write speech.(1,2,3)
第8回	Review and presentation. (1,2,3)
第9回	Expressing degrees of ability and proficiency. (1,2,3)
第10回	Describing and explaining things. (1,2,3)
第11回	Describing and defining food. (1,2,3)
第12回	Talking about past experiences. (1,2,3)
第13回	Asking about family, relatives and sports. (1,2,3)
第14回	Discussing family, relatives and sports. (1,2,3)
第15回	Review/preparation of final presentation. (1,2,3)
第16回	Review and final speech presentation. (1,2,3)

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第２回　プリントを利用して、発音しにくい英文字やつづりの言い方を練習する。 第３回　プリントを利用して、個人情報の言い方を練習する。 第４回　プリントを利用して、英語で日にちと数字の言い方を練習する。 第５回　プリントを利用して、名詞、動詞、同名詞の分け方を練習する。 第６回　プリントを利用して、現在形と現在進行形の違いを練習する。 第７回　プリントを利用して、助動詞や法助動詞の使い方を練習する。 第８回　４５分間：8回目の英語スピーチを書く。 第９回　プリントを利用して、人についての質問の作り方の練習をする。 第10回　プリントを利用して、be動詞とhave動詞の違いについて練習をする。 第11回　プリントを利用して、現在完了形と過去形についての練習をする。 第12回　プリントを利用して、未来をを表す表現を練習をする。 第13回　プリントを利用して、目的を表す表現の練習をする。 第14回　プリントを利用して、最終発表の構成や内容について考えさせる。 第15回　４５分間：期末発表を書く。
	復習	第2回　生徒が前回作った自己紹介についての会話発表。 第3回　生徒が前回作った不明の意味を明確にする会話発表。 第4回　生徒が前回作った個人情報についての会話発表。 第5回　生徒が前回作った日本の祭日についての会話発表。 第6回　生徒が前回作った好き嫌いについての会話発表。 第7回　４５分間：第2回～第6回の授業内容について、教師が質問して、生徒がプリントに答えをさがす。生徒が前回作った能力についての会話発表。 第８回　生徒が第6回の授業で作った習慣についての会話発表。 第９回　生徒が前回作った能力についての会話発表。 第10回　生徒が前回作った説明のしかたについての会話発表。 第11回　生徒が前回作った食べ物の説明のしかたについての会話発表。 第12回　生徒が前回作った経験についての会話発表。 第13回　生徒が前回作った家族についての会話発表。 第14回　生徒が前回作った家族との過ごし方についての会話発表。 第15回　生徒が今まで習った重要なポイントを含めたスピーチを発表する。

	展開	・授業で取り上げられた学習ポイントについて友達と自由に英会話を楽しむ。 ・ラジオ英会話や英会話のCDを繰り返し聞いて口を出したり、ディズニー映画の字幕版やYoutubeの英語番組を見たり、英語の子守唄を聞いたり、ノートに新しい単語やフレーズを書いて復習したり、英語で日記を書く。 ・英語の勉強に対して目標を設定して、毎日少しでも練習や勉強が習慣になるまで、英語での活動を続けることに努力する。
成績評価	評価の基準	到達目標1～３について，授業で取り上げた基礎的な内容が積極的に使用されていること。英語で言っていることが話し相手に通じること。を合格基準として評価する。
	評価の方法	平常点60%，中間発表20%，期末発表20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	マーフィーのケンブリッジ英文法
	著者名	Raymond Murphy
	出版社	Cambridge University Press
	価格	本体２１９０円+税
	ISBN・ISSN	978-4-902290-04-2
参考URL		
備考		

スポーツ・レクリエーション

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS104
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（体育）
授業科目名	スポーツ・レクリエーション
科目責任者	八鍬　拓
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	15000101　月曜日，２限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	遊び　運動　楽しみ	
学生の到達目標	1.軽スポーツ・レクリエーションを体験し、その種目に対する知識を得る。 2.組織体のあり方,対人関係のあり方(リーダーとなった場合の)人材育成のあり方についての身につける。 3.現代社会におけるスポーツの意義、とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を理解し、福祉領域で活用できる能力を身に付ける。	
授業内容	第1回	ガイダンス（目標1・2・3）
	第2回	アイスブレーキング（目標1・2・3）
	第3回	フライング・ディスク(ドッジビー)（目標1）
	第4回	フライング・ディスク(ドッジビー)（目標1）
	第5回	フライング・ディスク(ドッジビー)（目標1）
	第6回	バドミントン（目標1）
	第7回	バドミントン（目標1）

第8回	バドミントン（目標1）
第9回	ソフトバレーボール（目標1）
第10回	ソフトバレーボール（目標1）
第11回	ソフトバレーボール（目標1）
第12回	インディアカ（目標1）
第13回	ペタンク（目標1）
第14回	ペタンク（目標1）
第15回	前期まとめ
第16回	スポーツとレクリエーション（目標1・2・3）
第17回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
第18回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
第19回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
第20回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
第21回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
第22回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
第23回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
第24回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
第25回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
第26回	集団レクリエーション援助実習①～⑩（目標1・2・3）
第27回	援助実習振り返り（目標1・2・3）
第28回	ホスピタリティートレーニング（目標1）
第29回	チャレンジ・ザ・ゲーム（目標1）
第30回	スポーツ指導及びレクリエーション支援のまとめ，評価

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　「スポーツ」「レクリエーション」の自身の経験を確認しておく。 第2～14回　事前に次回のテーマに着いて調べておくこと。 第15回　前期に行った種目を振り返る。 第16回　「スポーツ」「レクリエーション」の関係性を考える。 第17～26回　支援実習の準備をする。 第27回　自分自身の支援実習だけではなく、他班の支援実習についてもまとめておく・ 第28～29回　授業テーマにについて事前に調べておく。 第30回　一年間の授業内容について振り返っておく。
	復習	第1～15回　体験した種目について理解度を深められるように努める。 第16回　今一度、「スポーツ」「レクリエーション」について考えをまてめておく。 第17～27回　支援実習をいかに活かせることができるか、再考する。 第28～30回　配布された資料の内容を確認する。
	展開	他の軽スポーツについても資料や図書等で調べ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.授業で扱った軽スポーツの内容を理解していること。 2.集団レクリエーション援助実習において率先して取り組み、支援する能力の実践度。 3.集団レクリエーション支援実習において「ねらい」「環境構成」など進行表作成における理解度。

	評価の方法	各種目における理解度（30%） 集団レクリエーション援助実習（50%） 授業への意欲・積極性（20%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	書籍名	やさしいレクリエーション実践
	著者名	（財）日本レクリエーション協会編
	出版社	（財）日本レクリエーション協会
	価格	2,100円
	ISBN・ISSN	978-4931180611
推薦図書等		
	書籍名	レクリエーション・インストラクター養成テキスト
	著者名	（財）日本レクリエーション協会編
	出版社	（財）日本レクリエーション協会編
	価格	2,100円
	ISBN・ISSN	978-4931180628
参考URL		
備考		

スポーツ・レクリエーション（講義）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GPH201
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（体育）
授業科目名	スポーツ・レクリエーション（講義）
科目責任者	八鍬　拓
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	15000201　月曜日，4限 15000202　月曜日，3限
教室	講義室4，体育館
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	健康　遊び　運動	
学生の到達目標	1.現代社会の問題点とスポーツ・レクリエーションの果たす役割について理解し,発達段階に応じた心身の健康や体力の保持・増進の為の方策を理論的に学習する。 2.生涯にわたってスポーツを指導・実践できる能力を身につけるために,スポーツ活動の必要性を認識し,その実践方法を習得する。	
授業内容	第1回	スポーツとは（目標１・２）
	第2回	レクリエーションとは（目標１・２）
	第3回	幼児期になぜ運動が必要なのか（目標１・２）
	第4回	幼児期にどうのような運動を行うべきか（目標１・２）
	第5回	より良い運動遊びを実践するために（目標１・２）
	第6回	スポーツアビリティ（目標１・２）
	第7回	障害予防と応急処置（目標１・２）
	第8回	幼児期の運動の必要性と安全管理に対するまとめ（目標１・２）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1～7回　スポーツ・レクリエーションの必要性や役割を理解するために、発達段階に応じた心身の健康や体力の保持・増進について関心を持ち、日頃よりスポーツ・レクリエーションに関する報道を確認しておくこと。 第8回　授業で配布した資料を確認しておく。
	復習	第1～8回　各授業で配布した資料を確認し、保管すること。また、実際に指導・支援することを想定し、知識を身につけるように努めること。
	展開	実習等で実技も含めたスポーツ・レクリエーションの研究・実践。
成績評価	評価の基準	1.生涯における「スポーツ」「レクリエーション」の果たす役割についての理解度。 2.「スポーツ」「レクリエーション」指導・支援に対する理解度。
	評価の方法	レポート課題30%・筆記小試験50%・授業への意欲・積極性20%とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	レクリエーション支援の基礎
	著者名	（財）日本レクリエーション協会編
	出版社	日本レクリエーション協会
	価格	2,160円
	ISBN・ISSN	978-4931180819
参考URL		
備考		

スポーツ・レクリエーション（実技）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GPH101
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（体育）
授業科目名	スポーツ・レクリエーション（実技）
科目責任者	八鍬　拓
授業形態	実技
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	15000301　（前期）月曜日，3限（後期）月曜日，4限 15000302　（前期）月曜日，4限（後期）月曜日，3限
教室	（前期）体育館（後期）講義室4，体育館
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	遊び　運動　健康	
学生の到達目標	1.軽スポーツを体験し、その種目に対する知識を得る。 2.組織体のあり方、対人関係のあり方（リーダーとなった場合の）人材育成のあり方について身につける。 3.現代社会におけるスポーツの意義、とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を理解し、活用できる能力を身につける。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（目標1・2・3）
	第2回	アイスブレーキング（目標1・2・3）
	第3回	フライング・ディスク（ドッジビー）（目標1・2・3）
	第4回	フライング・ディスク（ドッジビー）（目標1・2・3）
	第5回	フライング・ディスク（ドッジビー）（目標1・2・3）
	第6回	ターゲットバードゴルフ（目標1・2・3）
	第7回	ペタンク（目標1・2・3）

第8回	ペタンク（目標1・2・3）
第9回	ソフトバレーボール（目標1・2・3）
第10回	ソフトバレーボール（目標1・2・3）
第11回	ソフトバレーボール（目標1・2・3）
第12回	インディアカ　（目標1・2・3）
第13回	ヘルスバレーボール（目標1・2・3）
第14回	スラックライン（目標1・2・3）
第15回	前期まとめ（目標1・2・3）
第16回	支援実習について（目標1・2・3）
第17回	集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
第18回	集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
第19回	集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
第20回	集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
第21回	集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
第22回	集団レクリエーション支援実習（目標1・2・3）
第23回	集団レクリエーション支援実習のまとめ

予習・復習の内容（毎回30分程度）	予習	第1回　「スポーツ」「レクリエーション」の自身の経験を確認しておく。 第2～14回　事前に次回のテーマに着いて調べておくこと。 第15回　前期に行った種目を振り返る。 第16～22回　支援実習の準備をする。 第23回　自分自身の支援実習だけではなく、他班の支援実習についてもまとめておく。
	復習	第1～15回　体験した種目について理解度を深められるように努める。 第16～23回　自分自身の支援実習だけではなく、他班の支援実習をいかに活かせることができるか、再考する。
	展開	他の軽スポーツ・レクリエーションについても資料や図書等で調べ知識理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.授業で扱った軽スポーツの内容を理解していること。 2.集団レクリエーション援助実習において率先して取り組み、支援する能力の実践度。 3.集団レクリエーション支援実習において「ねらい」「環境構成」など進行表作成における理解度。
	評価の方法	各種目における理解度（30%） 集団レクリエーション援助実習（50%） 授業への意欲・積極性（20%）

教科書	書籍名	レクリエーション支援の基礎
	著者名	（財）日本レクリエーション協会編
	出版社	日本レクリエーション協会
	価格	2,160円
	ISBN・ISSN	978-4931180819

推薦図書等

参考URL

備考

海外福祉研修

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS108
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（異文化理解）
授業科目名	海外福祉研修
科目責任者	中西　正人 相磯　友子
担当教員	井口　ひとみ 松原　敬子 布施　千草 今井　訓子 川村　博子 清宮　宏臣 松井　奈美 佐藤　愼二 山本　邦晴 漆澤　恭子 田村　光子 根本　曜子 堀　彰人 山田　美知代 長嶺　章子 久留島　太郎 中澤　潤
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	16000101　－
教室	－
卒業要件	地域介護福祉専攻：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定

授業のキーワード	主体性　海外の福祉　レッスンプラン
学生の到達目標	１．訪問地の言語，文化，歴史，福祉，教育，各分野での取り組みについて理解する。 ２．海外福祉研修に必要な準備（渡航手続き等）や，訪問地での活動に積極的に参加する力をつける。 ３．訪問地での活動，体験を言語化し表現することができる。
授業内容	研修前のオリエンテーションに参加し，研修内容やホームステイ時の留意事項等について確認する。また現地における研修を円滑に実施できるよう準備（レッスンプランの作成等）を行う。現地では，主に，福祉・教育現場やホームステイでの交流を通して体験的に学ぶ。帰国後に研修報告書を作成する。
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習　訪問地における取り組みに必要な事項（想定される英会話や研修時に使用する英単語等）について調べる。 復習　学内における授業については，適宜，指示する課題（レポートほか）を期限までに提出する。現地での研修時には，当日の研修内容を振り返り，取り組み内容や福祉に関する理念等について各自で整理する。また，自身の課題を把握するとともに翌日の研修時の目標を明確にする。 展開　訪問地の福祉・教育制度について調べ，知識，理解を深める。
成績評価	評価の基準　1.研修前のオリエンテーションにおいて訪問地の言語，文化，各分野での取り組みについて理解できたか，渡航準備，研修準備を適切に進めることができたか。 2.現地で主体的な研修，積極的な交流が行えたか。 3.帰国後，研修報告書の作成及び報告会で経験した学びを具体的に言語化できたかを評価する。 評価の方法　研修前オリエンテーション（30%），現地での研修（50%），研修報告書・発表会（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

海外福祉研修

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GCU101
開講年度	2017年度
科目区分	共通基礎科目（異文化理解）
授業科目名	海外福祉研修
科目責任者	中西　正人 相磯　友子
担当教員	井口　ひとみ 松原　敬子 布施　千草 今井　訓子 川村　博子 清宮　宏臣 松井　奈美 佐藤　愼二 山本　邦晴 漆澤　恭子 田村　光子 根本　曜子 堀　彰人 山田　美知代 長嶺　章子 久留島　太郎 中澤　潤
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	16000201　－
教室	－
卒業要件	児童障害福祉専攻：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定

授業のキーワード	主体性　海外の福祉　レッスンプラン
学生の到達目標	１．訪問地の言語，文化，歴史，福祉，教育，各分野での取り組みについて理解する。 ２．海外福祉研修に必要な準備（渡航手続き等）や，訪問地での活動に積極的に参加する力をつける。 ３．訪問地での活動，体験を言語化し表現することができる。
授業内容	研修前のオリエンテーションに参加し，研修内容やホームステイ時の留意事項等について確認する。また現地における研修を円滑に実施できるよう準備（レッスンプランの作成等）を行う。現地では，主に，福祉・教育現場やホームステイでの交流を通して体験的に学ぶ。帰国後に研修報告書を作成する。
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習　訪問地における取り組みに必要な事項（想定される英会話や研修時に使用する英単語等）について調べる。 復習　学内における授業については，適宜，指示する課題（レポートほか）を期限までに提出する。現地での研修時には，当日の研修内容を振り返り，取り組み内容や福祉に関する理念等について各自で整理する。また，自身の課題を把握するとともに翌日の研修時の目標を明確にする。 展開　訪問地の福祉・教育制度について調べ，知識，理解を深める。
成績評価	評価の基準　1.研修前のオリエンテーションにおいて訪問地の言語，文化，各分野での取り組みについて理解できたか，渡航準備，研修準備を適切に進めることができたか。 2.現地で主体的な研修，積極的な交流が行えたか。 3.帰国後，研修報告書の作成及び報告会で経験した学びを具体的に言語化できたかを評価する。 評価の方法　研修前オリエンテーション（30%），現地での研修（50%），研修報告書・発表会（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

人間の尊厳と自立

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSM201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	人間の尊厳と自立
科目責任者	川村　博子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20000001　木曜日，3限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	尊厳　自律と自立　ＩＣＦ　自己実現　権利擁護	
学生の到達目標	1.人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持を自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。 2.人間の尊厳、社会参加と自立の理念を理解し、介護・支援する場面で対応できる倫理観と実践力を養う。	

授業内容

第1回	介護福祉における人間の尊厳の意義 (目標1)
第2回	介護福祉における自立の意義 (目標1)
第3回	人間の尊厳と介護の関係（マズローの欲求段階説）(目標1)
第4回	介護における自立の持つ意義（自律と自立）(目標1)
第5回	介護における自立の持つ意義（ＩＣＦ、リハビリテーション、自己実現の視点）(目標1)
第6回	人権思想に基づいた人間の尊厳と自立 (目標1)

	第7回	理念価値としての人間の尊厳と自立、生活支援における倫理 (目標2)
	第8回	法制度からみた人間の尊厳と自立 (目標2)
	第9回	ライフステージに応じた自立の課題 (目標2)
	第10回	生活支援における倫理 (目標2)
	第11回	介護における尊厳の保持と自立支援 (目標2)
	第12回	人間の尊厳と自立と介護福祉士養成体系 (目標2)
	第13回	権利擁護(高齢者、障害者、児童) (目標2)
	第14回	課題図書を読んで（グループワーク） (目標2)
	第15回	課題図書を読んで（発表）(目標2)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　尊厳の意味を考えてくる。 第２～１５回　尊厳の保持を自立・自律にかかわり事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	第１回　尊厳の意味を復誓する。 第２～１５回　尊厳の保持を自立・自律にかかわるテーマについて学んだことを課題・レポート等で復習し提出する。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。
成績評価	評価の基準	1.人間としての尊厳の保持を自立・自律した生活を支える必要性について理解できたか。介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養えたか。 2.人間の尊厳、社会参加と自立の理念を理解したか。介護・支援する場面で対応できる倫理観と実践力を養えたか。
	評価の方法	試験70%、レポート・受講態度30%
教科書	書籍名	「人間の尊厳と自立」
	著者名	黒澤貞夫
	出版社	建帛社
	価格	1995円
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3347-4
推薦図書等		
参考URL		
備考		

人間関係の形成とコミュニケーション

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSR101
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	人間関係の形成とコミュニケーション
科目責任者	川村　博子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20000101　火曜日，4限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	言語コミュニケーション　非言語コミュニケーション　傾聴　受容　共感	
学生の到達目標	介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養う。	

授業内容

第1回	人間関係の形成：紹介しあう
第2回	メッセージを共有する意欲を高める
第3回	言語と非言語でメッセージを共有する
第4回	利用者満足を高めるメッセージを学ぶ
第5回	聞き方を身につける
第6回	メッセージを受け取る能力を高める
第7回	テクニックをスキルとして使いこなす
第8回	初心者をリードする方法を学ぶ
第9回	成長させるアドバイスの方法を学ぶ

	第10回	自己決定の引き出し方を学ぶ
	第11回	職場の人間関係の基本を学ぶ
	第12回	職場の人間関係の基本を学ぶ
	第13回	５つの心を知る
	第14回	理性的・合理的に話合う
	第15回	自分を知り、相手を知る、ポジティブ・フィードバック

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回　介護現場で必要とされるコミュニケーション力について考えてくる。 第２～１５回　言語・非言語コミュニケーション等に関し、事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	第１回　介護現場で必要とされるコミュニケーション力について復習する。 第２～１５回　言語・非言語コミュニケーション等に関し、事前に指示するテーマについて指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。

成績評価	評価の基準	介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養えたか。
	評価の方法	試験80%、レポート、受講態度20%

教科書	書籍名	「人間関係とコミュニケーション」
	著者名	諏訪茂樹
	出版社	建帛社
	価格	2310円
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3348-1

推薦図書等

参考URL

備考

生活と福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSU101
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活と福祉
科目責任者	根本　曜子
担当教員	川村　博子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20000201　木曜日，5限
教室	講義室1
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	生活　福祉　地域　社会保障	
学生の到達目標	1.個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する。 2.自分と自分の家族がどのように社会とつながっているのかを考え、ライフスタイル変化、社会構造の変容を捉えた上で、高齢者、障害者を含めたすべの人の生活と地域、社会の関わりを理解する。 3.それを実現するために我が国の社会福祉制度と社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷の仕組みについて個人と社会の視点から理解する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション　家庭生活の基本機能(目標1) 担当教員: 根本　曜子
	第2回	家族の概念、変容、構造や形態、さまざまな家族の機能や役割と家族の結びつきについて(目標1･2) 担当教員: 根本　曜子
	第3回	地域、コミュニティ、社会・組織の概念(目標1･2) 担当教員: 根本　曜子

	第4回	社会構造とライフスタイルの変化(目標2) 担当教員: 根本　曜子
	第5回	生活の支援と福祉(目標2) 担当教員: 根本　曜子
	第6回	社会保障の基本的な考え方(目標3) 担当教員: 根本　曜子
	第7回	戦後の緊急援護と社会保障の基盤整備(目標3) 担当教員: 根本　曜子
	第8回	日本の社会保障制度の発達(目標3) 担当教員: 根本　曜子
	第9回	社会保障制度の見直し期から社会福祉基礎構造改革(目標3) 担当教員: 根本　曜子
	第10回	社会保障制度を支える考え方や財源について(目標3) 担当教員: 根本　曜子
	第11回	社会保障の財源(目標3) 担当教員: 川村　博子
	第12回	社会保険のしくみと関連制度(目標3) 担当教員: 川村　博子
	第13回	社会保障制度が直面する課題(目標3) 担当教員: 川村　博子
	第14回	社会保障の給付と負担(目標1･2･3) 担当教員: 根本　曜子
	第15回	持続可能な社会保障制度(目標1･2･3) 担当教員: 根本　曜子
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第2回～第15回社会状況、自分たちの生活状況について関心を持ち、関連する報道について理解しておく。
	復習	第1回～第15回　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。期間中に４回程度。
	展開	学びと自分やまわりの生活状況を結びつけ、福祉のあり方、社会保障についての知識、理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解できる。 2.自分と自分の家族がどのように社会とつながっているのかを考え、ライフスタイル変化、社会構造の変容を捉えた上で、高齢者、障害者を含めたすべの人の生活と地域、社会の関わりを理解できる。 3.それを実現するために我が国の社会福祉制度と社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷の仕組みについて個人と社会の視点から理解できる。
	評価の方法	テスト（ 65%）　レポート（ 20%）　リアクションペーパ（ 15%）により評価する。

教科書

書籍名	最新介護福祉全書２　人間と社会　社会の理解
著者名	小澤温　秋元美世
出版社	メヂカルフレンド社
価格	3100＋税
ISBN・ISSN	978-4-8392-3163-7

書籍名	「社会福祉小六法」
著者名	ミネルヴァ書房編
出版社	ミネルヴァ書房
価格	1,600円＋税
ISBN・ISSN	978-4-6230-6952-1

書籍名	「介護福祉用語辞典」
著者名	住居広士編
出版社	ミネルヴァ書房
価格	2,200円＋税
ISBN・ISSN	978-4-623-03948-7

推薦図書等

参考URL

備考

介護保険制度とその他の諸制度

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSU401
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護保険制度とその他の諸制度
科目責任者	松井　奈美
担当教員	川村　博子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20000301　金曜日，4限
教室	講義室3
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	人権　生活　介護保険法　障害者総合支援法	
学生の到達目標	1.介護保険制度の仕組みとサービス内容を理解する。 2.障害者総合支援法の仕組みとサービス内容を理解する。 3.その他関連する諸制度の目的を理解したうえで、利用者の生活や多　職種連携の状況がイメージできる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション:社会保障制度の概要を確認する（1年次の復習）。（目標１） 担当教員: 松井　奈美
	第2回	我が国の介護保険制度創設の背景と目的，変遷について理解する。（目標１） 担当教員: 松井　奈美
	第3回	介護保険制度の仕組みを理解する。（目標１） 担当教員: 松井　奈美

	第4回	介護保険サービス利用の流れと介護サービスの種類を把握する。（目標１） 担当教員: 松井　奈美
	第5回	日本の介護保険制度の課題と展望について考察する。（目標１） 担当教員: 松井　奈美
	第6回	介護保険制度と関連諸制度との関係及び各専門職の役割を理解する。（目標１,３） 担当教員: 松井　奈美
	第7回	障害者総合支援法創設の背景と目的，動向を理解する。（目標２） 担当教員: 川村　博子
	第8回	障害者総合支援法の仕組み①（自立支援給付・利用者負担・障害福祉事業者・施設・専門職と役割について学ぶ）（目標２） 担当教員: 川村　博子
	第9回	障害者総合支援法の仕組み②（障害者福祉サービス利用の流れ・種類と内容，組織・団体の役割について学ぶ）（目標２） 担当教員: 川村　博子
	第10回	介護福祉実践に関連する諸制度①（日常生活自立支援事業・成年後見制度等を理解する）（目標１,３） 担当教員: 松井　奈美
	第11回	介護福祉実践に関連する諸制度②（高齢者虐待防止法・高齢者保健医療制度を理解する）（目標１,３） 担当教員: 松井　奈美
	第12回	介護福祉実践に関連する諸制度③（介護予防施策・難病対策・感染症予防などの制度を理解する）（目標１,３） 担当教員: 松井　奈美
	第13回	介護福祉実践に関連する諸制度④（生活保護法等、生活を支える諸制度の概要を理解する）（目標３） 担当教員: 松井　奈美
	第14回	介護福祉実践に関連する諸制度⑤（高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度の概要の理解及び諸外国の社会保障制度を確認する）（目標３） 担当教員: 松井　奈美
	第15回	介護福祉専門職が諸制度を理解することの重要性を確認する（目標１,２,３） 担当教員: 松井　奈美
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回(共通)授業前に該当するテキスト範囲を確認し、概要を把握しておくこと。
	復習	第1回～第15回(共通)レジュメやテキストを用いて重要であると説明された内容や用語をノートに整理すること。
	展開	各制度の仕組みやサービスが、介護を必要とする人々の生活とどのようにかかわっているか、また、日本における各制度の課題等を理解することができる。
成績評価	評価の基準	1.介護保険制度の仕組みとサービス内容が理解できている。 2.障害者総合支援法の仕組みとサービス内容が理解できている。 3.その他関連する諸制度の目的を理解したうえで、利用者の生活や多職種連携の状況がイメージできている。
	評価の方法	松井：定期テスト（60%）　ミニテスト（20%） 川村：定期テスト（20%） 【評価持ち点】松井：80点、川村：20点

教科書	書籍名	最新介護福祉全書2『人間と社会－社会の理解』
	著者名	小澤温・秋元美世（編）
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,100円（税別）
	ISBN・ISSN	978－4－8392－3163－7
推薦図書等	書籍名	新・介護福祉士養成講座２『社会と制度の理解』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規出版
	価格	2,200円（税別）
	ISBN・ISSN	978－4－8058－5110－4
参考URL		
備考	第1回～第6回/第10回～第15回：松井担当 第7回～第9回：川村担当 〈松井〉 ・復習として前回授業のミニテストを毎回実施する	

災害・緊急時の介護

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS105
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	災害・緊急時の介護
科目責任者	布施　千草
担当教員	井口　ひとみ 今井　訓子 川村　博子 清宮　宏臣 中西　正人 松井　奈美 山田　美知代
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	20004701　（前期）水曜日，2限（後期）水曜日，1限
教室	（前期）講義室4（後期）講義室1
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	災害　緊急時の支援　要配慮者　福祉避難所	
学生の到達目標	1.災害や緊急時によって生じる直後・中期・長期的な介護の問題を理解し，介護福祉士としての行動がとれるように基礎的知識と技術を養う。 2.非常時の生活支援について理解する。 3.避難所における支援について実践的に学ぶ。	

授業内容	第1回	災害介護の必要性｛目標1｝ 担当教員: 布施　千草
	第2回	災害・緊急時の種類と災害サイクル，トリアージの存在｛目標１｝ 担当教員: 布施　千草
	第3回	人・生活に及ぼす影響　事例に見る生活保障｛目標2｝ 担当教員: 川村　博子
	第4回	災害時のコミュニケーション支援｛目標2｝ 担当教員: 松井　奈美
	第5回	災害時支援の視点　　からだとこころ １）災害の種類別にみた健康や生活の問題，災害時期別・避難生活別に見た健康問題，日常生活問題，生活問題｛目標１・2｝ 担当教員: 井口　ひとみ
	第6回	災害時の生活支援技術　１）「環境」｛目標1・2｝ 担当教員: 中西　正人
	第7回	災害時の生活支援技術　２）「食」｛目標1・2｝ 担当教員: 今井　訓子
	第8回	災害時の生活支援技術　３）「排泄」｛目標1・2｝ 担当教員: 中西　正人
	第9回	災害時の生活支援技術　４）「睡眠」｛目標1・2｝ 担当教員: 山田　美知代
	第10回	災害時の生活支援技術　５）「清潔」｛目標1・2｝ 担当教員: 清宮　宏臣
	第11回	災害時の生活不活発病の予防｛目標1・2｝ 担当教員: 今井　訓子
	第12回	HUG演習・まとめ｛目標3｝ 担当教員: 担当教員全員
	第13回	HUG演習・まとめ｛目標3｝ 担当教員: 担当教員全員
	第14回	拠点的福祉避難所運営訓練関連｛目標３） 担当教員: 担当教員全員
	第15回	拠点的福祉避難所運営訓練関連｛目標３） 担当教員: 担当教員全員
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第1回「災害時の介護」について，関連する報道を調べる。 第2回～11回　平常時の生活支援について教科書を読む。 第12回～第15回　避難所にまつわる生活困難について調べる。
	復習	第1回～第15回｛共通）毎回の授業において配布された資料を読み直し，保管する。 レポート課題は期限を守る。
	展開	１.災害・緊急時の自分の対処法についてその能力を見きわめ，強化していく。 ２.専門職として，非常時にどう対応したらよいか自分の考えをまとめておく。
成績評価	評価の基準	1.災害や緊急時によって生じる直後・中期・長期的な介護の問題を挙げることができ，介護福祉士としてどう行動すべきか述べることができる。 2.非常時においても生活支援について具体的レベルで述べることができる。 3.避難所における支援について，そのポイントがあげられる以上によって評価する。
	評価の方法	レポート（70%），授業の意欲（30%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	田中総一郎他編著：重症児者の防災ハンドブック　クリエッツかもがわ 中村恵子監修：救急看護　中山書店
備考	

地域共生論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS106
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	地域共生論
科目責任者	清宮　宏臣
担当教員	宮下　裕一 五十嵐　正人
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	20000401　火曜日，3限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	地域、共生、社会資源	
学生の到達目標	１.短大周辺や学生自身が暮らす地域への活動参加を促し、社会資源の理解や多様な文化・価値観に触れながら地域社会のありようについて理解する。 ２.障害のある方が地域で生活することについて、その支援の在り方や共生のあり方について理解する。 ３.人が自立した生活を営むことについて、個人、近隣、地域、社会の単位で人間をとらえる視点を養い、日々の生活と社会とのかかわりについて理解する。	
授業内容	第1回　　オリエンテーション （科目の内容、授業の進め方など） 担当教員: 清宮　宏臣	

第2回　障害をもつ人の暮らし方と共生について（1）
制度にとらわれない暮らし；「ばおばぶ」での生活（目標2）
担当教員: 五十嵐　正人

第3回　障害をもつ人の暮らし方と共生について（2）
「生活ホーム小島屋」での生活（目標2）
担当教員: 五十嵐　正人

第4回　障害をもつ人の暮らし方と共生について（3）
重症心身障害とは（目標2）
担当教員: 五十嵐　正人

第5回　障害をもつ人の暮らし方と共生について（4）
重症心身障害児者の暮らし（目標2）
担当教員: 五十嵐　正人

第6回　障害をもつ人の暮らし方と共生について（5）
知的障害のある方の暮らし（目標2）
担当教員: 五十嵐　正人

第7回　福祉実践者の話（目標1、2）
担当教員: 宮下　裕一

第8回　グループワーク（1）
学外活動の振り返り（目標1）
担当教員: 清宮　宏臣

第9回　グループワーク（2）
身近な社会資源を知る；社会福祉協議会ほか（目標3）
担当教員: 清宮　宏臣

第10回　社会資源（制度や施設など）と支援の現状（1）
精神障害のある方について（目標2）
担当教員: 五十嵐　正人

第11回　障がいのある子の保護者の方からの話（目標2）

担当教員: 五十嵐　正人

第12回　社会資源（制度や施設など）と支援の現状（2）
諸外国の様子（目標1、2）
担当教員: 五十嵐　正人

第13回　社会資源（制度や施設など）と支援の現状（3）権利擁護について（目標2）
担当教員: 五十嵐　正人

第14回　社会資源（制度や施設など）と支援の現状（4）障害のある人と障害のある人を支える人との地域共生に向けて（目標2）
担当教員: 五十嵐　正人

第15回　グループワーク（3）
地域や地域福祉について考える（目標1、3）
担当教員: 清宮　宏臣

予習・復習の内容
（毎回45分程度）

予習　第1回～第15回（共通）　居住地の自治会について、どのような様子であるのか、どのような活動があるのかなどを、親や近隣住民の方などから情報を得る。
また、福祉に関連する社会資源（諸制度、サービスや施設など）は、どのようなものがあるのか調べる。

復習　第1回～第15回（共通）　毎回の授業において、配布した資料を確認し、保管する。障害のある方が地域で暮らすこと、共生することについて、考えるよう努める。

展開　1.居住地の自治会活動に、積極的に参加する。
2.居住地周辺に、どのような福祉施設や地域住民が交流する場があるのかを調べ、参加可能な活動に積極的に参加する。

		3.居住地以外の地域においても、興味関心のある活動に参加する。 4.障害のある方と積極的にかかわる。
成績評価	評価の基準	1.授業で扱った基礎的な内容を理解度、多様な社会資源や価値観に対する理解度。 2.障害のある方が地域で生活することの意味についての理解度。 3.地域社会とのかかわり、他者との関係を考えながら、主体的な活動・行動ができていること。
	評価の方法	参加状況（態度や意欲など）や毎講義後のレポート（10%）、学外活動の時間数、活動後レポート内容やファイル整理など（90%）などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。 期末試験は行わない。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	三人暮らし
	著者名	五十嵐正人 著
	出版社	水曜社
	価格	1,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-88065-190-3
参考URL		
備考	学外活動（居住地の自治会活動や福祉施設での活動など）18時間以上を必須としている。各自が自主的、計画的に活動先を見つけ参加することが必要である。 期末試験は行わない。	

介護福祉特論Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS304
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護福祉特論Ⅰ
科目責任者	清宮　宏臣
担当教員	井口　ひとみ 布施　千草 今井　訓子 川村　博子 中西　正人 松井　奈美 山田　美知代
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	31002701　水曜日，2限・3限
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護福祉士　国家試験　専門的知識	
学生の到達目標	１．介護福祉士として活動するために必要となる基礎的な知識について理解を深めることができる。 ２．１年次に学んだ科目を中心に国家試験に合格できる力を身につけることができる。 ３．国家試験対策としての勉強法を確立することができる。	
授業内容	第1回　　模擬試験① 担当教員: 清宮　宏臣	

	第2回	模擬試験② 担当教員: 清宮　宏臣
	第3回	生活支援技術①（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ） 担当教員: 山田　美知代
	第4回	生活支援技術②（生活支援技術Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ） 担当教員: 山田　美知代
	第5回	人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション 担当教員: 川村　博子
	第6回	発達と老化の理解 担当教員: 井口　ひとみ
	第7回	こころとからだのしくみ 担当教員: 今井　訓子
	第8回	コミュニケーション技術 担当教員: 松井　奈美
	第9回	介護過程 担当教員: 清宮　宏臣
	第10回	認知症の理解 担当教員: 布施　千草
	第11回	障害の理解 担当教員: 川村　博子
	第12回	介護の基本①（介護の基本Ⅰ・Ⅱ） 担当教員: 布施　千草
	第13回	介護の基本②（介護の基本Ⅲ） 担当教員: 今井　訓子
	第14回	社会の理解 担当教員: 松井　奈美
	第15回	総合問題 担当教員: 清宮　宏臣
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第１回～第２回（共通） ・1年次開講の各科目の授業で示されたキーワードについて再確認しておくこと。 第３回～第１５回（共通） ・初回実施の模擬試験について、正答及びその根拠について調べておくこと。
	復習	第１回～第１５回（共通） ・授業で示されたポイントに加え、関連する内容について確認し整理すること。 ・指示されたレポート課題等を期限までに提出すること。
	展開	・模擬試験を通じて国家試験について理解を深める。 ・最新の図書等で知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	１．各科目における理解度について自己分析ができている。 ２．不得意科目について認識することができている。 ３．効果的な自己学習の方法について検討することができている。
	評価の方法	授業への取り組み20%、レポート80%の成績を総合する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

推薦図書等	書籍名	介護福祉士　受験ワークブック
	著者名	介護福祉士受験ワークブック編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	3,024円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5003-9

参考URL	
備考	・各回の授業では、１年次に使用した当該科目分のテキスト及び初回実施の模擬試験で使用した問題を持参すること。

介護福祉特論Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS402
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護福祉特論Ⅱ
科目責任者	清宮　宏臣
担当教員	井口　ひとみ 布施　千草 今井　訓子 川村　博子 中西　正人 松井　奈美 山田　美知代
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	31002801　金曜日, 2・3限
教室	講義室14
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護福祉士　国家試験　専門的知識	
学生の到達目標	1．介護福祉士として活動するために必要となる専門的知識について理解を深めることができる。 2．介護福祉士国家試験に合格できる力を身につけることができる。	
授業内容	第1回	模擬試験① 担当教員: 清宮　宏臣
	第2回	人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション 担当教員: 川村　博子
	第3回	介護の基本①（介護の基本Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ） 担当教員: 布施　千草

	第4回	介護の基本②（介護の基本Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ） 担当教員: 今井　訓子
	第5回	発達と老化の理解 担当教員: 井口　ひとみ
	第6回	認知症の理解 担当教員: 布施　千草
	第7回	障害の理解 担当教員: 川村　博子
	第8回	こころとからだのしくみ 担当教員: 今井　訓子
	第9回	社会の理解 担当教員: 松井　奈美
	第10回	コミュニケーション技術 担当教員: 松井　奈美
	第11回	生活支援技術①（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ） 担当教員: 山田　美知代
	第12回	生活支援技術②（生活支援技術Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ） 担当教員: 山田　美知代
	第13回	介護過程 担当教員: 清宮　宏臣
	第14回	医療的ケア 担当教員: 井口　ひとみ
	第15回	総合問題 担当教員: 清宮　宏臣

予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第１回 ・各科目の振り返りを行っておくこと。 第２回～第１５回（共通） ・初回実施の模擬試験について，正答及びその根拠について調べておくこと。
	復習	第１回～第１５回（共通） ・授業で示されたポイントに加え，関連する内容について確認し整理すること。 ・指示されたレポート課題等を期限までに提出すること。
	展開	・介護福祉士国家試験に関する資料などを参考に各科目毎の理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.介護福祉士国家試験の出題科目それぞれが理解できている。 2.学力評価試験において，介護福祉士国家試験に合格できる点数を取ることができる。
	評価の方法	授業への取り組み20%，試験での得点80%の成績を総合する。ただし，この比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	見て覚える！　介護福祉士国士ナビ
	著者名	いとう総研資格取得支援センター
	出版社	中央法規
	価格	2,592円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5014-5

推薦図書等	
参考URL	
備考	・各回の授業では，当該科目開講時に使用したテキスト及び初回模擬試験で使用した問題を持参すること。

介護の基本Ⅰ（介護福祉論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSB101
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅰ（介護福祉論）
科目責任者	布施　千草
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010501　月曜日，3限
教室	講義室2
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護の歴史　現代社会の課題　介護福祉士　介護福祉の課題	
学生の到達目標	1. 超高齢社会を担う介護福祉士としての社会的役割を理解できる。 2.「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える。 3.介護におけるチームケア等について、理解する。	
授業内容	第1回	ガイダンス　介護福祉士を取り巻く状況、介護の歴史：小説、体験記から学ぶ家族介護の変化 {目標１}
	第2回	現代社会と介護―介護問題の背景①―日本の高齢化の特徴、家族形態、家族機能　{目標１、２}
	第3回	現代社会と介護―介護問題の背景②―老老介護、孤独死、高齢者虐待、認認介護　{目標１、２}

	第4回	尊厳を支える介護　福祉の主要理念（ノーマライゼーション、QOL利用者主体、自立支援個別ケア、 ICF）｛目標2｝
	第5回	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護福祉士法 ①定義、倫理、養成制度、プライバシーの保護｛目標1｝
	第6回	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護福祉士法 ②専門職能団体の活動、職業倫理｛目標1｝
	第7回	介護実践における連携①多職種連携―チームの種類と機能、連携の意義と目的｛目標3｝
	第8回	介護実践における連携②―他の福祉職の機能と連携｛目標３｝
	第9回	介護実践における連携③―保健医療職との連携、医療行為｛目標3｝
	第10回	介護実践における連携④地域連携―地域連携の意義と目的｛目標３｝
	第11回	介護実践における連携⑤―インフォーマルな社会資源の重要さ｛目標3｝
	第12回	介護実践における連携⑥―地域包括支援センターの機能と役割、行政｛目標3｝
	第13回	海外における介護福祉の動向｛目標1｝
	第14回	今後の介護福祉の課題｛目標１，２｝
	第15回	今後の介護福祉の課題と学生発表｛目標1，2｝
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　家族介護について書かれている本を読み，「介護」について自分の考えを持ち授業に臨むこと。 第2回～15回　テキストを読み，主な内容を準備したうえで授業に臨むこと。
	復習	第1回～15回（共通）テキストの練習問題を解き，知識の確認をする。 支持されたレポート課題の提出期限を守ること。
	展開	１.介護の専門性について最新の図書を調べ，知識理解を深める。 2.新聞や報道に関心を持ち，社会の動きに敏感になること。
成績評価	評価の基準	1. 超高齢社会を担う介護福祉士としての社会的役割のべることができる。 2.「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに，「介護を必要とする人」を，生活の観点から捉え，説明できる。 3.介護におけるチームケア等について，理解するしたうえで，その具体例を挙げることができる。上の観点から評価する。
	評価の方法	試験70%、レポート30%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書　第３巻
	著者名	西村洋子編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3190-3Ｃ3336
推薦図書等		

参考URL　高橋紘士：地域包括ケアシステム　オーム社

備考

介護の基本Ⅱ（介護対象論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSB102
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅱ（介護対象論）
科目責任者	布施　千草
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010601　火曜日，2限 20010602　土曜日，4限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	対象理解、人間関係　介護福祉の実際	
学生の到達目標	1.介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面の特徴を知る。 2.その人への介護（特に尊厳を支える介護・自立への介護）について考える。 3.介護者の在り方について学びを深める。	
授業内容	第1回	ガイダンス　VTR｛目標3｝
	第2回	介護を必要とする人の理解 Ⅰ－①人間の多様性・複雑性の理解（生活史）｛目標１｝
	第3回	介護を必要とする人の理解 Ⅰ－②人間の多様性・複雑性の理解（生活習慣・生活様式）｛目標1｝

第4回	介護を必要とする人の理解 Ⅰ－③高齢者の暮らしの理解（世帯構成、役割、社会活動）｛目標1・2｝
第5回	介護を必要とする人の理解 Ⅰ－④高齢者の暮らしの理解（住まいと環境、収入、雇用）｛目標１｝
第6回	介護を必要とする人の理解 Ⅰ－⑤障害のある人の暮らしの理解（生活ニーズ）｛目標１・２｝
第7回	介護を必要とする人の理解 Ⅰ－⑥障害のある人の暮らし（生活を支える基盤）｛目標１・２｝
第8回	介護を必要とする人の理解 Ⅰ－⑦生活環境としての地域の存在そのⅠ｛目標３｝
第9回	介護を必要とする人の理解 Ⅰ－⑦生活環境としての地域の存在その２｛目標３｝
第10回	介護を必要とする人の理解 Ⅱ－①高齢者の身体的・心理的特徴｛目標１｝
第11回	介護を必要とする人の理解 Ⅱ－②障害者の身体的・心理的特徴｛目標１｝
第12回	介護を必要とする人の理解 Ⅱ－③終末期にある人の理解 Ⅰ｛目標１｝
第13回	介護を必要とする人の理解 Ⅱ－④終末期にある人の理解 Ⅱ｛目標１・２｝
第14回	介護を必要とする人の理解 Ⅱ－⑤終末期にある人の理解 Ⅲ｛目標１・２・３｝
第15回	学生による発表と討議｛目標1・2・3｝

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　自らの暮らし，高齢者の暮らし，関心を持ち，授業に臨むこと。 第2回～15回・テキストを読み，「介護を必要とする　人」について基礎知識を持ち授業に臨むこと。
	復習	第1回～15回（共通）テキストの練習問題を解き、知識を確認する。配布された資料を確認し、保管すること。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	高齢者，障害者，そして終末期にある人の心理について関連図書を読み，知識・理解を深めるように努める。

成績評価	評価の基準	1.介護を必要とする人の理解を生活面，健康面，ライ　フサイクル面の特徴を述べることができる。 2.その人への介護（特に尊厳を支える介護・自立への介護）について自己の介護観を踏まえ述べることができる。 3.介護者の職業倫理在り方について，各専門職の倫理綱領をとおして述べることができる。 以上の評価基準をもとに評価する。
	評価の方法	試験70%、レポート30%

教科書

書籍名	最新介護福祉全書　第３巻
著者名	西村洋子編集
出版社	メヂカルフレンド社
価格	3,800円＋税
ISBN・ISSN	978-4-8392-3190-3Ｃ3336

推薦図書等	
参考URL	荊木裕：老いを生きるヒント　平凡社新書
備考	

介護の基本Ⅲ（リスクマネジメント）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSB201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅲ（リスクマネジメント）
科目責任者	今井　訓子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20010701　火曜日，4限
教室	講義室4，介護実習室
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	危機管理　感染対策　安全対策　ストレスマネージメント　労働安全	
学生の到達目標	1.リスクマネージメントの目的を理解する。 2.介護者と利用者の安全を確保するための留意点を理解する。 3.施設介護、在宅介護の場における事故についての知識を深め、その予防法について学ぶ。	
授業内容	第1回	ガイダンス、リスクマネージメントの考え方（目標１）
	第2回	セーフテイマネジメント（介護の質の向上と安全確保）（目標１）
	第3回	リスクコントロール・リスクファイナンシング（目標１,２）
	第4回	介護における安全確保とリスクマネジメント ①ケアマネージメントとリスクマネージメント（目標２）

	第5回	介護における安全確保とリスクマネジメント ②ヒヤリハット事例の分析（目標２,３）
	第6回	介護における安全確保とリスクマネジメント ③在宅での事故の特徴と対策（目標２,３）
	第7回	介護における安全確保とリスクマネジメント ④施設内の事故の特徴と対策（目標２,３）
	第8回	介護における安全確保とリスクマネジメント ⑤感染予防（目標２,３）
	第9回	介護における安全確保とリスクマネジメント ⑥緊急時・医療対応時の対応（目標２,３）
	第10回	介護における安全確保とリスクマネジメント ⑦防災時のネットワーク（目標２,３）
	第11回	認知症高齢者の事故対策（目標２,３）
	第12回	介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ①心の健康管理（スーパービジョンの存在）（目標２）
	第13回	介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ②腰痛等身体の健康管理（福祉用具の活用）（目標２）
	第14回	介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ③感染予防の対策と労働安全（関係法規）（目標２）
	第15回	まとめ・マニュアル作成（目標１,２,３）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　過去に起こった介護事故についてその経緯を調べ、対策を考えておくこと。 第2回～15回 次回のテーマと主な内容について参考図書等を調べておくこと
	復習	第1回～第15回　毎回の授業の要旨および配布資料の内容をまとめておくこと。
	展開	利用者、介護者それぞれの視点でのリスクマネージメントを理解する。セーフティマネージメントとして考えられるように配慮する。
成績評価	評価の基準	１．介護におけるリスクマネージメントやセーフティマネージメントについて，利用者・介護者に必要なものであると理解できたかどうか。 ２．リスクの発見の方法，リスク回避の方法がの述べられるか。 ３．施設・在宅等におけるリスクについて，その種類と影響がわかる。
	評価の方法	試験70%、レポート20%、授業態度10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書３　介護の基本
	著者名	西村洋子編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3192-7
推薦図書等	書籍名	介護分野におけるリスクマネージメント
	著者名	金子努

出版社	中央法規出版株式会社
価格	2000円＋税
ISBN・ISSN	9784805826140

参考URL

備考

介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSB301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）
科目責任者	宮﨑　陽夫
担当教員	山﨑　敦
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010801　木曜日，4限
教室	講義室2
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	高齢者　障害　リハビリテーション	
学生の到達目標	1.高齢者の肢体不自由をきたす疾患・障害についての知識を身につける。 2.リハビリテーションの考え方とそれに基づく介護論を客観的，科学的な思考ができるようにする。	
授業内容	第1回	リハビリテーション概論 (目標1.2) 担当教員: 宮﨑　陽夫
	第2回	障害の医学的基礎知識（骨・筋肉解剖）(目標1.2) 担当教員: 山﨑　敦
	第3回	障害の医学的基礎知識（神経・生理学）(目標1.2) 担当教員: 宮﨑　陽夫
	第4回	脳血管疾患に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 山﨑　敦

	第5回	進行性疾患に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 宮﨑　陽夫
	第6回	骨折に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 宮﨑　陽夫
	第7回	運動麻痺に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 山﨑　敦
	第8回	言語・排尿・嚥下障害に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 宮﨑　陽夫
	第9回	脊髄損傷・切断に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 山﨑　敦
	第10回	廃用症候群に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 宮﨑　陽夫
	第11回	認知症に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 山﨑　敦
	第12回	終末期に対すリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 山﨑　敦
	第13回	地域リハビリテーション(目標2) 担当教員: 山﨑　敦
	第14回	シーティングについて(目標2) 担当教員: 宮﨑　陽夫
	第15回	リハビリテーション論のまとめ 担当教員: 山﨑　敦
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第１回～１５回（共通）授業内容に関するテーマを事前に調べておくこと。
	復習	第１回～１５回（共通）授業に配布する関係資料の理解を深めること。
	展開	臨床実習においてリハビリテーション知識を応用できること。
成績評価	評価の基準	1.高齢者の肢体不自由をきたす疾患、障害についての理解度。 2.リハビリテーションの考え方とそれに基づく介護論を客観的，科学的な思考をもって説明できる。
	評価の方法	期末筆記試験（90%） 小レポート（10%）
教科書	書籍名	最新介護福祉全書別巻２　リハビリテーション論
	著者名	編集　澤村誠志
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	￥2730
	ISBN・ISSN	*978-4-8392-3157-6
推薦図書等		
参考URL		
備考	毎授業にて必要な資料等は配布する。	

介護の基本Ⅴ（レクリエーション）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSB103
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅴ（レクリエーション）
科目責任者	八鍬　拓
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010901　月曜日，5限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	運動　生活　楽しみ	
学生の到達目標	1.「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解する。 2.「介護を必要とする人」を,生活の観点から捉えるために,生活の一部であるレクリエーション援助の実践のための知識を習得する。	
授業内容	第1回	ガイダンス（「尊厳の保持」「自立支援」のためのレクリエーション）
	第2回	介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解①（目標1・2）
	第3回	介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解②（目標1・2）
	第4回	レクリエーションの活動領域と意義①（目標1・2）
	第5回	レクリエーションの活動領域と意義②（目標1・2）
	第6回	レクリエーション活動の主体（目標1・2）
	第7回	レクリエーション計画作成及び実施（目標1・2）

	第8回	レクリエーション指導者の配慮（目標1・2）
	第9回	レクリエーション活動の実践（目標1・2）
	第10回	高齢者・障害者レクリエーションの実際（目標1・2）
	第11回	レクリエーションワークの指導法（目標1・2）
	第12回	集団レク援助実習１レク計画作成（目標1・2）
	第13回	集団レク援助実習２レク計画作成（目標1・2）
	第14回	集団レク援助実習３レク計画作成（目標1・2）
	第15回	福祉レクリエーション援助のまとめ（目標1・2）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1～11回　次回テーマの主な内容についてテキストを確認しておく。 第12～14回　集団レク支援実習計画の展開について準備しておく。 第15回　前回までの授業資料及びテキストを読み返しておく。
	復習	第1～14回　授業において配布した資料とテキストの内容を確認し、保管すること。 第15回　全授業で配布された資料の確認と福祉におけるレクリエーションの展開を考察すること。
	展開	高齢者・障害者に対するレクリエーションの必要性を考察し、理解・知識を深める。
成績評価	評価の基準	1.高齢者・障害者のレクリエーション（余暇活動）について、基礎的な内容が理解できていること。 2.レクリエーション計画作成及び実施の方法を理解していること。
	評価の方法	レポート課題（20%）、期末筆記試験（70%）、授業への参加態度（10%）
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅵ（介護サービス事務）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSB302
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅵ（介護サービス事務）
科目責任者	大塚　克巳
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011001　月曜日，3・4限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護給付費・単位数・地域単価・補足給付	
学生の到達目標	1.介護保険制度の仕組みやサービス種別の内容を学ぶとともに、介護給付費に関わる請求事務に精通する。 2.介護保険事務に関わる実務全般を習熟し、即戦力として請求事務に従事できるスキルを養う。	
授業内容	第1回	テキスト第１章　共通事項　サービス全般にわたる共通事項 (目標1)
	第2回	テキスト第１章　共通事項　サービス全般にわたる共通事項 (目標1)
	第3回	テキスト第２章　居宅サービス　１.訪問介護・介護予防訪問介護　２.訪問入浴介護・介護予防訪問入浴介護 (目標1,2)
	第4回	テキスト第２章　居宅サービス　３.訪問看護・介護予防訪問看護　４.訪問リハビリテーション・介護予防訪問リハビリテーション (目標1,2)
	第5回	テキスト第２章　居宅サービス　５.居宅療養管理指導・介護予防居宅療養管理指導　６.通所介護・介護予防通所介護 (目標1,2)

	第6回	テキスト第２章　居宅サービス　７.通所リハビリテーション・介護予防通所リハビリテーション　８.福祉用具貸与・介護予防福祉用具貸与 (目標1,2)
	第7回	テキスト第２章　居宅サービス　９.短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護　10.短期入所療養介護・介護予防短期入所療養介護 (目標1,2)
	第8回	テキスト第２章　居宅サービス　11.特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護　12.居宅介護支援・介護予防居宅介護支援 (目標1,2)
	第9回	テキスト第３章　地域密着型サービス (目標1,2)
	第10回	テキスト第３章　地域密着型サービス テキスト第４章　施設サービス (目標1,2)
	第11回	テキスト第４章　施設サービス (目標1,2)
	第12回	テキスト第５章　介護給付費の請求方法 (目標2)
	第13回	練習問題　様式第二、様式第八の事例問題 解答・解説 (目標2)
	第14回	練習問題　様式第二、様式第八の事例問題 解答・解説 (目標2)
	第15回	練習問題　様式第二、様式第八の事例問題の解答・解説及び振り返り (目標2)
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	事前準備として介護給付費単位数等サービスコード表の活用に当たり、インデックス等を活用し各サービス種別が検索しやすいようにしておくこと。（共通） 第１回～第１２回 各回の項目に沿ってテキストの事前の読み込みを行っておくこと。 第１３回～第１５回 練習問題の事前学習、また定められた時間内に様式第二および第八様式を作成できるようサービスコード表の検索時間を短くできるように習得しておくこと。
	復習	第１回～第１２回 毎回の講義において、介護保険制度の仕組みおよびサービス種別について確認し、講義中の事例問題を確実に解答できるよう今一度の振り返りを行うこと。 第１３回～第１５回 練習問題や事例問題で間違えた箇所があれば、今一度、同じ問題を解いて間違えた理由を認識し同じ過ちをしないように理解すること。
	展開	・事前のテキストの読み込みで介護保険制度の大枠の仕組みとサービス種別の内容を理解できるようにする。 ・介護保険請求事務の実践に欠かすことのできない、介護給付費単位数等サービスコード表の活用を迅速かつ適切に行うことができるようにする。 ・講義中において、適宜、各サービス種別における介護報酬の算定方法についてサービスコード表から読み取ることができるようにする。
成績評価	評価の基準	1.介護保険制度の仕組みやサービス種別を把握することに加えて、介護給付費に関わる請求事務の仕組みの理解度。 2.介護保険事務士として、請求事務に従事できるスキルを養うこと。
	評価の方法	・介護保険事務士認定試験において、１００点満点中６０点以上を要する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

推薦図書等	
参考URL	
備考	推薦図書は必要に応じて随時資料配布

コミュニケーション技術Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSC201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	コミュニケーション技術Ⅰ
科目責任者	古川　繁子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20001101　金曜日，2限
教室	講義室1
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	意思疎通、共感的理解、介護家族心理、心身状況によるコミュニケーション、コミュニケーション機器	
学生の到達目標	1.介護を必要とする者の理解や援助的関係・援助的コミュニケーションについて理解する。 2.利用者や利用者家族，あるいは多職種協働する際のコミュニケーション能力を身につける。	
授業内容	第1回	介護コミュニケーションの基本：介護におけるコミュニケーションの意義，目的，役割を知る。(目標1)
	第2回	利用者・家族との関係つくり（波長合わせ・ラポールの取り方）(目標2)
	第3回	介護の場面における利用者・家族とのコミュニケーションの実際（話を聞く技法，利用者の感情表現を察する技法－気づき，洞察力，その他）(目標1,2)
	第4回	利用者・家族とのコミュニケーションの実際（非言語的コミュニケーション）(目標1,2)

第5回	利用者・家族とのコミュニケーションの実際（納得と同意を得る方法。相談・助言・指導。意欲を引き出す技法。利用者本人と家族の意向の調整。その他）(目標1,2)
第6回	利用者の状況に応じたコミュニケーションの実際（感覚機能が低下している人とのコミュニケーション。運動機能の低下している人とのコミュニケーション。認知・知覚機能の低下している人とのコミュニケーション。その他）(目標1)
第7回	記録による情報の共有化（介護における記録の意義・目的・介護に関する記録の種類記録の技法－方法，留意点）(目標1,2)
第8回	記録による情報の共有化（記録の方法・留意点。記録の管理。介護記録の共有化）(目標1)
第9回	情報通信機器を活用した記録の意義と実際。活用の留意点。個人情報の保護、活用。(目標1)
第10回	介護におけるチームコミュニケーション報告の意義・目的（報告・通知・相談の方法・留意点）(目標1,2)
第11回	会議の意義と目的（会議の種類・方法・留意点。その他）(目標1,2)
第12回	話を聞く技法②（傾聴とカウンセリングマインド・個別的な価値に気付く）(目標1)
第13回	話を聞く技法③（家族とのコミュニケーションの実際）(目標1)
第14回	記録の技法②（マッピング：ジェノグラム・ソシオグラム）(目標1,2)
第15回	記録の技法③（評価：アセスメント・エバリューション・モニタリング）(目標1,2)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～１５回（共通） ・授業で指示された語句や事柄を調べる。 ・毎回渡される、次回の授業のためのワークを下調べしながら完成させる。
	復習	第１回～１５回（共通） ・予習内容を含め，自分のノートを作成し，授業の内容を整理する。整理しながら，関連する項目を独自に調べ，「コミュニケーションノート」を作成する。 ・宿題のワークや授業中のワークを理解し整理しながらノートを作成する。
	展開	・対人援助職として，介護場面に限らず，その他の援助場面でコミュニケーションを図ることができる。 ・必要な事柄を自分で調べ，まとめ，プレゼンテーションすることができる。 ・傾聴や記録・プレゼンテーションのスキルを他に教えられる。

成績評価	評価の基準	１．対象者の利用者や家族の心理を具体的に理解していることを授業中のロールプレイへの参加態度や演習レポート・リアクションペーパーなどの提出物により評価する。 ２．上記に加え、定期試験により評価
	評価の方法	提出物・演習レポート(30%)定期試験(70%)により評価

教科書

書籍名	新介護福祉士養成講座５「コミュニケーション技術」
著者名	介護福祉士養成講座編集委員会＝編集
出版社	中央法規出版
価格	2,310円＋税

	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8058-3769-6

推薦図書等	書籍名	コミュニケーション技術－人間関係の形成と実践技術
	著者名	黒澤他編著
	出版社	建帛社
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	9784767933535

参考URL	
備考	授業の進め方は、講義形式とDVD等視聴覚教材を使ったもの、そしてロールプレイやプレゼンテーションなど参加型授業があるので、それらには積極的に参加して下さい。 その際、守秘義務などの約束を課します。

コミュニケーション技術Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSC301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	コミュニケーション技術Ⅱ
科目責任者	髙橋　恵子 唯野　玲子
授業形態	演習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	20001201　（前期）水曜日，1限　（後期）土曜日，2限
教室	（前期）講義室1　（後期）講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	手話　点字を通したコミュニケーション	
学生の到達目標	（唯野玲子） 1．聴覚障害者とのコミュニケーションに必要な手話技術の基礎を身につける。 2．聴覚補償や様々な視覚情報を活用することによってコミュニケーションを充実させる方法を習得する。 3．聴覚障害全般についての理解を深める。 （髙橋恵子） 点字の基本的な学習を行い，視覚障害を持つがゆえの特性を考慮した介護技術，視覚障害者に関する諸問題，視覚障害リハビリテーションなど，視覚障害全般について学習する。理論だけでなく，実際に役立つ事項を多く学習する。	
授業内容	第1回	手話実技：あいさつ，天気／季節の表現（目標1,2） 講義：聴覚障害の原因と二次障害，三次障害の表れ方(目標3) 担当教員: 唯野　玲子
	第2回	手話実技：家族，質問の表現（目標1,2） 講義：聴覚障害者のコミュニケーションの方法(目標3) 担当教員: 唯野　玲子
	第3回	手話実技：好き／嫌い，数／月日の表現(目標1,2) 講義：手話の種類，構造，特徴(目標3) 担当教員: 唯野　玲子

第4回	手話実技：時間，過去／現在／未来の表現(目標1,2) 講義：聴覚補償の実際(目標3) 担当教員: 唯野　玲子
第5回	手話実技：動き，食べ物／味覚の表現(目標1,2) 講義：文字や視覚情報の活用(目標3) 担当教員: 唯野　玲子
第6回	手話実技：形容，気持ちの表現(目標1,2) 講義：聴覚障害者の社会生活(目標3) 担当教員: 唯野　玲子
第7回	手話実技：思考，可能／必要の表現(目標1,2) 講義：聾重複障害者，盲聾者の支援(目標3) 担当教員: 唯野　玲子
第8回	手話実技：復習とまとめ(目標1,2) 講義：聴覚障害者の生活の質の向上(目標３) 担当教員: 唯野　玲子
第9回	視覚障害とは。発生原因・視覚判定の方法 担当教員: 髙橋　恵子
第10回	視覚障害者補助器具の種類と機能 担当教員: 髙橋　恵子
第11回	視覚障害とコミュニケーション。情報伝達方法 担当教員: 髙橋　恵子
第12回	視覚障害の歴史と視覚障害教育の歴史・制度 担当教員: 髙橋　恵子
第13回	視覚障害者の暮らし 担当教員: 髙橋　恵子
第14回	点字技術演習（１） 担当教員: 髙橋　恵子
第15回	点字技術演習（２） 担当教員: 髙橋　恵子
第16回	総括・討論

予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	(唯野玲子) 第１回～第８回（共通）　テキストに目を通し，授業の概要を把握する。 (髙橋恵子) 第１回 駅構内や自宅の家電製品など、どのようなところに点字表示がされているかについて調べてみること。 第２回～第８回（共通） 点字の歴史や仕組み、仮名遣いについて、次回の予告に従って、準備した上で授業に臨むこと。
	復習	(唯野玲子) 第１回～第８回（共通）　授業で学習した手話表現の練習を繰り返す。 (髙橋恵子) 第１回～第８回（共通） 毎回の授業において、テキストの内容を確認し、点字の読み書きができるようにすること。 また、資格障碍者の状況に関する講話に基づき、資格障碍による不自由さなどを考えることに努める。
	展開	(唯野玲子) 第１回～第１５回（共通）　友人との間で，学習した手話を使ったコミュニケーションを行う。可能であれば，実際に聴覚障害者と会ってコミュニケーションを行う。 (髙橋恵子) 公共施設内の点字表示や食品，家電製品などに書かれている点字を読んでみる。また，視覚障碍者を見かけたら，積極的に声をかけて援助する。

成績評価	評価の基準	(唯野玲子) 基本的な手話表現の読み取りと表出ができること，聴覚障害者が用いる様々なコミュニケーション手段について理解し，それを説明できることを合格基準とする。 (髙橋恵子) 点字の歴史と，視覚障碍者にとっての点字の意義について説明できること。また，点字の仕組みと仮名遣いを理解し，簡単な読み書きができること。
	評価の方法	(唯野玲子) 小レポート20%，受講態度20%，試験60%の成績を総合する。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。 (髙橋恵子) 受講態度(40%)と試験または課題採点結果(60%)の成績を総合的に評価する。

教科書	書籍名	ＮＨＫテレビテキスト「みんなの手話」　ワンポイント手話　2014年10月～12月
	著者名	早瀬憲太郎/著
	出版社	ＮＨＫ出版
	価格	362円+税
	ISBN・ISSN	978-4-14-910893-3
推薦図書等	書籍名	初めての点訳 第2版
	著者名	全国視覚障害者情報提供施設協会/編集
	出版社	全国視覚障害者情報提供施設協会
	価格	1,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-907272-05-0
	書籍名	新日本語-手話辞典
	著者名	全国手話研修センター日本手話研究所/編集　米川明彦/監修
	出版社	全日本聾唖連盟
	価格	22,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3450-3

参考URL	http://www.nhk.or.jp/heart-net/syuwa/
備考	

生活支援技術Ⅰ（総論・環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS101
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅰ（総論・環境）
科目責任者	中西　正人
担当教員	今井　訓子 山田　美知代
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011201　木曜日，3限
教室	講義室5
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	生活支援、居住環境、ＩＣＦ	
学生の到達目標	１．介護を必要とする方の生活や生活しやすい環境整備のあり方について理解することができる。 ２．居住環境整備の一つとして、ベッドメイキングをすることができる。 ３．生活支援におけるICFや社会参加について理解することができる。また，生活行為場面ごとの支援のあり方について理解する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、生活形成のプロセス（ライフサイクル）や生活行動（生活経営）について（目標1） 担当教員: 中西　正人

第2回	生活支援について（支援対象者、支援対象者の住まい、居住環境について、ベッドメイキングについて）（目標1） 担当教員: 中西　正人
第3回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習１）（目標2） 担当教員: 担当教員全員
第4回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習２）（目標2） 担当教員: 担当教員全員
第5回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習３）（目標2） 担当教員: 担当教員全員
第6回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習４）（目標2） 担当教員: 担当教員全員
第7回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習５）（目標2） 担当教員: 担当教員全員
第8回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習６）（目標2） 担当教員: 担当教員全員
第9回	ICFと生活支援について１（ICFの構成要素、 ICFの生活支援への活用）（目標3） 担当教員: 中西　正人
第10回	ICFと生活支援について２（参加に向けて；自己実現、生きがい、地域への参加）（目標3） 担当教員: 中西　正人
第11回	居住環境の整備に向けて１（安全な住まい、快適な室内環境、感染予防）（目標1） 担当教員: 中西　正人
第12回	居住環境の整備に向けて２（暮らし易さへの工夫・方法、福祉用具の活用、住宅改修事例、介護保険制度）（目標1） 担当教員: 中西　正人
第13回	居住環境の整備に向けて３（施設における工夫、認知症高齢者への環境支援、ユニバーサルデザイン）（目標1） 担当教員: 中西　正人
第14回	生活行為への支援（身じたく、清潔・入浴）（目標3） 担当教員: 中西　正人
第15回	生活行為への支援（排泄、睡眠）（目標3） 担当教員: 中西　正人

予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第1回～第2回（共通）　自分自身の生活時間の使い方や行動を振り返り、生活を支援することについて考える。 第3回～第8回（共通）　ベッドメイキングの演習にむけた身だしなみの準備や習得した技術を忘れないようにする。 第9回～第10回（共通）　ＩＣＩＤＨやＩＣＦについて調べる。 第11回～第13回（共通）　介護保険制度における福祉用具や住宅改修について調べる。 第14回～第15回（共通）　後期開講予定科目である「身じたく」「清潔・入浴」「排泄」「睡眠」の各支援の意義と目的について、教科書を読んでおく。
	復習	第1回～第15回（共通）　毎回の授業において、教科書や配布資料などを確認し、資料は保管する。個別の指摘事項については、知識や技術を身につけるよう努める。また、適宜、指示する課題（レポートほか）を期限までに提出する。
	展開	・ベッドメイキングの習得では、介護実習室が空いている時間に、各自が都合のつく時間を利用して自己練習をする。 ・福祉用具に関する最近の動向を調べ、知識、理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.環境整備としてのベッドメイキングが適切にできる技術の習得度。 2.ＩＣＦの理解度 3.住環境整備における福祉用具の活用方法や住宅改修の方法、介護保険制度における福祉用具や住宅改修についての理解度
	評価の方法	・参加状況（態度や意欲、演習時の身だしなみなど）（10%）、課題（レポートほか）（10%）、試験（80%）などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	生活支援技術Ⅰ
	著者名	川井太加子 編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2,900円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3153-8

推薦図書等	書籍名	新しい介護
	著者名	太田仁史・三好春樹
	出版社	講談社
	価格	2,900円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-06-282462-0

参考URL	・福祉住環境コーディネーター協会　http://www.fjc21.org/
備考	・技術演習時は、動きやすい服装（原則、ジャージ。ジーンズ不可。上履き（かかとがあるもの））、身だしなみを整える（爪は短くする、長い髪は束ねる。髭は剃る。装飾品[ネックレス、イヤリング、ブレスレットなど]は着用しないなど）こと。

生活支援技術Ⅱ（移動）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS102
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅱ（移動）
科目責任者	中西　正人
担当教員	今井　訓子 山田　美知代
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011301　月曜日，1限 20011302
教室	講義室1
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	生活支援　尊厳の保持　自立支援　ICF　ボディメカニクス	
学生の到達目標	1.利用者の視点で移動や移乗介助の必要性を理解することができる。 2.移動や移乗介助に必要となる知識と技術を理解することができる。 3.利用者・介護者にとって安全で安心できる移動や移乗介助を実践することができる。	
授業内容	第1回	移動の意義と目的（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
	第2回	移動の介護の基本（目標1・2） 担当教員: 中西　正人

第3回	移動に関するアセスメントと目標設定（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
第4回	安全で気兼ねなく動けることを支える介護（目標1・2） 担当教員: 山田　美知代
第5回	安全で的確な移動介助の方法①　基本的留意点（ボディメカニクス）（目標2） 担当教員: 中西　正人
第6回	安全で的確な移動介助の方法②　基本的留意点（環境整備）（目標2） 担当教員: 山田　美知代
第7回	安全で的確な移動介助の方法③　体位変換　安楽な体位の保持（目標2） 担当教員: 中西　正人
第8回	移動介護演習①　体位変換　安楽な体位の保持（目標3） 担当教員: 中西　正人・今井　訓子・山田　美知代
第9回	安全で的確な移動介助の方法④　歩行介護（目標2）、 移動介護演習②　歩行介護（目標3） 担当教員: 中西　正人・山田　美知代
第10回	安全で的確な移動介助の方法⑤　車いすの移乗（目標2） 担当教員: 山田　美知代
第11回	移動介護演習③　車いすの移乗（目標3） 担当教員: 中西　正人・今井　訓子・山田　美知代
第12回	安全で的確な移動介助の方法⑥　車いす移動（目標2） 担当教員: 山田　美知代
第13回	移動介護演習④　車いす移動（目標3） 担当教員: 中西　正人・山田　美知代
第14回	移動介護演習⑤　振り返り演習（目標3） 担当教員: 中西　正人
第15回	利用者の状態・状況に応じた移動の介護の留意点、 他の職種の役割と協働について（目標1・2） 担当教員: 中西　正人・山田　美知代

予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第１回～第１５回（共通） ・障害を持つ人の移動について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ・授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。 ・事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。 第８・１１・１３・１４回（共通） ・授業時に確認した移動に関する技術について再度確認しておくこと。
	復習	第１回～第１５回（共通） ・毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	・移動や移乗介助に関する図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.利用者の視点で移動や移乗介助の必要性を理解することができている。 2.移乗介助に必要となる知識について理解できている。 3.基礎的な移動に関する技術について理解することができている。

	評価の方法	・参加状況（授業時の態度、授業への取り組み意欲、演習時の身だしなみ）10%、課題（レポート等）30%、期末試験60%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	最新介護福祉全書５　生活支援技術 Ⅰ
	著者名	編集　川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2900円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-3153-8

推薦図書等	書籍名	看護・介護を助ける姿勢と動作
	著者名	小川鑛一
	出版社	東京電機大学出版局
	価格	2300円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-501-41860-1

参考URL

備考

・演習時は、介護実習室集合。
・演習時は、グループに分かれて演習を行う。
・演習時は、実習同様に身だしなみ（着衣はジャージ、上履き使用。爪を短くする。長い髪は束ねる。アクセサリー類を身につけない）を整え参加すること。

生活支援技術Ⅲ（食事）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS103
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅲ（食事）
科目責任者	今井　訓子
担当教員	山田　美知代
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011401　火曜日，５限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	食事介助　ICF　安全　自立支援	
学生の到達目標	1.食べることが、人間らしく生きることといかに深い関係をもつ行為であるかについて理解する。 2.食事介護の基本的な進め方について理解する。 3.安全に、おいしく食事を摂るための介護について理解する。	
授業内容	第1回	ガイダンス、自立に向けた食事の介助：食事の意義と目的(目標1) 担当教員: 今井　訓子
	第2回	食事に関する利用者のアセスメントⅠ（目標１.２.3) 担当教員: 今井　訓子
	第3回	食事に関する利用者のアセスメントⅡ(目標１.２.3) 担当教員: 今井　訓子

	第4回	「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫Ⅰ(目標１.２.3) 担当教員: 今井　訓子
	第5回	「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫Ⅱ(目標１.２.3) 担当教員: 今井　訓子
	第6回	安全で的確な食事介助(目標２.３) 担当教員: 今井　訓子
	第7回	感覚機能が低下している人の介助（事例検討）(目標２.３) 担当教員: 山田　美知代
	第8回	運動機能が低下している人の介助（事例検討）(目標２.３) 担当教員: 山田　美知代
	第9回	認知・知覚機能が低下している人の介助（事例検討）(目標２.３) 担当教員: 山田　美知代
	第10回	誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点(目標２.３) 担当教員: 山田　美知代
	第11回	食事介助（１）（演習）(目標２.３) 担当教員: 今井　訓子・山田　美知代
	第12回	食事介助（２）（口腔ケア演習）(目標２.３) 担当教員: 今井　訓子・山田　美知代
	第13回	脱水予防(目標1) 担当教員: 山田　美知代
	第14回	他職種の役割と協働（経管栄養を行っている人の介護の留意点）(目標1.２.３) 担当教員: 今井　訓子
	第15回	演習後レポートからの気付き、重要項目の再確認(目標1.２.３) 担当教員: 今井　訓子・山田　美知代
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回　嚥下の仕組みについて学習しておく。 おいしい食事につながる環境についてまとめておく。 第2回～第15回　次回のテーマと主な内容について、こころとからだのしくみと合わせ調べておくこと。 第11回、第12回　演習内容について片麻痺を設定し利用者体験をしておくこと。
	復習	第1回～第14回　毎回の授業について要旨をまとめておくこと。指示されたレポートを期日までに提出すること。 第15回　事前に提出したレポートと業後に修正、追加した内容を比較しまとめておくこと。
	展開	「こころとからだのしくみ」の授業とあわせ、理解を深める。
成績評価	評価の基準	講義演習を通して、食事の意義や目的、方法を述べることができる。 演習で学んだ技術を習得している。 テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト70%、レポート20%、授業態度 10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書５　生活支援技術Ⅰ　基本編
	著者名	編集　川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2,900円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3153-8

推薦図書等

参考URL

備考

生活支援技術Ⅳ（清潔・入浴）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅳ（清潔・入浴）
科目責任者	中西　正人
担当教員	山田　美知代
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20011501　月曜日，4限
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	入浴・清潔保持、入浴環境、自立支援、	
学生の到達目標	1.入浴・清潔保持に関する意義や目的、介護の必要な方の支援の方法を理解できる。 2.演習を通じて、清潔保持（ベッド上での清拭や洗髪など）や入浴支援をすることができる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、支援を要する利用者理解や清潔について（意義と目的）（目標1） 担当教員: 中西　正人
	第2回	入浴・清潔保持にむけた利用者のアセスメントの視点、爽快感・安楽を支える介護（入浴を楽しむ環境作りや安全で安楽な入浴）（目標1） 担当教員: 中西　正人

第3回	全身入浴について（演習に向けて；家庭浴槽、機械浴槽、簡易浴槽）（目標1） 担当教員: 中西　正人
第4回	全身入浴（家庭浴槽、機械浴槽、簡易浴槽）の介護（演習1）（目標2） 担当教員: 中西　正人・山田　美知代
第5回	全身入浴（家庭浴槽、寝台機械浴槽、簡易浴槽）の介護（演習2）（目標2） 担当教員: 中西　正人・山田　美知代
第6回	洗髪、足浴、全身清拭について（演習に向けて）（目標1） 担当教員: 山田　美知代
第7回	洗髪の介護（演習1）（目標2） 担当教員: 中西　正人・山田　美知代
第8回	洗髪の介護（演習2）（目標2） 担当教員: 中西　正人・山田　美知代
第9回	全身清拭の介護（演習）（目標2） 担当教員: 中西　正人・山田　美知代
第10回	足浴の介護（演習）（目標2） 担当教員: 中西　正人・山田　美知代
第11回	グループワーク（演習の振り返り）（目標1,2） 担当教員: 中西　正人
第12回	個別浴槽の種類や設置について（入浴環境整備）（目標1） 担当教員: 中西　正人
第13回	入浴における物理作用1（効果とリスク）（目標1） 担当教員: 中西　正人
第14回	入浴における物理作用2（効果とリスク）（目標1） 入浴における留意事項（高齢者の特徴を踏まえて；水分の重要性）（目標1） 担当教員: 中西　正人
第15回	覚機能・運動機能・認知機能・知覚機能が低下している人の介助の留意点（事例を通して）（目標1） 担当教員: 中西　正人

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回～第2回（共通）　普段当たり前のように行っている清潔保持や入浴行為について、その意義や目的、諸動作について考えてみる。 第3回～第10回（共通）　次回の内容、特に技術演習について、準備した上で授業に臨む。 第11回　演習時の気づきや学びを整理する。 第12回　自分の家の浴槽や浴室の状態を調べる。 第13～15回（共通）　次回の内容について、関連する事柄を調べて授業に臨む。
	復習	第1回～第15回（共通）　毎回の授業において、教科書や配布資料などを確認し、資料は保管する。個別の指摘事項については、知識や技術を身につけるよう努める。また、適宜、指示する課題（レポートほか）を期限までに提出する。
	展開	自宅の入浴環境（脱衣室も含む）について、心身機能の状況に応じた使い勝手を考え、理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.入浴・清潔保持の意義や目的、介護の基本の理解度 2.入浴・清潔保持の方法、留意点などの知識や理解度

	評価の方法	・参加状況（態度や意欲、演習時の身だしなみなど）（10%）、課題（レポートほか）（10%）、試験（80%）などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	生活支援技術Ⅱ
	著者名	川井太加子 編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2,600円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3154-5

推薦図書等	書籍名	新しい介護
	著者名	太田仁史
	出版社	講談社
	価格	3,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-06-282462-0

参考URL

備考	・技術演習時は、動きやすい服装（原則、ジャージ。ジーンズ不可。上履き（かかとがあるもの））、身だしなみを整える（爪は短くする、長い髪は束ねる。髭は剃る。装飾品[イヤリング、ネックレス、ブレスレットなど]は着用しないなど）こと。

生活支援技術Ⅴ（身じたく）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS202
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅴ（身じたく）
科目責任者	中西　正人
担当教員	今井　訓子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20011601　火曜日，5限
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	生活支援　自立支援　尊厳の保持　ICF	
学生の到達目標	1.利用者の視点で身じたくに関する介助の必要性を理解することができる。 2.身じたくに関する介助に必要となる知識と技術を理解することができる。 3.利用者・介護者にとって安全で安心できる身じたくに関する介護を実践することができる。	
授業内容	第1回	身じたくの意義と目的（目標1） 担当教員: 中西　正人
	第2回	身じたくに関する基礎知識（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
	第3回	身じたくの介護の基本（目標1・2） 担当教員: 中西　正人

	第4回	身じたくに関するアセスメントと目標設定（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
	第5回	生活習慣と装いの楽しみを支える介護（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
	第6回	整容行動、衣生活の介助の技法①　口腔の清潔（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
	第7回	整容行動、衣生活の介助の技法②　爪の手入れ、ひげの手入れ、耳の手入れ（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
	第8回	演習①　口腔の清潔、爪の手入れ、ひげの手入れ、耳の手入れ（目標3） 担当教員: 中西　正人・今井　訓子
	第9回	整容行動、衣生活の介助の技法③　洗面、整髪、化粧（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
	第10回	演習②　洗面、整髪、化粧（目標3） 担当教員: 中西　正人・今井　訓子
	第11回	整容行動、衣生活の介助の技法④　衣服の選択、衣服の着脱（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
	第12回	演習③　衣服の着脱①（座位での更衣）（目標3） 担当教員: 中西　正人・今井　訓子
	第13回	演習④　衣服の着脱②（臥位での更衣）（目標3） 担当教員: 中西　正人・今井　訓子
	第14回	利用者の状態・状況に応じた身じたくの介助の留意点（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
	第15回	他の職種の役割と協働について（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第１回～第１５回（共通） ・障害を持つ人の身じたくについて日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ・授業の内容に示しているキーワードについて事前にしらべておくこと。 ・事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。 第８・１１・１２・１３回（共通） 授業時に確認した身じたくに関する技術について再度確認しておくこと。
	復習	第１回～第１５回（共通） ・毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	：身じたくに関する図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.利用者の視点で身じたくに関する介助の必要性を理解することができている。 2.身じたくに関する介助に必要となる知識について理解できている。 3.基礎的な身じたくに関する技術について理解することができている。
	評価の方法	・参加状況（授業時の態度、授業への取り組み意欲、演習時の身だしなみ）10%、課題（レポート等）30%、期末試験60%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に変更する可能性もある。

教科書	書籍名	最新介護福祉全書５　生活支援技術 Ⅰ
	著者名	編集　川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3600円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-3153-8
推薦図書等	書籍名	基礎から学ぶ口腔ケア 第2版: 口をまもる 生命をまもる
	著者名	菊谷　武
	出版社	学研メディカル秀潤社
	価格	2520円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-7809-1114-5
参考URL		
備考	・演習時は、介護実習室集合。 ・演習時は、グループに分かれて演習を行う。 ・演習時は、実習同様身だしなみ（着衣はジャージ、上履き使用。爪を短くする。長い髪は束ねる。アクセサリー類を身につけない）を整え参加すること。	

生活支援技術Ⅵ（排泄）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS203
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅵ（排泄）
科目責任者	中西　正人
担当教員	山田　美知代
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20011701　月曜日，5限
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	生活支援　自立支援　尊厳の保持　ICF　福祉用具	
学生の到達目標	1.利用者の視点で排泄介助の必要性を理解することができる。 2.排泄介助に必要となる知識と技術を理解することができる。 3.利用者・介護者にとって安全で安心できる排泄介助を実践することができる。	
授業内容	第1回	排泄の意義と目的（目標1） 担当教員: 中西　正人
	第2回	気持ち良い排泄を支える介護①（排尿のメカニズム）（目標1・2） 担当教員: 中西　正人

第3回	気持ち良い排泄を支える介護②（排尿障害とその対応）（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
第4回	気持ち良い排泄を支える介護③（排便のメカニズム）（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
第5回	気持ち良い排泄を支える介護④（排便障害とその対応）（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
第6回	排泄に関するアセスメントと目標設定（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
第7回	安全・的確な排泄の介助の技法①　トイレでの排泄介助（目標2・3） 演習①　トイレでの排泄介助（目標2・3） 担当教員: 中西　正人
第8回	安全・的確な排泄の介助の技法②　ポータブルトイレを使用しての排泄介助（目標2・3） 担当教員: 中西　正人
第9回	演習②　ポータブルトイレを使用しての排泄介助（目標2・3） 担当教員: 中西　正人・山田　美知代
第10回	安全・的確な排泄の介助の技法③　採尿器・差し込み便器を使用しての排泄介助（目標2・3） 担当教員: 中西　正人
第11回	演習③　採尿器・差し込み便器を使用しての排泄介助（目標2・3） 担当教員: 中西　正人・山田　美知代
第12回	安全・的確な排泄の介助の技法④　おむつ交換（目標2・3） 担当教員: 中西　正人
第13回	演習④　おむつ交換（目標2・3） 担当教員: 中西　正人・山田　美知代
第14回	利用者の状態・状況に応じた介助の留意点（目標1・2） 担当教員: 中西　正人
第15回	排泄に関するその他の技法、他の職種の役割と協働について（目標1・2・3） 担当教員: 中西　正人

予習・復習の内容 **（毎回45分程度）**	予習	第１回～第１５回（共通） ・排泄行為に不自由している人について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ・授業の内容に示しているキーワードについて事前にしらべておくこと。 ・事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。 第９・１１・１３回（共通） ・授業時に確認した排泄に関する技術について再度確認しておくこと。
	復習	第１回～第１５回（共通） ・毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	・排泄介助に関する図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.利用者の視点で排泄介助の必要性を理解することができている。 2.排泄介助に必要となる知識について理解できている。 3.基礎的な排泄に関する技術について理解することができている。
	評価の方法	・参加状況（授業時の態度、授業への取り組み意欲、演習時の身だしなみ）10%、課題（レポート等）30%、期末試験60%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に変更する可能性もある。

教科書	書籍名	最新介護福祉全書6　生活支援技術 Ⅱ
	著者名	編集　川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2600円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-3154-5

推薦図書等	書籍名	ステップアップのための排泄ケア (おはよう21ブックス―基礎から学ぶ介護シリーズ)
	著者名	西村　かおる
	出版社	中央法規出版
	価格	1890円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-2722-2

参考URL	
備考	・演習時は、介護実習室集合。 ・演習時は、グループに分かれて演習を行う。 ・演習時は、実習同様身だしなみ（着衣はジャージ、上履き使用。爪を短くする。長い髪は束ねる。アクセサリー類を身につけない）を整え参加すること。

生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS204
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）
科目責任者	今井　訓子
担当教員	山田　美知代
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20011801　（A）火曜日，2限（B）土曜日，2限 20011802
教室	（A）講義室4（B）講義室2
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	安眠支援　緊急時対応　ターミナルケア　グリーフケア	
学生の到達目標	1.人間にとって睡眠がどのような意味があり、良眠を促す介護　方法を理解する。 2.緊急時の対処方法を理解する。 3.終末期介護の進め方を学び、介護者としての姿勢を理解する。	
授業内容	第1回	ガイダンス、自立に向けた睡眠の介護：睡眠の意義、目的（目標1） 担当教員: 今井　訓子

第2回	睡眠に関するアセスメント（目標１） 担当教員: 今井　訓子
第3回	安眠のための介護、安眠を促す介護の技法、安眠に関する環境（目標１） 担当教員: 今井　訓子
第4回	利用者の状況による介助の留意点（目標１） 担当教員: 今井　訓子
第5回	安眠のための介護、安眠を促す介護の技法　罨法、マッサージ（演習）（目標１） 担当教員: 担当教員全員
第6回	緊急時のアセスメント（目標２） 担当教員: 今井　訓子
第7回	緊急事故時の状況観察と応急手当（演習）（目標２） 担当教員: 担当教員全員
第8回	終末期における介護の意義と目的（事前意思確認）（目標３） 担当教員: 今井　訓子
第9回	利用者のアセスメントと医療との連携（ ICFに基づく看取りのための制度）（目標３） 担当教員: 今井　訓子
第10回	終末期における介護、緩和ケア（目標３） 担当教員: 今井　訓子
第11回	臨終時の対応、在宅ターミナルケア、死後の処置（目標３） 担当教員: 今井　訓子
第12回	死後の処置（演習）（目標３） 担当教員: 担当教員全員
第13回	グリーフケア（目標３） 担当教員: 今井　訓子
第14回	事例検討　グループワーク（目標１．３） 担当教員: 今井　訓子
第15回	グループワーク発表　（目標１．２．３） 担当教員: 今井　訓子

予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第１回　安眠を促す条件をまとめておくこと。 ターミナルケアについて図書を読んでおくこと。 第2回～第15回　キーワードについて調べておくこと 第5回、第7回、第12回　演習内調を確認し、課題を見つけておくこと 第15回　グループで発表準備をすること
	復習	第1回～第15回　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 支持されたレポートを期日までに提出すること
	展開	睡眠・緊急時の対応・ターミナルケアに関する図書を調べ知識、理解を深める。 新聞などから高齢者や障がい者の現状を踏まえて学ぶ

成績評価	評価の基準	睡眠の意義や目的、安眠を促す方法を述べることができる。（目標１）緊急時の対応をモデル人形を用いて行うことができる。（目標2）在宅ターミナルケアや介護施設での見取りについて自分の考えを文章にできる。（目標３） テスト、レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト70%、レポート20%、授業態度10%

教科書	書籍名	最新介護福祉全書５　生活支援技術Ⅰ　基本編
	著者名	編集　川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2,900円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3153-8

推薦図書等

参考URL

備考

生活支援技術Ⅷ（障害別）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅷ（障害別）
科目責任者	今井　訓子
担当教員	清宮　宏臣 中西　正人 山田　美知代
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011901　火曜日，2限
教室	講義室1
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	運動機能障害、感覚機能障害、内部機能障害、高次脳機能障害、家族への支援	
学生の到達目標	１．生活支援に必要とされる障害の観察・評価ができる。 ２．各障害がある人のアセスメントができ、コミュニケーションの方法、注意点を述べることができる。 ３．障害別の日常生活の拡大を目指すための生活支援方法を理解する。	
授業内容	第1回	ガイダンス（目標１．２．３）障害児・者の生活支援の基本 担当教員: 今井　訓子
	第2回	片麻痺のある人の生活支援（例：脳血管障害の人）（目標１．２．３） 担当教員: 中西　正人

第3回	運動および知覚機能に障害がある人の生活支援（例：脊髄損傷の人）（目標１．２．３） 担当教員: 今井　訓子
第4回	関節痛や関節可動域制限のある人の生活支援（例：慢性関節リウマチの人）（目標１．２．３） 担当教員: 今井　訓子
第5回	振戦や姿勢反射障害のある人の生活支援（例：パーキンソン病の人（目標１．２．３）） 担当教員: 中西　正人
第6回	心臓機能障害のある人の生活支援（目標１．２．３） 担当教員: 今井　訓子
第7回	呼吸機能障害のある人の生活支援（目標１．２．３） 担当教員: 今井　訓子
第8回	排泄機能障害のある人の生活支援（目標１．２．３ 担当教員: 山田　美知代
第9回	腎臓機能障害のある人の生活支援（目標１．２．３） 担当教員: 山田　美知代
第10回	視覚・聴覚機能障害のある人の生活支援（目標１．２．３） 担当教員: 清宮　宏臣
第11回	失語症や構音障害のある人の生活支援（目標１．２．３） 担当教員: 清宮　宏臣
第12回	発達障害のある人の生活支援（目標１．２．３） 担当教員: 今井　訓子
第13回	精神障害のある人の生活支援（目標１．２．３） 担当教員: 今井　訓子
第14回	難病で在宅療養している人の生活支援（例： ALSまたは筋ジストロフィーの人）（目標１．２．３） 担当教員: 山田　美知代
第15回	高次脳機能障害を認める人の生活支援（目標１．２．３） 担当教員: 今井　訓子

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回　基本的な生活支援技術振り返り、確認しておく。 障害のある方の生活に関する図書をよむこと。 第2回～第15回　キーワードに関する障害について事前に調べておくこと。「こころとからだのしくみ」を見直し疾患について理解しておくこと。
	復習	第1回～第15回　授業の要旨をまとめること。 「こころとからだのしくみ」と合わせて確認すること。
	展開	それぞれの障害の特徴を理解し、生活支援方法に関する知識、技術を深める。家族へのかかわり方を考える。

成績評価	評価の基準	目標１・２・３　日常生活の支援において障害別の特徴を述べることができる。　事例に対して自分考えを文章にできる。テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト70%、課題レポート20%、授業態度10%

教科書

書籍名	最新介護福祉全書別巻４　障害別生活支援技術
著者名	編集　谷口敏代　中村裕子
出版社	メヂカルフレンド社

価格	3100円＋税
ISBN・ISSN	978-4-8392-3146-0

推薦図書等

参考URL

備考

家事生活支援技術Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS302
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	家事生活支援技術Ⅰ
科目責任者	廣橋　比刀美
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20002001　木曜日，2限
教室	被服工芸室
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	快適な生活　豊かな生活　自立した生活	
学生の到達目標	1．自立に向けた家事の援助・介助に関する知識と技術を身につける。 2．自分自身の生活のなかで自立して家事全般ができること。 3．快適で豊かな生活を送るにはどうすればよいか考えることができる。	
授業内容	第1回	授業オリエンテーション，注意事項，自己紹介 家事の意義と目的・家事に関する利用者のアセスメント(目標3)
	第2回	被服・繊維について…繊維の講義，繊維の実験の準備(目標2)
	第3回	被服・繊維について…繊維の実験（燃焼性・吸水性）(目標2)
	第4回	被服・繊維について…繊維の実験・しみ抜きの準備(目標2)
	第5回	しみ抜きの実習(目標2)
	第6回	洗濯の実習（セーターの洗濯）(目標2)
	第7回	しみ抜き・洗濯のまとめ(目標1)

第8回	被服実習…基本の縫い方・繕いについて(目標2)
第9回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタン付けの練習など）(目標2)
第10回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタン付けの練習など）(目標2)
第11回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタン付けの練習など）(目標2)
第12回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタン付けの練習など）(目標2)
第13回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタン付けの練習など）(目標2)
第14回	快適な室内環境(目標1,3)
第15回	まとめ…家事援助に求められる事(目標3)

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回　家事とは何かを考えて授業に臨む。 第２回～第７回（共通）　自分の着ている衣服について材料,管理などについて考える。 第８回～第１３回（共通）　生活の中で縫い物を少しでも実践してみる。昔習った裁縫を思い出してみる。 第１４回　自分の生活環境（温度・湿度・換気）など適切かどうか考えてみる。 第１５回　今まで学んできたことが実践できたかどうか振り返ってみる。家事援助とは何かを考える。
	復習	第１回～第１５回（共通）　授業で学んだ被服繊維・裁縫の内容を確認してみる。快適な生活とは何かを再度考えて実践してみる。
	展開	日々の家事を行う事で授業内容を確実なものとし，自分の生活，家事援助へつなげていく。

成績評価	評価の基準	１.家で事業で学んだ知識が実践できているか ２.自立して家事全般ができているか ３.介護が必要な人達の生活を考えることができるようになったかどうか。
	評価の方法	試験60%，レポート他40%

教科書	書籍名	最新介護福祉全書５　生活支援技術Ⅰ
	著者名	川井 太加子／編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3145-3

推薦図書等	書籍名	介護福祉のための家政学
	著者名	中川 英子／編集　石川 周子／〔ほか〕共著
	出版社	建帛社
	価格	2,300円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3575-1

書籍名	介護福祉のための家政学実習
著者名	中川 英子／編集　大塚 順子／〔ほか〕共著
出版社	建帛社
価格	2,300円＋税
ISBN・ISSN	978-4-7679-3605-5

参考URL

備考

家事生活支援技術Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSS401
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	家事生活支援技術Ⅱ
科目責任者	三幣　周子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20002101　水曜日，4・5限
教室	講義室5，調理実習室
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	生活支援調理実習　高齢者の食事　障害者の生活支援	
学生の到達目標	1．高齢者,障害者の心身の健康の保持増進をはかるために食生活の重要性を認識させる。 2．食生活の中での栄養学,食品学,調理学等の知識を養い,実践的な技術を学び,支援が個々の生活に対応できる能力を養う。	
授業内容	第1回	講義①食生活の意義、健康と栄養、状態別栄養（目標１,２）
	第2回	講義②高齢者の心身の特性を知った上での形態別配慮と対応（生活習慣病予防）、献立と調理（目標１,２）
	第3回	講義③日常食から介護職への展開（目標１,２）
	第4回	調理実習①高齢者の食事・身体活動保持と疾病予防（目標１,２）
	第5回	講義④障害者の食事（障害の程度に応じた食事）（目標１,２）調理実習②③運動機能が低下している場合・自助具（各班の献立作成提出）（目標１,２）
	第6回	調理実習②③運動機能が低下している場合・自助具（各班の献立作成提出）（目標１,２）

	第7回	調理実習④生活習慣病の食事（簡単な食事）（目標１,２）
	第8回	調理実習⑤各班の献立実習（目標１,２）
	第9回	調理実習⑥⑦高齢者疾病予防の食事（ノートプリント提出）（目標１,２）
	第10回	調理実習⑥⑦高齢者疾病予防の食事（ノートプリント提出）（目標１,２）
	第11回	調理実習⑧⑨障害者の食事・障害の程度による食事（ノートプリント返却）（目標１,２）
	第12回	調理実習⑧⑨障害者の食事・障害の程度による食事（ノートプリント返却）（目標１,２）
	第13回	調理実習⑩⑪千葉県伝統料理（太巻き祭りずし）手軽なスイーツ（目標１,２）
	第14回	調理実習⑩⑪千葉県伝統料理（太巻き祭りずし）手軽なスイーツ（目標１,２）
	第15回	家事生活支援技術のまとめ（目標１,２）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１～１４回 次回の実習内容を知らせるのでそのことについて予習する。普段から自分の食事についても関心をもち、介護に関係するニュース、新聞、雑誌などの記事に目をむけて読み、内容を記録する。
	復習	第１～１４回 毎回授業内容をまとめて、きちんとノートに整理しておく。講義・実習についてプリント等を配布するので提出する。
	展開	生活技術全般の総合理解をもとに、その人の生活歴を含め知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	１．高齢者,障害者の心身の健康の保持増進をはかるために食生活の重要性を認識させることができ、指導を行うことができるか。 ２．食生活の中での栄養学,食品学,調理学等の知識を養い,実践的な技術を学び,支援が個々の生活に対応できる能力を養うことができているか。
	評価の方法	期末テスト80%，欠席レポート提出10%，授業態度10%
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	※実習衣（割烹着・三角巾）を着用。第１回の授業で説明します。 推薦図書はその他必要に応じてプリントを配布	

介護過程Ⅰ（総論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSP201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅰ（総論）
科目責任者	川村　博子
担当教員	清宮　宏臣 松井　奈美 根本　曜子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20012201　木曜日，4限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	介護過程　アセスメント　ICF　　ケアマネジメント　利用者ニーズ	
学生の到達目標	1.他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供が出来る能力を養う。 2.介護過程の意義、目的、内容、展開方法について学ぶ。	
授業内容	第1回	介護過程とは、意義と目的 (目標2) 担当教員: 川村　博子
	第2回	介護過程の必要性、視点（VTR、ICFの視点、新しい介護）（目標2) 担当教員: 清宮　宏臣
	第3回	介護課程の全体像（ケアマネジメントと介護過程、介護過程のプロセス説明）(目標1) 担当教員: 清宮　宏臣

	第4回	ケアマネジメント展開する際の諸サービスと関係法 (目標1) 担当教員: 川村　博子
	第5回	ケアマネジメント展開する際の諸サービスと関係法 (目標1) 担当教員: 清宮　宏臣
	第6回	アセスメントとは（ICFの視点を踏まえて）（目標1) 担当教員: 清宮　宏臣
	第7回	アセスメントとは（情報収集、記録、ジェノグラム、エコグラム）(目標1) 担当教員: 川村　博子
	第8回	計画の立案とは、目標の設定 (目標1) 担当教員: 川村　博子
	第9回	計画の立案の実践 (目標2) 担当教員: 根本　曜子
	第10回	実施とは、準備と留意点 (目標2) 担当教員: 根本　曜子
	第11回	評価とは (目標2) 担当教員: 根本　曜子
	第12回	事例に基づく介護課程の展開の実際 (目標2) 担当教員: 根本　曜子
	第13回	事例に基づく介護課程の展開の実際 (目標2) 担当教員: 松井　奈美
	第14回	介護課程の展開の実際（２年生の発表会出席）（目標2) 担当教員: 松井　奈美
	第15回	介護課程の展開の実際（２年生の発表会出席）/ まとめ (目標2) 担当教員: 松井　奈美
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第１回　介護過程とは何かをテキストを参考に考える。 第２～１５回　介護過程の意義と目的に関して事前に指示するテーマについて調べ当日発表できるようにすること。
	復習	第１回　介護過程とは何かを復習する。 第２～１５回　介護過程の意義と目的に関して指示されたレポート課題を期限までに提出する。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。
成績評価	評価の基準	1.介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供について理解出来たか。 2.介護過程の意義、目的、内容、展開方法について理解できたか。
	評価の方法	レポート80%、授業態度20%
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座９　介護過程」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会編集
	出版社	中央法規
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3421-3
推薦図書等		

参考URL

備考

介護過程Ⅱ（演習）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSP301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅱ（演習）
科目責任者	川村　博子
担当教員	清宮　宏臣 松井　奈美 根本　曜子
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	20012301　金曜日，3・4限
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	介護過程　アセスメント　計画　実施　評価	
学生の到達目標	様々な事例における介護過程の展開を行い、利用者に適した介護を考える。	
授業内容	第1回	グループワークを基本とする。４教員が各グループを６～８コマ担当し、諸事例によって介護過程の展開を行う。　オリエンテーション、実習事例のプロセスレコード作成 担当教員: 松井　奈美
	第2回	オリエンテーション、実習事例のプロセスレコード作成 担当教員: 松井　奈美
	第3回	ガイダンス、事例Ａの説明 担当教員: 根本　曜子
	第4回	ガイダンス、事例Ａの説明 担当教員: 根本　曜子

第5回　アセスメント
担当教員: 根本　曜子

第6回　アセスメント
担当教員: 根本　曜子

第7回　計画・実施・評価
担当教員: 根本　曜子

第8回　計画・実施・評価
担当教員: 根本　曜子

第9回　ガイダンス、事例Ｂの説明
担当教員: 根本　曜子

第10回　ガイダンス、事例Ｂの説明
担当教員: 根本　曜子

第11回　アセスメント
担当教員: 川村　博子

第12回　アセスメント
担当教員: 川村　博子

第13回　計画・実施・評価
担当教員: 川村　博子

第14回　計画・実施・評価
担当教員: 川村　博子

第15回　ガイダンス、事例Ｃの説明
担当教員: 川村　博子

第16回　ガイダンス、事例Ｃの説明
担当教員: 川村　博子

第17回　アセスメント
担当教員: 川村　博子

第18回　アセスメント
担当教員: 川村　博子

第19回　計画・実施・評価
担当教員: 清宮　宏臣

第20回　計画・実施・評価
担当教員: 清宮　宏臣

第21回　ガイダンス、事例Ｄの説明
担当教員: 清宮　宏臣

第22回　ガイダンス、事例Ｄの説明
担当教員: 清宮　宏臣

第23回　アセスメント
担当教員: 清宮　宏臣

第24回　アセスメント
担当教員: 清宮　宏臣

第25回　計画・実施・評価
担当教員: 清宮　宏臣

第26回　計画・実施・評価
担当教員: 清宮　宏臣

第27回　発表準備
担当教員: 清宮　宏臣

第28回　発表準備
担当教員: 清宮　宏臣

第29回　発表
担当教員: 松井　奈美

	第30回	発表 担当教員: 松井　奈美
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回　介護過程の展開の実際について介護過程Ｉの学びを振り返る。 第２～３０回　諸事例によって介護過程の展開について各回ごと事前に指示する展開内容を調べ当日発表できるようにする。
	復習	第１回　介護過程の展開の実際について再度教科書を参考に復習する。 第２～３０回　諸事例によって介護過程の展開について各回ごとの展開内容を復習する。
	展開	最新の図書等で理解を深める。
成績評価	評価の基準	様々な事例における介護過程の展開を行い、利用者に適した介護を考えことが出きるか。
	評価の方法	レポート80%、授業態度20%
教科書	書籍名	「介護過程」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5112-8
推薦図書等	書籍名	「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用
	著者名	大川弥生
	出版社	中央法規
	価格	1,800円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3206-6
参考URL		
備考		

介護過程Ⅲ（チームアプローチ）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSP401
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅲ（チームアプローチ）
科目責任者	川村　博子
担当教員	清宮　宏臣 松井　奈美 根本　曜子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20012401　火曜日，4限
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	チームアプローチ　他職種の役割や機能　介護福祉士との連携	
学生の到達目標	他職種の役割や機能を踏まえ、介護場面でのチームアプローチを学ぶ。	
授業内容	第1回	ガイダンス、グループ分け 担当教員: 川村　博子
	第2回	看護業務：役割と連携について 担当教員: 川村　博子
	第3回	ケアマネジャーの役割と連携について 担当教員: 清宮　宏臣
	第4回	ＯＴの業務・役割と連携について 担当教員: 川村　博子

第5回	ＰＴの業務・役割と連携について 担当教員: 根本　曜子
第6回	歯科医の業務・役割と連携について 担当教員: 松井　奈美
第7回	ＯＪＴ等について 担当教員: 根本　曜子
第8回	研究事例発表大会参加とまとめ 担当教員: 川村　博子・清宮　宏臣・松井　奈美・根本　曜子
第9回	研究事例発表大会参加とまとめ 担当教員: 川村　博子・清宮　宏臣・松井　奈美・根本　曜子
第10回	研究事例発表大会参加とまとめ 担当教員: 川村　博子・清宮　宏臣・松井　奈美・根本　曜子
第11回	研究事例発表大会参加とまとめ 担当教員: 清宮　宏臣
第12回	教科書以外のチームアプローチ 担当教員: 根本　曜子
第13回	チームアプローチの事例 担当教員: 松井　奈美
第14回	チームアプローチの事例 担当教員: 松井　奈美
第15回	チームアプローチの理解・まとめ 担当教員: 川村　博子

予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第１回　チームアプローチについて教科書を読み事前に考える。 第２～１５回　他職種の役割や機能について事前に各回ごとの職種について調べる。
	復習	第１回　チームアプローチについて復讐する。 第２～１５回　他職種の役割や機能について指示されたレポート課題を提出する。
	展開	最新の図書等で理解を深める。

成績評価	評価の基準	他職種の役割や機能を踏まえ、介護場面でのチームアプローチについての理解度により評価する。
	評価の方法	レポート80%、授業態度20%

教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座９　介護過程」
	著者名	介護服福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3421-3

推薦図書等

参考URL

備考

介護過程Ⅳ（事例研究）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSP402
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅳ（事例研究）
科目責任者	川村　博子
担当教員	井口　ひとみ 布施　千草 今井　訓子 清宮　宏臣 中西　正人 松井　奈美 山田　美知代
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20012501　火曜日，5限　木曜日，1限
教室	（火曜日）講義室1，2，3，7（木曜日）講義室1，6，7，ラーニング・コモンズ1
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	実習の振りかえり　介護過程の展開　事例報告書作成　発表	
学生の到達目標	実習での事例を振り返り、介護過程展開の意義や方法の理解を深める。	
授業内容	第1回	ガイダンス 担当教員: 川村　博子
	第2回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振りかえり 担当教員: 担当教員全員
	第3回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振りかえり 担当教員: 担当教員全員

	第4回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振りかえり 担当教員: 担当教員全員
	第5回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振りかえり 担当教員: 担当教員全員
	第6回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備 担当教員: 担当教員全員
	第7回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備 担当教員: 担当教員全員
	第8回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備 担当教員: 担当教員全員
	第9回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備 担当教員: 担当教員全員
	第10回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備 担当教員: 担当教員全員
	第11回	発表準備・印刷（全体） 担当教員: 担当教員全員
	第12回	発表準備・製本（全体） 担当教員: 担当教員全員
	第13回	発表（全体） 担当教員: 担当教員全員
	第14回	発表（全体） 担当教員: 担当教員全員
	第15回	発表会 担当教員: 松井　奈美
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第２回～第14回（共通）実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振りかえり
	復習	第２回～第14回（共通）実習で受け持った利用者の介護過程の展開を記録として起こす
	展開	介護過程の展開について図書等で理解を深める
成績評価	評価の基準	介護過程展開の意義や方法の理解度で総合的に判断する
	評価の方法	レポート80%、授業態度20%
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座９　介護過程」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	２２００円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3421-3
推薦図書等	書籍名	「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用
	著者名	大川弥生著

出版社	中央法規
価格	1,800円＋税
ISBN・ISSN	978-4-8058-3206-6

参考URL

備考

介護総合演習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSE101
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護総合演習Ⅰ
科目責任者	中西　正人
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20002601　月曜日, 4限
教室	講義室2
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護実習　児童福祉施設　認知症グループホーム　実習準備	
学生の到達目標	1.介護実習の意義と目的を理解することができる。 2.実習施設の種別毎の理解ができる。 3.介護実習に関する必要な知識について理解することができる。	
授業内容	第1回	求められる介護福祉士像について（目標1）
	第2回	介護実習の理解、介護実習Ⅰの目的・意義等について(目標1)
	第3回	認知症高齢者グループホーム実習に向けて①（法的根拠、位置づけ等について）（目標2・3）
	第4回	認知症高齢者グループホーム実習に向けて②（実習課題について）（目標2・3）

	第5回	実習準備①　（実習目標の作成）（目標3）
	第6回	実習準備②　（個人票の作成）（目標3）
	第7回	児童福祉施設実習に向けて①（法的根拠、位置づけ等について）（目標2・3）
	第8回	児童福祉施設実習に向けて②（配属先実習施設について）（目標2・3）
	第9回	児童福祉施設実習に向けて③（事前学習シートの作成）（目標2・3）
	第10回	記録について①（記録の意義・目的について）（目標3）
	第11回	記録について②（記録の書き方について）（目標3）
	第12回	介護実習Ⅰ　実習先別学内オリエンテーション（目標2・3）
	第13回	実習において予測される諸問題について（実習の心得）（目標3）
	第14回	実習準備③　（腸内細菌検査等実習に関する諸手続きについて）（目標3）
	第15回	介護実習Ⅰ　直前オリエンテーション（目標1・3）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回～第１５回（共通） ・施設で生活している障がいを持つ児童や高齢者について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ・授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。 ・事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	第１回～第１５回（共通） ・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	：施設や関係法令に関する図書を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.介護実習の意義と目的について理解することができている。 2.実習施設（種別）の概要について理解できている。 3.実習時の留意事項について理解することができている。
	評価の方法	・参加状況（授業時の態度、授業への取り組み意欲）10%、課題（レポート等）30%、期末試験60%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書8　介護総合演習
	著者名	編集　能田茂代
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3100円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-3195-8
推薦図書等	書籍名	よくわかる　介護記録の書き方
	著者名	富川雅美
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2100円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-1437-1

参考URL	
備考	・個人票作成時に使用する顔写真（授業時に説明あり）は各自で準備すること。 ・実習の手引きを毎回持参すること。

介護総合演習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSE201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護総合演習Ⅱ
科目責任者	中西　正人
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20002701　木曜日，5限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護実習　入所施設　通所施設　実習準備	
学生の到達目標	1.介護実習Ⅰを振り返り、自己課題を明確にすることができる。 2.介護実習Ⅱの意義と目的を理解することができる。 3.介護実習Ⅱに向けて必要な準備を整えることができる。	
授業内容	第1回	介護実習Ⅰにおける学び①（介護実習Ⅰにおける学びについて）（目標1）
	第2回	介護実習Ⅰにおける学び②（介護実習Ⅰ残された課題について）（目標1）
	第3回	介護実習Ⅰ　まとめ反省会①（児童福祉施設実習）（目標1）
	第4回	介護実習Ⅰ　まとめ反省会②（認知症高齢者グループホーム実習）（目標1）

	第5回	介護実習Ⅱの目的・意義等について（目標2・3） 実習準備①　（個人票の作成）（目標2・3）
	第6回	実習準備②　（実習目標の作成）（目標2・3）
	第7回	実習施設の理解①　特別養護老人ホーム（目標2・3）
	第8回	実習施設の理解②　介護老人保健施設等（目標2・3）
	第9回	実習施設の理解③　通所介護事業所（目標2・3）
	第10回	実習施設の理解④　通所リハビリテーション事業所等（目標2・3）
	第11回	入所施設実習において予測される諸問題について（目標3）
	第12回	記録について（目標3）
	第13回	実習準備③　（介護実習Ⅱに関する諸手続きについて）（目標3）
	第14回	介護実習Ⅱ　実習先別学内オリエンテーション（目標2・3）
	第15回	介護実習Ⅱ　直前オリエンテーション（目標2・3）
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第１回～第１５回（共通） ・施設や在宅で生活している障がいを持つ人や高齢者について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ・授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。 ・事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	第１回～第１５回（共通） ・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	：施設や関係法令に関する図書を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.介護実習Ⅰを振り返り、自己課題を明確にすることができている。 2.介護実習Ⅱの意義と目的について理解することができている。 3.介護実習Ⅱに向けて必要な準備を整えることができている。 4.実習施設（種別）の概要について理解することができている。
	評価の方法	・参加状況（授業時の態度、授業への取り組み意欲）10%、課題（レポート）30%、期末試験60%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書8　介護総合演習
	著者名	編集　能田茂代
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3100円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-3195-8
推薦図書等	書籍名	よくわかる　介護記録の書き方
	著者名	富川雅美
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2100円

ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-1437-1
参考URL	
備考	・テキストについては、前期開講科目介護総合演習Ｉで使用したものを引き続き使用する。 ・実習の手引きを毎回持参すること。

介護総合演習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSE301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護総合演習Ⅲ
科目責任者	中西　正人
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	20002801　（前期）火曜日，5限（後期）火曜日，3限
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護実習　入所施設　在宅サービス　実習準備　介護観	
学生の到達目標	1.介護実習Ⅱを振返り自己課題を見出した上で、介護実習Ⅲ・Ⅳの意義と目的を理解することができる。 2.介護実習Ⅲ・Ⅳに向けて必要な準備を整えることができる。 3.介護福祉士として必要となる知識・技術を確認することができる。	
授業内容	第1回	介護実習Ⅱにおける学び①（介護実習Ⅱにおける学びについて）（目標1）
	第2回	介護実習Ⅱにおける学び②（入所施設実習について）（目標1・2）
	第3回	介護実習Ⅱにおける学び③（通所施設実習について）（目標1・2）
	第4回	介護実習Ⅱにおける学び④（入所施設と通所施設の違いについて）（目標1・2）

第5回	介護実習Ⅱにおける学び⑤（介護実習Ⅱ残された課題について）（目標1・2）
第6回	介護実習Ⅱ　まとめ反省会（利用者の潜在能力について）（目標1）
第7回	介護実習Ⅲ・Ⅳの目的・意義について（目標2） 実習準備①　（個人票の作成）（目標2）
第8回	実習準備②　（実習目標の作成）（目標2）
第9回	実習施設の理解①　入所施設
第10回	実習施設の理解②　訪問介護事業所（目標2）
第11回	実習施設の理解③　訪問入浴介護事業所（目標2）
第12回	記録について（目標2）
第13回	実習課題について　（介護過程の展開等）（目標2）
第14回	介護実習Ⅲ・Ⅳ　実習先別学内オリエンテーション（目標2）
第15回	入所・居宅実習において予測される諸問題について（目標2）
第16回	実習準備③　（介護技術の確認）（目標2）
第17回	実習準備④　（介護実習Ⅲ・Ⅳに関する諸手続きについて）（目標2）
第18回	介護実習Ⅲ　直前オリエンテーション（目標2）
第19回	介護実習Ⅳ　直前オリエンテーション（目標2）
第20回	介護実習Ⅲ・Ⅳ　まとめ反省会　（介護観について）（目標3）
第21回	介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学び①（介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学びについて）（目標1）
第22回	介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学び②（入所施設実習について、２４時間の介護について）（目標3）
第23回	介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学び③（居宅介護実習について）（目標3）
第24回	介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学び④（入所サービスと居宅サービスの違いについて）（目標3）
第25回	介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学び⑤（施設設備・福祉用具について）（目標3）
第26回	介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学び⑥（入所施設におけるターミナルケアについて）（目標3）
第27回	介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学び⑦（入所施設におけるリスクマネジメントについて）（目標3）
第28回	介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学び⑧（入所施設におけるアクティビティケアについて）（目標3）
第29回	介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学び⑨（生活支援技術について）（目標3）
第30回	介護実習Ⅲ・Ⅳにおける学び⑩（研究の視点について）（目標3）

予習・復習の内容 **（毎回90分程度）**	予習	第１回～第１５回（共通） ・施設や在宅で生活している障がいを持つ人や高齢者について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ・授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。 ・事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。

	復習	第１回～第１５回（共通） ・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	：施設や関係法令に関する図書を調べ、知識・理解を深める。 ：介護実習の経験をもとにグループワークを実施し、自身の課題や介護観等について明確にする。
成績評価	評価の基準	1.介護実習Ⅱを振返り自己課題を見出した上で、介護実習Ⅲ・Ⅳの意義と目的を理解することができている。 2.介護実習Ⅲ・Ⅳに向けて必要な準備を整えることができている。 3.実習施設（種別）の概要について理解できている。
	評価の方法	・参加状況（授業時の態度、授業への取り組み意欲）20%、レポート80%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書8　介護総合演習
	著者名	編集　能田茂代
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2900円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-3148-4
推薦図書等	書籍名	よくわかる　介護記録の書き方
	著者名	富川雅美
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2100円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8392-1437-1
参考URL		
備考	・テキストについては、１年次開講科目介護総合演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキストを引き続き使用する。 ・実習の手引きを毎回持参すること。	

介護実習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CST101
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護実習Ⅰ
科目責任者	布施　千草
担当教員	井口　ひとみ 今井　訓子 川村　博子 清宮　宏臣 中西　正人 松井　奈美 山田　美知代
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	20002901
教室	
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護実習　初歩的援助　生活環境の理解	
学生の到達目標	1.利用者との人間的なふれあいを通じて，相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。 2.初歩的援助を通して生活の場における個々の生活リズムや環境を理解する。	
授業内容	前期終了時の８月～９月初旬に実施する。 実習期間は１週間（５日間）と１日の児童福祉施設での見学実習｛目標１・２｝	

	実習方法 ①実習施設の方針に基づきオリエンテーションを受ける。 ②実習施設の指導プログラムに従って実習する。 ③利用者とのコミュニケーションを積極的にとる。 ④障害の軽度の利用者や、言語的コミュニケーションの取りやすい利用者の日常生活援助を体験させていただく。 ⑤実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受ける。	
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	グループホーム・児童福祉施設について調べておくこと。介護総合演習での学びを生かし実習目標を作成しておくこと。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	グループホーム・児童福祉施設に関する最新の情報をしらべ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について，授業内容を踏まえ適確に説明できること又は，実践できることを基準とする。
	評価の方法	実習記録、及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者（５０％）と教員（５０％）の評価に基づき決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護実習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CST201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護実習Ⅱ
科目責任者	布施　千草
担当教員	井口　ひとみ 今井　訓子 川村　博子 清宮　宏臣 中西　正人 松井　奈美 山田　美知代
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	20003001
教室	
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	要介護者　潜在能力　介護職員の役割　介護技術	
学生の到達目標	介護を必要とする人の潜在能力を引き出し，活用，発揮させることの意味を理解する。高齢者のニーズと介護職員の一般的な役割を理解する。基本的な介護技術を習得する。	
授業内容	後期２月に実施する。 実習期間は２週間（9日間で中2日間はデイサービス）	

	実習方法 ①実習施設の方針に基づきオリエンテーションを受ける。 ②実習施設の指導プログラムに従って実習する。 ③利用者・家族とのコミュニケーションを積極的にとる。 ④障害の軽度の利用者や、言語的コミュニケーションの取りやすい利用者の日常生活援助を体験させてもらい，基本的介護技術を習得する。 ⑤実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受ける。
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習　入所施設とデイサービス，デイケアについて調べておくこと。 介護総合演習での学びを生かし，実習目標を作成しておくこと。 復習　指示されたレポート課題を期限までに提出すること。 展開　入所施設とデイケアサービス，デイケアに関する最新の情報を調べ，知識理解を深める。 利用者の潜在能力をいかに高めるか，エンパワメントについての理解を深める。
成績評価	評価の基準　設定された達成目標の各々について，授業内容を踏まえ適確に説明できること又は，実践できることを基準とする。 評価の方法　実習記録，及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者（５０％）と教員（５０％）の評価に基づき決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

介護実習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CST301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護実習Ⅲ
科目責任者	布施　千草
担当教員	井口　ひとみ 今井　訓子 川村　博子 清宮　宏臣 中西　正人 松井　奈美 山田　美知代
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	20003101
教室	
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	3
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護技術の習得　介護サービス　他職種協働	
学生の到達目標	1.障害のレベルに応じた適切な介護技術を身につける。 2.種々な介護サービスの状況に応じた提供方法を理解する。 3.利用者を中心とした他職種協働について理解する。	
授業内容	２年前期　９月に実施する。 実習期間は，１３日間｛目標１・２・３｝	

	実習方法 ①実習施設の方針に基づきオリエンテーションを受ける。 ②実習施設の指導プログラムに従って実習する。 ③利用者の障害の程度に合わせた援助方法を実践する。 ④利用者との関わりを通じて，介護過程の必要性を考える。受け持ち利用者を決定し，情報収集をおこなう。 ⑤利用者を取り巻く様々な職種の働きと連携，支援の方法を考える。 ⑥実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受ける。	
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	介護技術の総点検を行い，自分の課題を明確にしておくこと。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	障害のレベルに応じた介護技術について，他職種協働について文献学習により，知識理解を深める。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について，授業内容を踏まえ適確に説明できること又は，実践できることを基準とする。
	評価の方法	実習指導者（５０％）・教員（５０％）の評価によって決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護実習Ⅳ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CST401
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護実習Ⅳ
科目責任者	布施　千草
担当教員	井口　ひとみ 今井　訓子 川村　博子 清宮　宏臣 中西　正人 松井　奈美 山田　美知代
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	20003201
教室	
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	施設運営プログラム　介護過程　夜勤　介護観	
学生の到達目標	施設運営のプログラムに参加し，処遇全般について理解すると同時に個別介護計画を作成し，実施・評価・修正といった介護過程を展開し，的確な記録・記述方法を身につける。自己の介護観を確立する。	

授業内容	2年後期に実施する。 実習期間は４週間（20日間） 実習方法 ①介護実習Ⅲと同一場所にてオリエンテーションはない。 ②実習施設の指導プログラムに従って実習する。 ③介護実習Ⅲで得た情報を元に利用者の介護計画を立て，実践評価する。 ④自己の介護観についてまとめる。 ⑤実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受ける。 ⑥２日間の居宅実習を介護実習ⅢかⅣの期間に実施する。	
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	介護過程についての事前学習を振り返り，Ⅲ段階での情報整理，分析，課題の抽出を行う。
	復習	指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	「介護観」として「介護論」理解のため，文献学習を行い，知識の定着をはかる。
成績評価	評価の基準	設定された達成目標の各々について，授業内容を踏まえ適確に説明できること又は，実践できることを基準とする。
	評価の方法	実習指導者（５０％）・教員（５０％）の評価によって決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

発達と老化の理解Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBG101
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	発達と老化の理解Ⅰ
科目責任者	丹羽　真里
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20003301　土曜日，1・2限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	高齢者 心理学 認知症 精神疾患 ケースワーク	
学生の到達目標	1.高齢者の心理学的特徴を理解する。 2.高齢者支援の環境や課題を理解する。 3.高齢者支援に関わる支援者のあり方を理解する。	
授業内容	第1回	講義及びレポート等のガイダンス，高齢社会と高齢者の心理学(目標１)
	第2回	高齢社会と高齢者の心理学　高齢者の健康、長寿とライフスタイル(目標１,２)
	第3回	老化と認知症について　ビデオを観て学ぶ(目標１,２,３)
	第4回	高齢期の認知症と精神疾患(１)(目標１,３)
	第5回	高齢期の認知症と精神疾患(２)(目標１,３)
	第6回	身体・生理・心理機能の加齢変化(目標１)
	第7回	高齢者支援に関わる支援者(１)ビデオを観て学ぶ(目標３)

	第8回	高齢者支援に関わる支援者(２)ビデオを観て学ぶ(目標３)
	第9回	高齢者の知能，創造性，知恵の発達(目標１)
	第10回	高齢期の人格，自己概念の特徴(目標１)
	第11回	適応理論とサクセスフルエイジング(目標１)
	第12回	高齢期の家族、対人関係と社会生活(目標１)
	第13回	高齢者の支援(１)(目標１,２,３)
	第14回	高齢者の支援(２)(目標１,２,３)
	第15回	発達と老化の理解のまとめ
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～１５回（共通）高齢者に関わる事象に日常から関心を持ち，関連する資料や報道について理解する。
	復習	第１回～１５回（共通）毎回の授業の要旨をまとめる。
	展開	授業で扱った事柄のうち，興味や関心を持った領域についてさらに調べ，理解を深める。
成績評価	評価の基準	１．子どもからの成長に伴う変化と，高齢者特有の特徴を理解する。 ２．高齢者の心理・社会的状態を理解する。 ３．高齢者支援の基本的な知識の有無を成績評価の基準とする。
	評価の方法	平常点50%，レポート50%で評価する。　ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	新介護福祉士養成講座11　発達と老化の理解
	著者名	(編集)介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5114-2
推薦図書等		
参考URL		
備考		

発達と老化の理解Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBG201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	発達と老化の理解Ⅱ
科目責任者	布施　千草
担当教員	今井　訓子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20003401　木曜日，2限 20003402　土曜日，1限
教室	講義室4 講義室2
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	発達段階　発達課題　生活不活発病　予防　特定疾病	
学生の到達目標	1.発達の観点から老化を理解する。 2.老化に伴う心理や身体機能の変化を理解する。 3.老化に伴う疾病やその予防方法について学ぶ。	
授業内容	第1回　ガイダンス、加齢（老化）とは｛目標1｝ 第2回　“老い”に対する捉え方・価値｛目標1｝	

	第3回	老化に伴う身体の変化と生活への影響（感覚器系、脳神経系）｛目標2｝
	第4回	老化に伴う身体の変化と生活への影響（消化器系、循環器系）｛目標2｝
	第5回	老化に伴う身体の変化と生活への影響（泌尿器系、内分泌系ほか）｛目標2｝
	第6回	高齢者と健康　高齢者の病気の特徴｛目標3｝
	第7回	生活不活発病とその予防（局所性）｛目標3｝
	第8回	生活不活発病とその予防（全身性）｛目標3｝
	第9回	生活不活発病とその予防（全身性）｛目標3｝
	第10回	生活不活発病とその予防（精神・神経性）｛目標3｝
	第11回	高齢者がかかりやすい病気とその予防、生活上の留意点｛目標3｝
	第12回	高齢者がかかりやすい病気とその予防、生活上の留意点｛目標3｝
	第13回	高齢者がかかりやすい病気とその予防、生活上の留意点｛目標3｝
	第14回	介護保険における特定疾病｛目標2・3｝
	第15回	学生による発表と討論｛目標1・2・3｝
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　発達と老化について，教科書を読み、授業に臨むこと。 第２回～第14回　次回のテーマと主な内容についての予告に従い、準備した上で授業に臨むこと。
	復習	第1回～第15回　授業の要旨をまとめておくこと。配布資料は確認し、保管しておくこと。
	展開	発達と老化に関する最新の図書を調べ知識・理解を深めること。
成績評価	評価の基準	１.発達の観点から老化ついて述べることができる。 ２.老化に伴う心理や身体機能の変化について具体的に述べることができる。 ３.老化に伴う疾病やその予防方法について述べることができる。
	評価の方法	試験70%，レポート30%，
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座11　発達と老化の理解
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5114-2
推薦図書等		
参考URL		
備考		

認知症の理解Ⅰ（認知症総論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBD101
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	認知症の理解Ⅰ（認知症総論）
科目責任者	布施　千草
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20013501　木曜日，2限 20013502　土曜日，5限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	認知症ケアの歴史、　医学的理解、　検査と治療　進行変化	
学生の到達目標	1．認知症ケアの歴史を理解する 2．医学的視点に基づく認知症の症状、検査診断を理解する 3．認知症の進行とコミュニケーション障害について理解する	
授業内容	第1回	認知症を取り巻く状況と認知症ケアの歴史的変遷（認知症の疫学、施策も含む）｛目標1｝
	第2回	医学的側面から見た認知症についての基礎的理解（原因となる疾患と特徴）｛目標2｝
	第3回	認知症の検査や治療法の理解｛目標2｝
	第4回	中核症状とBPSDの特徴の理解　その Ⅰ　記憶障害・見当識障害・失語・失行・失認・その他｛目標2｝

	第5回	中核症状とBPSDの特徴の理解　その Ⅱ　徘徊・妄想・食行動異常・その他｛目標2｝
	第6回	認知症進行に伴う症状変化の理解（ステージアプローチの必要性）｛目標3｝
	第7回	コミュニケーション障害としての認知症｛目標3｝
	第8回	学生による発表と討論｛目標1・2・3｝
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～8回（共通）認知症に関連する報道に関心を持つこと。テキストを事前に読むこと。
	復習	第1回～8回（共通）指示されたレポート課題を期限までに提出すること。毎回の授業要旨をまとめておくこと。 資料は確認後保管すること
	展開	認知症に関する最新の図書や研究成果を調べ，知識理解を深めること。
成績評価	評価の基準	1．認知症ケアの歴史について説明できる。 2．医学的視点に基づく認知症の症状、検査診断為について述べることができる。 3．認知症の進行とコミュニケーション障害について説明できる。
	評価の方法	レポート提出30%、期末テスト70%
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座 12　認知症の理解
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会 編集
	出版社	中央法規
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3770-2
推薦図書等		
参考URL		
備考		

認知症の理解Ⅱ（認知症対象論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBD201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	認知症の理解Ⅱ（認知症対象論）
科目責任者	布施　千草
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20013601　月曜日，3限
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	認知症の症状、認知症の人の心理、家族介護者、若年性認知症	
学生の到達目標	1．認知症のある人の体験や意思表示の困難特性を理解する。 2．認知症のある人と家族への支援について理解する。 3．若年性認知症の方の課題と支援について理解する。	

授業内容

第1回	認知症の理解Ⅰの復習　〔原因疾患・中核症状〕〔目標1〕
第2回	認知症の理解Ⅰの復習　（BPSD・検査と治療）〔目標1〕
第3回	BPSDの出現原因，介護者との関係〔目標1〕
第4回	BPSDへの対応と関わり方の基本〔目標１・２〕
第5回	認知症のある人の介護する家族への支援〔目標2〕

	第6回	若年性認知症のある人と家族への支援　その Ⅰ｛目標3｝
	第7回	若年性認知症のある人と家族への支援　その Ⅱ｛目標3｝
	第8回	学生の発表と討論｛目標1・2・3｝

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　認知症を持つ人の体験，その方を介護した方の　　経験談に関心を持ち授業に臨むこと。 第2回～第8回　教科書を事前に読み、授業に臨むこと。
	復習	第1回～8回（共通） 　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	認知症に関する最新の図書や研究成果，国の政策などを調べ知識・理解をこと。

成績評価	評価の基準	1．認知症のある人の体験や意思表示の困難特性を説明できる。 2．認知症のある人と家族への支援について説明できる。 3．若年性認知症の方の課題と支援について述べることができる。
	評価の方法	レポート30%、テストの総合評価70%

教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座12　認知症の理解
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会 編集
	出版社	中央法規
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3770-2

推薦図書等

参考URL

備考

認知症の理解Ⅲ（認知症援助論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBD301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	認知症の理解Ⅲ（認知症援助論）
科目責任者	布施　千草
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20013701　火曜日，3限
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	認知症ケアの実際、　心理療法、認知症予防、認知症政策	
学生の到達目標	1．認知症ケアの関する基礎的知識を習得する 2．認知症ケアの今後の展望について理解する 3．認知症の心理療法・予防について理解する	

授業内容

第1回	認知症ケアの理念について｛目標1｝
第2回	パーソンセンタードケアについて　そのⅠ｛目標1｝
第3回	パーソンセンタードケアについて　そのⅡ｛目標1｝
第4回	ユニマチュード そのⅠ｛目標1｝
第5回	ユニマチュード そのⅡ｛目標1｝
第6回	認知症のある人のケアマネジメント　竹内式　そのⅠ｛目標１｝
第7回	認知症のある人のケアマネジメント　そのⅡ｛目標1｝
第8回	認知症の心理療法｛目標3｝

	第9回	認知症のある人のケアマネジメントセンター方式　そのⅠ｛目標1｝
	第10回	認知症介護ひもときシートについて｛目標1｝
	第11回	認知症の予防｛目標3｝
	第12回	認知症のある人の地域包括ケア（連携と協働） －尾道市の取り組みの紹介　そのⅠ｛目標2｝
	第13回	認知症のある人の地域包括ケア（連携と協働） －尾道市の取り組みの紹介　そのⅡ｛目標2｝
	第14回	認知症ケアの今後の課題｛目標2｝
	第15回	学生の発表と討論｛目標1・2・3｝

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～14回｛共通｝　認知症に関連する報道に関心をもち，学習すること。テキスト（特に認知症のケアの部分）を事前に読い授業に臨むこと。
	復習	第1回～第15回｛共通｝毎回の授業の要旨をまとめておくこと。レポート課題を期限までに提出すること。
	展開	認知症に関する最新の図書や研究成果，図書や研究成果，国の政策などを調べ，知識・理解を深めこと。

成績評価	評価の基準	1．認知症ケアの関する基礎的知識が習得できている。 2．認知症ケアの今後の展望について説明できる。 3．認知症の心理療法・予防について説明できる。
	評価の方法	レポート30%、テストの総合評価70%

教科書	書籍名	認知症の理解　第2版
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会 編集
	出版社	中央法規
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3770-2

推薦図書等

参考URL

備考

障害の理解Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBH201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害の理解Ⅰ
科目責任者	川村　博子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20003801　金曜日，2限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	ノーマライゼーション　リハビリテーション　障害の受容　障害者福祉	
学生の到達目標	1.障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。 2.障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。	

授業内容

第1回	障害のある人の生活 (目標1)
第2回	障害の概念（ICFについて） (目標1)
第3回	我が国における障害者の定義 (目標1)
第4回	障害者福祉の基本理念 (目標1)
第5回	障害者福祉の基本理念 (目標1)
第6回	聴覚障害のある人の理解 (目標2)
第7回	発達障害のある人の理解 (目標2)
第8回	発達障害のある人の理解 (目標2)

	第9回	高次機能障害のある人の理解 (目標2)
	第10回	高次機能障害のある人の理解 (目標2)
	第11回	知的障害のある人の理解 (目標2)
	第12回	精神障害のある人の理解 (目標2)
	第13回	聴覚障害のある人の理解（コミュニケーション機器発表）（目標2)
	第14回	聴覚障害のある人の理解（コミュニケーション機器発表）（目標2)
	第15回	家族への支援・地域におけるサポート (目標2)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　障害のある人の生活について調べる。 第２～１５回　ノーマライゼーション、リハビリテーション、障害の受容、障害者福祉等、各回のテーマについて事前に調べる。
	復習	第１回　障害のある人の生活について、第２～１５回　ノーマライゼーション、リハビリテーション、障害の受容、障害者福祉等、各回のテーマについて，指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等を読み理解を深めること。
成績評価	評価の基準	1.障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識の習度。 2.障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点の習得度により評価する。
	評価の方法	試験80%、レポート、受講態度20%
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座13　障害の理解」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会編集
	出版社	中央法規
	価格	2,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3771-9
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害の理解Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBH301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害の理解Ⅱ
科目責任者	松井　奈美
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20003901　木曜日，1限
教室	講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	障害特性の理解　障害者の生活理解　人権と尊厳	
学生の到達目標	1.障害者福祉の基本理念を理解する（ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン等）。 2.障害のある人の生活支援における留意点を理解する。 3.障害のある人及びその家族に対する具体的な支援のあり方を理解する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（授業の進め方の説明）「障害」とは何かを再考する〈1年次の復習〉（目標１）
	第2回	視覚障害の理解を深めるとともに視覚障害者の生活支援について学ぶ（目標２,３）
	第3回	聴覚・言語障害の理解を深めるとともに聴覚・言語障害者の生活支援について学ぶ（目標２,３）
	第4回	障害当事者の講話を通して、聴覚・言語障害のある人の生活を理解するとともに生活支援の留意点を学ぶ（目標２,３）

	第5回	肢体不自由（運動機能障害）の理解を深めるとともに肢体不自由者の生活支援について学ぶ（目標２,３）
	第6回	障害当事者の講話を通して、肢体不自由者の生活実態を確認するとともに生活支援の留意点を学ぶ（目標２,３）
	第7回	内部障害の理解を深めるとともに内部障害者の生活支援について学ぶ（目標２,３）
	第8回	障害当事者の講話を通じて、内部障害者の理解を深めるとともに生活支援の留意点を学ぶ（目標２,３）
	第9回	難病に関する知識を深めるとともに、難病のある人の生活支援について学ぶ（目標２,３）
	第10回	高次脳機能障害の理解を深めるとともに、高次脳機能障害者の生活支援について学ぶ（目標２,３）
	第11回	知的、精神障害のある人の生活について理解を深めるとともに生活支援における基本的な視点を学ぶ（目標２,３）
	第12回	重症心身障害の理解を深めるとともに重症心身障害者の生活支援の留意点について学ぶ（目標２,３）
	第13回	障害者の介護における留意点を踏まえ、社会資源を利用すること及び開発の必要性について学ぶ（目標１,２,３）
	第14回	チームアプローチの必要性・重要性を理解したうえで障害者支援における連携及び協働の課題を確認する（目標１,２,３）
	第15回	家族への支援について学ぶ 全体のまとめ（目標１,２,３）
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回　1年次の「障害の理解」で学んだことを確認しておくこと。 第2回～第15回(共通)各回の授業内容に該当するテキスト範囲を確認し、事前に目を通しておくこと。
	復習	第1回～第15回(共通)前回の授業で配布されたレジュメ及び自筆ノートに目を通す等の方法で学習した内容を確認すること。
	展開	・授業で学んだ重要なキーワードを他者に説明できるようになる。 ・障害当事者が書いた書籍を読み個別理解を深める。 ・当事者講話から障害当事者の個別ニーズが理解できる。
成績評価	評価の基準	1.障害者福祉の基本理念が理解できている（ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン等）。 2.障害のある人の生活支援における留意点が理解できている。 3.障害のある人及びその家族に対する具体的な支援のあり方が理解できている。
	評価の方法	定期テスト（80%）、レポート（20%）を評価基準の割合とし、総合的な評価を行う。
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座13『障害の理解』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規出版
	価格	2200円（税別）
	ISBN・ISSN	978－4－8058－5115 －9

推薦図書等	書籍名	最新　介護福祉全書11『障害の理解』
	著者名	谷口　敏代（編）
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3100円（税別）
	ISBN・ISSN	978－4－8392－3198－9

参考URL

備考

・学習効果は予習・復習を行うことで高められる。したがって、これを理解した上で自分らしい学習手法を見つけ積極的に学んでほしい。
・毎回の授業では、達成課題や学習効果を意識して授業に臨んでほしい。
・外部講師の授業日は遅刻することなく真摯に傾聴してほしい。

こころとからだのしくみⅠ（人体の構造と機能）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBM101
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	こころとからだのしくみⅠ（人体の構造と機能）
科目責任者	大野　孝則
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20014001　金曜日，1限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	人体解剖　生理（一部生化学）　生命維持	
学生の到達目標	1．介護に必要な人体の構造や機能についての基本を学ぶ。 2．一般教養としての自然科学としても通用する内容を目標とする。	

授業内容

第1回	細胞，生体膜，核，DNA，ATP (目標1,2)
第2回	組織（上皮，支持，筋，神経）(目標1,2)
第3回	組織（血液），ホメオスターシス (目標1,2)
第4回	皮膚・骨格系の解剖と生理 (目標1,2)
第5回	筋系の解剖と生理 (目標1,2)
第6回	呼吸器系の解剖と生理 (目標1,2)
第7回	循環器系の解剖と生理 (目標1,2)
第8回	消化器系の解剖と生理 (目標1,2)
第9回	腎・泌尿器系の解剖と生理 (目標1,2)

	第10回	血液造血器系，内分泌系，生殖系の解剖と生理 (目標1,2)
	第11回	脳・神経系の解剖と生理 (目標1,2)
	第12回	脳・神経系の解剖と生理 (目標1,2)
	第13回	脳・神経系の解剖と生理 (目標1,2)
	第14回	感覚器系の解剖と生理 (目標1,2)
	第15回	感覚器系の解剖と生理 (目標1,2)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～１５回（共通）講義の最後に，次回講義の予告をする。予告したものを予習する。
	復習	第１回～１５回（共通）講義の最後にまとめたものを復習する。
	展開	講義した基本内容を理解する。
成績評価	評価の基準	学生の到達目標１．２と人体の構造と機能を理解し介護に応用する事ができたか。
	評価の方法	試験(100%)
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	目でみるからだのメカニズム[第2版]
	著者名	堺　章
	出版社	医学書院
	価格	税込3,240円
	ISBN・ISSN	978-4-260-02776-2
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみⅡ（疾患の症状と介護）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBM201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	こころとからだのしくみⅡ（疾患の症状と介護）
科目責任者	大野　孝則
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20014101　金曜日，1限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	障害の種類・程度　障害と介護　疾病と介護	
学生の到達目標	介護に必要な被介護者の身体的・精神的障害の状態（疾病など）の把握に必要なことを学ぶ。	

授業内容

第1回	貧血，出血
第2回	呼吸困難，チアノーゼ，ショック
第3回	排尿，排便，黄疸
第4回	脱水，浮腫
第5回	体温，発熱
第6回	歩行障害
第7回	意識，睡眠
第8回	栄養，代謝
第9回	障害・疾病総論，炎症

	第10回	感染症，免疫
	第11回	腫瘍
	第12回	血管障害，虚血性心疾患，脳血管障害
	第13回	高血圧，動脈硬化，糖尿病
	第14回	高齢者に多い障害・疾患
	第15回	遺伝，先天性異常
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～１５回（共通）講義の最後に，次回講義の予告をする。予告したものを予習する。
	復習	第１回～１５回（共通）講義の最後にまとめたものを復習する。
	展開	講義した基本内容を理解する。
成績評価	評価の基準	到達目標への達成度をみる
	評価の方法	試験（100%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみⅢ（人間の欲求の理解）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBM202
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	こころとからだのしくみⅢ（人間の欲求の理解）
科目責任者	山本　美佐江
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20014201　水曜日，2限
教室	講義室1
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	心の疾患の把握と理解　自己理解　他者理解　実践につながる学び	
学生の到達目標	1.精神医学の基本用語や概念を把握し理解する。 2.上記をもとに、心の健康について考える。 3.上記をふまえ，人間の欲求について理解を深め，福祉支援活動に活かせるよう学習する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション，授業の進め方 1）授業内容の確認と修正 2）予習復習の項目の修正，変更 成績評価の基準項目の確認と修正（目標1）
	第2回	人間の基本的欲求と尊厳（目標1,3） 1）人間の欲求
	第3回	人間の基本的欲求と尊厳（目標1,3） 2）自己概念と尊厳

	第4回	こころとからだのしくみ（目標1,2） １）こころのしくみを知る
	第5回	こころとからだのしくみ（目標1,2） ２）心の動きとしくみ
	第6回	こころとからだのしくみ（目標1,2） ３）ストレスとこころとからだ
	第7回	睡眠のしくみ（目標1,2）
	第8回	精神疾患（目標1） １）気分障害
	第9回	精神疾患（目標1） ２）統合失調症
	第10回	神経症とストレス関連障害（目標1）
	第11回	総合病院における症状精神障害とリエゾン診療，看護（目標1）
	第12回	認知症（目標1,2）
	第13回	児童青年期の精神障害（目標1）
	第14回	精神保健福祉制度の概要（目標2）
	第15回	全体質疑応答，発表（目標1,2,3）
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第２回～３回人間の欲求について，基礎と共に，こころの変容について理解し，自己を見つめる。 第4回～6回　こころとからだのしくみ基礎を具体的に学ぶ。テキストその他，参考文献学習。 第8回から13回　こころの疾患と各治療，そしてその対応を理解する。特に認知症については，事例などを文献学習する。 第14回　精神保健福祉制度の実際を事前学習する。
	復習	第2回から6回　人間の基本的欲求の原理，専門用語を理解把握する。 第8回から13回は，精神疾患についての症状の理解とより良い対応を確認できる。 第14回・15回法的基本を授業の振り返りと，参考文献にて理解する。
	展開	授業で得られた，こころとからだのしくみ，についての知識を一層深め，自己を見つめ、他者を理解できる人間性を構築できることが今後の学習や職業人として必要であることを発展的に考えられる。
成績評価	評価の基準	１．精神医学の基本用語や概念を把握し理解する。基本的な用語や概念について，質問や意見を言える。3回目の授業の後、レポートを提出。 ２．１を基に心の健康について考える。こころの健康と疾患について，意見が言える。９回目の授業後レポートを提出。 ３．上記をふまえ，人間の欲求について理解を深め，福祉支援活動に活かせるよう学習する。最後の授業では、グループ討議を行い積極性と理解力を確認する。
	評価の方法	１）第７回目に，「人間の基本的欲求について」のレポートの提出（20%） ２）第13回目に，精神疾患についてレポートの提出（20%） ３）グループ討議：第3回　第13回　それぞれのテーマで発言できる。 ４）最終のまとめと意見提出 ５）期末テスト（60%）

教科書	書籍名	専門医がやさしく語るはじめての精神医学[改訂第2版]
	著者名	渡辺　雅幸 著
	出版社	中山書店
	価格	税込3,132円
	ISBN・ISSN	978-4-521-74257-1

推薦図書等	書籍名	ケアマネ・福祉職のための精神疾患ガイド
	著者名	山根　俊恵 編著
	出版社	中央法規出版
	価格	税込2,592円
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5442-6

参考URL

備考

こころとからだのしくみⅣ（日常生活に即したしくみ）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MBM102
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	こころとからだのしくみⅣ（日常生活に即したしくみ）
科目責任者	今井　訓子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20014301　木曜日，4限
教室	講義室1
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護行為の根拠　解剖整理　こころのしくみ	
学生の到達目標	1．日常生活に関連した身体各部の解剖や生理を理解する。 2．人の基本的欲求・社会的欲求が行動に及ぼす影響を理解する。 3．生活支援に必要な機能低下と心理面への配慮について理解する。	
授業内容	第1回	人体部位の名称、生命の維持のしくみ１（目標１） 体の成り立ちについて
	第2回	人体部位の名称、生命の維持のしくみ２（目標１） バイタルサインについて・外界に適応するしくみ
	第3回	身じたくに関連した解剖整理　機能低下が身じたくに及ぼす影響（目標１,３）
	第4回	身じたくに関連したこころのしくみ（目標２）
	第5回	移動に関連した解剖整理（目標１）

	第6回	移動に関連したこころのしくみ・ボディメカニクス（目標１,２）
	第7回	食事に関連した解剖整理　機能低下が食事に及ぼす影響（目標１,３）
	第8回	栄養摂取の意義・安全な食事のための留意点（目標２,３）
	第9回	入浴、清潔保持に関連した解剖整理　皮膚のしくみ・頭髪のしくみ・機能低下が入浴に及ぼす影響（目標１,３）
	第10回	入浴、清潔保持の実際（目標３）
	第11回	排泄に関連した解剖整理　機能低下が排泄に及ぼす影響（目標１,３）
	第12回	排泄に関連したこころのしくみ（目標２）
	第13回	睡眠の構造と睡眠障害　睡眠に関連したこころのしくみ（目標１,３）
	第14回	終末期の心身の状況・死後の変化　死に対するこころの理解（目標１,３）
	第15回	演習後レポートからの気付き、重要項目の再確認（目標１,2,３）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　日常生活生活における身体機能の働きを理解しておくこと。 第2回～第15回　次回のテーマの内容について調べておくこと
	復習	第１回～第15回　毎回の授業の要旨をまとめ、心身機能つながりを理解すること。 期日までに手ポート課題を提出すること
	展開	生活支援技術とかかわりを意識して進める。
成績評価	評価の基準	１．身体各部の働きと機能低下が日常生活に及ぼす影響が言える。 ２．こころの働きと行動について互いに及ぼす影響がいえる。 ３．介護支援に関して、根拠に基づいた自分の考えを相手に伝えることができる。 テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト70%、課題レポート20%、授業態度10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書１２　こころとからだのしくみ
	著者名	編集　小板橋喜久代・松田たみ子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3199-6
推薦図書等	書籍名	カラー人体解剖学
	著者名	Ｆ．Ｈ．マティー二他
	出版社	西村書店
	価格	7,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-89013-305-5

参考URL

備考

医療的ケアⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MCC301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	医療的ケアⅠ
科目責任者	布施　千草
担当教員	井口　ひとみ 今井　訓子 山田　美知代
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20014501　火曜日，4限
教室	講義室7，介護実習質
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	医行為　医療的ケア　　リスクマネージメント	
学生の到達目標	１．医行為における介護福祉士の役割がわかる。 ２．医療的ケアの基礎知識について理解できる。 ３．医行為を安全に行うためのリスクマネジメントについて理解できる。	
授業内容	第1回	人間と社会（目標１） 担当教員: 布施　千草
	第2回	健康状態の把握（目標１,２） 担当教員: 布施　千草

第3回	消化器のしくみ（目標２） 担当教員: 井口　ひとみ
第4回	消化，吸収とよくある症状・経管栄養について（目標２） 担当教員: 井口　ひとみ
第5回	経管栄養のしくみ・注入する内容について（目標２） 担当教員: 井口　ひとみ
第6回	経管栄養実施上の留意点・こどもの経管栄養{目標２,３） 担当教員: 井口　ひとみ
第7回	こどもの経管栄養・感染予防（目標２,３） 担当教員: 山田　美知代
第8回	利用者，家族の気持ちの理解・安全確認（目標２,３） 担当教員: 山田　美知代
第9回	事故発生予防，対策（目標１,３） 担当教員: 今井　訓子
第10回	呼吸器のしくみ（目標２） 担当教員: 今井　訓子
第11回	呼吸の異常と対策（目標１,２） 担当教員: 今井　訓子
第12回	人工呼吸器と吸引（目標１,２,３） 担当教員: 今井　訓子
第13回	子どもの吸引・家族の気持ち（目標２） 担当教員: 今井　訓子
第14回	喀痰吸引によって生じる危険、安全確認（目標１,２,３） 担当教員: 今井　訓子
第15回	急変，事故発生時の対応（目標１,２,３） 担当教員: 今井　訓子

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第１回～15回 既習の関連科目に目を通し，確認しておく。教科書を事前に読んで，疑問点等整理して授業に臨む。
	復習	第1回～15回 授業の要旨をまとめること。配布資料の整理をする。
	展開	介護職への医行為導入に至る社会情勢について理解すること。 医療的ケアⅡとあわせて知識を深めること。

成績評価	評価の基準	１．医行為における介護福祉士の役割を説明できる。 ２．医療的ケアの基礎知識が習得できている。 ３．医行為を安全に行うためのリスクマネジメントについて説明できる。
	評価の方法	試験７０％，レポート３０％

教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座１５医療的ケア
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会　編集
	出版社	中央法規
	価格	2,376円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3944-7

推薦図書等

参考URL

備考

医療的ケアⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MCC302
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	医療的ケアⅡ
科目責任者	布施　千草
担当教員	井口　ひとみ 今井　訓子 山田　美知代
授業形態	講義・演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	20014601　（前期）木曜日，5限（後期）木曜日，4・5限
教室	（前期）講義室7，介護実習室 （後期）講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	喀痰吸引　経管栄養　手順　医療者との連携	
学生の到達目標	1.医療的ケアについて介護職の役割と連携が理解できる。 2.シュミレーターを用いて経管栄養が効果的に行える。 3.シュミレーターを用いて喀痰吸引が効果的に行える。	
授業内容	第1回	保健医療チーム制度、法律とチーム医療（目標1） 担当教員: 布施　千草

第2回　チーム医療と介護職員の連携・喀痰吸引、経管栄養の安全な実施（目標1,2,3）
担当教員: 布施　千草

第3回　経管栄養の安全な実施（目標2）
担当教員: 布施　千草

第4回　救急蘇生法（目標2,3）
担当教員: 今井　訓子

第5回　救急蘇生法(演習）（目標2,3）
担当教員: 担当教員全員

第6回　感染予防（目標1,2,3）
担当教員: 今井　訓子

第7回　滅菌と消毒(演習）（目標2,3）
担当教員: 担当教員全員

第8回　健康状態の把握、利用者・家族の気落ちの理解、安全確認（目標1,2,3）
担当教員: 今井　訓子

第9回　経管栄養で用いる器具・器材とその仕組み（目標2）
担当教員: 井口　ひとみ

第10回　経管栄養の技術とその留意点　そのⅠ（目標2）
担当教員: 井口　ひとみ

第11回　経管栄養の技術とその留意点　その２（目標2）
担当教員: 井口　ひとみ

第12回　経管栄養の技術とその留意点その3（目標2）
担当教員: 井口　ひとみ

第13回　経管栄養に必要なケア・記録・報告　その１（目標1,2）
担当教員: 井口　ひとみ

第14回　経管栄養に必要なケア・記録・報告　その２（目標1,2）
担当教員: 井口　ひとみ

第15回　経管栄養の技術｛演習）その１（目標1,2）
担当教員: 担当教員全員

第16回　経管栄養の技術｛演習）その２（目標1,2）
担当教員: 担当教員全員

第17回　経管栄養の技術（演習）その３（目標1,2）
担当教員: 担当教員全員

第18回　喀痰吸引に用いる器具・器材とその仕組み（目標3）
担当教員: 山田　美知代

第19回　喀痰吸引の技術と留意点　その１（目標3）
担当教員: 山田　美知代

第20回　喀痰吸引の技術と留意点　その２（目標3）
担当教員: 山田　美知代

第21回　喀痰吸引の技術と留意点　その３（目標3）
担当教員: 山田　美知代

第22回　喀痰吸引に伴うケア・記録・報告　その１（目標1,3）
担当教員: 山田　美知代

第23回　喀痰吸引に伴うケア・記録・報告　その２（目標1,3）
担当教員: 山田　美知代

第24回　喀痰吸引の技術（演習）その１（目標1,3）
担当教員: 担当教員全員

	第25回	喀痰吸引の技術（演習）その２（目標1,3） 担当教員: 担当教員全員
	第26回	喀痰吸引の技術（演習）その２（目標1,3） 担当教員: 担当教員全員
	第27回	評価について（目標1,2,3） 担当教員: 布施　千草
	第28回	技術演習（演習）（目標1,2,3） 担当教員: 担当教員全員
	第29回	技術演習（演習）その１（目標1,2,3） 担当教員: 担当教員全員
	第30回	技術演習（演習）その2（目標1,2,3） 担当教員: 担当教員全員

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回~30回　既習の関連科目に目を通し、確認をしておくこと。教科書を読み、準備をして授業に臨むこと。
	復習	第1回～第30回　授業の要旨をまとめておくこと。手順を頭に入れるように、練習を重ねること。
	展開	介護職への医行為導入に至る社会情勢を理解する。 医療的ケアＩと合わせて理解を深め、技術の習得を目指すこと。

成績評価	評価の基準	1.医療的ケアについて介護職の役割と連携を説明できる。 2.シュミレーターを用いて経管栄養を手順通り実施できる。 3.シュミレーターを用いて喀痰吸引を手順通り実施できる。
	評価の方法	試験(筆記・実技)100%で判定する。

教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座　15医療的ケア
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会＝編集
	出版社	中央法規
	価格	2,376円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3944-7

推薦図書等

参考URL

備考

人間関係論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS305
開講年度	2017年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	人間関係論
科目責任者	國生　美南子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20004601　木曜日，3限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	無関心　社会に「在る」ということ　孤立・分断・不寛容　生きづらさ 生きやすさ 多様性	
学生の到達目標	1.グループワークやディスカッションによって，他者との相違や共通点を知り，人間理解を深める　受講生が少ない場合はグループワークができないことがあります。 2.対人援助における関係づくりの基本姿勢と重要性について知る 3.人間を取り巻く地域社会の諸問題と「関係障害」を生む背景を探り，発見し，思考し，想像し，伝えるを学ぶ	
授業内容	第1回	オリエンテーションと自己紹介　自己紹介の意義・自分を見つめる・発見する・表現する（目標１,２）
	第2回	家族の形態と機能の変化と「関係」を探る（目標１,２）
	第3回	地域社会の変化を見つめ、人間の「生と死」と「関係」について探る　ただ「在る」ということ（目標１,２,３）

	第4回	社会環境の諸問題と事例及びキーワードから「関係」を考える １．　生活困窮・貧困・分断・不寛容など（目標１,２,３）
	第5回	社会環境の諸問題と事例及びキーワードから「関係」を考える ２．　いじめ・虐待・不寛容など（目標１,２,３）
	第6回	社会環境の諸問題と事例及びキーワードから「関係」を考える ３．社会的孤立・孤独死（目標１,２,３）
	第7回	社会環境の諸問題と事例及びキーワードから「関係」を考える ４．マイノリティ・生きずらさなど（目標１,２,３）
	第8回	「人間関係」について納得したこと、膨らんだ疑問、さらに追求したいことなどをレポートに表現し、伝える（目標２,３）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	「人間関係論」について何を学びたいか整理しておく
	復習	授業の内容に関連して提供する課題について簡単なレポートを作成し、提出する
	展開	課題についてディスカッションまたはワークショップをし、重要な点の思索を深める
成績評価	評価の基準	・グループワークへの関わり、反応、発表など ・レポートの内容
	評価の方法	・授業での取り組み（５０％） ・提出レポートの内容（５０％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	大事なものはみえにくい
	著者名	鷲田清一
	出版社	角川ソフィア文庫
	価格	802円
	ISBN・ISSN	978-4-04-407503-3
参考URL	：http://www7.ocn.ne.jp/~fukinoto/	
備考	推薦図書 聞くことの力＆待つということ（鷲田清一著） わかりあえないことから（平田オリザ著） その島のひとたちは、ひとの話をきかない（森川すいめい著）	

施設経営

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS403
開講年度	2017年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	施設経営
科目責任者	大澤　直樹
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20004401　土曜日，1限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	特定非営利活動法人　コミュニティケア　パートナーシップ　マネジメント	
学生の到達目標	1．NPO法人を設立するため，具体的な手順や方法について理解する。 2．NPO法人の抱えるメリットとデメリットを理解する。 3．NPO法人のマネジメントについての基礎的な知識を身につける。	
授業内容	第1回	NPOとは何か①特定非営利活動促進法の理解②法成立に至る時代背景（目標１）
	第2回	福祉NPOの特徴①活動領域分野の理解②非営利であることの意味（目標１,２）
	第3回	福祉NPOの展望と課題①今後期待される福祉事業②社会福祉法人との相違（目標２）
	第4回	グループホームとコミュニティケア①グループホームの意義②コミュニティケアの意図すること（目標２,３）

	第5回	行政のNPO支援策①寄付を集める必要性②認定NPO法人とは何か（目標２）
	第6回	NPOのパートナーシップ①制度ビジネスとの棲み分け②行政とのパトナーシップの在り方（目標３）
	第7回	事業計画と多角化戦略①事業計画の必要性②多角化戦力がなぜ必要なのか（目標３）
	第8回	NPO法人のマネジメント①人材育成の取り組み②社会企業とNPO法人（目標３）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　①特定非営利活動促進法について、事前に調べておくこと②議員立法に関して、調べておくこと 第2回　①20分野の活動領域を調べておくこと②税制上の優遇措置について調べておくこと 第3回　①既存の福祉事業について、調査しておくこと②社会法人との違いを、目的を鑑みて調べておくこと 第4回　①グループホームのメリット・デメリットについて調べておくこと②国が推進するコミュニティケアの課題を調べておくこと 第5回　①なぜ寄付金を募ることが求められるのか、自分の考えをまとめておくこと②認定NPO法人の基準を調べておくこと 第6回　①介護保険法等との事業を同時の行うことの意味について調べておくこと②行政がなぜNPO法人をパートナーと位置付けているのかを調べておくこと 第7回　①福祉計画を作成する意味を考えておくこと②NPOでありながら、なぜ多角化が求められているのか、自分の考えを整理しておくこと 第8回　①人材育成の具体的なあり方に関して、調べておくこと②社会企業は今なぜ求められているのかを、自分なりに整理しておくこと
	復習	第1回　NPO法人の目的とその時代背景に関するレポート(400字・5点) 第2回　20分野の特徴と非営利であることの意味についてレポートを提出(400字・5点) 第3回　今後増えるであろうNPO法人の福祉事業について、その理由をレポート提出(400字・5点) 第4回　コミュニティケアを構築するうえで、グループホームはどうあるべきかについて、レポートを提出(400字・5点) 第5回　認定NPO法人が増えない理由と今後増やしてた行くための取り組みに関して、レポート提出(400字・5点) 第6回　行政のパートナーシップに応えるための具体的な取り組みに関する、レポートを提出(400字・5点) 第7回　多角化戦略を踏まえた事業計画の在り方に関するレポートを提出(400字・5点) 第8回　OJT、OFF-JT、SDSといった研修に関するレポートを提出(400字・5点)
	展開	NPO法人の設立に関する手順を理解し，実際に設立できるまでの知識を修得できるようにする。
成績評価	評価の基準	（目標１･2共通）NPO法人に関する，法律及び設立に至るまでの申請に関する具体的な手順をマスターできていることを合格基準とする。
	評価の方法	講義毎に実施するワークシート(40%)及び講義最終日のレポート(60%)提出により総合的に評価する。
教科書		
推薦図書等		

参考URL

備考

障害教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS306
開講年度	2017年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	障害教育
科目責任者	佐藤　愼二
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20004501　金曜日，2限
教室	講義室5
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	共生社会，障害，特別支援教育	
学生の到達目標	1.各障害の特性及び支援の実際の理解度。 2.実際的な支援方法を身につける。	

授業内容

第1回	障害・特別支援教育の概要(目標１,２)
第2回	特別支援学校・学級について(目標１,２)
第3回	発達障害とは？(目標１,２)
第4回	知的障害を伴わない自閉症(学齢期)(目標１,２)
第5回	知的障害を伴わない自閉症(卒業後)(目標１,２)
第6回	知的障害を伴う自閉症(目標１,２)
第7回	ＡＤＨＤについて(目標１,２)
第8回	ＬＤについて(目標１,２)
第9回	視覚障害について(目標１,２)

	第10回	聴覚障害について(目標１,２)
	第11回	肢体不自由について(目標１,２)
	第12回	病弱について(目標１,２)
	第13回	知的障害について(目標１,２)
	第14回	言語障害について(目標１,２)
	第15回	共生社会の実現に向けて(目標１,２)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　「共生社会」についての調べ２回目に臨む。 第２回～第１４回　次回の授業で提示する検討課題について，調べ学習を行うこと。
	復習	第１回～第１５回　毎回の授業での配付資料を再確認し，ファイリングすること。個別に指摘された事項について，調べ学習を行うこと。
	展開	図書館に備え付けの発達障害当事者が執筆している書籍を読むこと。
成績評価	評価の基準	1.各障害の特性について理解すること。 2.各障害に応じた基本的な支援方法を習得すること。
	評価の方法	レポート(50%)，授業への参加態度(50%)を踏まえ，総合的に評価する。
教科書	書籍名	ママとパパと先生のための子育てハートホッとメッセージ５０
	著者名	佐藤慎二
	出版社	日本文化科学社
	価格	１００円
	ISBN・ISSN	978-4-8210-6089-4
	書籍名	いつでも・どこでも・楽しめるミニネタ１９０選
	著者名	佐藤慎二
	出版社	自費出版
	価格	２００円
	ISBN・ISSN	－
推薦図書等		
参考URL		
備考		

カウンセリング

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS107
開講年度	2017年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	カウンセリング
科目責任者	古川　繁子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	41000201　木曜日，1限
教室	講義室4
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	ピア・ヘルプ、受容、共感、自己一致、自己理解・他者理解	
学生の到達目標	1.カウンセリングの基礎を体験的に学び，日常の人間関係に活用できるようになる。 2.介護者として必要な人間観・対人関係調整力が養なわれる。	
授業内容	第1回	出会い体験（エクササイズ①）－話し合い－（目標1）
	第2回	出会い体験（エクササイズ②）「聴く，話す」を中心に事例の提示 カウンセリングの基本姿勢　－話し合い－（目標1）
	第3回	人間関係づくり（エクササイズ③）「聴く，話す」を体験する　－話し合い－（目標1）
	第4回	人間関係づくり（エクササイズ④）「聴く，話す」の体験　－話し合い－（目標1）

	第5回	人間関係づくり（エクササイズ⑤）自己理解を深める－エゴグラムの作成　－話し合い－（目標1）
	第6回	人間関係づくり（エクササイズ⑥）自己理解を深める－HTP　－話し合い－（目標1）
	第7回	ミニカウンセリングの体験(1)～(4)　ロールプレイング（目標2）
	第8回	ミニカウンセリングの体験(1)～(4)　ロールプレイング（目標2）
	第9回	ミニカウンセリングの体験(1)～(4)　ロールプレイング（目標2）
	第10回	ミニカウンセリングの体験(1)～(4)　ロールプレイング（目標2）
	第11回	ピアサポートの理論と実際（目標1）
	第12回	ピアサポートの理論と実際（目標1）
	第13回	ピアサポートの理論と実際（目標1）
	第14回	青年期の課題（目標1）
	第15回	介護現場での活用，支援モデル・ロールプレイング（目標2）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	・「自分について」「気になる人間関係」「カウンセリングの技法」の1つを選び，レポート用紙2枚くらいにまとめる ・順番に毎回数名が発表する。 ・必要なときワークをしながら授業の概略を把握する。
	復習	・「授業のまとめ」に記載し，提出する。 ・必要なとき、ワークをまとめる。
	展開	・ワーク実習の記録にコメントを付し，提出する。 ・必要なとき、必要な場所でピア・ヘルプを実践する。 ・日本教育カウンセラー協会の試験を受けて協会認定の「ピア・ヘルパー」資格を得る。
成績評価	評価の基準	・学習の達成目標に対する到達の度合を評価する。 ・目標1については、日本教育カウンセラー協会の認定基準に沿う。 ・目標2についてはワーク演習態度やロールプレイ、レポート発表態度で秀・優・良・可の判定基準で評価する。
	評価の方法	授業5回ごとに計3回試験をし（90%）授業への参加態度（10%）を合わせ，総合的に評価する。
教科書	書籍名	ピアヘルパーハンドブック－友達をヘルプするカウンセリング
	著者名	日本教育カウンセラー協会編
	出版社	図書文化社
	価格	1,500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8100-1343-6
推薦図書等	書籍名	ピアヘルパーワークブック
	著者名	日本教育カウンセラー協会編
	出版社	図書文化社
	価格	1,500円＋税

ISBN・ISSN　978-4-8100-2386-2

参考URL	
備考	・グループ学習やロールプレイなど参加型の形式を多く用いるため、それらに積極的に参加すること。 ・その際には守秘義務遵守のこと。

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS307
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	布施　千草
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	51000101　月曜日, 1・2限
教室	講義室3
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	介護福祉学の構築　研究方法　論文構成　プレゼンテーション	
学生の到達目標	1. 介護福祉領域における諸問題について深く掘り下げる。 2. その体験を通して研究の基本及び専門職としての姿勢を身につける。 3. 研究を通して得た知見を文章化、表現できる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション｛目標1・2・3｝
	第2回	オリエンテーション｛目標1・2・3｝
	第3回	研究の基本について｛目標1｝
	第4回	研究の基本について｛目標1・2｝

第5回	研究論文の抄読｛目標3｝
第6回	研究論文の抄読｛目標3｝
第7回	研究テーマの設定｛目標1｝
第8回	研究テーマの設定｛目標1｝
第9回	研究計画書作成｛目標2｝
第10回	研究計画書作成｛目標2｝
第11回	データ収集と整理｛目標1・2｝
第12回	データ収集と整理｛目標1・2｝
第13回	データ収集と整理｛目標1・2｝
第14回	データ収集と整理｛目標1・2｝
第15回	データ収集と整理｛目標1・2｝
第16回	データ収集と整理｛目標1・2｝
第17回	データ収集と整理　｛目標1・2｝
第18回	データ収集と整理　｛目標1・2｝
第19回	データ収集と整理　｛目標1・2｝
第20回	データ収集と整理　｛目標1・2｝
第21回	論文作成｛目標3｝
第22回	論文作成｛目標3｝
第23回	論文作成｛目標3｝
第24回	論文作成｛目標3｝
第25回	論文作成｛目標3｝
第26回	論文作成｛目標3｝
第27回	論文作成｛目標3｝
第28回	論文作成｛目標3｝
第29回	研究成果の発表｛目標3｝
第30回	研究成果の発表｛目標3｝

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　介護福祉領域の諸問題について自分なりの考えを持ち、授業に臨むこと。 第2回～30回　各回のテーマについて、図書を調べて授業に臨むこと。
	復習	第1回～第30回｛共通｝毎回の授業要旨をまとめる。提出課題の期限を守ること。
	展開	自分が関心をもった事項に対し，図書や研究成果などを調べ，知識理解を深めること。

成績評価	評価の基準	1．介護福祉領域における諸問題について具体的にあげられる。 2．研究体験を通して研究の基本及び専門職としての姿勢を述べることができる。 3．研究を通して得た知見を文章化、表現できる。
	評価の方法	授業発表３０％、論文内容７０％の成績を総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS307
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	今井　訓子
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	51000102　月曜日，2・5限
教室	ゼミ室4，講義室3
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	文献検索　介護福祉　ICF　研究方法	
学生の到達目標	１.障害者，高齢者が豊かで安定した生活を送ることが出来るための支援について，文献及び見学・調査・実践の体験を通して理解を深める。 ２．研究過程・結果を文章化できる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（目標１）
	第2回	興味，関心のあるテーマについて話し合い，課題を設定する（目標１）
	第3回	興味，関心のあるテーマについて話し合い，課題を設定する（目標１）
	第4回	文献検索法　資料収集の方法，整理の方法（目標１）

第5回	資料収集の方法，整理の方法（目標１）
第6回	資料収集の方法，整理の方法（目標１）
第7回	研究テーマ設定（目標１）
第8回	研究計画書作成　（目標１・２）
第9回	研究計画書作成　中間発表（目標１・２）
第10回	論文の構成，体裁、執筆方法（目標１・２）
第11回	論文の構成，体裁、執筆方法（目標１・２）
第12回	データ収集　論文の執筆　（目標１・２）
第13回	データ収集　論文の執筆（目標１・２）
第14回	データ収集　論文の執筆（目標１・２）
第15回	データ収集　論文の執筆（目標１・２）
第16回	データ収集　論文の執筆（目標１・２）
第17回	論文の執筆（目標１・２）
第18回	論文の執筆（目標１・２）
第19回	論文の執筆（目標１・２）
第20回	論文の執筆（目標１・２）
第21回	論文の執筆（目標１・２）
第22回	論文の執筆（目標１・２）
第23回	論文の検討，修正（目標１・２）
第24回	論文の検討，修正（目標１・２）
第25回	論文の検討，修正（目標１・２）
第26回	論文の検討、修正（目標１・２）
第27回	論文の検討，修正（目標１・２）
第28回	論文の修正　提出（目標１・２）
第29回	論文の発表会（目標２）
第30回	論文の発表会（目標２）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回　興味，関心のあるテーマについて調べる。 第2回～第30回　次回までの課題を準備する。
	復習	第１回～29回　指摘されたところを検討し、修正する。 第10回～第16回　グループメンバーの論文についてアドバイスを考える。
	展開	興味，関心のあるテーマについて理解を深める。
成績評価	評価の基準	（目標１・２共通）テーマへの取り組み，論文の内容。
	評価の方法	テーマへの取り組み（30%），論文の内容（70%）を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

推薦図書等	書籍名	初めての介護研究マニュアル　アイディアから研究発表まで
	著者名	矢原隆行
	出版社	保育社
	価格	2310円
	ISBN・ISSN	978－5866－3017－2

参考URL

備考

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS307
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	川村　博子
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	51000103　火曜日・金曜日，1限
教室	講義室2，講義室5
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	卒業論文　研究活動　　論文の書き方　執筆の留意点	
学生の到達目標	1.自分の興味関心事（疑問や課題）を明らかにしたうえで、共同研究のテーマを絞り込む。 2.論文執筆のマナーを理解する。 3.執筆マナーに基づいて、自分の考えを論理的な表現でまとめる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（目標１）
	第2回	研究活動の留意点を学ぶ（目標１,2）
	第3回	興味・関心のあるテーマについて話し合い、共同研究のテーマを模索する（目標１）
	第4回	資料収集の方法・整理の仕方等を学びつつ，共同研究テーマの明確化を図る（目標１,２）
	第5回	論文の書き方、執筆の留意点等を学ぶ（目標２）
	第6回	章立てを検討する（目標２）

第7回	実践研究活動に必要な資料を収集する（目標２）
第8回	研究計画（案）を作成する（目標２）
第9回	研究計画書を完成させる（目標２）
第10回	実践研究活動を実施する（目標２）
第11回	実践研究活動を実施する（目標２,3）
第12回	実践研究活動を実施する（目標２,3）
第13回	活動報告と実践研究計画の見直しを行う（目標1,2）
第14回	執筆分担を決める（目標2）
第15回	実践研究活動を実施する（目標3）
第16回	実践研究活動を実施する（目標3）
第17回	実践研究活動を実施する（目標3）
第18回	実践研究活動を実施する（目標3）
第19回	実践研究活動を実施する（目標3）
第20回	実践研究活動を実施する（目標3）
第21回	実践研究活動を実施する（目標3）
第22回	実践活動の整理・分析を行う（目標3）
第23回	実践活動の整理・分析を行う（目標3）
第24回	研究論文（担当部分）の執筆および修正を進める（目標3）
第25回	研究論文（担当部分）の執筆および修正を進める（目標3）
第26回	研究論文（担当部分）の執筆および修正を進める（目標3）
第27回	研究論文（担当部分）の執筆および修正を進める（目標3）
第28回	研究論文全体の整合性を確認する（目標3）
第29回	共同研究報告書を提出する（目標3）
第30回	共同研究の成果を発表するとともにゼミ活動全体の反省会を行う（目標1,2,3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１～３０回　共同研究テーマに関連する書籍を読み、学びをノートにまとめる
	復習	第１～３０回　ゼミで話し合ったことや話し合いからの学びをノートにメモし、共同研究活動に必要な情報を確認する
	展開	・共同研究テーマについて多面的に考えることができる ・自分の考えが深まり、論理的かつ適切な表現（文章、口頭）で学びや思考を説明できる ・連携や協働の重要性が体験的に学べる

成績評価	評価の基準	1.自分の興味関心事（疑問や課題）を明らかにしたうえで、共同研究のテーマを絞り込むことが出来たか。 2.論文執筆のマナーの理解度。 3.執筆マナーに基づいて、自分の考えを論理的な表現でまとめることができたか。 上記３点について授業参画状況・研究活動の姿勢および執筆した論文で総合的に評価する。
	評価の方法	・研究活動状況（50%） ・分担執筆論文の内容（30%） ・研究成果の報告、発表（20%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	・推薦図書は，必要に応じて紹介する。 ・積極的、協調的な参画を期待する。 ・行き詰った時は個別指導を受けること。

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS307
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	井口　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	51000104　月曜日，1・2限
教室	ラーニングコモンズ1
卒業要件	地域介護福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	介護福祉研究、関連分野文献検索	
学生の到達目標	1．主体的な学習・研究的態度でテーマに取り組むことができる。 2．グループメンバと協力ができる。 3．報告書（論文）としてまとめることができる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（目標１、２）
	第2回	研究について（目標１、２）
	第3回	研究について（目標１、２） 文献検索について
	第4回	テーマの検討 文献検索（目標１、２）
	第5回	テーマの選定と文献検索（目標１、２）

第6回	テーマの選定と文献検索（目標１、２）
第7回	研究計画書の作成（目標１、２）
第8回	研究計画書の検討（目標１、２）
第9回	実施にあたっての準備（目標１、２）
第10回	実施（目標１、２）
第11回	実施（目標１、２）
第12回	実施（目標１、２）
第13回	実施の報告・整理と修正（目標３）
第14回	実施（目標１、２）
第15回	実施（目標１、２）
第16回	実施（目標１、２）
第17回	実施（目標１、２）
第18回	実施（目標１、２）
第19回	実施の報告・整理 今後の方向性への検討（目標３）
第20回	実施（目標１、２）
第21回	実施（目標１、２）
第22回	論文作成に関する検討（目標１～３）
第23回	論文作成と検討・修正（目標１～３）
第24回	論文作成と検討・修正（目標１～３）
第25回	論文作成と検討・修正（目標１～３）
第26回	論文作成と検討・修正（目標１～３）
第27回	論文作成と検討・修正（目標１～３）
第28回	論文の検討（目標１～３）
第29回	論文提出（目標３）
第30回	研究成果の発表（目標１～３）

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第２回～第６回：興味のあるテーマ、決定したテーマに関連する文献を読んで，概要等理解してくる。 テーマに関連する文献を調べておく。
	復習	第７回～28回：他者の意見等踏まえて，テーマについて整理しながら発展的に進めること。 実践したことを整理し、検討して進めること。
	展開	テーマに関する文献から研究結果等を調べ，それらを基礎に深める。 実践を通した論文作成とする。
成績評価	評価の基準	（目標1～3共通）研究過程の取り組み、実践、論文作成ができる、報告ができるを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（７０％）　研究過程（３０％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	

推薦図書等	
参考URL	
備考	テーマ実施内容によっては、実践の都合上、相談した上で日程を変更することもある。

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS307
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	松井　奈美
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	51000105　火曜日，1限　金曜日，1限
教室	講義室7，講義室6
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	論文マナー　研究計画　文献検索	
学生の到達目標	1.介護研究の手順とその意義を知る。 2.文献検索の方法を知り、適切な文献を選べる。 3.介護研究グループとしての個々が持つ役割とその効果を知る。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（目標１）
	第2回	介護研究のプロセスについて（目標１）
	第3回	文献検索について（目標２）
	第4回	研究のタイプとデザインについて（目標１）
	第5回	研究のタイプとデザインについて（目標１）
	第6回	研究テーマについて話し合う（目標３）
	第7回	研究計画書の作成（目標３）
	第8回	研究計画書の作成（目標３）

第9回	グループワークによる研究計画書の検討（目標３）
第10回	グループワークによる研究計画書の検討（目標３）
第11回	グループワークによる研究計画書の検討（目標３）
第12回	研究論文の作成（目標１,２,３）
第13回	研究論文の作成（目標１,２,３）
第14回	研究論文の作成（目標１,２,３）
第15回	中間発表（目標２,３）
第16回	研究論文の検討と修正（目標２,３）
第17回	研究論文の検討と修正（目標２,３）
第18回	研究論文の検討と修正（目標２,３）
第19回	研究論文の検討と修正（目標２,３）
第20回	研究論文の検討と修正（目標２,３）
第21回	研究論文の検討と修正（目標２,３）
第22回	研究論文の検討と修正（目標２,３）
第23回	研究論文の検討と修正（目標２,３）
第24回	研究論文の検討と修正（目標２,３）
第25回	研究論文の検討と修正（目標２,３）
第26回	研究論文の検討と修正（目標２,３）
第27回	研究論文の検討と修正（目標２,３）
第28回	研究論文の検討と修正（目標２,３）
第29回	研究成果発表（目標３）
第30回	研究成果発表（目標３）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第5回(共通)介護研究報告書を読み、自分が展開したいテーマを決める。 第6回～第11回(共通)研究方法に関する文献を読む。 第12回～第14回(共通)先行研究や関連書籍に目を通す。 第15回：進捗状況の報告原稿を作成する。 第16回～第28回(共通)論文を執筆する。 第29回～第30回(共通)論文発表原稿を作成する。
	復習	第1回～第30回(共通)学びや気付きの整理、活動の振り返りを行い、研究活動の具体的な行動目標を設定する。
	展開	・前半はグループ学習、後半は研究の方法、内容等に対する個人指導。 ・各自文献検索を行い、知識を深める。
成績評価	評価の基準	1.介護研究の手順とその意義が理解できている。 2.文献検索の方法を理解したうえで適切な文献が選べている。 3.介護研究グループとしての個々が持つ役割とその効果が理解できている。
	評価の方法	研究レポート（60%）　研究活動過程（20%） 授業への参加態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		

参考URL	
備考	意欲的、自律的な個人活動と協調性のあるグループ活動を期待する。

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS307
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	清宮　宏臣
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	51000106　火曜日，1限　金曜日，1限
教室	ラーニングコモンズ1，講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	介護福祉、文献収集、問題意識、課題設定、論文執筆	
学生の到達目標	1.福祉（主に介護福祉）の領域の中から、関心のあることについて主体的にテーマ設定、研究課題設定ができる。 2.設定した研究テーマに関連する文献を収集整理し、内容を理解できる。 3.設定した研究テーマを深く調べ、得られた知見を文章化し，論文としてまとめ提出できる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（授業の進め方について）（目標1、2、3）
	第2回	各自の興味関心のある事柄について意見交換をし、研究テーマを設定する（目標1）
	第3回	各自の興味関心のある事柄について意見交換をし、研究テーマを設定する（目標1）

第4回	研究計画書（研究をしたくなった経緯や背景、研究目的、研究方法など）を作成する（目標1）
第5回	研究計画書（研究をしたくなった経緯や背景、研究目的、研究方法など）を作成する（目標1）
第6回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）
第7回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）
第8回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）
第9回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）
第10回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）
第11回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）
第12回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）
第13回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する（目標1、2）
第14回	中間発表（目標1、2）
第15回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
第16回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
第17回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
第18回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
第19回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
第20回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
第21回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
第22回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
第23回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
第24回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する（目標3）
第25回	研究論文の確認、修正をする（目標3）
第26回	研究論文の確認、修正をする（目標3）
第27回	研究論文の確認、修正をする（目標3）
第28回	研究論文の確認、修正をする（目標3）
第29回	研究論文の提出（目標3）
第30回	研究論文の提出（目標3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第30回（共通）　日ごろから研究テーマに関連した事柄について関心を持ち、関連する資料（新聞記事や書籍、論文など）を読み、資料整理する。また、論文の書き方に関する書物を読む。
	復習	第1回～第30回（共通）　毎回の授業の内容や配布資料の内容を確認し、資料を整理保管する。個別の指摘事項について、指摘されたことをできるように努める。

	展開	研究テーマに関連した文献を丁寧に調べ、収集し、整理することができる。また、それらの資料や文献をしっかりと読み理解する。理解できない場合はさらに調べる。
成績評価	評価の基準	1.問題意識をもち、主体的に研究テーマ設定、課題設定ができていること。 2.設定した研究テーマに関連する文献を自主的に収集、整理し、文献の内容を理解できていること。 3.設定した研究テーマについて、よく調べ、論文執筆マナーに基づいて、論文作成し提出できる。
	評価の方法	研究テーマに関する文献収集と文献内容の理解度、資料準備や発表の様子（20%）、研究論文の内容（80%）などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	はじめての介護研究マニュアルーアイデアから研究発表までー
	著者名	矢原隆行 著
	出版社	保育社
	価格	1,600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-586-63005-9
参考URL		
備考		

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HSS307
開講年度	2017年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	中西　正人
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	51000107　月曜日，2・5限
教室	ゼミ室3，講義室7
卒業要件	地域介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	研究方法　研究倫理　研究論文	
学生の到達目標	1．対人援助職に必要な見識について考察を深めることができる。 2．基礎的な研究方法を学び、論文を定められた期限までに仕上げて提出する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（目標1）
	第2回	介護福祉について各自が抱いている問題意識を語り合う。（目標1）
	第3回	介護福祉について各自が抱いている問題意識を語り合う。（目標1）
	第4回	研究テーマを決める。（目標1）
	第5回	研究テーマを決める。（目標1）
	第6回	研究のタイプとデザインについて学ぶ（目標2）
	第7回	研究計画書の作成（目標1・2）

第8回	研究計画書の作成（目標1・2）
第9回	各自のテーマに関する文献を検索する。＊図書館にてレクチャーを受ける。（目標2）
第10回	各自のテーマに関する文献を検索する。＊図書館にてレクチャーを受ける。（目標2）
第11回	資料の収集と整理（目標1・2）
第12回	資料の収集と整理（目標1・2）
第13回	資料の収集と整理（目標1・2）
第14回	資料の収集と整理（目標1・2）
第15回	中間発表（目標1・2）
第16回	データの収集および論文作成（目標1・2）
第17回	データの収集および論文作成（目標1・2）
第18回	データの収集および論文作成（目標1・2）
第19回	データの収集および論文作成（目標1・2）
第20回	データの収集および論文作成（目標1・2）
第21回	データの収集および論文作成（目標1・2）
第22回	データの収集および論文作成（目標1・2）
第23回	データの収集および論文作成（目標1・2）
第24回	データの収集および論文作成（目標1・2）
第25回	データの収集および論文作成（目標1・2）
第26回	論文の修正（目標1・2）
第27回	論文の修正（目標1・2）
第28回	論文の修正（目標1・2）
第29回	研究発表（目標1・2）
第30回	研究発表（目標1・2）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回～第３０回（共通） ・自身の興味関心を掘り下げ、研究したいテーマについての情報収集を関連する図書や映像を観るなどして行うこと。 ・事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。
	復習	第１回～第３０回（共通） ・指示された課題を期限までに提出すること。
	展開	：学生自身の持つ興味関心について図書や先行研究等を調べ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	１．対人援助職に必要な見識について考察を深めることができている。 ２．授業で学ぶ基礎的な研究に関する内容（研究のプロセス、研究手法、論文の書き方等）が理解できている。
	評価の方法	・参加状況（授業時の態度、授業への取り組み意欲）10%、課題（レポート等）30%、研究論文60%の成績を総合する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等	書籍名	はじめての介護研究マニュアル～アイデアから研究発表まで～
	著者名	矢原隆行
	出版社	保育社
	価格	2310円
	ISBN・ISSN	978-4-5866-3017-2

参考URL

備考

保育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR101
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育原理
科目責任者	久留島　太郎
担当教員	中澤　潤
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30011101　木曜日，2限 30011102　木曜日，1限
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	保育制度，保育計画，子ども理解，子育て支援	
学生の到達目標	1.保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解する。 2.子どもを理解する際の手がかりとなる視点を習得する。 3.保育を成り立たせている保育内容や方法の原理及びを子育てを取り巻く社会的な変化を理解する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション　保育原理の学習の計画と授業計画 保育の基本について（目標1） 担当教員: 担当教員全員

第2回	保育における「子ども理解」について（目標1） 担当教員: 中澤　潤
第3回	保育の制度と現状(目標１,3) 担当教員: 中澤　潤
第4回	保育の歴史（目標１,3） 担当教員: 中澤　潤
第5回	保育の内容（目標1,2） 担当教員: 久留島　太郎
第6回	保育の方法1（目標1,2） 担当教員: 久留島　太郎
第7回	保育の方法2（目標1,2） 担当教員: 久留島　太郎
第8回	保育の計画（目標1,2） 担当教員: 久留島　太郎
第9回	保育者の専門性1（目標1,2） 担当教員: 久留島　太郎
第10回	保育者の専門性2（目標1,2） 担当教員: 久留島　太郎
第11回	家族援助と子育て支援（目標2,3） 担当教員: 久留島　太郎
第12回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応1（目標2,3） 担当教員: 久留島　太郎
第13回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応2（目標2,3） 担当教員: 久留島　太郎
第14回	保育の現状と課題1（目標1,3） 担当教員: 久留島　太郎
第15回	保育の現状と課題2（目標1,3） 担当教員: 久留島　太郎

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回　事前にテキストの該当箇所を読み，必要な予備知識や事例について理解しておく。
	復習	第1回～第15回　授業内容の重点について自分なりにまとめ，保育の基本について理解を深める。
	展開	保育の実際に触れることを通して，学んだことを実感し，実践に生かす。保育に関わる様々な事項について関心をもつ。

成績評価	評価の基準	1.授業の目的にあったレポートを作成することができる 2.子ども理解の方法について理解することができる 3.積極的に授業に向き合い学びを深めようとする
	評価の方法	試験（70%）小テスト（10%）目的への関心・意欲・態度・提出物（20%）

教科書

書籍名	よくわかる保育原理[第2版]
著者名	森上　史朗 編／大豆生田　啓友 編
出版社	ミネルヴァ書房
価格	税込2,376円
ISBN・ISSN	978-4-623-05415-2

推薦図書等

参考URL

備考

教育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR102
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	教育原理
科目責任者	白川　優治
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30000501　土曜日，2限 30000502　土曜日，1限
教室	講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	教育の歴史，教育の理念，教育制度，教育の内容，教育と発達，教育課題	
学生の到達目標	1.人間にとって教育とは何かを考える 2.社会と教育の関係を理解する 3.現在の教育課題を理解する	
授業内容	第1回	オリエンテーション＋「教育の意義」（１）（目標１,２）
	第2回	教育の意義（２）「教育とは何か」「学ぶことと教えること」「学校の意味」（目標１）
	第3回	教育の歴史（１）　西洋での教育と学校の歴史（目標２）
	第4回	教育の歴史（２）　日本での教育と学校の歴史（目標２）
	第5回	教育の理念（１）　西洋の教育思想の潮流（目標１）

	第6回	教育の理念（２）　日本の教育思想の潮流（目標１）
	第7回	教育制度（１）　教育の法制度：憲法と「教育を受ける権利」（目標１,２）
	第8回	教育制度（２）　日本の学校制度の特徴（目標１,２,３）
	第9回	教育の内容（１）　教育課程とその変遷（目標２,３）
	第10回	教育の内容（２）　教育内容と文化・社会変容（目標２,３）
	第11回	教育と発達（１）　子どもの発達段階（目標１,２）
	第12回	教育と発達（２）　子どもの成長と環境（目標１,２）
	第13回	教育課題（１）　体罰といじめ（目標３）
	第14回	教育課題（２）　現代の教育課題（目標３）
	第15回	教育の歴史・思想・制度についてのこれまでのまとめとこれからの教育のあり方（目標１,２,３）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　これまでの自分自身の学校教育での経験を振り返り，学校の意味について考えてみる。 第2回～第14回　教科書の関連個所（授業で指定する）について，事前に確認しておく。 第15回　最終的な理解の確認のためにこれまでの授業全体の復習する。
	復習	第1回～第14回　授業での配布資料，教科書の指定箇所を再確認する。 第15回　模範解答を参考に，自分の理解不足の箇所を確認する。
	展開	授業では本や資料等を紹介するので，それらを通じて自ら学んでください。
成績評価	評価の基準	1.教育とは何かについて，歴史と理論の観点から説明することができる。 2.社会と教育の関係について，教育制度や人間の発達の観点から説明することができる。 3.現在の教育課題について，子どもの成長や権利の観点から問題点を説明することができる。
	評価の方法	授業で行うミニレポート・ミニテストの提出状況（30%）中間試験（30%）最終試験（40%）
教科書	書籍名	教育の基礎と展開
	著者名	高野良子・武内清
	出版社	学文社（2016）
	価格	2,160円(税込み)
	ISBN・ISSN	978-4-7620-2624-9
推薦図書等	書籍名	『教育格差の社会学』
	著者名	耳塚寛明
	出版社	有斐閣（2014年）
	価格	1,900円＋税
	ISBN・ISSN	978-4641220133

参考URL　文部科学省　www.mext.go.jp

備考

児童家庭福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	児童家庭福祉
科目責任者	根本　曜子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30010901　木曜日，2限 30010902　木曜日，3限
教室	中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	子ども　家庭　福祉　人権　ネットワーク	
学生の到達目標	1.現代社会における児童家庭福祉の意義について理解する 2.子ども家庭福祉の制度・施策、保育や保育士のあり方について、地域で子どもと家庭を支える役割と専門性を理解する 3.子どもの権利という視点から児童福祉の歴史、現代的課題、今後の展望を理解する	
授業内容	第1回	保育における児童家庭福祉(目標1)
	第2回	現代社会と子ども・家庭(目標2)
	第3回	現代社会と児童家庭福祉(目標2)
	第4回	児童家庭福祉の概念(目標1)
	第5回	子どもの権利保障の歴史と児童家庭福祉の理念・諸外国の動向(目標2)
	第6回	児童家庭福祉の法体系(目標1)

	第7回	児童家庭福祉の実施体制・児童福祉施設・多様な保育ニーズへの対応(目標1)
	第8回	児童家庭福祉の専門職とネットワーク，権利擁護(目標1,2)
	第9回	児童家庭福祉施策の現状と課題①少子化と子育てサービス・母子保健(目標2,3)
	第10回	児童家庭福祉施策の現状と課題②障害のある子への対応・児童健全育成・児童虐待・ドメスティックバイオレンス(目標2,3)
	第11回	児童家庭福祉施策の現状と課題③社会的養護・少年非行等への対応(目標2,3)
	第12回	児童家庭福祉施策の現状と課題④ひとり親家庭・子どもの貧困(目標2,3)
	第13回	児童家庭福祉の動向と展望⑤保育・教育・療育・保健・医療等の連携とネットワーク(目標2,3)
	第14回	児童家庭福祉援助活動・虐待の事例分析(目標3)
	第15回	児童家庭福祉・子どもの人権についての演習(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回　子ども，子育て家庭問題について関心を持ち，関連する報道について理解しておく。
	復習	第1回～第15回　授業の要旨をまとめ，資料を整理し，再考する。
	展開	児童家庭福祉の課題に向き合い，実践的に考察できる。
成績評価	評価の基準	１.児童家庭福祉の概念と現状と課題，支援のしくみを説明できる。 ２.子どもと家庭の支援が保育の専門性であることが考察できる。 ３.子どもの権利という視点から児童福祉の歴史，現代的課題，今後の展望を明らかにできる。
	評価の方法	リアクションペーパー３０％，レポート２０％，テスト５０％
教科書	書籍名	新　保育士養成講座第3巻　児童家庭福祉
	著者名	保育士養成講座編纂委員会
	出版社	全国社会福祉協議会
	価格	1,900円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7935-1089-2
推薦図書等	書籍名	チャレンジ！地球村の英語　地球村の子どもの権利
	著者名	吉村峰子・吉村稔
	出版社	すずき出版
	価格	3,000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7902-3131-8
参考URL		
備考		

社会福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR103
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	社会福祉
科目責任者	根本　曜子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30000101　木曜日，1限 30000102　木曜日，2限
教室	中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	現代社会，生活，社会福祉制度，支援	
学生の到達目標	1.社会福祉の意義と歴史的変遷を理解する 2.社会福祉制度や実施体制等について理解する 3.社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する	
授業内容	第1回	社会福祉と保育(目標2)
	第2回	社会福祉の考え方と役割(目標1)
	第3回	社会福祉の歴史①諸外国(目標1)
	第4回	社会福祉の歴史②日本(目標1)
	第5回	生活を守る社会保障(目標2)
	第6回	社会福祉の制度と法体系(目標2)
	第7回	社会福祉の制度と法体系(目標2)
	第8回	社会福祉の制度と法体系(目標2)
	第9回	社会福祉の実施機関と行財政，施設(目標2)
	第10回	子どもの人権と児童家庭福祉(目標3)

	第11回	社会福祉の専門職と倫理(目標2)
	第12回	相談援助の意味と方法(目標2)
	第13回	福祉サービスの利用者支援と第三者評価(目標3)
	第14回	権利擁護と苦情解決(目標3)
	第15回	地域福祉の意味と推進方法，他分野との連携(目標2)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	予習に繋がるレポートを作成し提出する。 第2回「社会福祉で歴史を学ぶのはなぜだろう」 第4回「病院にかかるときにもっていく保険証は必要か」 第9回「社会福祉施設は高齢者，障害者のための施設だけではない」 第10回「保育や介護などの社会福祉の資格はどんな意味があるのか」 第11回「高齢の女性の一人暮らしを支えるには」 第13回「地域福祉をイメージする」 第14回「他分野の地域ネットワークとは」
	復習	復習に繋がるレポートを作成し提出する。 第1回「保育士を目指す皆さんが社会福祉を学ぶ意味について考え，まとめてみましょう」 第3回「イギリスが目指した『福祉国家』についてまとめてみましょう」 第5回「「社会保険と公的扶助の制度上の違いを，自分なりのわかりやすい言葉でまとめてみましょう」 第6回「社会福祉法の位置づけとどのような内容が規定されているのかまとめてみましょう」 第7回「『介護福祉法』と『老人福祉法』『高齢者の医療の確保に関する法律』との関係を整理してみましょう」 第8回「『障害者福祉の法制度』の提携や内容をまとめてみましょう」 第12回「福祉サービス利用の考え方である『措置制度』と『契約制度』の違いについてまとめてみよう」
	展開	学びと自分，あるいはまわりの生活状況を結びつけ，社会福祉についての知識，理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.社会福祉の意義と歴史的変遷を理解できる。 2.社会福祉制度や実施体制等について基礎的内容が理解できていること。 3.社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解できる。
	評価の方法	テスト７０％，レポート３０％

教科書

書籍名	シリーズ保育と現代社会　保育と社会福祉
著者名	橋本好市　宮田徹
出版社	(株）みらい
価格	2000円＋税
ISBN・ISSN	978-4-86015-354-0

書籍名	「社会福祉小六法」
著者名	ミネルヴァ書房編集部
出版社	ミネルヴァ書房
価格	1600円＋税
ISBN・ISSN	978-4-6230-6952-1

推薦図書等

参考URL

備考

相談援助

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR104
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	相談援助
科目責任者	根本　曜子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30010201　火曜日，4限 30010202　火曜日，2限
教室	中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	相談，援助，倫理，価値，技術	
学生の到達目標	1.相談援助の意義・目的を理解し，基本的な相談援助の方法，援助技術を身につける。 2.相談援助を行うものの有する価値・倫理・倫理綱領を理解する。 3.保育のおけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。	
授業内容	第1回	相談援助の役割(目標1)
	第2回	相談援助の意義(目標1)
	第3回	相談援助の機能(目標1)
	第4回	相談援助（保育）とソーシャルワーク・相談援助の対象(目標1,2)

	第5回	相談援助の理論とプロセス①(目標1)
	第6回	相談援助の方法とプロセス②(目標1)
	第7回	相談援助の歴史(目標1)
	第8回	相談援助する人が必要な姿勢と技術①自己覚知と他者理解(目標1)
	第9回	相談援助する人が必要な姿勢と技術②倫理と価値(目標1)
	第10回	相談援助する人が必要な姿勢と技術③原則(目標1)
	第11回	相談援助する人が必要な姿勢と技術④記録と評価(目標1)
	第12回	相談援助する人が必要な姿勢と技術⑤傾聴・共感(目標1)
	第13回	事例分析(目標3)
	第14回	事例分析発表ロールプレイ(目標3)
	第15回	多様な専門職との連携・社会資源の活用・調整・開発(目標2,3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第2回～第15回　教科書の指定箇所を読んで，ワークシートに取り組む。
	復習	第1回～第15回　授業で学んだことの要旨をまとめる。さらに調べる必要のあることを調べまとめておく。
	展開	専門職としての相談援助の技術を身につけ，対象への理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.相談援助の意義・目的を理解し，基本的な相談援助の方法，援助技術を習得している。 2.相談援助を行うものの有する価値・倫理・倫理綱領を理解できる。 3.保育のおけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める事が出来る。
	評価の方法	試験80%，課題20%
教科書	書籍名	ワークシートで学ぶ相談援助
	著者名	古川繁子　根本曜子　田村光子　井上深幸
	出版社	学文社
	価格	1800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7620-2600-3
推薦図書等		
参考URL		
備考		

社会的養護

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR202
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	社会的養護
科目責任者	坂口　洋
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30011301　月曜日，3限 30011302　月曜日，2限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	児童福祉施設(保育所以外の) 里親　児童相談所　児童虐待	
学生の到達目標	1.社会的養護の基本的な事項（定義・理念・原理等）に関して理解を深める。 2.施設養護に関する理解を深め，施設での保育士の役割についてのイメージを形成する（保育所との違いを理解したうえで）。 3.社会的養護の現状と課題について理解を深め，問題意識を持つ。	
授業内容	第1回	オリエンテーション/社会的養護って何？(目標１)
	第2回	これまで子どもはどう育てられてきたのか？(目標１)
	第3回	子どもだけの支援でいいのか？家庭は？(目標１,３)
	第4回	子どもの権利はどう守られるのか？(目標１,２)
	第5回	措置制度って何？(目標１,３)
	第6回	子どもはどんなところで生活するのか？(目標１)
	第7回	家庭養護と施設養護はどう違うのか？(目標１,２,３)

	第8回	保育士は社会的養護の担当者なのか？(目標１)
	第9回	施設養護の担当者がいつも大事に思っていることは何？(目標１,２)
	第10回	施設養護ではどんな支援をしているのか？(目標２)
	第11回	ソーシャルワークって何？(目標１,２)
	第12回	施設はどんなふうに運営されているのか？(目標２,３)
	第13回	倫理って何？(目標１,３)
	第14回	被措置児童等虐待って何？(目標２,３)
	第15回	施設がなぜ地域福祉もするのか？(目標２,３)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　「社会的養護」という言葉から連想される言葉を５個以上書き出して、「社会的養護」についての自分なりのイメージを作っておく。 第2回～第15回　事前に該当する内容を教科書で読み，興味づけをはかり，疑問点を持つ。
	復習	第1回～第15回　毎回の授業において、教科書や配布した資料を見直して，重要な内容について確認する。
	展開	社会的養護に関する報道,文献,テレビドラマ等に意識的・積極的に触れるようにし関心を高める。

成績評価	評価の基準	1.社会的養護の基本的な内容についての理解度。 2.社会的養護の体系のなかで保育士がとる役割のイメージの確立度・明確度。 3.社会的養護の現状と課題についての認識度、問題意識が持てること。
	評価の方法	期末試験 70%　リフレクションペーパー 20% 授業中の発表等　10%

教科書	書籍名	社会的養護（基本保育シリーズ⑥）
	著者名	相澤　仁・林　浩康
	出版社	中央法規出版
	価格	2,000円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5206-4

推薦図書等

参考URL	http://www.mhlw.go.jp/ 厚生労働省HP→子ども・子育て支援→施策情報：社会的養護
備考	・グループディスカッションを取りいれた授業を中心に行うので，積極的に参加すること。自分で考えて発言し，他の人の意見を聞き，もう一度考えて，知識を確かなものにすること。 ・できるだけ他の科目（保育士養成関係の）との関連を考えながら授業を受けること。 ・授業時に資料を配布する。 ・授業ごとにリフレクションペーパーの提出を求める。 ・授業の回数は教科書の講数と原則的に一致する(例えば，第１回は第１講，第２回は第２講のように）。 ・保育士養成の目標をよりよく達成するために内容変更を検討することもある。

保育者・教師論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SPR401
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育者・教師論
科目責任者	山本　邦晴
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30010701　木曜日，3限 30010702　木曜日，4限
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	望ましい保育者像・教師像，子ども主体の保育・教育，専門性の向上，保育・教育における安全と危機管理	
学生の到達目標	1.保育者や教師が備えるべき条件の基礎となる「保育士・教師観」「子ども観」「授業観」等を深める。 2.保育者・教師の役割と倫理，制度上の位置づけ等を学び，子どもは保育者・教師から多大な影響を受け育つことを認識し，専門職としての使命を理解する。 3.保育・教育現場で組織の一員として仕事をする重要性，専門職としての役割・責任等を学び，保育者・教師として基本的資質を高める。	
授業内容	第1回	保育士・教師の制度上の位置づけ－資格・要件・責務等（目標１,２,３）
	第2回	保育士・教師観－望ましい保育士・教師像，好きな保育士・教師，優れた保育士・教師，良い教師の条件（目標１,２）

第3回	子ども観－教え指導する子ども，共に生活し支える子ども，子ども主体の保育・教育，子ども主体を支える保育・教育（目標１,２）
第4回	子ども理解－肯定的理解，共感的理解，感じ合い・分かり合い（目標１,２）
第5回	保育・教育観－障害等の有無に関係なく，全ての子どもに適用できる保育・教育観（目標１,２,３）
第6回	保育課程・教育課程観－保育所や学校等の生活の充実・発展のための保育課程・教育課程，保育所や学校等での生活づくりを保育・教育課程編成と捉えて（目標２,３）
第7回	保育課程・教育課程観－保育所や学校等の生活の充実・発展のための保育課程・教育課程，保育所や学校等での生活づくりを保育・教育課程編成と捉えて（目標２,３）
第8回	日々の保育・授業観－活動・生活支援としての日々の保育・授業，生活の一こまとしての授業，遊びや日常生活等を支える授業（目標１,２,３）
第9回	日々の保育・授業観－活動・生活支援としての日々の保育・授業，生活の一こまとしての授業，遊びや日常生活等を支える授業（目標１,２,３）
第10回	保育者・教師の専門性－保育・幼児教育の専門性，特別支援教育の専門性，養護と教育，資質・能力，技術・技法，保育・教育の展開と自己評価，保育・教育観と専門性（目標１,２,３）
第11回	保育者・教師の専門性－保育・幼児教育の専門性，特別支援教育の専門性，養護と教育，資質・能力，技術・技法，保育・教育の展開と自己評価，保育・教育観と専門性（目標１,２,３）
第12回	保育者・教師の役割と倫理等－倫理，服務・規律、職務内容・役割等（目標２,３）
第13回	保育者・教師の協働－保育者・教師の支え合い，協働（目標３）
第14回	保育者・教師の専門職としての育ち－専門性の向上とキャリア形成，保育・教育における安全と危機管理（目標３）
第15回	保護者と保育者・教師の関係のあり方ー学級経営，学級懇談会，学級だより（目標１,２,３）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回　教科書「大好きな先生に出会えたら」を毎回読み，疑問点や自分なりの考えをまとめて臨む。 第２回～第５回　次時の学修内容の予告に応じて，下調べをして臨む。 第６回～第１５回　課題の発表者（グループ）を予め決めておき，レポートに基づいて発表できるようにする。
	復習	第１回～第15回　授業内容に応じて，毎回キーワードとなる事柄について，配布された資料のファイルして保管すること。 そして授業を振り返り，知識の取得が不十分な場合は復習し身につくように努めること。またもっと調べたいことは，さらに深まるように学修する。
	展開	できるだけ具体例を取り上げて進める。 これまで歩んできた自らの学校生活や幼稚園・保育園や特別支援学校等で実習を行った経験を踏まえ，保育者・教師として子どもとの関わり方等について考え，望ましい保育者・教師像を追究する。

成績評価	評価の基準	1.一人一人を大切にする豊かな「保育士・教師観」等の定着度。 2.専門職としての使命感と責任感のもつこと。 3.保育・教育現場で組織の一員として基本的資質を高められたか。 その他に授業への取り組み態度や発表、授業後の小テスト及びレポート提出などより総合的に評価する。

	評価の方法	授業への取り組み態度２０％，授業後の小テスト５０％，レポート提出３０％。この比率をもとに総合的に評価する。

教科書	書籍名	「大好きな先生に出会えたら」
	著者名	小出進
	出版社	日本生活中心教育研究会編
	価格	５００円
	ISBN・ISSN	－

推薦図書等	書籍名	「感じ合い　分かり合い　支え合い」
	著者名	小出進
	出版社	日本生活中心教育研究会編
	価格	１，０００円
	ISBN・ISSN	－
	□上記の図書等は市販されていません。	

参考URL

備考

障害福祉論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP202
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害福祉論
科目責任者	田村　光子
担当教員	根本　曜子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30000301　金曜日，5限
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	障害者福祉のあゆみ，ノーマライゼーション，障害福祉サービスや関連法の理解	
学生の到達目標	1.障害者福祉の基本理念，また実際的な制度について理解する。 2.当事者（障害のある方や保護者）の話や現場の声を通して，実際的な障害者福祉について学ぶ。 3.障害児者施設への就職を希望する学生は受講をすすめる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション　授業内容・進め方・評価についての理解（目標１,２,３） 担当教員: 田村　光子
	第2回	障害とは何か　～障害概念の理解～障害児者福祉の発展（目標１） 担当教員: 田村　光子
	第3回	障害児者福祉の歴史的変遷（目標１） 担当教員: 田村　光子

	第4回	ノーマライゼーション理念の理解（目標１） 担当教員: 根本　曜子
	第5回	ノーマライゼーション理念の理解（目標１） 担当教員: 根本　曜子
	第6回	自立生活運動，インクルージョン，特別支援教育へ（目標１） 担当教員: 田村　光子
	第7回	障害者基本法の理解（目標１） 担当教員: 田村　光子
	第8回	障害者自立支援法への歩み（目標１） 担当教員: 田村　光子
	第9回	障害福祉サービスの仕組み(目標１） 担当教員: 田村　光子
	第10回	障害福祉サービスの仕組み（目標１） 担当教員: 田村　光子
	第11回	障害福祉サービスの仕組み（目標１） 担当教員: 田村　光子
	第12回	障害者福祉を支える関連法の理解（目標１） 担当教員: 根本　曜子
	第13回	現代の障害者福祉の動向（目標１） 担当教員: 田村　光子
	第14回	事例研究（目標２） 担当教員: 田村　光子・根本　曜子
	第15回	障害福祉論のまとめ，演習（目標１,２,３） 担当教員: 田村　光子・根本　曜子

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～15回　各回の授業内容を確認し，事前にキーワードについて調べておくこと
	復習	第1回～15回　毎回の授業の要旨をまとめておくこと 指示されたレポート課題を期限までに提出すること
	展開	障害のある方への福祉について関心をもち，関連する図書を読んだり，報道について理解しておくこと 特に当事者の話を聞く貴重な機会には欠席しないよう気をつけること

成績評価	評価の基準	到達目標1,2,3について，レポート，まとめ，授業態度を総合して評価する。
	評価の方法	障害福祉論のまとめ（８０%），レポート提出（１０%），授業への参加意欲（１０%）とする。

教科書	書籍名	よくわかる障害者福祉　第5版
	著者名	小澤温編
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	ISBN987-4-623-06632-2

推薦図書等

参考URL

備考

障害教育論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP302
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害教育論
科目責任者	佐藤　慎二
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30000601　金曜日，3限
教室	大講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定

授業のキーワード	「困っている」子ども，逆転の発想，魔法の言葉・支援
学生の到達目標	1.「困った子ども」ではなく「困っている子ども」と理解する。 2.保育における逆転の発想・魔法の言葉の意味と実際について理解する。 3.授業で取り上げたゲーム等を身につける。

授業内容

第1回	子ども観・障害観の転換(目標１,２)
第2回	何かに「困っている子ども」という理解(目標１,２)
第3回	何に「困っている」のかを理解する。(目標１,２)
第4回	魔法の言葉・子どもの「いいとこ応援」とは？(目標１,２)
第5回	よりよい支援のためのプロセス－関係機関との連携支援－(目標１,２)

	第6回	手遊びを通した支援の実際(目標１,２,３)
	第7回	簡単ゲームを通した支援の実際(目標１,２,３)
	第8回	製作活動を通した支援の実際(目標１,２,３)
	第9回	対人関係に困難のある子どもの支援(目標１,２)
	第10回	コミュニケーションに困難のある子どもの支援(目標１,２)
	第11回	こだわりの強い子どもの支援の実際(目標１,２)
	第12回	多動性・衝動性のある子どもの支援(目標１,２)
	第13回	逆転の発想での支援(目標１,２)
	第14回	保護者の思いを理解する。(目標１,２)
	第15回	関係機関と連携した保護者支援の実際(目標１,２)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　配付資料を読み，子どもが何に「困っている」のかをまとめてくること。 第２回～第１４回　毎回提示されるテーマについて事前に調べ学習を行うこと。
	復習	第１回～第１５回　配付資料の整理・見直し，ファイル・保管すること。
	展開	図書館に備え付けの発達障害に関する書籍を読んだり，ボランティアに行ったりすること。
成績評価	評価の基準	1.「困った子ども」ではなく「困っている子ども」と見方を転換すること。 2.保育における逆転の発想・魔法の言葉の意味と実際について理解すること。 3.授業で取り上げたゲーム等を身につけること。
	評価の方法	毎回提出を課すレポートの内容(50%)，配付資料の活用状況(50%)を総合的に評価する。
教科書	書籍名	ママとパパと先生のための子育てハートホッとメッセージ５０
	著者名	佐藤慎二
	出版社	日本文化科学社
	価格	１００円
	ISBN・ISSN	９７８－４－８２１０－６０８９－４
	書籍名	いつでも・どこでも・楽しめるミニネタ１９０選
	著者名	佐藤慎二
	出版社	自費出版
	価格	２００円
	ISBN・ISSN	－
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育の心理学Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の心理学Ⅰ
科目責任者	漆澤　恭子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30011801　金曜日，1限 30011802　金曜日，2限
教室	講義室21･22
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	乳幼児期，発達，保育，心理	
学生の到達目標	1.子どもの発達や保育実践にかかわる心理学の知識を習得し、子どもへの理解を深める。 2.乳幼児期を中心としながらつながっていく各発達時期の特徴や流れについて理解する。 3.保育や発達について自分の意見を持ち発表できるようにする。	

授業内容

第1回	授業の進め方のガイダンス，「発達」について（目標１,２）
第2回	胎児期から新生児期の発達的特徴と保育（目標１）
第3回	身体機能・言語発達の基礎、母子関係の形成（目標１,２）
第4回	乳児期の運動機能の発達（目標１）
第5回	乳児期の言葉の発達（目標１）

	第6回	乳児期の認知機能の発達（目標１）
	第7回	乳児期における他者との関わり（目標1）
	第8回	乳児期の身辺自立と自己コントロール（目標1）
	第9回	幼児期における集団生活の始まり（目標1）
	第10回	幼児期の遊びと心の発達（目標1,2）
	第11回	幼児期の思考の発達（目標1）
	第12回	幼児期における言葉の獲得と仲間関係の開始（目標1,2,3）
	第13回	児童期における社会性の発達（目標1,2,3）
	第14回	障害についての基礎と障害のある子どもへの発達支援（目標1,2,3）
	第15回	生涯発達から見る初期発達の重要性　まとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　保育の心理学を学習する必要性を教科書を参考にしながら考えて授業に臨むこと。 第2回～15回　次回のテーマと主な内容についての予告に従って，準備したうえで授業に臨むこと。 グループ協議に積極的に参加できるよう日頃から乳幼児の発達について関心をもち，関連のある報道についてそれに対する自分の考えをもつこと。
	復習	第1回～第15回　毎回の授業において，配布資料の内容を確認し，保管すること。協議後には自分の意見の変化を理由とともにまとめておくこと。
	展開	授業で得た知識を実習体験等と照らし合わせ，理解を確実にすること。
成績評価	評価の基準	1.乳幼児期における基本的な心理学の知識についての理解度・定着度 2.各発達時期の特徴や流れについての理解度・定着度 3.協議での発言・発表等参加度
	評価の方法	協議発表等内容（30%）　提出物（20%）　定期試験（50%）この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	保育者のたまごのための発達心理学
	著者名	新井邦二郎
	出版社	北樹出版
	価格	税込2,052円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-7793-0278-7
推薦図書等	書籍名	乳幼児発達心理学
	著者名	繁多進
	出版社	福村出版
	価格	1900円
	ISBN・ISSN	978-4-7793-041409
	書籍名	月刊新聞記事からできた本　「こども」

著者名	-
出版社	クマノミ出版
価格	年間購読誌　図書館にあります
ISBN・ISSN	-

参考URL

備考

1.色鉛筆，のり，はさみは携行すること
2.オフィスアワー　火曜日　2・3時限
　　金曜日　　3時限　研究室5

保育の心理学Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH401
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の心理学Ⅱ
科目責任者	中澤　潤
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30011501　木曜日，2限 30011502　木曜日，3限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	発達の理解，子ども理解，遊びと学び，自己	
学生の到達目標	1.子どもの心理的な発達や変化と保育実践について理解を深める。 2.生活や遊びを通しての学びの過程について理解する。 3.保育，子育てにおける発達支援，援助について学ぶ。	

授業内容

第1回	ガイダンス＆子ども理解における発達の把握(目標１)
第2回	発達過程，個人差に応じた保育（目標１）
第3回	身体感覚をともなう多様な経験と環境との相互作用（目標２）
第4回	環境としての保育者と子どもの発達（目標１,２）
第5回	子ども同士のかかわりと関係作り（目標１,２）
第6回	子ども集団と保育の環境（目標２）
第7回	他者とのかかわりと学び　―いざこざ―（目標２）

	第8回	子どもの遊びと学び（目標２）
	第9回	基本的生活習慣の獲得（目標１）
	第10回	自己主張と自己抑制（目標１）
	第11回	主体性の形成（目標１）
	第12回	生涯にわたる生きる力の基礎を培う（目標２）
	第13回	発達と学びの連続性と就学支援（目標３）
	第14回	発達援助における協働（目標３）
	第15回	現代社会における子どもの発達と保育の課題まとめ（目標１,３）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回～第15回　子どもに関する話題（特に発達，教育）について日頃から関心を持ち，関連する資料に触れておく。 保育の心理学Ｉに関する知識や理解が不足している部分は，今までの資料などで理解を深めておく。
	復習	第1回～第15回　毎回の授業の内容をまとめ，わからない言葉や専門用語を調べておく。 授業内容と自分の経験を結びつけて考える。
	展開	子どもの心理的発達に関する資料を独力で読み，知識，理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.子どもの心理的発達に関して，授業で扱った内容が理解できていること。 2.学びの過程についての基礎的な知識を持ち，それらを自分の経験と関連づけて説明できる。 3.子育て支援や発達援助に関して自分の考えを持ち，それを適切な表現で他者に伝えることができる。
	評価の方法	平常点（まとめプリントの記入，グループワークへの取り組みなど，授業への参加態度）30%，レポート（２回の予定）25%，期末筆記試験45%の総合評価とする。ただしこの比率は若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	※「推薦図書」は必要に応じて授業内で紹介していく。 グループワークや発表場面では自分の考えや意見を他者にわかりやすく伝えるとともに，他者の意見や考えを尊重することを心がける。	

子どもの保健ＩＡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH101
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	子どもの保健ＩＡ
科目責任者	川島　広江
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30011901　月曜日，4限 30011902　月曜日，5限
教室	中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	健康，母子保健，環境	
学生の到達目標	1.健康的な成長・発達について3側面から述べることができる。 2.健康と疾病の間（グレーゾーン）について述べることができる。 3.子どもの健康に影響を与える環境因子について述べることができる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション，子どもの特徴，生命の誕生，胎児環境（目標３）
	第2回	母子保健とは何か。母子保健サービスの対象理解（目標3）
	第3回	人体の解剖・生理学的特徴①（目標1）
	第4回	人体の解剖・生理学的特徴②（目標1）
	第5回	健康状態の特徴と逸脱状態①（目標2）
	第6回	健康状態の特徴と逸脱状態②（目標2）
	第7回	健康に影響を及ぼす環境・観察とケア①（目標3）

	第8回	健康に影響を及ぼす環境・観察とケア②（目標3）
	第9回	健康のバロメーター「体温」①（目標3）
	第10回	健康のバロメーター「体温」②（目標3）
	第11回	脳の発達①（目標2）
	第12回	脳の発達②（目標2）
	第13回	脳の発達③（目標2）
	第14回	母乳栄養の母・児・社会への影響と見守る環境（目標3）
	第15回	健康に関わる子どもと養育者への指導（目標3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第2回～第15回　配布する「まとめシート」を使用し，テキストの指定範囲について，予習をしましょう。指定範囲については，第1回のオリエンテーション時に，説明し指示します。指定書籍「子どもの保健（第7版）」は，最初の講義から持参してください。
	復習	第1回～第15回　講義時に記載したプリントやノートに目を通すようにしましょう。不明な内容は，次回の講義時に質問するようにしましょう。
	展開	子どもに関する新聞記事には常に目を通し，講義内容に自ら興味を持てるよう調べ学習が習慣づくよう努力してほしい。また，全体的な健康の学習であるので，自らの健康生活について学びを生かし，日々努力してほしい。
成績評価	評価の基準	1.健康の３側面と成長・発達についての理解度と定着度 2.健康と疾病の間（グレーゾーン）の理解度と定着度 3.子どもの健康に影響を与える環境要因の理解度と定着度
	評価の方法	内容の理解と定着度（テスト６０％）、課題の取り組み意欲と態度（３０％）、授業態度（１０％）
教科書	書籍名	子どもの保健[第7版]
	著者名	巷野　悟郎 編
	出版社	診断と治療社
	価格	税込2,160円
	ISBN・ISSN	978-4-7878-2294-9
推薦図書等		
参考URL		
備考		

子どもの保健ＩＢ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	子どもの保健ＩＢ
科目責任者	渡辺　いよ子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30012001　水曜日，4限（9/27～11/22） 水曜日，5限（11/29～1/24） 30012002　水曜日，5限（9/27～11/22） 水曜日，4限（11/29～1/24）
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	保健，ヘルスプロモーション，健康と安全	
学生の到達目標	1.健康的な成長・発達について3側面から述べることができる。 2.子どもの健康に影響を与える環境因子について述べることができる。 3.子どもの事故の特徴を述べ，事故防止に取り組むことができる。	
授業内容	第1回	サクランボ坊や１・２鑑賞　幼児の発達について理解する（目標１）
	第2回	サクランボ坊や３・４鑑賞　幼児の発達について理解し，保育士の果たす役割について考える（目標１）
	第3回	サクランボ坊や５・６鑑賞　幼児の発達について理解し，保育士の果たす役割について考える（目標１）
	第4回	乳幼児期の病気・感染症の理解　対策　予防接種　保健指導（目標２）

	第5回	感染症の理解　対策　予防接種　保健指導（目標２）
	第6回	生涯の性的発達　ジェンダーと健康（目標２）
	第7回	虐待　健康を害する暴力の理解（目標２）
	第8回	虐待　健康を害する暴力の理解（目標２）
	第9回	子どもの事故　保育時の事故　家庭での事故（目標３）
	第10回	子どもの事故　保育時の事故　家庭での事故（目標３）
	第11回	子どもの事故　保育時の事故　家庭での事故（目標３）
	第12回	救急時の応急処置　家庭への保健指導（目標３）
	第13回	救急時の応急処置　家庭への保健指導（目標３）
	第14回	母子保健行政・サービス　連携の実際　まとめ（目標２）
	第15回	母子保健行政・サービス　連携の実際　まとめ（目標２）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～第３回　前期で学んだ乳幼児の全体的発達について復習しておくこと。 第４回～１４回　シラバスを参考に準備したうえで授業に臨むこと。
	復習	第１回～第３回　ＤＶＤ鑑賞後，各回毎に健康的な成長と保育内容について各自のまとめを行うこと。 第４回～１５回　毎回の授業についてまとめを行い，小テストに備えること。また，実習における各自の目標と結びつく学習に努めること。
	展開	子どもに関する新聞記事には常に目を通し，講義内容に自ら興味を持てるよう調べ学習が習慣づくよう努力してほしい。また，全体的な健康の学習であるので，自らの健康生活について学びを生かし，日々努力してほしい。
成績評価	評価の基準	1.健康的な成長・発達について3側面からの理解度 2.子どもの健康に影響を与える環境要因についての理解度 3.子どもの事故予防に対する理解度
	評価の方法	出席・授業態度（私語，遅刻，早退）５％，筆記テスト（毎回のミニテストの合計40%，前期・後期テスト50%），課題レポート５％で総合評価
教科書	書籍名	子どもの保健（第7版）
	著者名	巷野悟郎　編
	出版社	診断と治療社
	価格	2,000円＋消費税
	ISBN・ISSN	978-4-7878-2234-5
推薦図書等	書籍名	育児考現学
	著者名	巷野悟郎　著
	出版社	診断と治療社
	価格	2,200円＋消費税
	ISBN・ISSN	978-4-7878-1978-9

参考URL	
備考	健康的な3側面から子どもの発達をとらえるとともに，健康と疾病の間（グレーゾーン）についても合わせて考えるようにしましょう。

子どもの保健Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH102
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	子どもの保健Ⅱ
科目責任者	栗山　敦子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30012101　金曜日，3限（4/14～6/16） 金曜日，4限（6/23～8/4） 30012102　金曜日，4限（4/14～6/16） 金曜日，3限（6/23～8/4）
教室	講義室15
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	小児の発育と発達，小児の疾患，救急処置，感染症予防	
学生の到達目標	1.保育現場，障害児指導現場などにおいて，保健衛生についての実践ができるように，具体的な知識や技能を習得する。 2.小児の健康状態を把握するための観察のポイントと方法，小児の事故と安全，予防と健康増進，応急処置などの方法について，実習を通して学ぶ。	
授業内容	第1回	小児の身体的特徴，乳児の抱き方，寝かせ方，衣服の着脱，母子健康手帳（目標1）
	第2回	身体発育の測定と評価およびその後の管理，肥満とやせ（目標1,2）
	第3回	発達の判定（目標1,2）
	第4回	子供の栄養と食事（哺乳，離乳，食に関する諸問題）（目標1,2）

	第5回	排泄（目標1,2）
	第6回	睡眠（目標2）
	第7回	衣服，健康増進，遊び（目標1,2）
	第8回	衛生管理（目標2）
	第9回	応急手当（目標2）
	第10回	応急手当（目標2）
	第11回	病気と異常（症状と対応）（目標1,2）
	第12回	病気と異常（主な病気と対応）（目標2）
	第13回	くすり 感染症（目標2）
	第14回	感染症（目標2）
	第15回	問題演習（目標1,2,3）
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第1~3回　母子健康手帳の内容を調べる。（60分） 第4回　栄養素について調べる。自分の食事を栄養学的に評価する（90分） 第5回　排尿排便のメカニズムについて調べる。（60分） 第6回　自分の睡眠時間を記録し体調と比較してみる。（60分） 第7,8回　子どもの入浴，歯磨き，手洗い，服装について調べる。（45分） 第9,10回　傷の手当の方法を書き出す。（90分） 第11,12回　発熱のメカニズムを調べる。発熱時のケアについて書いてみる。 第13,14回　学校感染症の2種を書き出し潜伏期間，症状，感染経路，ワクチンなどについて調べる。（90分）
	復習	第1～8回　ノートを整理して内容を理解する。（45分） 第9～15回　教科書以外の文献を見る。（45分）
	展開	保育実習中で保健に関することでの「気づき」を記録する。
成績評価	評価の基準	1.小児の成長について正しく理解し，その測定と判定が適正にできる。健康な生活を支援できる。 2.病気の予防とケアが適正に行える。 3.感染症を理解し，発症時はケアができること。また，感染予防が行えること。
	評価の方法	100%考査で評価する。（60点以上を合格とする。）
教科書	書籍名	保育保健2016
	著者名	遠藤郁夫監修
	出版社	日本小児医事出版社
	価格	2,０00円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-88924-246-1
推薦図書等	書籍名	イラストによるお母さんへの病気の説明と小児の診療
	著者名	大塚親哉　監修　金子堅一郎　編集
	出版社	南山堂
	価格	10,000円＋税

ISBN・ISSN	9784525283537

書籍名	子供の病気の地図帳
著者名	鴨下重彦・柳澤正義　監修
出版社	講談社
価格	4,000円＋税
ISBN・ISSN	978-4-06-206605-1

書籍名	これならわかる！子どもの保健演習ノート
著者名	榊原洋一監修　小林美由紀執筆
出版社	診断と治療社
価格	2,000円＋税
ISBN・ISSN	978-4-7878-1883-6　C3047

参考URL

備考

子どもの食と栄養

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH302
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	子どもの食と栄養
科目責任者	三幣　周子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	30012301　（前期）水曜日，3限（4/12～6/7），水曜日，4限（6/14～7/26） （後期）水曜日，2限（9/27～11/22），水曜日，3限（11/29～1/24） 30012302　（前期）水曜日，4限（4/12～6/7），水曜日，3限（6/14～7/26） （後期）水曜日，3限（9/27～11/22），水曜日，2限（11/29～1/24）
教室	調理実習室，中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	胎児期の栄養，乳幼児期・小児期の栄養，生涯の健康と栄養	
学生の到達目標	1.子どもの栄養と食生活は生涯にわたり健康と生活の基礎であることを理解する。 2.正しい栄養の基礎的知識と体のしくみ・発達を学習する。 3.胎児期からの栄養は発育・発達の基本であることを理解する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション，世界における子どもの栄養問題(目標２)
	第2回	子どもの栄養法の歴史(目標１,２)
	第3回	胎児期の食生活（目標１,２,３）
	第4回	調理の基本・調乳の心得（目標１,２,３）
	第5回	調乳法・無菌操作法（目標１,２,３）
	第6回	乳児期の発育・栄養状態（目標１,２,３）

第7回	消化器系図・消化器官の発達（目標1,2,3）
第8回	栄養素の種類と機能（目標1,2,3）
第9回	食事摂取基準（目標2,3）
第10回	離乳の意識と食生活（目標1,2,3）
第11回	離乳食5，6ヶ月～9，11ヶ月（目標1,2）
第12回	離乳食をつくる上での要点（目標1,2,3）
第13回	離乳食完了12ヶ月～16ヶ月（目標1,2,3）
第14回	子どもの食行動（目標1,2,3）
第15回	離乳食・調理の原則・まとめ（目標1,2,3）
第16回	食育の推進（目標1,2,3）
第17回	幼児期の栄養（目標1,2,3）
第18回	幼児期からの食育の環境（目標1,2,3）
第19回	幼児期の調理上の留意点（目標1,2,3）
第20回	食育・伝統食・行事食・含の伝達（目標1,2,3）
第21回	食品に関する基礎知識（目標1,2,3）
第22回	間食の意識（目標1,2,3）
第23回	間食の実践（目標1,2,3）
第24回	障害のある子どもの食生活（目標1,2,3）
第25回	幼児期・学童期発達と食生活（目標1,2,3）
第26回	子どもの気になる食行動（目標1,2,3）
第27回	食物アレルギーの対応と配慮（目標1,2,3）
第28回	食生活の基礎・食事バランスガイド（目標1,2,3）
第29回	児童施設での食事と栄養・子どもの疾患と栄養（目標1,2,3）
第30回	保育者としての対応例 子どもの食まとめ（目標1,2,3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第2回～29回 ・胎児期の栄養についてレポートを提出。 ・幼児期～学童期　栄養についてレポート提出。
	復習	第2回～29回 ・胎児期～学童期の疾患について指導する為の力を学ぶ。
	展開	・授業内容について知識，技術と2点位課題を決めて毎回提出し，予習，復習が身につくように記録。

成績評価	評価の基準	1.食生活は生涯にわたり，健康・生活の基礎であることをテーマを決めて発表する。 2.正しい栄養の知識をまとめ，課題別に提出する。 3.胎児期は母親の栄養の摂り方が大切で何かをどのように摂取したらよいか実践方法を課題レポート及び発表を行う。
	評価の方法	受講態度（忘れ物）20% 課題取り組み状況（レポート，口頭発表）10% 期末筆記試験70%

教科書

推薦図書等	
参考URL	
備考	※実習衣（割烹着・三角巾）を着用。第１回の授業で説明。 ※「推薦図書」は授業内で紹介する。

家庭支援論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH402
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	家庭支援論
科目責任者	小田　玲子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30010801　金曜日，3限 30010802　金曜日，4限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	観察と記録	
学生の到達目標	1.「家庭」と「支援」を複合的に見る力をつける。「家庭」は構成員それぞれの「価値観」で成り立つことを知り，「支援」はどのような法的原理または制度的枠組みによって決定されるかを具体例に即して理解できること。 2.子育て家庭の支援者として，常によく観察して，探り，自分なりの支援の方法を考え出すことができる。自分にしかできない"ハート"と支援方法を体得する。	
授業内容	第1回	授業の目標と方法の説明，マイプロフィールの作成（目標１）
	第2回	家族とは何か―「ヘルシー・ファミリー」の視点（目標１）
	第3回	健康とは何か，価値観とは何か―「ヘルシー・ファミリー」の視点（目標１）
	第4回	家族の変化―メディア社会における家族関係（目標１）
	第5回	家族の変化―制度・法律（目標１）

	第6回	家族問題の所在－「問題」とは何か（目標２）
	第7回	家族問題の所在－見えない問題と分析枠組１（目標２）
	第8回	家族問題の所在－見えない問題と分析枠組２（目標２）
	第9回	家族問題の対策－公的支援に関わる制度(組織)と人的資源：諸外国の事例（目標１）
	第10回	家族問題の対策－公的支援に関わる制度(組織)と人的資源：支援活動の事例１（目標２）
	第11回	家族問題の対策－公的支援に関わる制度(組織)と人的資源：支援活動の事例２（目標２）
	第12回	家族問題の対策―民間の支援に関わる制度(組織)と人的資源：諸外国の事例（目標１）
	第13回	家族問題の対策―民間の支援に関わる制度(組織)と人的資源：支援活動の事例１（目標２）
	第14回	家族問題の対策―民間の支援に関わる制度(組織)と人的資源：支援活動の事例２（目標２）
	第15回	まとめ「観察と記録―私の支援実践力」（目標２）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回は必要としない。 第２回～15回は，授業で解説した内容について，関連する資料を収集する。
	復習	第１回～14回は，授業の内容について資料などを再読したり，仲間と議論などをして理解を深める。第15回は，全授業内容を俯瞰して理解を深める。
	展開	学んだ内容に関連したことがらについて常にアンテナをはり，観察し，自分の関心事として考えを創っていくことができる。
成績評価	評価の基準	1.仲間との議論と内容把握メモ（小レポート）を「どれだけ考えたか」を示す評価基準とし，これを重視する。 2.特に，観察記録（小レポート）についての充実度を評価基準とする。
	評価の方法	毎回の内容把握メモ（小レポート）を80%，期末試験を20%とし，合計60%以上を合格とする。
教科書	書籍名	家庭支援実践ポートフォリオ（ノート）
	著者名	小田玲子
	出版社	アカデメイア・プレス
	価格	３00円
	ISBN・ISSN	－
推薦図書等		
参考URL		
備考	「推薦図書」は随時案内します。	

発達障害心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP401
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	発達障害心理学
科目責任者	佐藤　愼二
担当教員	漆澤　恭子 相磯　友子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30011601　金曜日，4限 30011602　金曜日，3限
教室	講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	発達障害，配慮を要する子ども，支援	
学生の到達目標	1.各障害の特性と配慮の基本を理解する。 2.保育現場における実際的な支援の基本を理解する。	
授業内容	第1回	ガイダンス・知的障害の子どもの基礎的理解と支援(目標１) 担当教員: 相磯　友子
	第2回	“気になる子 ”の保育(目標１,２) 担当教員: 相磯　友子

第3回	“気になる保護者 ”の理解と支援(目標１,２) 担当教員: 相磯　友子
第4回	自閉的傾向のある子どもの理解と支援(目標１,２) 担当教員: 相磯　友子
第5回	外国人の子どもの基礎的理解と支援(目標１,２) 担当教員: 相磯　友子
第6回	ADHDの基礎的理解と支援(目標１,２) 担当教員: 漆澤　恭子
第7回	学習障害（ LD）の基礎的理解と支援(目標１,２) 担当教員: 漆澤　恭子
第8回	アスペルガー症候群・高機能自閉症等の基礎的理解と支援(目標１,２) 担当教員: 漆澤　恭子
第9回	事例から考える発達障害の子どもたちの理解と支援（年齢別保育の中で）(目標１,２) 担当教員: 漆澤　恭子
第10回	事例から考える発達障害の子どもたちの理解と支援（異年齢保育の中で）(目標１,２) 担当教員: 漆澤　恭子
第11回	聴覚障害・視覚障害の基礎的理解と支援(目標１,２) 担当教員: 佐藤　愼二
第12回	肢体不自由・病弱の基礎的理解と支援(目標１,２) 担当教員: 佐藤　愼二
第13回	言語障害・情緒障害・てんかん・ダウン症の基礎的理解と支援(目標１,２) 担当教員: 佐藤　愼二
第14回	保育・教育現場での支援的対応の実際（ユニバーサルデザインの視点から）(目標１,２) 担当教員: 佐藤　愼二
第15回	保育・教育現場での支援的対応の実際（個別的な配慮の視点から）と全体のまとめ(目標１,２) 担当教員: 佐藤　愼二

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　発達障害に関心するレポートをまとめること。 第２回～第１４回　次回テーマの予告に従って，調べ学習をすること。
	復習	第１回～第１５回　毎回配付される資料を見直し，ファイル・保管すること。
	展開	ボランティア先で出会う子どもの様子や実際の関わりの中で実際を学ぶこと。

成績評価	評価の基準	1.各障害の特性と配慮の基本を理解すること。 2.保育現場における実際的な支援の基本を理解すること。
	評価の方法	レポート(50%)，授業への参加態度(50%)を総合して評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

小児栄養

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCH202
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	小児栄養
科目責任者	台蔵　彩子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30002201　水曜日，3限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	子どもの健康，食環境，栄養素	
学生の到達目標	1.人間が生きる上で必要な食について，栄養と栄養素から理解し，自分の体がどのような状態にあるのか理解する。 2.乳幼児期から老年期までの食に関する知識を，栄養と栄養素を中心に理解を深める。 3.子どもたちを取り巻く食環境の影響について理解を深める。	
授業内容	第1回	授業ガイダンス　子どもの健康と食生活の意義(目標1)
	第2回	栄養に関する基礎知識(1)栄養学の意義(目標1,2)
	第3回	栄養に関する基礎知識(2)食生活と健康と疾病(目標1,2)
	第4回	栄養に関する基礎知識(3)身体の構成と食欲と食事(目標1,2)
	第5回	栄養に関する基礎知識(4)三大栄養素(目標1)
	第6回	栄養に関する基礎知識(5)ビタミン・ミネラル・水(目標1)
	第7回	子どもの発育・発達と食生活(1)栄養状態による発育・発達(目標2)

	第8回	子どもの発育・発達と食生活(2)献立作成と調理の基本(目標2)
	第9回	子どもの発育・発達と食生活(3)胎児期・乳児期の栄養(目標2)
	第10回	子どもの発育・発達と食生活(4)幼児期・学童期の栄養(目標2)
	第11回	食育の基本と内容(1)食育基本法と食育の内容(目標3)
	第12回	食育の基本と内容(2)食育の環境と実際(目標3)
	第13回	家庭や児童福祉士施設における食事と栄養(目標2,3)
	第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(目標2,3)
	第15回	小児に対する栄養と食事のまとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　小児保健学などで学んだ,子どもの身体的・精神的成長について理解を深めておくこと。 第2回～15回　次回の内容について教科書を読み,準備したうえで受講すること。
	復習	第1回～15回　講義内容について，教科書・ノートを使用し，まとめておくこと。
	展開	興味のある内容については，授業内で回覧している資料や図書館等にある関連図書を活用し理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.栄養と栄養素や自身の健康状態について理解できているか。 2.ライフステージ別(乳幼児～高齢期)の食や食事の提供に関する特徴を理解しているか。 3.子どもたちの食環境の現状と問題点を理解しているか。
	評価の方法	確認テスト40%　レポート60%
教科書	書籍名	最新子どもの食と栄養－食生活の基礎を築くために－
	著者名	編著：飯塚美和子，桜井幸子，瀬尾弘子，曽根眞理枝 著：五関正江，高橋恭子他
	出版社	学建書院
	価格	2,400円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7624-4841-6
推薦図書等		
参考URL		
備考	「推薦図書」は授業内で紹介する。	

保育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育課程論
科目責任者	久留島　太郎
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30011201　木曜日，4限 30011202　木曜日，1限
教室	講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	教育課程，保育課程，教育計画，保育計画，指導計画	
学生の到達目標	1.教育課程・保育課程の概要を理解する 2.教育課程・保育課程編成の根拠となる乳幼児の発達，生活，遊びを通した学びの特色を理解する 3.教育課程・保育課程から指導計画の作成へのプロセスを理解・習得する	

授業内容

第1回	オリエンテーション　保育と計画について（目標１）
第2回	子どもたちが育つ社会の変化と保育（目標１）
第3回	保育が目指す子どもたちの未来について（目標１）
第4回	幼稚園・保育所・認定こども園の生活と幼児理解（目標２）
第5回	子どもたちの発達の道筋と保育１（目標２）
第6回	子どもたちの発達の道筋と保育２（目標２）

	第7回	教育課程・保育課程の編成の意義について（目標３）
	第8回	教育課程・保育課程の編成のポイントと指導計画との関係について（目標３）
	第9回	保育所の計画と実践（目標２,３）
	第10回	幼稚園の計画と実践（目標２,３）
	第11回	認定こども園の計画と実践（目標２,３）
	第12回	指導計画の作成１（目標３）
	第13回	指導計画の作成２（目標３）
	第14回	指導計画の作成３（目標３）
	第15回	教育課程・保育課程のPDCAサイクルによる改善（目標１,２,３）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　保育の基本と計画についてテキスト第1章の第1節と第2節を読み，保育のあり方について理解し授業に臨む。 第2回～15回　次回のテーマと内容についての予告に従って，準備をした上で授業に臨む。
	復習	第1回～14回　配布された資料やプリントを整理し，観点の理解と振り返りを行う。 第15回　教育課程・保育課程の改善について，それまでの学習内容をまとめる。
	展開	保育実習で実際に保育者として保育を行うことを通して，学びを深め，保育計画への理解を深める。実習の成果を振り返りながら指導案を作成する。
成績評価	評価の基準	1.保育課程・教育課程の概要が理解できたか 2.教育課程・保育課程編成の根拠となる乳幼児の発達，生活、遊びを通した学びの特色を理解できたか 3.教育課程・保育課程から指導計画の作成へのプロセスを理解・習得できたか
	評価の方法	試験（60%）レポート（20%）意欲・態度・提出物（20%）
教科書	書籍名	保育課程・教育課程総論
	著者名	柴崎　正行 編／戸田　雅美 編／増田　まゆみ 編
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	税込2,376円
	ISBN・ISSN	978-4-623-05733-7
推薦図書等	書籍名	指導計画の作成と保育の展開〈平成２５年７月改訂〉
	著者名	文部科学省【著】
	出版社	文部科学省【著】
	価格	¥270
	ISBN・ISSN	978-4-577-81350-8
参考URL		
備考		

保育内容総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO401
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育内容総論
科目責任者	久留島　太郎
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30012601　月曜日，3限 30012602　月曜日，2限
教室	講義室2 講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	保育内容，遊び，幼稚園，保育所，認定こども園	
学生の到達目標	1.保育内容と教育要領，保育指針，認定こども園教育・保育要領との関連性について理解する 2.乳幼児にとってふさわしい保育内容について理解する 3.子どもたちが保育内容をもとに遊びや生活を通して育つという基礎的な考え方を身につける	
授業内容	第1回	オリエンテーション:幼稚園・保育所・認定こども園に対する自分のイメージを明らかにする(目標1)
	第2回	保育内容と遊びについての関連性を理解する（目標1,2）
	第3回	幼稚園教育要領と保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え方を理解する（目標1,2,3）

第4回	子どもの発達の特性と保育内容（０,１,２歳児）（目標2,3）
第5回	子どもの発達の特性と保育内容（３,４,５歳児）（目標2,3）
第6回	保育内容と５領域（目標1,2,3）
第7回	環境を通して行う保育1（目標1）
第8回	環境を通して行う保育2（目標1）
第9回	遊びを通して行う保育１（目標1,2,3）
第10回	遊びを通して行う保育２（目標1,2,3）
第11回	遊びを通して行う保育３（目標1,2,3）
第12回	配慮を要する子どもを含めた保育（目標1,2,3）
第13回	生活や発達の連続性に考慮した保育（目標1,2,3）
第14回	家庭,地域,小学校との連携を踏まえた保育１（目標1）
第15回	家庭,地域,小学校との連携を踏まえた保育２（目標1）

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回　これまでの体験と保育内容とのつながりについて考えをまとめておく。 第2回～第15回　毎回のテーマに該当する資料やテキストを読み，必要な予備知識や事例に対するイメージをもつ。
	復習	第1回　保育内容の構造についてイメージを整理する。 第2回～第15回　授業内容について整理するとともに，テキストと合わせて毎回の振り返りを行う。
	展開	保育の実際を振り返りながら，保育内容に対するイメージを広げ，自分の保育を展開することができるようになる。

成績評価	評価の基準	1.保育内容と教育要領，保育指針，認定こども園教育・保育要領との関連性について理解できたか。 2.乳幼児期にふさわしい保育内容について、発達の特性に応じて考えることができたか。 3.適切な保育内容の設定を通して子どもたちが育つことの理解を深めることができたか。
	評価の方法	授業への取り組みの様子20%，授業内でのレポート提出状況ならびにその内容20%，期末テスト60%

教科書	書籍名	最新保育講座４　保育内容総論
	著者名	大豆生田啓友・渡辺英則・柴崎正行・増田まゆみ
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	税込2,376円
	ISBN・ISSN	978-4-623-06958-3

推薦図書等

参考URL

備考

保育内容演習（健康）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO202
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育内容演習（健康）
科目責任者	松原　敬子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30012701　火曜日，2限 30012702　火曜日，1限
教室	中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	健康，子ども，保育内容	
学生の到達目標	1.子どもの発達を健康の観点から捉える。 2.幼児の生活スタイルの現状と問題点から生活リズムの向上について学ぶ。 3.子ども理解を深めながら，保育内容の知識や技術，実践力を習得する。	
授業内容	第1回	領域「健康」のめざすもの（目標１）
	第2回	幼児の健康（目標１）
	第3回	幼児の発達理解（目標１）
	第4回	幼児のあそびの発達と健康（目標１）
	第5回	幼児の体格・運動能力の現状と問題（目標１）
	第6回	幼児の生活スタイル（目標２）
	第7回	幼児の健康と栄養（目標２）

	第8回	幼児の体格・運動能力測定法と評価（目標２）
	第9回	幼児の安全管理と安全教育（目標３）
	第10回	応急処置法（目標３）
	第11回	運動体験を広げる体育的行事（目標３）
	第12回	小グループによる保育計画と指導案の作成（理論）（目標３）
	第13回	小グループによる保育計画と指導案の作成・展開・振り返り（目標３）
	第14回	保育評価について（目標３）
	第15回	子どもの健康についてのまとめ（目標３）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回　領域「健康」の内容について確認し，授業に臨むこと。 第2回～第4回　子どもの発達について理解を深めてくること。 第5回～第8回　幼児の生活スタイルの現状と問題点を把握し，授業に臨むこと。 第9回～第11回　保育現場における事故について調べ，安全対策についてまとめてくること。 第12回～第15回　課題について調べ，まとめてくること。
	復習	第1回～第15回（共通）配布資料の内容を確認し，毎回講義の要旨をまとめておくこと。
	展開	実際に保育現場等で子どもの発達やあそびを観察し，子ども理解を深めていく。
成績評価	評価の基準	1.幼稚園教育要領及び保育所保育士指針における領域「健康」のねらい及び内容における理解度と定着度。 2.グループ発表において取り組む意欲・態度等により，総合的に評価する。
	評価の方法	発表（ 50%），レポート（ 30%），学習姿勢（20%）
教科書	書籍名	保育内容・領域「健康」
	著者名	清水将之・相楽真樹子編
	出版社	わかば社
	価格	1,600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-907270-14-8
推薦図書等	書籍名	保育内容「健康」
	著者名	民秋言・穐丸武臣編
	出版社	北小路書房
	価格	1,700円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7628-2643-6
参考URL		
備考		

保育内容演習（人間関係）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO203
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育内容演習（人間関係）
科目責任者	大木　みわ
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30012801　水曜日，2限 30012802　水曜日，1限
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	人間関係と幼児の発達，幼児理解の枠ぐみ，特別なニーズを持つ子ども	
学生の到達目標	1.領域「人間関係」においてはぐくむものを理解する 2.人とのかかわりを捉える視点を習得する 3.人とかかわる力の発達について理解する	

授業内容

第1回	領域「人間関係」とは（目標1）
第2回	人とかかわる力の捉え方（目標2）
第3回	乳児期の発達の姿-０～３歳児（目標3）
第4回	幼児期の発達の姿-４歳児（目標3）
第5回	幼児期の発達の姿-５歳児（目標3）
第6回	子どもを理解するために①②③（目標2,3）
第7回	子どもを理解するために①②③（目標2,3）

第8回	子どもを理解するために①②③（目標2,3）
第9回	保育の中での子どもの体験と学び①（目標1,2）
第10回	保育の中での子どもの体験と学び②（目標1,2）
第11回	トラブルの中で学ぶ①（目標1,2）
第12回	トラブルの中で学ぶ②（目標1,2）
第13回	特別なニーズを持つ子どもたち①（目標1,2）
第14回	特別なニーズを持つ子どもたち②（目標1,2）
第15回	小学校へつなぐ（目標3）

予習・復習の内容（毎回45分程度）

予習	第１回　各回ごとにテキストの対応する章を読み、班でキーワードを選定する。 第２回　テキスト第１章 第３回　テキスト第２・３章 第４回～５回　テキスト第４・５章 第６回～８回　テキスト第６・７・８章 第９回～１０回　テキスト第９・１０章 第１１回～１２回　テキスト第１１章 第１３回～１４回　テキスト第１２章 第１５回　テキスト第１３章
復習	第１回～第15回　授業の要点を示し簡単な課題を出す。
展開	６名で１班とし，授業５回ごとにチェンジする。 ５回ごとに試験を行う。 全体でのビデオ視聴を加え，班ごとに話し合い，理解をまとめ，記録し，発表する。

成績評価

評価の基準	1.授業の内容を理解することができる 2.目的にあったレポートを作成することができる 3.積極的に授業に参加している
評価の方法	試験50%　レポート25%　授業に対する意欲・態度・提出物25%

教科書

書籍名	幼稚園教育要領解説書
著者名	文部科学省
出版社	フレーベル館
価格	税込190円
ISBN・ISSN	978-4-577-81245-7

書籍名	保育所保育指針解説書
著者名	厚生労働省 著
出版社	フレーベル館
価格	税込205円
ISBN・ISSN	978-4-577-81242-6

書籍名	保育内容　人間関係
著者名	小田　豊 監・編著／神長　美津子 監／友定　啓子 編著
出版社	光生館

価格	税込1,944円
ISBN・ISSN	978-4-332-70134-7

推薦図書等

参考URL

備考

保育内容演習（環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育内容演習（環境）
科目責任者	野口　初江
担当教員	高木　素子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30012901　月曜日，2限 30012902　月曜日，3限
教室	調理実習室，講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	自然物，身の回りの物，環境を作る，遊びの援助	
学生の到達目標	(野口初江) 1.領域「環境」の対象を知り，領域「環境」の内容を理解する。 2.環境とかかわる力とは何かを理解する。 3.子どもの環境とのかかわり方を具体的に考え，保育者の援助を考えていくことができる。 (高木素子) 1.季節ごとの植物の栽培等を体験し，園芸を用いた活動の広がりを知る。	
授業内容	第1回　ガイダンス　保育の基本と保育内容（目標1） 担当教員: 野口　初江	

第2回	領域「環境」のねらい及び内容（目標1） 担当教員: 野口　初江
第3回	植物をとおしての活動①ジャガイモの袋栽培（植え付け）（目標1） 担当教員: 高木　素子
第4回	領域「環境」の対象と環境にかかわる力の発達 その１．自然物や自然事象（目標1,2） 担当教員: 野口　初江
第5回	領域「環境」の対象と環境にかかわる力の発達 その２．動植物など生き物（目標1,2） 担当教員: 野口　初江
第6回	領域「環境」の対象と環境にかかわる力の発達 その３．遊具，道具など（目標1,2） 担当教員: 野口　初江
第7回	植物をとおしての活動②高齢者，障碍者と楽しむ園芸について　芝坊や作り（目標1） 担当教員: 高木　素子
第8回	領域「環境」の対象と環境にかかわる力の発達 その４．生活の中で出会うもの　文字，記号（目標1,2） 担当教員: 野口　初江
第9回	領域「環境」の対象と環境にかかわる力の発達 その５．生活の中で出会うもの　数，図形，行事（目標1,2） 担当教員: 野口　初江
第10回	身近な環境にかかわる力を育てる保育者の援助 その１．保育者の役割（目標３） 担当教員: 野口　初江
第11回	身近な環境にかかわる力を育てる保育者の援助 その２．環境構成（目標３） 担当教員: 野口　初江
第12回	身近な環境にかかわる力を育てる保育者の援助 その３．保育の実際（目標３） 担当教員: 野口　初江
第13回	身近な環境にかかわる力を育てる保育者の援助 その４．指導上の留意点（目標３） 担当教員: 野口　初江
第14回	まとめ　領域「環境」と保育者として学ぶこと（目標３） 担当教員: 野口　初江
第15回	植物をとおしての活動③ジャガイモの袋栽培（収穫）（目標1） 担当教員: 高木　素子

予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	(野口初江) 第１～２，４～６，８～９回教科書を読んで配布した資料にまとめる。 第１０～１４回実習を通して気づいたことを環境の面から整理したり保育者の援助の仕方などをまとめておく。 (高木素子) 扱う植物の予備知識を得る
	復習	(野口初江) 第１回～９回 ・毎日の授業において配布した資料の内容を確認し保管すること。 ・返却したレポートの内容を確認し，訂正したり追加しておく。 第３回　ジャガイモの栽培方法を記録しておく。 第４回　自然物を整理し記録する。 第５～９回　身近にあるものや幼児の行動に関心を持ち，探したり

		記録したりする。 第１０～１４回　授業でやったことをまとめ自分の見たことアイディアを幅広くまとめて整理するよう努めること。 (高木素子) 植物の育ちの経過を記録する。
	展開	領域「環境」について知識理解を深め，進んで教材研究することができる。
成績評価	評価の基準	(野口初江) １．課題を適格にまとめているか。 ２．期限までに提出しているか。 ３．授業中にグループで相談してまとめ発表しようとしているか。 ４．幼児の発達と援助の方法を理解しているか。 (高木素子) ３回の植物の活用を通してのレポート提出する
	評価の方法	授業態度30%　課題提出40%　小テスト30%
教科書	書籍名	新保育シリーズ　保育内容　環境
	著者名	柴崎正行・赤石元子　編著
	出版社	光生館
	価格	1,800円+税
	ISBN・ISSN	978-4-332-70135-4
推薦図書等	書籍名	体験する　調べる　考える　領域「環境」
	著者名	田宮緑
	出版社	萌文書林
	価格	2,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89347-158-1
参考URL		
備考		野口12回，高木３回(植物をとおしての活動担当）。 授業時，課題提出，レポート提出，持参するものを指示するので，その都度準備すること。 植物の活動は汚れてもよい服装で参加すること。

保育内容演習（言葉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO204
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育内容演習（言葉）
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30013001　金曜日，2限 30013002　金曜日，3限
教室	Mスタジオ
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	コミュニケーション　言葉　人とのかかわり	
学生の到達目標	1．子どもの言葉の発達や特徴及び言葉を育てる保育者の援助について学ぶ。 2．領域「言葉」の意義と内容を理解する。 3．発達障害児の言葉のつまずきや援助の技法を学ぶ。	
授業内容	第1回	領域「言葉」を学ぶオリエンテーション（目標1）
	第2回	ノンバーバルコミュニケーション（目標1）
	第3回	言葉の育つ道筋（目標1・2）
	第4回	ことばの前のことば（０歳～１歳）（目標1・2・3）
	第5回	言葉の育ち道筋（１歳～２歳）（目標1・2・3）
	第6回	言葉の育ち道筋（２歳～３歳）（目標1・2・3）
	第7回	言葉の育つ道筋（３歳～４歳）（目標1・2・3）

	第8回	言葉の育つ道筋（４歳～５歳）（目標1・2・3）
	第9回	言葉を育てる教材（絵本）（目標1・2）
	第10回	言葉を育てる教材（紙芝居）（目標1・2）
	第11回	言葉を育てる教材（言葉あそび）（目標1・2）
	第12回	素話（テーマの探究）（目標1・2・3）
	第13回	素話（展開の技法）（目標1・2・3）
	第14回	素話（発表）（目標1・2・3）
	第15回	言葉のつまづきを援助する技法（目標1・2・3）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	ことばの発達について体系的な学習を積み重ね、授業で示す語句の意味や内容を理解しておく。
	復習	授業での内容を省察的に振返り、自己の実習体験等と重ね合わせて理解が深まるように記録しておく。
	展開	授業で学習したことを、グループ学習によって拡大理解・理解の定着を図り、発表し合うことで学習内容が更に深まるようにする。保育の多様性と普遍性を言葉を通して理解できるようにする。
成績評価	評価の基準	言葉のなりたちや発達についての理解と援助技術を習得できている。学習内容の定着が図られている。
	評価の方法	感想などの提出物（40%），授業態度（40%），発表内容（20%） （ただしこの比率は若干変更する可能性もある）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	※「推薦図書」は授業の中で伝える。	

保育内容演習（表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO302
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育内容演習（表現）
科目責任者	長嶺　章子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30013101　木曜日，2限 30013102　木曜日，1限
教室	音楽室，Mスタジオ
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	領域「表現」のねらい及び内容，幼児の表現活動指導法，音あそび，素材あそび，グループ活動	
学生の到達目標	1.領域「表現」のとらえ方やねらい・内容などを理解する。 2.乳幼児の発達を理解し，表現に関する指導法について学ぶ。 3.演習を通して、保育者となる自分自身の感性を高める。	
授業内容	第1回	授業概要・目標・方針など・「表現」とは何か（目標１）
	第2回	領域「表現」のねらいを理解する（目標１）
	第3回	音を素材としてとらえる活動（目標２,３）
	第4回	音さがしとサウンドマップづくり（目標２,３）
	第5回	サウンドマップ展覧会　（目標３）
	第6回	乳幼児期の感性と表現について　（目標１,２）

第7回	領域「表現」の内容および保育者の役割を理解する（目標１,２）
第8回	さまざまな素材を使った楽器製作(1)（目標１,２,３）
第9回	さまざまな素材を使った楽器製作(2)（目標１,２,３）
第10回	わらべうたのねらいと年齢別のあそびかた（目標１,２）
第11回	課題発表の打ち合わせと準備（目標２,３）
第12回	課題発表の打ち合わせと準備（目標２,３）
第13回	課題発表の打ち合わせと準備（目標２,３）
第14回	課題発表会（目標２,３）
第15回	課題発表会・まとめ（目標１,２,３）

予習・復習の内容（毎回45分程度）

予習	第1回～第15回（共通）　実践力を養う課題を出すので，グループで話し合ったり事前準備をしっかり行う。
復習	第1回～第15回（共通）　学習したことや振り返りをノートにまとめる。授業で取り上げた表現活動についてよく復習し，保育現場で役立てられるように準備する。
展開	身の回りの環境を子どもの視点でとらえたり，子どものいろいろな遊びを調べる。また，自身の感性を高めることに努める。

成績評価

評価の基準	１．領域「表現」のとらえ方やねらい・内容などを理解し，学んだことや自分の考えを文章で表現できる。 ２．乳幼児の発達について理解したうえで，表現領域に関する活動の計画を立て，準備できる。 ３．仲間と積極的に意見を交わし，計画をより良いものにするよう努めている。
評価の方法	グループ発表（40%）レポート（40%）意欲的な学習態度（20%）

教科書

書籍名	保育所保育指針解説書
著者名	厚生労働省編
出版社	フレーベル館
価格	205円
ISBN・ISSN	978457781246

書籍名	幼稚園教育要領解説
著者名	文部科学省
出版社	フレーベル館
価格	190円
ISBN・ISSN	9784577812457

推薦図書等

参考URL

備考

活動場所が複数あるので、毎回よく確認すること。活動に必要な素材や道具等は予めしっかりと確認して準備すること。

乳児保育Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO101
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	乳児保育Ⅰ
科目責任者	鈴木　のり子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30015201　木曜日，4限 30015202　木曜日，3限
教室	保育技術演習室，講義室9
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	乳児保育，生活，発達，保育，生活習慣	
学生の到達目標	1.乳児保育の理念と歴史的変遷および乳児保育の現状について理解する。 2.乳児の発達と保育内容，援助のあり方を学び、健やかな成長を支えるための保育者としての関わり方を理解する。 3.乳児の発育・発達を学び，人間形成の土台となる乳児期の重要性を理解する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション　乳児保育の意義(目標1)
	第2回	保育の基本・乳児保育の歩み　(目標1)
	第3回	乳児保育の場（保育所・認定こども園）(目標1)
	第4回	乳児保育の場（乳児院・家庭的保育）(目標1)
	第5回	乳児の発達と保育内容(６ヵ月未満)　(目標2,3)
	第6回	乳児の発達と保育内容(６ヵ月～1歳3か月未満)　(目標2,3)

第7回	乳児の発達と保育内容(1歳3か月～2歳未満) (目標2,3)
第8回	乳児の発達と保育内容(2歳児) (目標2,3)
第9回	演習　基本的生活習慣の獲得と保育（授乳・食事について）(目標2,3)
第10回	演習　基本的生活習慣の獲得と保育（排泄・睡眠について）（目標2,3）
第11回	身体機能の発達と保育（からだ）（目標2,3）
第12回	身体機能の発達と保育（手）（目標2,3）
第13回	対人関係の発達と保育（ことば）（目標2,3）
第14回	対人関係の発達と保育（人との関わり）（目標2,3）
第15回	乳児期の発達特徴の確認（目標2,3）

予習・復習の内容（毎回45分程度）

予習	第1回～第2回　周りにいる乳児と触れ合ったり，観察をしておく。教科書の第1章の該当箇所を読んで授業に臨む。 第3回～第4回　教科書第2章の該当箇所を読んで事前学習をする。 第5回～第8回　教科書第３章及び保育所保育指針総則（発達過程）の該当箇所を読んで事前学習をする。 第9回～第10回　教科書第5章の該当箇所を読んで事前学習をする。乳児を抱っこ，おんぶする経験をする。 第11回～第14回　教科書第４章の該当箇所を読んで事前学習をする。 第15回　前期の学びの確認をする。
復習	第1回～第15回・教科書，ノート，資料等授業内容の該当箇所を振り返り，不明な点を確認し事後学習する。 ・DVD視聴をした回は，感想を書いて翌週までに必ず提出する。
展開	１.日ごろから保育に関することに関心を持ち，図書や保育雑誌を読んだり調べ，情報収集をし知識や理解を深める。 ２.乳児の姿や行動に関心を向けたり，子どもに関する情報に注意を向ける。 ３.乳幼児に接する機会（近隣，親戚，ボランティア活動等）を積極的に持つようにし気が付いたこと，疑問に思ったことをノートに書きとめておく。

成績評価

評価の基準	１．乳児保育の理念と歴史的変遷および乳児保育の現状について理解することができたか。 ２.授業で学んだことやＤＶＤ視聴をとおして，乳児の発達と保育内容，援助のあり方の基本的な知識と技術を習得することができたか。 ３.乳幼児期における保育士の関わりと発育・発達の重要性を理解することができたか。
評価の方法	提出物等の提出状況ならびにその内容20%，授業への意欲，態度10%，期末試験70%等により総合的に評価する。

教科書

書籍名	乳児の生活と保育
著者名	松本　園子 編著
出版社	ななみ書房
価格	税込2,268円
ISBN・ISSN	978-4-903355-25-2
書籍名	保育所保育指針解説書

著者名	厚生労働省 著
出版社	フレーベル館
価格	税込205円
ISBN・ISSN	978-4-577-81242-6

推薦図書等

参考URL

備考

乳児保育Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO205
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	乳児保育Ⅱ
科目責任者	鈴木　のり子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30015301　木曜日，3限 30015302　木曜日，4限
教室	保育技術演習室，講義室9
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	健康と安全，環境，遊び，計画と記録，連携	
学生の到達目標	１.乳児保育Ｉを踏まえ，乳児保育に必要な知識や技術をさらに習得し保育士としての自覚を持つと共に実践力を身につける。 ２.乳児保育の計画，記録の必要性を理解するとともに保育士の専門性について理解を深める。 ３.保育士間の連携及び，保護者や関係機関との連携を図ることの重要性とともに乳児保育の現状・課題について理解する。	
授業内容	第1回　乳児の健康と安全　(目標１)	
	第2回　生活と遊びの環境　(目標１)	
	第3回　演習　手遊び・ふれあい遊び　(目標１)	
	第4回　演習　手作り玩具の作成　(目標1)	
	第5回　演習　絵本の読み聞かせ(目標1)	

第6回	演習　手作り玩具の作成(目標1)
第7回	気になる乳児の行動とその理解(目標１)
第8回	乳児保育の計画と記録(保育過程・指導計画)（目標２）
第9回	乳児保育の計画と記録(記録と評価)（目標２）
第10回	演習　乳児保育の実際（グループ別研修）（目標1,３）
第11回	保育者のあり方（保育士の専門性）（目標１,３）
第12回	保育者間の連携（目標３）
第13回	保育所と家庭、地域との連携(目標３)
第14回	乳児保育の今後の課題　(目標３)
第15回	乳児保育を支える保育者としての自覚と責任　(目標１,３)

予習・復習の内容
（毎回45分程度）

予習

第1回　自分が乳児期にかかった病気を調べておく。
保育所保育指針第5章を読んで事前学習をする。
第2回　保育の環境に関する資料や保育所保育指針総則保育の環境を読んで事前学習をする。
第3回　皆の前で発表する手遊びを練習して授業に臨む
第4回　どんな乳児用玩具があるかを調べる。手作り玩具を作るにあたり何を描くのか考えてくる。
第5回　自分が選んだ絵本の読み聞かせを練習し臨む。
第6回　手作り玩具の絵柄を考えてくる。先に作った手作り玩具の完成品を発表するため練習をして臨む。
第7回　気になる子どもとはどんなケースがあるか調べておく。
第8回～第9回　教科書第7章の該当箇所を読んで事前学習をする。
保育所保育指針第4章の該当箇所を読んでおく。
第10回　保育所現場を実際見学，観察しどんな学びがあったかまとめておく。
第11回　保育現場における保育士のあり方をまとめておく。
第12回～第13回　保育所保育指針の該当箇所を読んで事前学習をする。
第14回　教科書第8章を読んで事前学習をする。
第15回　後期の学びの確認をする。

復習

第1回～第2回　教科書，保育所保育指針，資料等授業内容の該当箇所を振り返り，不明な点を確認し事後学習をする。
第3回～第6回　各回とも課題をまとめ期限厳守で提出する。
第7回～第14回　教科書，保育所保育指針，資料等授業内容の該当箇所を振り返り，不明な点を確認し事後学習をする。
第15回　後期の学びの再認識をする。

展開

１.日ごろから保育に関することに関心を持ち，図書や保育雑誌を読んだり調べ，知識や理解を深める。
２.乳幼児に接する機会を作り，絵本の読み聞かせや手遊びをする場を積極的に設ける。（ボランティア活動，近隣，親戚等）

成績評価

評価の基準

１.授業内容が理解でき，また，基本的な知識と技術を習得することができたか。
２.乳児保育の計画の過程や記録の必要性を理解するとともに，保育士の専門性について理解し自分の考えをまとめ，深めることができたか。
３.保育士間の連携，保護者・関係機関との連携の重要性と乳児保育の現状，課題について理解をすることができたか。

評価の方法

提出物等の提出状況ならびにその内容20%，授業への意欲，態度10%，期末試験70%等により総合的に評価する。

教科書

書籍名　　乳児の生活と保育

著者名	松本園子編著
出版社	ななみ書房
価格	2,100円+税
ISBN・ISSN	ISBN978-4-903355-25-2

書籍名	保育所保育指針解説書
著者名	厚生労働省
出版社	フレーベル館
価格	190+税
ISBN・ISSN	ISBN978-4-577-81242-6

推薦図書等

参考URL

備考

障害児保育Ⅰ（障害児の保育・教育法）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害児保育Ⅰ（障害児の保育・教育法）
科目責任者	佐藤　愼二
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30012501　火曜日，1限 30012502　火曜日，4限
教室	大講義室 中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	保育，障害，個と集団	
学生の到達目標	1.障害についての基本的な理解をする。 2.障害に応じた基本的な支援方法を理解する。	

授業内容

第1回	障害の種類について（目標１）
第2回	知的障害について（目標１）
第3回	知的障害のある子どもの支援について（目標２）
第4回	肢体不自由のある子どもと支援について（目標1,2）
第5回	聴覚障害(難聴)のある子どもと支援について（目標1,2）
第6回	自閉症について（目標1）
第7回	自閉症のある子どもと支援について（目標2）

	第8回	ＡＤＨＤについて（目標1）
	第9回	ＡＤＨＤのある子どもと支援について（目標2）
	第10回	障害のある子どもと絵本の読み聞かせについてⅠ（目標2）
	第11回	障害のある子どもと絵本の読み聞かせについてⅡ（目標2）
	第12回	障害のある子どもと手遊びについてⅠ（目標2）
	第13回	障害のある子どもと手遊びについてⅡ（目標2）
	第14回	障害のある子どもとゲームⅠ（目標2）
	第15回	障害のある子どもとゲームⅡ（目標2）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第２回～第１５回　毎時間行う次時の予告に基づいて，図書館の資料等で関連の内容を確認すること。
	復習	第１回～第１５回　毎回配付される資料を基に，ノートの再整理と確認を行うこと。
	展開	本講義で学んだ支援を，実習などで生かす。
成績評価	評価の基準	1.障害についての基本的な理解をしたか。 2.障害に応じた基本的な支援方法を理解できたか。
	評価の方法	毎回実施する小テスト８０％，授業への参加姿勢２０％
教科書	書籍名	ママとパパと先生のための子育てハートホッとメッセージ５０
	著者名	佐藤愼二
	出版社	日本文化科学社
	価格	１００円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・５人ごとの班を構成し演習を中心に行う。	

障害児保育Ⅱ（障害児保育・教育と福祉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害児保育Ⅱ（障害児保育・教育と福祉）
科目責任者	堀　彰人
担当教員	相磯　友子 根本　曜子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30101101　金曜日，2限 30101102　金曜日，1限
教室	講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	障害，幼児，教育，福祉	
学生の到達目標	1.障害のある幼児・児童に関わる福祉と教育の場，それぞれの内容や役割について理解を深める。 2.障害のある幼児・児童の教育における社会的，制度的，経営的事項について学ぶ。	
授業内容	第1回	障害児のある子どもの生活の場－教育と福祉（目標1） 担当教員: 堀　彰人
	第2回	障害児のある子どもの生活の場－教育と福祉（目標1） 担当教員: 堀　彰人

	第3回	「施設から学校へ」の歴史的経緯と制度上の変遷（目標1） 担当教員: 堀　彰人
	第4回	「施設から学校へ」の歴史的経緯と制度上の変遷（目標1） 担当教員: 堀　彰人
	第5回	「施設から学校へ」の歴史的経緯と制度上の変遷（目標1） 担当教員: 堀　彰人
	第6回	保育所・幼稚園・通園施設・特別支援学校幼稚部等の制度上の関係と社会的機能・役割。それぞれの連携と家族支援のあり方（目標2） 担当教員: 相磯　友子
	第7回	保育所・幼稚園・通園施設・特別支援学校幼稚部等の制度上の関係と社会的機能・役割。それぞれの連携と家族支援のあり方（目標2） 担当教員: 相磯　友子
	第8回	特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室の社会的機能・役割（目標2） 担当教員: 相磯　友子
	第9回	特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室の社会的機能・役割（目標2） 担当教員: 相磯　友子
	第10回	特殊教育から特別支援教育へ（目標1） 担当教員: 相磯　友子
	第11回	障害児の教育と福祉を支える社会福祉制度（目標2） 担当教員: 根本　曜子
	第12回	障害児の教育と福祉を支える社会福祉制度（目標2） 担当教員: 根本　曜子
	第13回	教育と福祉に通じる理念－ノーマライゼーションとインクルージョン（目標1,2） 担当教員: 根本　曜子
	第14回	教育と福祉に通じる理念－ノーマライゼーションとインクルージョン（目標1,2） 担当教員: 根本　曜子
	第15回	障害のある子どもを取り巻く生活の場や社会における課題（目標1,2） 担当教員: 根本　曜子
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回～第１５回　各回のテーマに関する資料，または配付資料や参考文献にあらかじめ目を通し，疑問点等を明らかにしておく。
	復習	第１回～第１５回　授業のポイントについて，整理をする。毎回の小テストの問題と解答を，配付資料や参考文献などをもとに確認する。
	展開	障害児の教育・福祉に関する最新動向について，最新の統計等を参考に学習を深める。
成績評価	評価の基準	１.障害のある幼児児童に関わる福祉と教育の場，それぞれの内容や役割に関する理解度。 ２.障害のある幼児・児童の教育における社会的，制度的，経営的事項についての定着度。
	評価の方法	小テスト20%，レポート・発表30%，期末テスト50%の評点により総合的に評価する。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

教育の方法と技術

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP203
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	教育の方法と技術
科目責任者	堀　彰人
担当教員	漆澤　恭子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30101201　金曜日，3限 30101202　金曜日，2限
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	教育要領，教育課程，授業設計，評価，情報機器	
学生の到達目標	教師として必要な教育の方法，技術の基礎について，知識を学ぶとともに，演習を通して実践的に基礎的なスキルを身につける。	
授業内容	第1回	教育要領，学習指導要領と教育課程 担当教員: 担当教員全員
	第2回	単元の開発，授業設計，授業研究の意義と方法，指導案 担当教員: 担当教員全員
	第3回	模擬授業①　指導者の振る舞いや伝え方 担当教員: 担当教員全員
	第4回	模擬授業②　ＴＴの役割　自然な支援 担当教員: 担当教員全員

	第5回	模擬授業③　子ども同士の関わり　学級経営と授業 担当教員：担当教員全員
	第6回	模擬授業④　「遊び」と主体的な学び 担当教員：担当教員全員
	第7回	模擬授業⑤　情報機器の活用 担当教員：担当教員全員
	第8回	模擬授業⑥　評価と授業改善 担当教員：担当教員全員
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第１回～第２回 教育要領を概観し，教育課程のあらましを把握しておく。 第３回～第８回 各回の主テーマについて，基礎的事項を調べておく。
	復習	第１回～第２回 授業で学んだことをもとに，教育要領を再度，確認する。 第３回～第８回 各回の模擬授業で学んだことを振り返り，整理するとともに，それぞれの主テーマを模擬授業の具体的な取組と関連付けて，理解を深める。 ※模擬授業担当となった学生は，指導案，教材等を準備する。
	展開	幼稚園等での実習やボランティア等での体験の中で，さらに幼児・児童の具体的な姿を通して理解を深め，各自の新たな課題をもつ。
成績評価	評価の基準	教師として必要な教育の方法や技術の基礎に関する知識の理解度，実践的スキルの定着度。
	評価の方法	発表内容70%，協議等での授業参加の姿勢・意欲15%，指導案等15%を考慮して評価する。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

社会的養護内容

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO303
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	社会的養護内容
科目責任者	坂口　洋
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30011401　月曜日，1限 30011402　月曜日，2限
教室	講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	アセスメント力，自立支援計画，子どもに応じた関わり，関係性	
学生の到達目標	1．子どもの社会的養護の実態（現代の社会状況・児童福祉施設に入所している子どもの暮らし）について理解する。 2．事例検討や援助技術の演習等を通して，子ども理解の方法と現場で役に立つ具体的支援の方法を学ぶ。 3．これからの子どもの社会的養護のあり方と子どもを養育する上での大切なことを自ら考察し説明できる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション 自己理解を深める，倫理，責務（目標２）
	第2回	施設養護[乳児院，児童養護施設，母子生活支援施設]の特性と実際①（目標１,３）
	第3回	施設養護[情緒障害児短期治療施設，児童自立支援施設，障害児施設]の特性と実際②（目標１,３）
	第4回	家庭養護[里親制度，ファミリーホーム，養子縁組制度]の特性と実際③（目標１,３）

第5回	保育士の専門性（知識・技術）①：[怒鳴らないしつけ方，わかりやすく伝えよう]（目標２）
第6回	保育士の専門性（知識・技術）②：[良い結果，悪い結果]（目標２）
第7回	保育士の専門性（知識・技術）③：[効果的なほめ方，怒りを爆発させない方法]（目標２）
第8回	保育士の専門性（知識・技術）④：[虐待された子どもへの対応，親子関係の調整]（目標２,３）
第9回	自立支援計画の作成のためのアセスメント①：[子どもの状態像を把握する]（目標２,３）
第10回	自立支援計画の作成のためのアセスメント②：[子どもの状態像の背景要因を把握する]（目標２,３）
第11回	自立支援計画の作成のためのアセスメント③：[知見や理論に即して検討し，援助方針を立てる]（目標２,３）
第12回	日常生活支援に関する事例分析（目標２,３）
第13回	心理的支援に関する事例分析（目標２,３）
第14回	自立支援に関する事例分析（目標２,３）
第15回	社会的養護の課題と展望ー施設の小規模化，職員体制，児童の権利擁護（目標１,３）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回　保育士の責務・倫理を念頭において，自分の保育者としての適性についてに考えておく。 第2回～第4回（共通）　学習内容について教科書の該当するところを読み，演習への準備をする。 第5回～第8回（共通）配布資料をよく読んで，演習内容を実践してみる。 第9回～第15回（共通）　学習内容について配布資料や教科書の該当するところを読み，演習への準備をする。
	復習	第1回～第4回（共通）教科書や配布資料を見なおし，重要なところを確認し，他者に説明できるようにする。 第5回～第7回（共通）授業で実践したこと（ロールプレイの課題）をすべて自分自身で，または友人同士でやってみる。 第8回～第15回（共通）教科書や配布資料を見なおし，重要なところを確認し，他者に説明できるようにする。
	展開	・授業で学んだことを実習や子どもとの関わりの中で実践してみる。 ・社会的養護の問題に日常的に関心を持ち，関連する報道等を見聞きしておく。

成績評価	評価の基準	１．社会的養護の現状（社会状況と児童福祉施設の状況）に関する理解度，問題意識がもてること。 ２．子どもの状態を理解する方法の獲得度，その理解に基づいた具体的な支援の実践力。 ３．社会的養護に関して自分なりの考えを持てること，社会的養護の必要な子どもへの支援について自分の考えをもてること。
	評価の方法	期末試験60% リフレクションペーパー20% 授業中の発表・演習への関与等20%

教科書

書籍名	社会的養護内容（基本保育シリーズ⑱）
著者名	相澤仁・村井美紀（編）
出版社	中央法規出版

	価格	2000円（税別）
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-8058-5218-7

推薦図書等	書籍名	むずかしい子を育てるペアレント・トレーニング
	著者名	野口　啓示
	出版社	明石書店
	価格	1600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7503－2934－5
	書籍名	事例で学ぶ社会的養護児童のアセスメント
	著者名	増沢高
	出版社	明石書店
	価格	2000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7503-3504-9

参考URL	http://www.mhlw.go.jp/ 厚生労働省HP→子ども・子育て支援→施策情報：社会的養護
備考	・講義よりもグループディスカッションや演習を取りいれた授業を行うので，積極的に参加すること。自分で考えて発言し，他のメンバーの意見を聞き，もう一度考えて自分の考えや意見を確かなものにする。（演習への参加態度，自分でどのくらい考えられたかを評価） ・他の科目で得られた知識・技術をフル活用して演習等に取り組む。 ・授業により資料を配布する。 ・授業ごとにリフレクションペーパーの提出を求める。 ・保育士養成の目標をよりよく達成するために内容変更を検討することもある。

保育相談支援

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO206
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育相談支援
科目責任者	古川　繁子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30110201　月曜日，2限 30110202　月曜日，4限
教室	講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	保護者支援，相談支援の方法，事例研究，演習	
学生の到達目標	1.保育相談支援の意義と原則について，保護者支援の基本を理解する。 2.現代的な子ども・保護者を取り巻く状況について理解するとともに，保育相談支援の必要性について学ぶ。 3.実際的な場面を通して，具体的対応方法について実践的に学び，保護者への相談支援技術を身につける。	
授業内容	第1回	オリエンテーション　現代の子ども・子育てを取り巻く社会状況の理解（目標２）
	第2回	保育相談支援とは①　保育相談支援の意義と原則（目標１）
	第3回	保育相談支援とは②　保育相談支援の実際（目標１,２）

第4回	保育相談支援とは③　実習を通して保育相談支援を考える（目標３）
第5回	保育相談支援の基本理念①　子どもの最善の利益と福祉（目標１）
第6回	保育相談支援の基本理念②　信頼関係を基本とした対人援助の原則（目標３）
第7回	保育相談支援の基本理念③　子ども・保護者のエンパワメント（目標２）
第8回	保育相談支援の展開①　保育相談支援の展開過程（目標２,３）
第9回	保育相談支援の展開②　アセスメントの実施（目標２,３）
第10回	保育相談支援の展開③　プランニングの実施（目標２,３）
第11回	保育相談支援の展開④　モニタリングおよび個別支援計画の理解（目標２,３）
第12回	保育相談支援の実際①　保育における苦情と対応の事例を通して（目標３）
第13回	保育相談支援の実際②　子育てに自信のない保護者への対応事例を通して（目標３）
第14回	保育相談支援の実際③　発達に遅れのある子どもと保護者への対応事例を通して（目標３）
第15回	保育相談支援の実際④　配慮の必要な子ども・保護者への支援事例を通して（目標３）

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回～15回　授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。
	復習	第1回～15回　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 日々の授業において課題レポートが課されるので，期限までに提出すること。
	展開	毎回レポートの提出があるため欠席の内容に務めること。 現代の子ども・子育てを取り巻く社会状況について，関連する図書や報道から理解を深めておくこと。

成績評価	評価の基準	到達目標1,2,3について，演習科目のため試験はないが，授業の参加とその中で提示されるレポート内容をもって評価する。
	評価の方法	レポート８０％，授業への意欲１０％，その他加点１０％

教科書	書籍名	保育相談支援ワークブック
	著者名	古川繁子、田村光子　他
	出版社	学文社
	価格	2,052円(税込み)
	ISBN・ISSN	978-4-7620-2600-3 C3036

推薦図書等

参考URL

備考

レクリエーション理論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO304
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	レクリエーション理論
科目責任者	中島　悠介
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30012201　水曜日，2限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	レクリエーション支援，現代社会とレクリエーション，レクリエーション事業	
学生の到達目標	1．レクリエーション活動の意義を理解する。 2．レクリエーション支援のための指導理論を理解する。 3．対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を養う。	
授業内容	第1回	オリエンテーション,レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史①（目標1）
	第2回	レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史②,これからのレクリエーション運動（目標1）
	第3回	レクリエーション支援の考え方（目標2）
	第4回	レクリエーション・インストラクターの役割（目標2）
	第5回	ライフスタイルとレクリエーション①（乳幼児期から青年期）（目標2,3）
	第6回	ライフスタイルとレクリエーション②（青年期から高齢期）（目標2，3）

	第7回	高齢社会の課題とレクリエーション（目標2,3）
	第8回	少子化の課題とレクリエーション（目標2,3）
	第9回	地域とレクリエーション（目標2,3）
	第10回	レクリエーション事業とは（目標2）
	第11回	事業の展開方法（目標2,3）
	第12回	事業計画Ⅰ（ＰＤＣＡサイクルに基づく計画立案）（目標3）
	第13回	事業計画Ⅱ（計画立案と広報活動）（目標3）
	第14回	レクリエーション活動の安全管理（目標2,3）
	第15回	まとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～4回　レクリエーションの概念について詳しく調べておくこと。 第5回～9回　各世代の発達課題について詳しく調べておくこと。 第10回～15回　レクリエーション事業の具体例を調べておくこと。
	復習	第1回～4回　自らのレクリエーションについて明確にし，書き出しておくこと。 第5回～9回　各世代に合わせたレクリエーションの展開方法について復習すること。 第10回～15回　レクリエーション事業の展開例を挙げ，自らの見解を書き出すこと。
	展開	目的に合ったレクリエーションプログラムを作れるように，各レクリエーション材の特徴と効果を調べ，知識・理解を深めること。
成績評価	評価の基準	１．レクリエーション活動の意義の理解度をテスト，ワークシートを用いて評価する。 ２．レクリエーション支援のための指導理論の理解度を，テスト，ワークシートを用いて評価する。 ３．対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を，テスト，ワークシートを用いて評価する。
	評価の方法	試験（60～70%）,ワークシート（20～30%）,授業態度（10～20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	レクリエーション支援の基礎
	著者名	－
	出版社	日本レクリエーション協会
	価格	2,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-931180-81-9
参考URL		
備考		

カウンセリングの基礎と方法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SCO102
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	カウンセリングの基礎と方法
科目責任者	田村　光子
担当教員	大木　みわ
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30011701　水曜日，3限 30011702　水曜日，4限
教室	多目的演習室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	傾聴，幼児理解，親支援	
学生の到達目標	1.カウンセリングの基礎を体験的に学び，日常の人間関係に活用できるようになる。 2.保育者に求められる相談支援にむけた応用が可能になる。 3.幼児への理解を深めるための具体的な方法を身につける。	
授業内容	第1回	オリエンテーション　授業内容，目的，進め方，評価についての理解（目標）
	第2回	幼児・保護者理解の基礎（１）幼児理解の枠組み 幼児・保護者理解の基礎（２）幼児理解の実際（目標）

第3回	幼児・保護者理解の基礎（３）保護者支援の課題（目標）
第4回	幼児・保護者理解の基礎（４）保護者支援の実際（目標）
第5回	カウンセリングの基礎（１）出会い体験（目標）
第6回	カウンセリングの基礎（２）自己理解・自己開示（目標）
第7回	カウンセリングの基礎（３）基本姿勢「聴く・話す」の体験（目標）
第8回	カウンセリングの基礎（４）シェアリング（目標）
第9回	相談支援の方法（１）ピアヘルピングとは（目標　）
第10回	相談支援の方法（２）ピアヘルピングの過程（目標）
第11回	相談支援の方法（３）ピアヘルピングの技法（１）（目標）
第12回	相談支援の方法（４）ピアヘルピングの技法（２）（目標）
第13回	幼児・保護者支援の方法（１）小グループによる相談シミュレーション（目標）
第14回	幼児・保護者支援の方法（２）小グループによる相談シミュレーション（目標）
第15回	幼児・保護者支援の方法（３） 反省に基づくまとめ（目標）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～１０回　カウンセリングの基本技法テキストの対応する項を読む（Ｐ．１～Ｐ．６４） 「自分について」「気になる人間関係」「カウンセリングの技法」から１つを選び，毎回各班１名（全９名）が発表する。 第１１回～１２回　各回ごとに配布する資料を各自が収集した事例（幼児期の気になる行動）について班内で発表し合う。 第１３回～１４回　各回ごとに配布する資料と各自が収集した事例（親の育児不安に関する事例）について班内で発表し合う。 第１５回　実践への課題，自己理解に基づいた各自の実践への課題について発表，シェアリング。 まとめを提出する。
	復習	第１回～１５回　前回の中心課題について再演確認する。
	展開	回ごとに各班が選定した課題のロールプレイングを実施しシェアリングの要点を各自が提出する。

成績評価	評価の基準	学習の達成目標に対する到達の度合を評価する。
	評価の方法	授業5回ごとに計3回試験(90%)をし，授業への参加態度(10%)を合わせ総合的に評価する。

教科書	書籍名	ピアヘルパーハンドブック
	著者名	日本教育カウンセラー協会 編
	出版社	図書文化
	価格	税込1,620円
	ISBN・ISSN	978-4-8100-1343-6

推薦図書等	書籍名	発達（季刊）
	著者名	－
	出版社	ミネルヴァ書房

価格	－
ISBN・ISSN	03883787

書籍名	こころの科学
著者名	－
出版社	日本評論社
価格	－
ISBN・ISSN	09120734

書籍名	そだちの科学
著者名	－
出版社	日本評論社
価格	－
ISBN・ISSN	9784535907089

参考URL

備考

早期相談・連携支援

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP302
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	早期相談・連携支援
科目責任者	佐藤　慎二
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	30017001　（前期）月曜日，4限 （後期）月曜日，5限
教室	ＰＣ室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	「気づき」，早期支援，連携，保護者の思い	
学生の到達目標	1.特に，自閉症，ＡＤＨＤについての気づきと支援のポイントを理解する。 2.保護者支援に関する地域にある相談機関とその役割を把握し，その活用・連携のあり方を理解する。 3.就学に至る保護者との面談のポイントを理解する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション－発達障害とは何か？(目標1,2)
	第2回	保育現場で発達障害に気づくポイント(目標1)
	第3回	保育現場で発達障害を支援するポイント(目標1)
	第4回	保育現場と保健師との連携について(目標1,2)

	第5回	保育現場と発達障害者支援センターとの連携について(目標1,2)
	第6回	保育現場と児童相談所・児童発達支援センターとの連携について(目標1,2)
	第7回	保育現場と特別支援学校（コーディネーター），その他相談機関との連携について(目標1,2)
	第8回	就学先及び入学・入級までの流れについて(目標3)
	第9回	教育支援委員会の役割の理解とその連携について(目標3)
	第10回	「気になる」子どもの保護者の思いに触れる(目標2)
	第11回	「気になる」子どもの保護者との面談のポイント(目標2)
	第12回	「気になる」子どもの保護者との面談の進め方（１）(目標2)
	第13回	「気になる」子どもの保護者との面談の進め方（２）(目標2)
	第14回	診断のある子どもの保護者との連携のポイント(目標2)
	第15回	診断のある子どもの保護者との面談の進め方・まとめ(目標2)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回　早期支援の期間について調べる。 第２回～第１４回　相談機関のウェブページ等を毎回提示するので，その概要を必ず確認すること。
	復習	第１回～第１５回　毎回配布するプリントのテーマに関するウェブページを複数確認し，内容への理解を深めること。
	展開	実習先・ボランティア先で出会う「気になる」子どもの様子とその支援についてレポートにまとめること。
成績評価	評価の基準	1.自閉症，ＡＤＨＤについての気づきと支援のポイントを理解すること。 2.保護者支援に関する地域にある相談機関とその役割を把握し，その活用・連携のあり方を理解すること。 3.就学に至る保護者との面談のポイントを理解すること。
	評価の方法	毎回のミニテスト（５０%）レポート(３０%)，授業への参加態度(２０%)を踏まえ，総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害児の生活

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP101
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害児の生活
科目責任者	堀　彰人
担当教員	山本　邦晴 根本　曜子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30013501　火曜日，5限 30013502　火曜日，3限
教室	中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	生活，保育，知的障害，発達障害	
学生の到達目標	1.知的障害教育の教科「生活」の指導法について，学生自らテーマを定め発表する。 2.小学校学習指導要領の生活科と特別支援学校小学部（知的障害）学習指導要領の生活科の目標や内容に関する共通点と違いについて理解する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション 担当教員: 担当教員全員
	第2回	２つの教科「生活」（目標2） 担当教員: 堀　彰人
	第3回	小学校の教科「生活」（目標2） 担当教員: 堀　彰人

第4回	知的障害特別支援学校の「生活」（目標2） 担当教員: 山本　邦晴
第5回	それぞれの指導内容・指導法の特徴（目標2） 担当教員: 堀　彰人・山本　邦晴
第6回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1） 担当教員: 担当教員全員
第7回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1） 担当教員: 担当教員全員
第8回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1） 担当教員: 担当教員全員
第9回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1） 担当教員: 担当教員全員
第10回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1） 担当教員: 担当教員全員
第11回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1） 担当教員: 担当教員全員
第12回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1） 担当教員: 担当教員全員
第13回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1） 担当教員: 担当教員全員
第14回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1） 担当教員: 担当教員全員
第15回	生活科の指導計画と展開に関する学生による発表（目標1） 担当教員: 担当教員全員

予習・復習の内容 **（毎回45分程度）**	予習	第１回～第５回　保育指針や幼稚園教育要領，学習指導要領等の関連個所に目を通す。また，配付資料や文献のある場合は，目を通し，疑問点などを確認しておく。 第６回～第１５回　発表者は参考文献等をもとに，発表の準備をする。
	復習	第１回～第５回　授業のポイントを整理する。 第６回～第１５回　発表を受けて参考になった点，疑問点などをまとめ，資料をあたったり，意見交換したりして改善案を考える。
	展開	特別支援学校等での実習等を通し，児童生徒の適切な支援について理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.「生活科」の指導方法に関する知識の理解度 2.小学校並びに特別支援学校のそれぞれの「生活科」における目標や内容に関する理解度
	評価の方法	発表内容70%，討論等での授業参加の姿勢・意欲15%，レポート課題15%を考慮して評価する。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等	書籍名	遅れた子どもの指導　基本生活百科
	著者名	小出進・山口薫・宮崎直男
	出版社	教育出版
	価格	4,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-316-33740-1

書籍名	日常生活の指導の手引き
著者名	文部省
出版社	慶応通信
価格	922円+税
ISBN・ISSN	978-4-7664-0556-9

参考URL

備考

保育の表現技術Ⅰ（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP101
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（身体表現）
科目責任者	松原　敬子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30013802　木曜日，3限 30013801　木曜日，4限
教室	体育館，中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	身体表現，保育，あそび	
学生の到達目標	1.子どものあそびを豊かに展開するための知識や技術を習得する。 2.身体表現に関する知識や技術を習得する。 3.表現活動に係る教材作成や活用及び具体的展開のための技術を習得する。	

授業内容

第1回	オリエンテーション（目標１）
第2回	仲間づくりとその指導ポイントの確認（目標１）
第3回	集団あそび（ゲーム）と指導ポイントの確認（目標１）
第4回	からだを使ったあそびと指導ポイントの確認 ①（２人組）（目標１,２）
第5回	からだを使ったあそびと指導ポイントの確認 ②（グループ）（目標１,２）
第6回	フォーク・ダンスの基本用語と実践（目標２）

第7回	リズムあそびと指導ポイントの確認 ①（目標２）
第8回	リズムあそびと指導ポイントの確認 ②（２人組）（目標２）
第9回	リズムあそびと指導ポイントの確認 ③（３人組・グループ）（目標２）
第10回	親子のふれあいあそびと指導ポイントの確認①（目標３）
第11回	親子のふれあいあそびと指導ポイントの確認②（目標３）
第12回	身近なもの（タオル）を使ったあそびと指導ポイントの確認（目標３）
第13回	身近なもの（新聞紙）を使ったあそびと指導ポイントの確認（目標３）
第14回	小グループ活動による保育シミュレーションと反省（目標３）
第15回	身体表現に関するまとめ（目標３）

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回～第3回　伝承あそびについて調べてくること。 第4回～第5回　からだを使ったあそびを3つ調べてくること。 第6回～第9回　からだを使ったリズムあそびを3つ調べてくること。 第10回～第11回　親子のふれあいあそびを3つ調べてくること。 第12回～第13回　身近なもの（タオル・新聞紙）を使ったあそびを3つずつ調べてくること。 第14回～第15回　課題について調べてくること。
	復習	第1回～第15回（共通）毎回授業で実践したことを実技ノートに図解し，要旨をまとめておくこと。
	展開	実際に保育現場で活用できるよう，知識や技術を身につける。

成績評価	評価の基準	1.授業目標についての理解と定着度。 2.授業の取り組みの姿勢や成果を総合的に加味して評価する。
	評価の方法	実技試験（50%），実技ノート（30%），授業への受講意欲（20%）

教科書	書籍名	幼児体育　理論と実践（初級）
	著者名	日本幼児体育学会編
	出版社	大学教育出版
	価格	2,400円+税
	ISBN・ISSN	978-4-86429-211-5

推薦図書等	書籍名	幼児体育　基礎理論と指導の方法
	著者名	前橋明編者
	出版社	樹村房
	価格	1,900円+税
	ISBN・ISSN	978-4-88367-122-9

参考URL

備考

服装：トレーニングウェアー・上履き
・運動時に支障がないよう長い髪は束ねる。
・アクセサリーは外す。
・長い爪は危険になるので短く切る。

保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP102
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	長嶺　章子
担当教員	石井　恵子 柴辻　純子 石橋　葉子 水村　明子 山中　和穂 石井　博子 糸日谷　章子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30013201　月曜日，1限 30013202　月曜日，2限
教室	音楽室，セミナー1，セミナー2，ピアノ演習室1，ピアノ演習室2，ピアノ演習室3，講義室5
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	ピアノ演奏法，音楽基礎理論	
学生の到達目標	1.保育に必要なピアノ演奏技術を身につける。 2.音楽の基礎的な理論を学び，楽譜に書き表されていることを理解できるようにする。 3.幼児の発達を踏まえながら，保育のあそび歌を学ぶ。	

授業内容	第1回	授業概要・達成目標 ／ピアノを弾く時の心構えや楽器についての基礎知識 担当教員: 担当教員全員
	第2回	４分音符と８分音符の音楽　（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
	第3回	反復記号と演奏順序（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
	第4回	拍子と拍子記号（目標１,２,３） 担当教員: 担当教員全員
	第5回	さまざまなリズムの音楽（目標１,２,３） 担当教員: 担当教員全員
	第6回	簡単な動きを伴った音楽（目標１,３） 担当教員: 担当教員全員
	第7回	ヘ音記号を理解する　（目標１,２,３） 担当教員: 担当教員全員
	第8回	ハ長調の音階と音程（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
	第9回	伴奏法・中間まとめ（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
	第10回	ハ長調の主要三和音と属七の和音（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
	第11回	ト長調・ヘ長調の音階と音程（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
	第12回	ト長調・ヘ長調の主要三和音と属七の和音（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
	第13回	二長調の音階と音程（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
	第14回	二長調の主要三和音と属七の和音（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
	第15回	課題曲の説明・まとめ（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第1回～第15回（共通）　音楽理論の小課題を予習したり、課題曲が毎回数曲は合格するよう主体的に練習する。
	復習	第1回～第15回（共通）　授業で指摘されたことを確認し，練習方法を工夫し，確実に仕上がるよう努力する。合格した曲を復習し，友達と発表し合ったり家人に聞いてもらう。
	展開	自分の技術で弾ける曲をテキストの中から選び，自発的に練習する。
成績評価	評価の基準	1.各自の進度に合わせたピアノ課題曲の達成度・習熟度。 2.音楽の基礎的理論を理解し，保育の音楽表現活動で必要な楽譜を自分で読み、演奏することができる。 3.日ごろから主体的かつ意欲的に練習に取り組んでいる。
	評価の方法	筆記試験(20%)　実技試験(20%)　課題曲達成度及び習熟度(30%)意欲的な学習態度(30%)

教科書

書籍名	おとなのためのバイエル
著者名	坂東　貴余子　著
出版社	ドレミ楽譜出版

	価格	1,200円＋税
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
	書籍名	うたっておどっておもちゃ箱　1　（改訂版）
	著者名	鈴木 恵津子 編著
	出版社	教育芸術社
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
推薦図書等	書籍名	学生の楽典教室
	著者名	坪野　春枝
	出版社	ケイ・エム・ビー
	価格	900円＋税
	ISBN・ISSN	4773214031
参考URL		
備考	科目の性質上、各回に示した内容は単回で終了しない。各自の進度に応じながら、すべての内容を継続的かつ複合的に学習していく。	

保育の表現技術Ⅰ（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP103
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（造形表現）
科目責任者	吉野　泰男
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30013301　月曜日，5限 30013302　火曜日，5限
教室	被服工芸室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	造形表現，基礎技能，指導法考察	
学生の到達目標	1.乳幼児期の造形活動に関して，授業で扱った基礎的な内容や技能を理解する。 2.子どもの視点，興味，関心，発達段階をふまえ，素材や表現方法を工夫し，新たな造形活動を創造する感性を養う。 3.制作を通じて子どもの創造活動を発想し，具体的な指導方法や支援を考え，実践的な力を養う。	
授業内容	第1回	オリエンテーション ワークシート課題①創造を楽しむ心 ワークシート課題②＋粘土制作　自然や身近なものに関わり子どもの視線になって(目標１,２)
	第2回	さまざまな技法の基礎を学ぼう１ 色の混色，グラデーション，デカルコマニー，ドリッピング，にじみ(目標１,２)
	第3回	さまざまな技法の基礎を学ぼう２ ステンシル，スクラッチ，バチック(目標１,２)

	第4回	さまざまな技法の基礎を学ぼう３ 切り絵，貼り絵，紋切り(目標１,２)
	第5回	さまざまな技法の基礎を活用してみよう 実物からイメージをふくらまして描いてみよう　(目標２,３)
	第6回	さまざまな技法の基礎を応用してみよう１ 絵本の１場面を想像して描いてみよう(目標２,３)
	第7回	さまざまな技法の基礎を応用してみよう２ 絵本の1場面を想像して描いてみよう(目標２,３)
	第8回	ペーパークラフト～切る・組む・動かす～１ 材料・素材からの発想(目標１,２)
	第9回	ペーパークラフト～切る・組む・動かす～２ 季節や行事の動くカード作り（１）(目標２,３)
	第10回	ペーパークラフト～切る・組む・動かす～３ 季節や行事の動くカード作り（２）(目標２,３)
	第11回	ペーパークラフト～切る・組む・動かす～４ 紙すき　(目標１,２)
	第12回	共同制作(目標１,２,３)
	第13回	共同制作(目標１,２,３)
	第14回	共同制作(目標１,２,３)
	第15回	相互鑑賞，総まとめ 提出物確認(目標１,２,３)
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第１～１１回　次回の内容に応じた調べ学習 第１２～１５回　必要な材料や用具の考察・調達
	復習	第１～１５回　制作の仕上げ，作品のファイリング，毎回の学習内容を発想とした題材企画を考え，ワークシートに記入。
	展開	題材企画のアイデアを検討し合い，実際の制作活動に役立てる。
成績評価	評価の基準	1.乳幼児期の造形活動に関して，授業で扱った基礎的な内容や技能を理解できていること。 2.授業内容を基に造形教育のあり方について自らの考えを発想できている。 3.１・２をふまえ，作品制作に創造的に取り組めていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点20%，ワートシートの提出30%，提出作品50%の成績を総合する。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	Ｆ６サイズのスケッチブック，のり，はさみ，絵の具等の持参 その他授業内容に応じて説明・連絡する。	

保育の表現技術（言語表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP104
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術（言語表現）
科目責任者	鈴木　朱美
担当教員	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30013401　月曜日，2限 30013402　月曜日，1限
教室	講義室21.22
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	言語表現	
学生の到達目標	1.保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かに展開するために必要な言語表現に関する技術を習得する。 2.言語表現活動にかかる教材等の活用および作成と，保育の表現構成および具体的展開のための技術を習得する。	
授業内容	第1回	本科目の目標，授業の概要。受講者の心得。授業形態と実技演習予定　他　（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
	第2回	描いたもの，作ったもので遊ぶ。お面づくり「大きなかぶ」(目標１) 担当教員: 担当教員全員

	第3回	絵本，紙芝居等の扱い方：絵本，紙芝居をみんなの前で読んでみる。(目標２) 担当教員: 担当教員全員
	第4回	手遊び：パネルシアター(目標１) 担当教員: 担当教員全員
	第5回	パネルシアターを作る。(目標１) 担当教員: 担当教員全員
	第6回	パネルシアターを演じてみる。(目標１,２) 担当教員: 担当教員全員
	第7回	保育教材：うた遊び，ペープ・サート，エプロンシアター，指人形の実演・演じ方 (目標１) 担当教員: 担当教員全員
	第8回	保育教材：うた遊び，ペープ・サート，エプロンシアター，指人形の実演・演じ方・人形作成（目標２） 担当教員: 鈴木　朱美
	第9回	教材研究：①どんなお話　役決め　舞台構成等（目標１） 担当教員: 担当教員全員
	第10回	教材研究：②人形作り　背景作り（目標２） 担当教員: 担当教員全員
	第11回	教材研究：③人形作り　背景作り（目標２） 担当教員: 担当教員全員
	第12回	教材研究：発表（目標２） 担当教員: 担当教員全員
	第13回	教材研究：発表（目標２） 担当教員: 担当教員全員
	第14回	相互評価（目標１） 担当教員: 担当教員全員
	第15回	発表の評価他まとめ（目標１） 担当教員: 担当教員全員
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第２回：授業中の心得について確認し授業に臨む。 第３回～第９回：準備するものを確認し授業に臨む。 第10回：各自の考えをまとめ協議に参加できるようにしておく。 第11回～第12回：準備するものを確認し授業に臨む。 第13回：役割を確認し，技能を発揮できるように準備する。 第14回～第15回：配布資料をまとめておくこと。
	復習	第１回：科目目標，授業内容について理解する。 第２回～第８回：教科書の再読および配布資料のまとめをする。 第９回～第12回：資料確認と課題提出の準備をする。 第13回：資料確認と課題提出の準備および配布資料のまとめをする。 第14回～第15回：配布資料のまとめをする。
	展開	言語表現活動における技術を身につけ，子どもの遊びを豊かにできるように保育技術や知識を広げていく。
成績評価	評価の基準	1.子どもの遊びの大切さの理解度および言語表現に関する技術の習得度。 2.レポート…表現活動等を鑑賞し，それぞれの「表現」に対して理解が深められているか。 ○作品の提出・・・子どもの遊びを豊かにするための教材を知り，作成する技術・能力が育っているか。 ○発表・・・グループ協議，作業，発表をとおし，協同する意識が育っているか。また，表現構成や具体的展開のための技術を習得しているか。 ○授業態度・・・真摯に授業に参加し，学ぼうとしているか。

	評価の方法	レポート(30%)，発表(30%)，作品(30%)，授業への取り組み(10%)

教科書	書籍名	保育の表現活動
	著者名	植草一世　他
	出版社	学文社
	価格	2,400円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7620-2442-9

推薦図書等	書籍名	遊びの指導
	著者名	財団法人幼少年教育研究所
	出版社	同文書院
	価格	3,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8103-0037-6

参考URL

備考

保育の表現技術Ⅱ（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP401
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（身体表現）
科目責任者	松原　敬子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30013901　木曜日，1限 30013902　木曜日，2限
教室	体育館，講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	身体表現，保育，あそび，創作	
学生の到達目標	1.身体表現に関する知識や技術を習得する。 2.表現活動に係る教材作成及び活用と展開のための技術を習得する。 3.指導計画を立案し，摸擬保育を通して具体的な実践から学ぶ。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（目標１）
	第2回	パラバルーンを使ったあそびと内容ポイントの確認①（目標１,２）
	第3回	パラバルーンを使ったあそびと内容ポイントの確認②（目標１,２）
	第4回	ボールを使ったあそびと内容ポイントの確認①（目標１,２）
	第5回	ボールを使ったあそびと内容ポイントの確認②（目標１,２）
	第6回	ボールを使ったあそびと内容ポイントの確認③（目標２,３）

	第7回	マラカスを使ったあそびと内容ポイントの確認（目標２,３）
	第8回	縄を使ったあそびと内容ポイントの確認①（目標２,３）
	第9回	縄を使ったあそびと内容ポイントの確認②（目標２,３）
	第10回	環境設営の事例と内容ポイントの確認（目標２,３）
	第11回	創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省）①（目標３）
	第12回	創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省）②（目標３）
	第13回	創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省）③（目標３）
	第14回	創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省）④（目標３）
	第15回	身体表現に関するまとめ（目標３）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1～9回　関連する用具を使ったあそびを調べてくること。 第10回～15回　課題について創作してくること。
	復習	第1回～15回（共通）毎回，授業の要旨を実技ノートに図解してまとめる。
	展開	実際に保育現場で活用できるよう、知識や技術を身につける。
成績評価	評価の基準	1.授業目標についての理解と定着度。 2.授業の取り組みの姿勢や成果を総合的に加味して評価する。
	評価の方法	発表（50%）・実技ノート（30%）・授業への受講意欲（20%）
教科書	書籍名	幼児体育　理論と実践
	著者名	日本幼児体育学会編
	出版社	大学教育出版
	価格	2,400円+税
	ISBN・ISSN	978-4-86429-211-5
推薦図書等	書籍名	幼児体育　基礎理論と指導の方法
	著者名	前橋明編者
	出版社	樹村房
	価格	1,900円+税
	ISBN・ISSN	978-4-88367-122-9
参考URL		
備考	服装：トレーニングウェアー・上履き ・運動時に支障がないよう長い髪は束ねる。 ・アクセサリーは外す。 ・長い爪は危険になるので短くする。	

保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	石井　恵子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30013601　火曜日，4限 30013602　火曜日，3限
教室	音楽室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	保育の為の歌唱技術，ソロ，デュエット，ソルフェージュ	
学生の到達目標	1.生涯を通じてもっとも音感が鋭敏な幼児期の音楽教育は，大変重要である。その指導に歌唱の役割は大きい。 2.子供達が初めて体験する歌が楽しく，正しく，豊かなものであるよう，指導者は自らの歌唱技術を磨かねばならない。 3.自然な発声，読譜力を習得し，子供の歌のレパートリー増大を計り，その指導法を習得する。又，自然や物の音や音色に親しむ保育活動について考察する。	
授業内容	第1回	①発声練習 ②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲，重唱曲。 ③ソルフェージュでは，リズム打ちの訓練により，読譜力を向上させる。

④保育のレパートリーとして各月の曲や，生活の歌を数多く学び，指導法のポイントを習得する。(目標1)

第2回　①発声練習
②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲，重唱曲。
③保育のレパートリーとして各月の曲や，生活の歌を数多く学び，指導法のポイントを習得する。(目標2)

第3回　①発声練習
②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲，重唱曲。
③保育のレパートリーとして各月の曲や，生活の歌を数多く学び，指導法のポイントを習得する。(目標2)

第4回　①発声練習
②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲，重唱曲。
③ソルフェージュでは，リズム打ちの訓練により，読譜力を向上させる。
④保育のレパートリーとして各月の曲や，生活の歌を数多く学び，指導法のポイントを習得する。(目標2,3)

第5回　①発声練習
②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲，重唱曲。
③ソルフェージュでは，リズム打ちの訓練により，読譜力を向上させる。
④保育のレパートリーとして各月の曲や，生活の歌を数多く学び，指導法のポイントを習得する。(目標2,3)

第6回　歌唱テスト（2重唱）(目標2)

第7回　①発声練習
②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲，重唱曲。
③ソルフェージュでは，リズム打ちの訓練により，読譜力を向上させる。
④保育のレパートリーとして各月の曲や，生活の歌を数多く学び，指導法のポイントを習得する。(目標2,3)

第8回　①発声練習
②学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲，重唱曲。
③ソルフェージュでは，リズム打ちの訓練により，読譜力を向上させる。
④保育のレパートリーとして各月の曲や，生活の歌を数多く学び，指導法のポイントを習得する。(目標2,3)

第9回　リズムテスト／移調譜作成　(目標2)

第10回　①発声練習
②保育のレパートリーとして各月の曲や，生活の歌を数多く学び，指導法のポイントを習得する。
③ソルフェージュでは，音名唱（コールユーブンゲン）の訓練により，読譜力を向上させる。(目標2,3)

第11回　①発声練習
②保育のレパートリーとして各月の曲や，生活の歌を数多く学び，指導法のポイントを習得する。
③ソルフェージュでは，音名唱（コールユーブンゲン）の訓練により，読譜力を向上させる。(目標2,3)

第12回　①発声練習
②保育のレパートリーとして各月の曲や，生活の歌を数多く学び，指導法のポイントを習得する。
③ソルフェージュでは，音名唱（コールユーブンゲン）の訓練により，読譜力を向上させる。(目標2,3)

第13回　コールユーブンゲンテスト／移調譜作成　(目標３)

第14回　①発声練習
②保育のレパートリーとして各月の曲や，生活の歌を数多く学び，指導法のポイントを習得する。
③「身近な音」の採集(目標3)

	第15回	①発声練習 ②保育のレパートリーとして各月の曲や，生活の歌を数多く学び，指導法のポイントを習得する。(目標2,3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回のソルフェージュのプリント配布後は,ピアノを使ってリズム課題，コールユーブンゲン課題をさらっておく。
	復習	第１回～５回では二重唱曲を第７回～１５回では保育の歌を習得した通り，歌詞，旋律とも正しく反復練習する。
	展開	アカペラでも正確に良い発声で歌えることで，保育のあらゆる場面で歌を用いることができる。 また，新曲を独力で演奏できるソルフェージュ力を持つ。
成績評価	評価の基準	1.歌唱における良い発声と，正確な演奏 2.読譜にかかせないソルフェージュ力の向上
	評価の方法	ソルフェージュ（３０％），歌唱能力（５０％），移調譜制作（１０％），授業に取り組む意欲・態度（１０％）
教科書	書籍名	幼児のための音楽教育
	著者名	神原雅之他
	出版社	教育芸術社
	価格	2,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-87788-443-7　C3073
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育の表現技術Ⅱ（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP402
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（造形表現）
科目責任者	吉野　泰男
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30013701　金曜日，5限 30013702　木曜日，5限
教室	被服工芸室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	造形表現，教材開発，指導法実践	
学生の到達目標	1.保育・教育の場に応じ，さまざまな造形活動を通じて，保育の表現技術Ⅰの学習内容を発展的に扱うことができる。 2.保育・教育のさまざまな現状を踏まえたうえで，子どもの興味・関心・発達段階を基にした造形活動の活用方法を発想することができる。 3.個別の保育・教育の場における造形題材を，自ら研究・探求し，開発・制作した後，実演することができる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション 表現技術Ⅰの制作と題材企画（ワークシート）の振り返り（目標1,2）
	第2回	保育の現場での時事課題と，題材考察（目標1,2,3）
	第3回	現場に即した題材の開発とその計画，試作の開始（目標2,3）
	第4回	題材の決定と具体的計画，指導案作成（目標2,3）

第5回	開発制作（目標２,３）
第6回	開発制作・中間審査（目標２,３）
第7回	開発制作（目標２,３）
第8回	開発制作（目標２,３）
第9回	開発制作（目標２,３）指導案清書
第10回	提出期間（目標２,３）
第11回	提出期間（目標２,３）
第12回	発表・デモンストレーション，鑑賞，審査（目標２,３）
第13回	発表・デモンストレーション，鑑賞，審査（目標２,３）
第14回	発表・デモンストレーション，鑑賞，審査（目標２,３）
第15回	発表・デモンストレーション，鑑賞，審査（目標２,３） 総まとめ・ワークシート提出，作品返却（目標２,３）

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１～９回　ワークシート，保育の現場が抱える社会問題や新たな素材の活用方法や既存の題材等を調べ，資料として教材開発に活かす。 第１０～１１回　指導案完成・題材意義の暗記。 第１２～１５回　模擬授業の段取りの確認・練習。
	復習	第１～９回　ワークシート，試作等で分かった改善点から更なる改良計画を立てる。指導案作成に向けた考察・検証。 第１０～１１回　審査時に判明した改善点や模擬授業の段取りの考察・練習。 第１２～１５回　模擬授業を観察・鑑賞した事から考察し，より実践的な指導法を発想する。
	展開	変化する現場の状況に応じてさまざまな造形の在り方を考察できる。 自分の考えた題材の意図に適した素材・技法を判断し，より実践的な指導法を構築できる。
成績評価	評価の基準	1.乳幼児期の造形活動に関して，授業で扱った基礎的な内容や技能をを理解したうえで，発展的に扱えること。 2.保育の現場での時事課題に関心を持ち，造形教育のあり方について自分の考えを取り入れている。 3.1.2をふまえ，実技や題材開発に創造的かつ主体的に取り組めていること。 を合格基準とする。 （題材は，独自の発想＝オリジナル性が重視される）
	評価の方法	平常点およびワークシート20%，提出作品50%，発表点30%の成績を総合する。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業は個人制作が基本となり，個々に対応した質疑応答を積み重ねていく。	

保育の表現技術Ⅲ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP202
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅲ（音楽表現）
科目責任者	長嶺　章子
担当教員	柴辻　純子 池田　仁美 石橋　葉子 額田　優美 水村　明子 松尾　聖子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30019101　木曜日，1限 30019102　木曜日，2限
教室	音楽室，セミナー1，セミナー2，ピアノ演習室1，ピアノ演習室2，ピアノ演習室3，講義室5
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	ピアノ弾き歌い，コード伴奏法，音楽表現活動の計画	
学生の到達目標	1.ピアノの基礎的演奏技術を向上させ，弾き歌いに慣れる。 2.簡単なコードネームを理解して，伴奏を弾けるようにする。 3.幼児の発達過程に即した音楽表現活動を計画し，伴奏とともに発表する。	

授業内容	第1回	オリエンテーション　授業概要・達成目標・歌の伴奏を弾く時に気を付けたいこと。 担当教員: 担当教員全員
	第2回	季節の歌（１）春（目標１） 担当教員: 担当教員全員
	第3回	課題「保育教材を活用した音楽表現活動」について（目標３） 担当教員: 担当教員全員
	第4回	季節の歌（２）夏（目標１） 担当教員: 担当教員全員
	第5回	季節の歌（３）秋・冬（目標１） 担当教員: 担当教員全員
	第6回	中間まとめ―「保育教材を活用した音楽活動」の発表（目標３） 担当教員: 担当教員全員
	第7回	幼稚園・保育園における生活の歌（１）（目標１） 担当教員: 担当教員全員
	第8回	幼稚園・保育園における生活の歌（２）（目標１） 担当教員: 担当教員全員
	第9回	コードネームで表された歌の伴奏法（１）（目標２） 担当教員: 担当教員全員
	第10回	コードネームで表された歌の伴奏法（２）（目標２） 担当教員: 担当教員全員
	第11回	コードネームで表された歌の伴奏法（３）（目標２） 担当教員: 担当教員全員
	第12回	子どもの歌を使ったさまざまな音楽表現活動（１）（目標１,３） 担当教員: 担当教員全員
	第13回	子どもの歌を使ったさまざまな音楽表現活動（１）（目標１,３） 担当教員: 担当教員全員
	第14回	試験課題曲について（目標１） 担当教員: 担当教員全員
	第15回	コードネームの復習と「音楽表現活動」のまとめ（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員

予習・復習の内容 **（毎回45分程度）**	予習	第1回～第15回　各自で設定した課題曲を毎回1～2曲仕上げる。知っている子どもの歌を積極的に弾いてみる。
	復習	第1回～第15回　授業の中で指摘された事柄を確認しながら，練習方法を工夫し，仕上げる。今まで仕上がった曲を時々復習する。
	展開	子どもと一緒に歌っている時を想定したり，就職試験などを想定して練習する。

成績評価	評価の基準	1.保育の表現技術Ⅰ(音楽表現)から継続的かつ意欲的に練習に励み、ピアノ演奏技術がさらに向上している。 2.基礎的なコードネームを理解し，保育現場を想定してピアノで伴奏しながら歌うことができる。 3.乳幼児の発達過程を考慮した保育教材を制作し、音楽表現を実践できる。
	評価の方法	期末試験（20%），中間試験（20%），課題曲達成度及び習熟度（30%），意欲的な学習態度(30%)

教科書

書籍名	やさしい伴奏によるこどもの歌
著者名	東　保　著

出版社	全音楽譜出版社
価格	2,600円＋税
ISBN・ISSN	4-11-620050-6

書籍名	おとなのためのバイエル
著者名	坂東　貴余子　著
出版社	ドレミ楽譜出版
価格	1,200円＋税
ISBN・ISSN	4-8108-0161-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	科目の性質上、各回に示した内容は単回で終了しない。各自の進度に応じながら、すべての内容を継続的かつ複合的に学習していく。

保育の表現技術Ⅳ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SEP403
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅳ（音楽表現）
科目責任者	長嶺　章子
担当教員	石井　恵子 柴辻　純子 石橋　葉子 水村　明子 石井　博子 糸日谷　章子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30019201　月曜日，3限 30019202　月曜日，4限
教室	音楽室，セミナー1，セミナー2，ピアノ演習室1，ピアノ演習室2，ピアノ演習室3，講義室5
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	ピアノ弾き歌い，コード伴奏づくり，創造的な音楽表現活動の計画	
学生の到達目標	1.コードネームを理解し，各自のレベルに見合った伴奏が考えられる。 2.弾き歌いのレパートリーを増やす。 3.保育を想定しさまざまな音楽活動を発表・討議し，実践力を養う。	
授業内容	第1回	オリエンテーション　進度に合わせた授業計画を各自で作成 担当教員: 担当教員全員

第2回	伴奏のアレンジについて（1）コードネームの確認・ハ・ト長調の曲　（目標1,2） 担当教員: 担当教員全員
第3回	伴奏のアレンジについて（2）ヘ長調の曲（目標1,2） 担当教員: 担当教員全員
第4回	伴奏のアレンジについて（3）二長調の曲（目標1,2） 担当教員: 担当教員全員
第5回	伴奏のアレンジについて（4）まとめ　（目標1,2） 担当教員: 担当教員全員
第6回	動きをイメージした音楽（1）動きをイメージする音・音楽を探す（目標3） 担当教員: 担当教員全員
第7回	動きをイメージした音楽（2）ある場面を想定した音・音楽を考える（目標3） 担当教員: 担当教員全員
第8回	動きをイメージした音楽（3）発表　（目標3） 担当教員: 担当教員全員
第9回	中間まとめ　（目標1,2） 担当教員: 担当教員全員
第10回	５歳児の音楽活動について（1）歌（目標3） 担当教員: 担当教員全員
第11回	５歳児の音楽活動について（2）合奏（目標3） 担当教員: 担当教員全員
第12回	表現課題（1）イメージの共有　（目標3） 担当教員: 担当教員全員
第13回	表現課題（2）音・音楽の創作　（目標1） 担当教員: 担当教員全員
第14回	表現課題（3）発表準備　（目標3） 担当教員: 担当教員全員
第15回	発表及び音楽表現のまとめ（目標2,3） 担当教員: 担当教員全員

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回～第15回　各自の考えた学習計画に沿って，毎回1～2曲合格するように練習しておく。また，小課題も時々出されるので，保育現場を想定した準備をする。
	復習	第1回～第15回　発表後の振り返りや，合評を通して学んだことをまとめておく。合格した曲をいつでも弾けるように，時々復習する。
	展開	歌や動きを使った表現活動について，子どもの発達を考慮し，環境との関わりや関連領域との総合的保育について考える。

成績評価	評価の基準	1.各自のレベルに応じた伴奏について理解し，自分で作って演奏することができる。 2.保育の弾き歌いを主体的に学び，意欲的にレパートリーを増やしている。 3.保育の音楽表現活動について創造的に考え，仲間と意欲的に活動する中で実践力が養われている。
	評価の方法	ピアノ実技試験（50%）　課題発表（30%）　課題曲達成度・習熟度（20%）

教科書

書籍名	やさしい伴奏によるこどものうた　（1）

著者名	東　保　編著
出版社	全音楽譜出版社
価格	2,600円＋税
ISBN・ISSN	4-11-620050-6

書籍名	幼児の表現をはぐくむ歌
著者名	黒田　静江　著
出版社	音楽教育研究協会
価格	2,200円＋税
ISBN・ISSN	978-4-87136-717-2　C3073

書籍名	幼児のための音楽教育
著者名	神原　雅之　編著
出版社	教育芸術社
価格	2,200円＋税
ISBN・ISSN	978-87788-443-7

推薦図書等

書籍名	「音楽指導ブック　子どものためのたのしい音遊び」
著者名	柴田　礼子　著
出版社	音楽之友社
価格	2,000円＋税
ISBN・ISSN	10-4778502515

書籍名	「子どもの歌から広がる音楽表現」
著者名	伊藤　嘉子　著
出版社	共同音楽出版
価格	2,200円＋税
ISBN・ISSN	10-4778502515

参考URL

備考

特別支援教育原論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP402
開講年度	2017年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	特別支援教育原論
科目責任者	漆澤　恭子
担当教員	佐藤　愼二
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30004701　土曜日，3限
教室	講義室1，講義室14
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	特別支援教育，理念，制度，支援方法，連携	
学生の到達目標	1.特別支援教育の理念や制度を理解することができる 2.子どもの理解と支援方法，関係機関，保護者との連携を理解することができる 3.教師として特別支援教育をいかに進めるべきか具体的に考え意見を交換することができる	
授業内容	第1回	特別支援教育の理解とシステム ①特別支援教育の理念と基本的な考え（目標1） 担当教員: 漆澤　恭子
	第2回	特別支援教育の理解とシステム ②教育の歴史と現行制度（目標１） 担当教員: 漆澤　恭子

第3回	特別支援教育の理解とシステム ③支援システムの構築と法的制度（目標1） 担当教員: 漆澤　恭子
第4回	特別支援教育の理解とシステム ④特別支援教育とコーディネーター（目標1,2） 担当教員: 漆澤　恭子
第5回	特別支援教育の理解とシステム ⑤個別の指導計画と個別の教育支援計画（目標1,2） 担当教員: 漆澤　恭子
第6回	子どもの理解と指導・支援 ①発達障害の理解と指導・支援（目標2） 担当教員: 漆澤　恭子
第7回	子どもの理解と指導・支援 ②通常の学級における指導・支援（目標2） 担当教員: 漆澤　恭子
第8回	子どもの理解と指導・支援 ③知的障害の理解と指導・支援（目標2,3） 担当教員: 漆澤　恭子
第9回	子どもの理解と指導・支援 ④肢体不自由・病弱・身体虚弱・重複障害の理解と指導・支援（目標2,3） 担当教員: 漆澤　恭子
第10回	子どもの理解と指導・支援 ⑤視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援（目標2,3） 担当教員: 漆澤　恭子
第11回	子どもの理解と指導・支援 ⑥その他の多様な状態を併せ持つ子どもの理解と指導・支援（目標2,3） 担当教員: 漆澤　恭子
第12回	保護者や関係機関との連携 ①保護者との連携（目標2） 担当教員: 佐藤　慎二
第13回	保護者や関係機関との連携 ②専門機関や地域との連携（目標1,2） 担当教員: 佐藤　慎二
第14回	保護者夜間系機関との連携 ③進学支援・就労支援と連携（目標1,2） 担当教員: 佐藤　慎二
第15回	特別支援教育のこれからと課題 グループ協議（目標2,3） 担当教員: 漆澤　恭子

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第１回目　特別支援学校教育実習の内容や経験をまとめて授業に臨むこと。障害児教育に関する既習内容を確認しておくこと。 第２回目～第15回目　次回のテーマと主な内容についての予告に従って準備した上で授業に臨むこと。
	復習	第1回目～第15回目　毎回学習内容については，教科書の関連箇所を再読しておくこと。特に関係法規については，内容を概観しておくこと。 ・研究所公開，講演会等適時参加するので学んだこと，資料等をまとめておくこと。
	展開	・特別支援教育に関するトピックスについて授業で学んだこと，実習での体験，などをもとに自分の考えを述べられるよう，日頃から関心をもっていること。

成績評価	評価の基準	1.特別支援教育の理念や制度が理解できているか。 2.子どもの理解，支援方法，関係機関，保護者との連携について理解できているか。 3.特別支援教育への関心度，参観等では課題をもって参観し自分の考えをまとめることができたか。
	評価の方法	授業中の発言・協議内容（４０%）レポート（３０%） 定期試験（３０%）

教科書	書籍名	教員をめざす人の特別支援教育テキスト
	著者名	奈良教育大学教育研究支援機構特別支援教育研究センタ
	出版社	クリエイツかもがわ
	価格	1296円
	ISBN・ISSN	486342115X

推薦図書等	書籍名	LD　ADHD等関連用語集　第２版
	著者名	日本LD学会
	出版社	日本文化科学社
	価格	1,190円
	ISBN・ISSN	ISBN4-8210-7333-1

参考URL

備考	・研究施設や特別支援学校の参観，講演会参加なども適宜取り入れる。 ・授業は内容を前後して行うこともある。 ・特別支援教育に関する動向には常に関心を持っておくこと。 ・学内で行われる特別支援教育関連の講演会には積極的に参加し，視野を広げること。

知的障害の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP303
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	知的障害の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯　友子
担当教員	篠﨑　勇介
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005601　土曜日，3限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	知的障害，障害観，知能，認知特性	
学生の到達目標	1.知的障害のある子どもの心理・生理・病理について基礎的な知識を身につける。 2.知的障害のある子どもに関する最新の研究知見を知る。 3.具体的な事象や事例から，知的障害のある子どもの行動背景を考えられるようになる。	
授業内容	第1回	知的障害観の変遷と知的障害の定義（目標1,2） 担当教員: 相磯　友子
	第2回	知能と知能検査（目標1,2） 担当教員: 相磯　友子
	第3回	知的障害の子どもの認知特性（目標1） 担当教員: 相磯　友子

	第4回	知的障害の子どもの社会性の発達（目標1） 担当教員: 相磯　友子
	第5回	知的障害と自閉症（目標1,2） 担当教員: 相磯　友子
	第6回	知的障害の子どもの心理（目標2,3） 担当教員: 相磯　友子
	第7回	知的障害をきたす疾患（目標1） 担当教員: 篠﨑　勇介
	第8回	知的障害の子どもと医療の関わり（目標1） 担当教員: 篠﨑　勇介
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第8回　知的障害の子どもに関する本を読む。
	復習	第1回～第8回　知的障害に関するキーワードを整理する。
	展開	知的障害の子どもと関わるボランティアに参加する。
成績評価	評価の基準	1.知的障害のある子どもの心理・生理・病理についての基礎的な知識を理解しているか。 2.3.最新の知見についての自分の考え及び知的障害のある子どもの行動背景の推測について具体的，説得的に自分の言葉で書くことができるか。
	評価の方法	小テスト80%，レポート20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	書籍名	障害者の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書株式会社
	価格	2,000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7616-0303-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

肢体不自由の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP304
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	肢体不自由の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯　友子
担当教員	篠﨑　勇介
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005701　土曜日，4限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	肢体不自由，脳性まひ，重度心身障害，医療的ケア	
学生の到達目標	1.肢体不自由のある子どもの心理・生理・病理について基礎的な知識を身につける。 2.肢体不自由のある子どもに関する最新の研究知見を知る。 3.具体的な事象や事例から，肢体不自由のある子どもの行動背景を考えられるようになる。	
授業内容	第1回	肢体不自由の定義　（目標1） 担当教員: 相磯　友子
	第2回	肢体不自由の子どもの教育と心理（目標1,3） 担当教員: 相磯　友子
	第3回	肢体不自由の子どもの教育と心理（目標1,3） 担当教員: 相磯　友子

	第4回	重複障害児・者の生活（目標1,3） 担当教員: 相磯　友子
	第5回	重複障害児・者の心理（目標1,3） 担当教員: 相磯　友子
	第6回	重度心身障害と医療的ケア（目標1,2） 担当教員: 相磯　友子
	第7回	肢体不自由をきたす疾患（目標1） 担当教員: 篠﨑　勇介
	第8回	肢体不自由の子どもと医療の関わり（目標1） 担当教員: 篠﨑　勇介
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第8回　肢体不自由の子どもに関する本を読む。
	復習	第1回～第8回　肢体不自由に関するキーワードを整理する。
	展開	肢体不自由の子どもに関わるボランティアに参加する。
成績評価	評価の基準	1.肢体不自由のある子どもの心理・生理・病理についての基礎的な知識を理解しているか。 2.最新の知見についての自分の考え及び肢体不自由のある子どもの行動背景の推測について具体的，説得的に自分の言葉で書くことができるか。
	評価の方法	小テスト80%，レポート20%
教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書株式会社
	価格	2,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7616-0303-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

病弱の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP305
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	病弱の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯　友子
担当教員	篠﨑　勇介
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005801　土曜日，4限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	病弱，学習空白，不安，院内学級	
学生の到達目標	1.病弱の子どもの心理・生理・病理について基礎的な知識を身につける。 2.病弱の子どもに関する最新の研究知見を知る。 3.具体的な事象や事例から，病弱の子どもの行動背景を考えられるようになる。	
授業内容	第1回	病弱の教育上の定義　（目標1） 担当教員: 相磯　友子
	第2回	病弱児・者の生活（目標3） 担当教員: 相磯　友子
	第3回	病弱児・者の心理（目標3） 担当教員: 相磯　友子
	第4回	病弱児・者の進路（目標2） 担当教員: 相磯　友子

	第5回	院内学級・訪問学級（目標1,2） 担当教員：相磯　友子
	第6回	障害受容について（目標1,2,3） 担当教員：相磯　友子
	第7回	小児慢性疾患（目標1） 担当教員：篠崎　勇介
	第8回	小児精神疾患（目標1） 担当教員：篠崎　勇介

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第8回　病弱の子どもに関する本を読む。
	復習	第1回～第8回　病弱の子どもに関するキーワードを整理する。
	展開	病弱の子どもの指導案を考え作成する。

成績評価	評価の基準	1.病弱の子どもの心理・生理・病理についての基礎的な知識を理解しているか。 2.最新の知見についての自分の考え及び病弱の子どもの行動背景の推測について具体的，説得的に自分の言葉で書くことができるか。
	評価の方法	小テスト80%，レポート20%

教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書株式会社
	価格	2,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7616-0303-8

推薦図書等

参考URL

備考

知的障害教育Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP306
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	知的障害教育Ⅰ
科目責任者	佐藤　愼二
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005901　土曜日，1限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定

授業のキーワード	知的障害，教育課程，特別支援学校，特別支援学級
学生の到達目標	1.知的障害及びその教育・支援の特徴について理解する。 2.知的障害教育の学習指導要領と教育課程の考え方やその編成及び実際の状況等について理解する。

授業内容

第1回	知的障害について(目標２)
第2回	知的障害のある子どもの望ましい支援について(目標１,２)
第3回	知的障害のある子どもの教育・支援の特徴について(目標１,２)
第4回	知的障害教育の教育課程の特色(目標１,２)
第5回	「領域・教科別の指導」について(目標１,２)
第6回	「教科等を合わせた指導」についてⅠ－生活単元学習・日常生活の指導(目標１,２)

	第7回	「教科等を合わせた指導」についてⅡ－遊びの指導・作業学習(目標２)
	第8回	知的障害特別支援学級について(目標１,２)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第２回～第８回　授業内容に合わせて，特別支援学校学習指導要領等教科書に目を通し，理解を深めるとともに，不明な点・疑問点等を確認する。
	復習	第１回～第8回　授業内容に応じ，知的障害教育の在り方や進め方について，関係文献や実習校の教育課程資料を調べ再確認をし，一層の理解を深める。
	展開	特別支援学校の実習事前･事後に，実習校の教育課程について特色等を理解，説明する。
成績評価	評価の基準	1.知的障害及びその教育・支援について理解できたか。 2.知的障害教育の学習指導要領と教育課程の考え方やその編成及び実際の状況等について理解できたか。
	評価の方法	毎時間の小テスト80%，授業への参加姿勢20%
教科書	書籍名	特別支援学校・特別支援学級担任ガイドブック
	著者名	佐藤慎二
	出版社	東洋館出版社
	価格	１９４０円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

知的障害教育Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP405
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	知的障害教育Ⅱ
科目責任者	山本　邦晴
担当教員	漆澤　恭子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30006001　土曜日，1限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	「教科等を合わせた指導」，一人一人に合わせた指導・支援，障害者スポーツ，進路指導	
学生の到達目標	1.知的障害教育の指導法の特色である「各教科等を合わせた指導」の生活単元学習と作業学習について理解する。 2.朝の会やボッチャ等のスポーツ競技，リトミックなど，学校現場の活動を想定して実際に行い，進め方・展開についての理解を深める。 3.進路指導・キャリア教育の在り方や進め方について，卒業後の課題等も含め理解を深める。	
授業内容	第1回	知的障害とは何かを改めて，考える！（目標1,2,3） 担当教員: 担当教員全員

	第2回	「各教科等を合わせた指導」の教育課程上の位置づけと考え方（目標１,２,３） 担当教員: 担当教員全員
	第3回	朝の会の計画と指導の実際（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
	第4回	生活単元学習の計画と指導の実際２（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
	第5回	生活単元学習の計画と指導の実際１（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
	第6回	作業学習の計画と指導の実際（目標１,２,３） 担当教員: 担当教員全員
	第7回	障害者のスポーツ「ボッチャ」及びリトミックを実践する（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
	第8回	進路指導・キャリア教育と卒業後の課題（目標３） 担当教員: 担当教員全員
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第８回　教科書として使用している「知的障害教育・基礎知識Ｑ＆Ａ」等に目を通し予備知識を備えるとともに，疑問点等を自分なりにまとめておく。 第１回～第６回　次時の予告に基づき，特別支援学校のホームページを調べ，日課表や授業の実践例を調べて臨む。 第７回　ボッチャ等のルールを確認して臨む。 第８回　特別支援学校の卒業後，どんな課題があるか，調べて臨む。
	復習	第１回～第８回　毎授業の終わりに，授業の要点を確認し，答えられなかった点を復習し確実に身につけるようにする。 また，必要に応じてレポートの提出を求め定着度をみるようにする。
	展開	特別支援学校の実際の活動を映像で紹介したり，指導略案を作成したり，障害者スポーツ「ボッチャ」の競技をしたりして，授業づくりや指導・支援上の留意点，卒業後生活などについて考え，理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.知的障害教育の指導法の特色である「各教科等を合わせた指導」について理解を深められたか。 2.朝の会等の指導略案を作成して，模擬授業を実際に展開して，内容が練られ参加しやすい授業だったか。 3.進路指導・キャリア教育の在り方や卒業後の課題等について把握ができたか。 その他に授業への取り組み態度や発表，必要に応じて実施する小テスト・レポート提出などにより総合的に評価する。
	評価の方法	授業への取り組み態度や発表２０%，小テスト５０%，レポート提出３０%。この比率をもとに総合的に評価する。

教科書

書籍名	「知的障害教育・基礎知識Ｑ＆Ａ」
著者名	千葉大学教育学部附属養護学校編
出版社	Ｋ＆Ｈ
価格	1,800円
ISBN・ISSN	－

	書籍名	「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領・高等部学習指導要領」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	４４０円+税
	ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9
	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	４５０円+税
	ISBN・ISSN	978-4-316-30016-0
	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	７４０円+税
	ISBN・ISSN	978-4-303-12412-0
推薦図書等	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	２００円+税
	ISBN・ISSN	978-4-303-12432-8

参考URL

備考

肢体不自由教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP307
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	肢体不自由教育
科目責任者	小久保　元
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30006101　土曜日，2限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	出会い方，足し算文化	
学生の到達目標	1.特別支援教育の一環としての肢体不自由教育について知る。 2.肢体不自由児を育むために必要な「足し算文化」について理解する。 3.教育職として必要な心構えを身につけるために教育内容や指導方法について学ぶ。	

授業内容

第1回	肢体不自由の子どもについて考える(講義及びレポートの視点として)(目標１,２)
第2回	子ども観・指導観・教育観について見つめ直す(目標１,２)
第3回	子どもの自立と学力について考える(目標１,２)
第4回	子どもの自立と個別の教育支援計画が果たす役割について考える(目標３)

第5回	子どもの自立に向けて，足し算文化の視点に立って個別の指導計画を考える(目標２)
第6回	子どもの自立に向けて，個別の指導計画の活用のしかたを実践事例から学ぶ(目標２)
第7回	足し算文化の視点に立った肢体不自由児の教育課程（カリキュラム）について考える(目標１,２)
第8回	実践事例を参考にしながら学習活動を考える(目標２)<教科>
第9回	足し算文化を具体化した学習活動を考える(目標２)<総合的な学習>
第10回	足し算文化を具体化した学習活動を考える(目標１,２)<自立活動・個の成長>
第11回	足し算文化を具体化した学習活動を考える(目標１,２)<自立活動・コミュニケーション>
第12回	足し算文化の具体としてのコミュニケーション支援の具体的な方法を探る(目標１,２,3)
第13回	医療的ケアの現状と課題について知る(目標１)
第14回	医療的ケアについて，教育としての取組みの実践事例から心構えを学ぶ(目標２)
第15回	訪問教育の置かれている現状と課題について考える(目標１,２)

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第１回　肢体不自由児ってどんな子 第２回　幼小中高で味わう生活上の困難さとは 第３回　学びの力はどうやって身につけていくのか 第４回　子どもが「生きていく」ことについて、教育が果たす役割とは 第５回　子どもが実感している生活していく上での力に基づいてこれから身につけていくための計画 第６回　実践例に基づいて具体的な方法を考える 第７回　今,自分（子ども自身）が身につけている力を多くの人と一緒に学び合っていく 第８回　一つ一つ常に具体策として考えていく 第９回　生活上で身につけていきたい内容や方法を考え実践していくためのステップを考えていく 第１０回　共同（学習）する中で具体策がプラスの方向で受け止められるかを考える 第１１回　自分のこと,生活する中で実践しながら意識化を図っていく 第１２回　子どもの意思を表出するための具体を一緒に考えていく 第１３回　器具を使って生活しているこどもの実態について考える 第１４回　ハンデを負って生きていくことについて一緒に生きていく一人として考えを深めていく 第１５回　実態の見えにくい子どもの生き方について実践者としての心構えを身につける
	復習	第１回～１５回（共通）　毎回のレポートで予習・復習することを出題します。 （例）子どもの見方として具体的に書き出してもらった事をもとに授業を進めていきます。
	展開	肢体不自由児の学習姿勢を確立させるための工夫や実際を実践報告や研究報告で調べ，知識や理解を深めると同時に教育観を練る。

成績評価	評価の基準	1.障害のある子ども（肢体不自由）について理解できたか。 ２.肢体不自由児が「今」と「これから」を生きていくための具体として「足し算文化」の考え方を理解し実践していくための姿勢が打ち出されたか。 ３.特別支援教育者として必要な心構えとしての内容を理解し具体策としての指導方法を考えることが出来たか。

評価の方法	肢体不自由（障害のある身）についての基礎的な理解（２０％）特別支援教育に携わる者としての心構えが出来たかどうか（３０％）特別支援教育者として自らの考えを持ち実践しようと心がけることが出来たか（５０％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	授業内容に応じて，グループ学習，ディスカッション，ロールプレイ等の参加型，双方向授業を実施し，児童の側に立った授業の工夫を実践していく。

病弱教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP308
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	病弱教育
科目責任者	昆　俊雄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30006201　土曜日，1限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	病弱教育の意義，学習空白，教育内容の精選，病弱教育の教育課程，院内学級	
学生の到達目標	1.病弱教育の歴史の概観や，病弱教育の意義，病弱の子どもの心理特性，医療と教育・学校との関係や病弱教育の現代的課題等の基礎的な理解を深める。 2.病弱教育の教育課程や指導法の基礎的な理解を深める。	
授業内容	第1回	病弱教育の歴史(目標1)
	第2回	病気治療における教育の役割(目標1)
	第3回	病気の子の理解・子どもの病気と心のケア(目標1,2)
	第4回	病弱の特別支援学校における教育の実際 喘息，慢性疾患，肥満，小児ガン，心身症，心臓疾患，重症心身障害，腎疾患，筋ジス等の筋疾患，等の教育(目標1,2)

	第5回	院内学級，特別支援教室等の教育の実際(目標1,2)
	第6回	病弱教育の教育課程(目標1,2)
	第7回	医療機関と学校の関係及び医療と教育との連携(目標1)
	第8回	病弱教育の指導法とまとめ(目標1,2)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回～第８回　教育内容に示しているキーワード等，事前に指示するテーマについて調べておくこと。
	復習	第１回～第８回　授業後の要旨をまとめ，整理しておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	授業内容に関連する事項などに関し，教科書や配布資料，参考図書を調べたりするほか，最新の図書や研究成果を調べ知識・理解を深めるようにすること。
成績評価	評価の基準	1.病弱教育の意義，病弱児の心理特性，病種による教育の特徴，病弱教育の歴史の概観等の基礎的な理解度。 2.病弱教育の教育課程や指導法の基礎的な理解度。
	評価の方法	試験20%，レポート等80%で成績を総合する。
教科書	書籍名	病気の子どものガイドブック
	著者名	全国特別支援学校病弱教育校長会/編著　丹羽登/監修
	出版社	ジアース教育新社
	価格	2,600円+税
	ISBN・ISSN	978-4-86371-180-8
推薦図書等	書籍名	「病弱教育Q&A」PART Ⅴ（病弱教育の視点からの医学事典）
	著者名	西間三馨/監修　横田雅史/監修
	出版社	ジアース教育新社
	価格	6,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-921124-20-5
参考URL		
備考		

視覚・聴覚障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP403
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	視覚・聴覚障害教育総論
科目責任者	伊藤　和男 松本　末男
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30006301　土曜日，1～4限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	視機能の理解，視覚障害に応じた指導，視覚障害乳幼児の育児	
学生の到達目標	（伊藤和男） 1.視覚障害教育を概括的に学習し，視覚障害児の特性と指導法を理解する。 2.特別支援教育における視覚障害教育の意義と今後の広がりについても学習する。 （松本末男） 1.聴覚障害についてその障害の現れ方や，コミュニケーションの方法を理解する。 2.言語を獲得する乳幼児期から幼児期，学齢以降の言語指導について，支援の方法を学ぶ。	
授業内容	第1回　【視覚障害教育の概要】 視覚機構と視覚障害 視機能の検査（教育的評価） 視覚障害児童生徒の実態と教育の場（目標1） 担当教員: 伊藤　和男	

第2回　【教育課程と指導法】
教育課程・指導計画の作成
盲児に対する指導内容・方法と弱視児に対する配慮
視覚障害児のための教材・教具（教科書）（目標１）
担当教員: 伊藤　和男

第3回　【自立活動の基本と指導】
視覚障害児の抱える困難と自立活動の意義
特設時間における指導の進め方と指導内容（目標１）
担当教員: 伊藤　和男

第4回　【乳幼児期における支援】
盲学校幼児部の歩みと現状
幼児部における教育と視覚障害幼児の指導内容
幼稚園や保育所等に通う視覚障害幼児の援助（目標1,2）
担当教員: 伊藤　和男

第5回　「聴覚障害の生理，病理，心理面の理解」
聴覚器官の構造，聴覚障害の原因と分類，聴力検査，聴力レベルとオージオグラム，聴覚補償，難聴体験を通した活動のあり方（目標１：聴障の病理や分類。障害からくる問題の理解。）
担当教員: 松本　末男

第6回　「乳幼児期の支援」
AABRによる周産期の障害発見から母親への支援，乳児への支援のあり方(目標２：乳幼児期の両親への支援と，支援する際の配慮事項の理解)
担当教員: 松本　末男

第7回　「幼児期の指導」
言語獲得期の言語指導のあり方，聴覚の活用のための支援，人工内耳装用児への支援，発音指導，絵日記の活用（目標２：幼児期の指導の重要性の理解）
担当教員: 松本　末男

第8回　「聴覚障害児，生徒のコミュニケーション」
教科指導，聴覚口話方，手話法，指文字，トータルコミュニケーション，バイリンガル・バイカルチャルアプローチ，普通学級の聴覚障害児への支援（目標１：様々な方法を含めたコミュニケーション）
担当教員: 松本　末男

予習・復習の内容
（毎回90分程度）

予習　（伊藤和男）
第１回～４回（共通）予めテキストを読み，関連事項を図書館等で調べるなどして授業に備える。
（松本末男）
第5回　聴覚の各器官の役割を本やインターネットで調べてみる
第6回～第8回（共通）　テキストを事前に読み，分からない事柄を調べる。

復習　（伊藤和男）
第１回～４回（共通）授業で配布されたプリントやノートを読み直すと共に，実践例などを視覚特別支援学校のホームページや関連参考書で確認して定着を図るように心がける。
（松本末男）
第5回　復習プリントを回答し，聴覚の生理と補装具についてまとめておく
第6回　復習プリントを回答し，乳幼児期の支援についてまとめておく
第7回　復習プリントを回答し，幼児期の指導についてまとめておく
第８回　復習プリントを回答し，様々なコミュニケーションについてまとめ，教科の指導についてまとめとく。

展開　（伊藤和男）
それぞれが興味を持った内容について，視覚障害教育の専門書により，さらに学習を深める。
（松本末男）
1.聴覚障害児の教育に関心を持つ，年齢に応じたコミュニケーションについて理解に努めるようにする。

2.聴覚障害児の言語の指導について関心を持ち，自分が指導するとしたらどんな指導をするか考えてみる。

成績評価	評価の基準	（伊藤和男） 1.視覚障害児の特性を理解したうえで，視覚障害教育における自立活動や教科指導の基本的な事項を習得させるために用意されたプリントやテキストの理解度等を，発問やレポートなどを通してその達成度を評価する。 2.視覚障害教育の専門性が，視覚以外の他の特別支援学校や通常学校に在籍する視覚障害を有する児童・生徒にも必要なことを，学生に調べさせた上で，レポートに反映させるなどしてその理解の達成度を評価するなお，1・2とも授業での態度や取り組み状況も評価判定の基準に加える。 （松本末男） 1.聴覚障害の原因やそれを補う方法を理解し，補装具を理解すること。 2.発達に応じた言語指導のあり方を知り，違いを知っていること。
	評価の方法	（伊藤和男） 授業への取り組み40点，レポート60点，合計100点として評価する。 （松本末男） 試験の結果，内容の理解と定着（50%），授業の参加平常点による（授業の取り組み，議論，発表など）（50%）

教科書	書籍名	視覚障害教育に携わる方のために
	著者名	香川邦生/編著
	出版社	慶應義塾大学出版会
	価格	3,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7664-1781-4

推薦図書等

参考URL

備考

学習障害・重複障害等教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP309
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	学習障害・重複障害等教育総論
科目責任者	漆澤　恭子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30006401　土曜日，3限
教室	講義室14
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	発達障害，LD，ADHD，自閉症スペクトラム，重複障害	
学生の到達目標	1.発達障害，重複障害について基本的な内容を説明することができる 2.得た知識をもとに，障害のある子どもたちへの支援方法を考えることができる	

授業内容

第1回	発達障害の理解（目標１）
第2回	LDの基本的理解（目標１）
第3回	LDの教育的支援（目標１,２）
第4回	ADHDの基本的理解（目標１）
第5回	ADHDの教育的支援（目標１,２）
第6回	ASD等の理解と支援（目標１,２）
第7回	重複障害の理解と教育的支援の方法（目標１,２）

	第8回	早期発見・早期支援 学習のまとめ（目標１,２）
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第1回　1年次に学んだ障害関係の授業について復習をして授業に臨むこと。 第２回～8回　次回のテーマと主な内容についての予告に従って準備した上で授業に臨むこと。
	復習	第１回～第８回　毎回の授業の資料とノートを見直し，教科書の関連の箇所で確認しておくこと
	展開	協議で出た意見については聞き流すことなくまとめておくこと。授業で学んだことと実習など現場で学んだことを関連づけて考えること。
成績評価	評価の基準	1.発達障害，重複障害等について基礎的な内容が理解できていること。 2.協議に積極的に参加し，的確に自分の考えを述べ，さらに深めることができていること。
	評価の方法	発言・発表（30%）提出物（30%）定期試験（40%） この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	教員をめざす人の特別支援教育テキスト
	著者名	奈良教育大学教育研究支援機構特別支援教育研究センター
	出版社	クリエイツかもがわ
	価格	1296円
	ISBN・ISSN	486342115X
推薦図書等	書籍名	LD　ADHD　&ASD（季刊誌）
	著者名	上野一彦
	出版社	明治図書
	価格	－
	ISBN・ISSN	－
	書籍名	特別支援教育研究（月刊誌）
	著者名	全日本特別支援教育研究連盟
	出版社	東洋館出版
	価格	－
	ISBN・ISSN	－
	書籍名	LD　ADHD等関連用語集
	著者名	日本LD学会
	出版社	日本文化科学社
	価格	1,190円
	ISBN・ISSN	978-4-8210-7333-1

参考URL

備考

言語障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	SSP404
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	言語障害教育総論
科目責任者	堀　彰人
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30006501　土曜日，1限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	言語発達，構音障害，吃音，コミュニケーション	
学生の到達目標	1.構音障害，吃音，言語発達の遅れ等に関する基礎的事項を学ぶ。 2.子どもの言語障害に関する指導やコミュニケーションの支援等について，事例を通して学ぶ。 3.学校における言語障害教育への指導に関する制度等について学ぶ。	
授業内容	第1回	オリエンテーション及び言語やコミュニケーションの発達の基礎について学習する。（目標1）
	第2回	言語発達の遅れ，言語性学習障害等に関するアセスメント，指導（AACを含む）について学習する。（目標2）
	第3回	構音障害の基礎について学習する。（目標1）
	第4回	構音障害に関するアセスメント，指導について学習する。（目標2）
	第5回	吃音の基礎について学習する。（目標1）

	第6回	吃音に関するアセスメント，指導について学習する。（目標2）
	第7回	発達障害のある子どものコミュニケーションの支援について学習する（目標２）
	第8回	言語障害教育の歴史や指導の場，通常の学級における理解教育，現状と課題などについて概観する。（目標3）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回　子どもとのコミュニケーションやその支援について，自らの体験を通した課題意識をもち，それを整理して表現できるようにしておくこと。 第２回～第８回　それぞれのテーマに即して，関連する資料等に目を通しておく。
	復習	第１回～第８回　毎回の授業の内容を振り返り，ポイントを整理しておくこと。
	展開	関心をもった領域について，さらに知識を得たり，その後の体験の中で，自らと子どもとの関係を見つめながら，さらに考察を深めていく。
成績評価	評価の基準	子どもに日常的に関わる専門職として， 1.構音障害,吃音,言語発達の遅れ等に関する基礎的事項の定着度。 2.子どもの言語障害に関する指導方法や内容，事例の見方，考え方についての理解度。 3.学校における言語障害教育への指導に関する制度等についての理解度，定着度。
	評価の方法	1.毎回のワークシート等の提出５０％ 2.期末テスト５０％。ただし，この比率は，授業への参加態度を加味することも含め，最終的に若干の変更を行う場合がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	子どもがどもっていると感じたら
	著者名	廣嶌 忍・堀 彰人　編
	出版社	大月書店他
	価格	1,500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-272-40322-6
参考URL	http://nangen.jp http://forum.nise.go.jp/kotoba/htdocs/ http://zengenren.org/ http://kituonkenkyu.org/ http://www.kitsuon-portal.jp/	
備考	推薦図書は随時紹介する。 第３・４回には，実技を中心に行うため，手鏡，ストロー，紙コップ，はさみ，ティッシュを各自用意する。	

特別支援教育実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR311
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	特別支援教育実習
科目責任者	堀　彰人
担当教員	松原　敬子 佐藤　愼二 山本　邦晴 漆澤　恭子 田村　光子 相磯　友子 根本　曜子 長嶺　章子 久留島　太郎 中澤　潤
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30016601
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	教育実習，特別支援学校，職務，授業，指導案	
学生の到達目標	次の３点を達成目標とする。 1.特別支援学校の教員として求められる姿勢，態度等を身につける。 2.子どもへの適切な指導・支援を実践を通して理解する。 3.教育公務員の職務とその使命を理解する。	

授業内容	後期の１０月に実施する。 １．特別支援学校の学校生活の計画と実際を理解する。 ・一日，一週間，一年間の生活の流れ ・教育課程の概要　など（目標3） ２．指導・指導計画の作成や授業の進め方を学ぶ。 ・各授業の年間計画や単元計画の実際 ・指導計画や支援（指導）案の作成 ・授業計画の実際　など（目標1,2） ３．障害のある子どもへの適切な指導・支援を学ぶ。 ・子ども個々の様子の把握の仕方 ・個別の指導（支援）計画 ・支援の実際ー「できる状況づくり」の工夫 ・授業中の声かけや手助け　など（目標1,2） ４．教師のあり方やなすべき様々な仕事の理解 ・望ましい教師の姿 ・教材準備や学級便り作成等，教師の仕事の実際　など（目標３）
予習・復習の内容（毎回120分程度）	予習　実習配属先の学校要覧を取り寄せ，実習先の方針や児童生徒の概要の把握に努める。 復習　授業のポイントを整理し，指導案・支援案の作成に生かす。 展開　個々の様子の把握，個々に応じた支援・指導の工夫を，他の実習等に生かす。
成績評価	評価の基準　1.特別支援学校の教員として求められる姿勢，態度等が身についたか。 2.子どもへの適切な指導・支援の在り方を理解したか。 3.教育公務員としての職務，使命を理解したか。 評価の方法　実習先からの評価表90%と実習に関わる記録簿，指導案等の課題の提出10%をもとに評価を行う。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

特別支援教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR310
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	特別支援教育実習事前事後指導
科目責任者	堀　彰人
授業形態	実習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	30006801　（前期）土曜日，5限（後期）土曜日，4限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観 1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	特別支援学校，職務，授業，指導案	
学生の到達目標	1.特別支援学校における指導・支援の実践的体験を通し，特別支援学校教育従事者に必要な肯定的なまなざし，児童生徒理解の視点を学ぶ。 2.特別支援学校の教員としての服務や専門的な知識・技能の基礎を学ぶ。	
授業内容	第1回	実習の意義と目的（目標2）
	第2回	実習の意義と目的（目標2）
	第3回	特別支援学校の概要の理解（目標2）
	第4回	特別支援学校の概要の理解（目標2）
	第5回	児童・生徒への支援的対応について（目標1,2）
	第6回	児童・生徒への支援的対応について（目標1,2）

	第7回	実習における態度・実習における自己目標の設定（目標2）
	第8回	実習における態度・実習における自己目標の設定（目標2）
	第9回	指導案の書き方・実習日誌の意義と記入の仕方（目標1）
	第10回	指導案の書き方・実習日誌の意義と記入の仕方（目標1）
	第11回	実習先での事前訪問とオリエンテーション（目標2）
	第12回	実習校との手続き（目標2）
	第13回	実習日誌の整理・実習の自己評価（目標1,2）
	第14回	実習日誌の整理・実習の自己評価（目標1,2）
	第15回	意見交換と反省・まとめ（目標1,2）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回～第４回 実習先の学校要覧をもとに，実習先のカリキュラムや児童生徒の概要の把握をする。 第５回～第１０回 一つの学習活動を想定し，目標，展開などを予め考えておく。 第９回～第１５回 配付した資料に目を通しておく。
	復習	第１回～第１５回 授業のポイントについて整理をする。
	展開	実際の特別支援学校での実習で学んだことを生かす。
成績評価	評価の基準	1.特別支援教育における児童生徒理解の行動等を肯定的に理解しようとしたか，またその際の視点を理解できたか。 2.特別支援学校の教員としての服務，指導・支援の基礎が理解できたか。
	評価の方法	授業の参加姿勢50%，レポート等課題の提出状況50%とする。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	特別支援学校学習指導要領
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	462円
	ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9
	書籍名	特別支援学校学習指導要領解説総則編等
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	473円
	ISBN・ISSN	978-4-316-30016-0
推薦図書等	書籍名	感じ合い　分かり合い　支え合い
	著者名	小出進
	出版社	生活中心教育研究会
	価格	1,000円

ISBN・ISSN　　－

□上記の図書等は市販されていません。

参考URL	
備考	第５回～第１０回は，４人ごとのグループを構成し，ロールプレイ等を行います。

ボランティア体験実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR101
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	ボランティア体験実習
科目責任者	田村　光子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30006701　（前期）金曜日，5限（後期）木曜日，5限
教室	（前期）中講義室（後期）講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	ボランティアの基礎，ボランティア実習，講演会	
学生の到達目標	1.幼児教育，保育，障害児者福祉の各領域・分野から各自の興味に合わせた活動を選択し，現場の活動に参加する。現場での関わりを通して，具体的・実際的な支援の必要性を知る。 2.体験の導入と振り返りの指導により，人間関係力・社会関係力を身につけ，よりよい職業選択につなげる。	
授業内容	【第１回】　ボランティア体験実習ガイダンス（目標１,２） 履修の心得、ボランティア活動参加における心構えについて 【第2回】　ボランティア体験実習計画の作成(目標１,２） １年間のボランティア体験実習の計画をたてる。 どのようなところにボランティアに行きたいか，身近な地域のボランティア活動の内容についても把握する。	

【第３回】　領域・分野別活動参加（目標１）
次の領域・分野のうち１つあるいは複数を選択し，活動参加する。活動参加時間は通算５日以上（４０時間以上）を必要とする。
（１）保育関連の活動体験
幼稚園，保育園でのボランティア参加，子育て支援センター，子育てリラックス館におけるボランティア参加，その他幼児教育・保育の現場とみとめられる諸活動・実践へのボランティア参加
（２）「障害児教育・福祉」に関する活動体験
障害児入所施設における施設ボランティア参加
障害児地域生活支援団体における外出支援ボランティア参加
特別支援学校における行事ボランティア参加
その他，障害児教育，障害児福祉の現場とみとめられる諸活動・実践へのボランティア参加
（３）その他，地域における教育，福祉に関する活動体験
上記（１）（２）の領域に関連するボランティア依頼のあった団体への活動参加
※担当教員，コーディネーターにより適当と認められたもののみ時間数とする。

【第４回】　ボランティア講演会への参加（目標２）
ボランティア活動について，また地域子育て支援に関する講師を招いて講演会を実施する。
学生は講演会に参加し，感想シート（８００字程度）を作成する。

【第５回】　ボランティア体験実習のまとめ(目標１,２）
活動参加記録シート，まとめレポート（１０００字程度）を作成する。実習計画シート，講演会感想シートとあわせて冊子にまとめ，提出する。

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	ボランティア参加のための事前準備（ボランティア先のアポイントメント，出欠席や持ち物などの諸連絡，あいさつ等）各自責任を持って対応すること。
	復習	講演会への参加については欠席のないようにすること。また講演会についての感想レポートも必ず提出する。 ボランティア実習計画，活動記録，まとめシート等，指示されたレポート課題を期限までに提出する。
	展開	事前準備に関してわからない点は，教員またはコーディネーターに相談すること。
成績評価	評価の基準	到達目標1,2について，ボランティアへの規定時間における活動参加に加え，ガイダンス，講演会への参加を基本とする。
	評価の方法	ボランティア活動への参加レポートの提出（８０%） 授業及び講演会への参加態度・意欲（２０%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習Ⅰ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR202
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習Ⅰ（保育所）
科目責任者	松原　敬子
担当教員	佐藤　慎二 山本　邦晴 漆澤　恭子 田村　光子 相磯　友子 根本　曜子 堀　彰人 長嶺　章子 久留島　太郎 中澤　潤
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30014301
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	保育所，子，保育士，観察，参加実習	
学生の到達目標	1.保育所の役割や機能及び子どもの関わりを通し子ども理解を深めていく。 2.保育の計画，観察，記録及び自己評価等について具体的に理解する。 3.保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	
授業内容	後期の１１月下旬～１２月月上旬に実施する。 1.保育所の役割と機能 （１）保育所の生活と一日の流れ（目標１） （２）保育所保育指針の理解と保育の展開（目標１）	

2.子ども理解
（1）子どもの観察とその記録による理解（目標１）
（2）子どもの発達過程の理解（目標１）
（3）子どもへの援助やかかわり（目標１）
3.保育内容・保育環境
（1）保育の計画に基づく保育内容（目標１,２）
（2）子どもの発達過程に応じた保育環境（目標１,２）
（3）子どもの健康と安全（目標１,２）
4.保育の計画・観察・記録
（1）保育課程と指導計画の理解と活用（目標２）
（2）記録に基づく省察・自己評価（目標２）
5.専門職としての保育士の役割と職業倫理
（1）保育士の業務内容（目標３）
（2）職員間の役割分担や連携（目標３）
（3）保育士の役割と職業倫理（目標３）

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	翌日の実習へのねらいを明確に持つ。 実習クラスの子どもの発達過程について保育所保育指針等で確認する。
	復習	実習のねらいに沿って省察し，保育の振り返りを実習記録簿に記入する。 実習記録簿等，実習先から指導された事項について修正を行う。
	展開	保育の現状と課題について関心を持ち調べる。 自己を振り返り，保育士としての資質向上に努める。

成績評価	評価の基準	実習先における評価は，内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等により行う。
	評価の方法	原則として実習先における評価基準に準ずるが，学内担当教員の評価も加味して評価する。 評価の割合は，実習委員会の合議による。

教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	正文社
	価格	―
	ISBN・ISSN	―

推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	１９０円
	ISBN・ISSN	978-4577812426

参考URL

備考

保育実習Ⅰ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR305
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習Ⅰ（施設）
科目責任者	田村　光子
担当教員	松原　敬子 佐藤　愼二 山本　邦晴 漆澤　恭子 相磯　友子 根本　曜子 堀　彰人 長嶺　章子 久留島　太郎 中澤　潤
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30014401
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	施設実習，児童福祉施設および障害関連施設での実習，事後指導	
学生の到達目標	1.児童福祉施設および障害関係施設等，それぞれの施設での生活について体験的に理解する。 2.児童福祉施設および障害関係施設等，それぞれの施設において求められる専門職としての知識・技能について学ぶ。	

授業内容	施設実習は原則，前期９月初旬に実施する。 ・実習園の概要を知る（目標１） ・施設で暮らす利用者の実態を知る（目標１） ・施設における援助者の役割を知り，その一部を実際に経験する（目標２） ・実習記録を毎日提出して，担当指導者より指導を受け，施設の理解と援助内容の理解を深める（目標２） ・教員による巡回指導および実習施設での事後指導を受け，実習内容を振り返り，資質の向上に努める（目標２）	
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	事前オリエンテーションおよび実習初日までに，実習記録簿における事前目標・施設概要等の準備をする。 事前訪問日のについての約束，必要な書類の準備等を各自責任をもって行う。
	復習	実習中は日々の記録で一日振り返り，考察するとともに，翌日の課題を明らかにしておく。 実習後は反省および実習の振り返りを記載する。
	展開	実習において不明な点は，すぐに明らかになるよう，実習指導者および巡回指導教員に指導をあおぐこと。 実習後，２週間以内に必ず記録簿を実習施設に提出する。返却をうけたら直ちに，指導教官に提出する。
成績評価	評価の基準	到達目標1,2について，実習施設による評価，記録簿等を総合して評価する。
	評価の方法	実習施設による評価（90%），記録簿等（10%）を総合する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR307
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習Ⅱ（保育所）
科目責任者	松原　敬子
担当教員	佐藤　慎二 山本　邦晴 漆澤　恭子 田村　光子 相磯　友子 根本　曜子 堀　彰人 長嶺　章子 久留島　太郎 中澤　潤
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30014501
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	保育所，子ども，保育士，責任実習	
学生の到達目標	1.保育実習Ⅰを踏まえ，保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 2.保育の指導計画，記録及び自己評価について，実践を通し理解を深める。 3.保育士の業務内容や職業倫理など具体的に学び，自己課題を明確化する。	
授業内容	1.保育所の役割と機能の具体的展開 （1）養護と教育が一体となって行われる保育（目標1） （2）保育所の社会的役割と責任（目標1）	

2.観察に基づく保育理解
（1）子どもの心身の状態や活動の観察（目標1,2）
（2）保育士等の動きや実践の観察（目標1,2）
（3）保育所の生活の流れや展開の把握（目標1,2）
3.子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携
（1）環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解（目標1,2）
（2）入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援（目標1,2）
（3）地域社会との連携（目標1,2）
4.指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
（1）保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解（目標2）
（2）作成した指導計画に基づく保育実践と評価（目標2）
5.保育士の業務と職業倫理
（1）多様な保育の展開と保育士の業務（目標3）
（2）多様な保育の展開と職業倫理（目標3）
6.自己の課題の明確化（目標3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）

予習	翌日の実習へのねらいを明確に持つ。 実習クラスの子どもの発達過程について保育所保育指針等で確認する。 責任実習においては，当該クラスの様子をよく観察した上で実習担当者に相談し準備を行う。
復習	実習のねらいに沿って省察し，保育の振り返りを実習記録簿に記入する。 実習記録簿等，実習先から指導された事項について修正を行う。
展開	保育の現状と課題に関心を持ち調べる。 自己を振り返り，保育士としての資質向上に努める。

成績評価

評価の基準	実習先における評価は，内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等により行う。
評価の方法	原則として実習先における評価基準に準ずるが，学内担当教員の評価も加味して評価する。 評価の割合は，実習委員会の合議による。

教科書

書籍名	実習の手引き
著者名	本学実習委員会編
出版社	正文社
価格	－
ISBN・ISSN	－

推薦図書等

書籍名	保育所保育指針解説書
著者名	厚生労働省
出版社	フレーベル館
価格	１９０円
ISBN・ISSN	978-4577812426

参考URL

備考

保育実習Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR309
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習Ⅲ（施設）
科目責任者	田村　光子
担当教員	松原　敬子 佐藤　愼二 山本　邦晴 漆澤　恭子 相磯　友子 根本　曜子 堀　彰人 長嶺　章子 久留島　太郎 中澤　潤
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30014601
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	施設実習，児童福祉施設および障害関係施設における実習	
学生の到達目標	1.児童福祉施設および障害関係施設等，それぞれの施設での生活について体験的に理解する。 2.児童福祉施設および障害関係施設等，それぞれの施設において求められる専門職としての知識・技能について学ぶ。	

授業内容	施設実習は原則，前期９月初旬に実施する。 ・実習園の概要を知る（目標１） ・施設で暮らす利用者の実態を知る（目標１） ・施設における援助者の役割を知り，その一部を実際に経験する（目標２） ・実習記録を毎日提出して，担当指導者より指導を受け，施設の理解と援助内容の理解を深める（目標２） ・教員による巡回指導および実習施設での事後指導を受け，実習内容を振り返り，資質の向上に努める。（目標２）	
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	事前オリエンテーションおよび実習初日までに，実習記録簿における事前目標・施設概要等を記入する。 事前訪問日の約束，必要な書類の準備等を各自責任をもって行う。
	復習	実習中は日々の記録で一日を振り返り，考察するとともに，翌日の課題を明らかにしておく。 実習後は反省および実習の振り返りを記載する。
	展開	実習について不明な点については，すぐ明らかになるよう，実習指導者および巡回指導教官に指導をあおぐこと。 実習後，２週間以内に必ず記録簿を実習施設に提出する。返却をうけたら直ちに，指導教官に提出する。
成績評価	評価の基準	到達目標1,2について，実習施設による評価，記録簿等を総合して評価する。
	評価の方法	実習施設による評価（90%），記録簿等（10%）を総合する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習指導Ⅰ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR201
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）
科目責任者	松原　敬子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30014702　水曜日，1限 30014701　水曜日，2限
教室	講義室4
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	保育所、子ども，保育士，観察参加実習	
学生の到達目標	1.保育実習の意義・目的を理解する。 2.実習の計画，観察，記録，評価の方法や内容について理解する。 3.実習の総括と自己評価から新たな課題や目標を明確にする。	
授業内容	第1回	1．保育実習の意義 （1）実習の目的（目標1） （2）実習の概要（目標1）
	第2回	1．保育実習の意義 （1）実習の目的（目標1） （2）実習の概要（目標1）
	第3回	2．実習の内容と課題の明確化 （1）実習の内容（目標2） （2）実習の課題（目標2）
	第4回	2．実習の内容と課題の明確化 （1）実習の内容（目標2） （2）実習の課題（目標2）

第5回	3．実習に際しての留意事項 （1）子どもの人権と最善の利益の考慮（目標2） （2）プライバシーの保護と守秘義務（目標2） （3）実習生としての心構え（目標2）
第6回	3．実習に際しての留意事項 （1）子どもの人権と最善の利益の考慮（目標2） （2）プライバシーの保護と守秘義務（目標2） （3）実習生としての心構え（目標2）
第7回	3．実習に際しての留意事項 （1）子どもの人権と最善の利益の考慮（目標2） （2）プライバシーの保護と守秘義務（目標2） （3）実習生としての心構え（目標2）
第8回	4．実習の計画と記録 （1）実習における計画と実践（目標2） （2）実習における観察、記録及び評価（目標2）
第9回	4．実習の計画と記録 （1）実習における計画と実践（目標2） （2）実習における観察、記録及び評価（目標2）
第10回	4．実習の計画と記録 （1）実習における計画と実践（目標2） （2）実習における観察、記録及び評価（目標2）
第11回	4．実習の計画と記録 （1）実習における計画と実践（目標2） （2）実習における観察、記録及び評価（目標2）
第12回	4．実習の計画と記録 （1）実習における計画と実践（目標2） （2）実習における観察、記録及び評価（目標2）
第13回	5．事後指導における実習の総括と課題の明確化 （1）実習の総括と自己評価課題の明確化（目標3）
第14回	5．事後指導における実習の総括と課題の明確化 （1）実習の総括と自己評価課題の明確化（目標3）
第15回	5．事後指導における実習の総括と課題の明確化 （1）実習の総括と自己評価課題の明確化（目標3）

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1～15回（共通）「実習の手引き」の内容を熟読し，理解する。 第8～12回　実習先についてインターネット等で調べる。
	復習	第1～12回　実習に必要な準備や練習等を行う。 第13～15回　保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて自己の課題をまとめ，目標を明確にする。
	展開	実習に臨む姿勢や留意するべき事項について確認する。

成績評価	評価の基準	1.実習関係書類や実習の準備等が的確に整えられたか。 2.心身共に体調を整え，実習へ臨む姿勢が持てたか。 3.保育実習の目的や保育士に求められる資質等の理解度や定着度。 4.自己課題と今後の展望の明確化。
	評価の方法	授業への受講意欲（ 70%），提出物（10%）， レポート（ 20%）

教科書

書籍名	実習の手引き
著者名	本学実習委員会編
出版社	正文社
価格	－
ISBN・ISSN	－

推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	１９０円+税
	ISBN・ISSN	978-4-577-81242-6

参考URL

備考

保育実習指導Ⅰ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR304
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）
科目責任者	田村　光子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30014801　木曜日，3限
教室	大講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	施設実習，児童福祉施設および障害関連施設における実習，事前事後指導	
学生の到達目標	1.実習にむけて，実習目標，実習課題を明確化し，よりよい実習に臨めるように準備する。 2.実習を通して学んだ専門職として必要な知識・技能について確認する。	

授業内容

第1回	実習の意義と目的（目標１）
第2回	実習生紹介の作成（下書き）（目標１）
第3回	実習生紹介の作成（清書）・その他提出書類の作成（目標１）
第4回	実習施設の理解①　障害関係施設について（目標１）
第5回	実習施設の理解②　児童関係施設について（目標１）

	第6回	障害者総合支援法におけるサービスの理解 子ども・利用者への支援的対応について（目標１）
	第7回	記録の意義と記録簿の記入の仕方①　自己目標の設定（下書き）（目標１）
	第8回	記録の意義と記録簿の記入の仕方②　日々の記録の書き方（障害施設）(目標１）
	第9回	記録の意義と記録簿の記入の仕方③　日々の記録の書き方（児童施設）（目標１）
	第10回	記録の意義と記録簿の記入の仕方④　エピソードおよび感想の書き方（目標１）
	第11回	実習にあたっての手続き①　事前訪問について（目標１）
	第12回	実習にあたっての手続き②　検査等および提出・持参書類の確認（目標１）
	第13回	実習にあたっての手続き③　実習前の記録簿の確認（目標１）
	第14回	実習にあたっての手続き④　論文提出が必要な学生への指導（目標１）
	第15回	実習後指導　自己評価と今後の課題の明確化（目標２）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～14回　実習の手引きを参照に実習の意義と目的，および実習における態度について確認する。 第4回～6回　実習施設についての理解，子ども・利用者への支援的対応についてまとめておく。 第7回　実習にむけた自己目標を作成する。
	復習	第15回　事後指導では，自己評価と今後の課題を明確化する。
	展開	不明な点については，すぐに明らかになるように努める。実習事前，事後指導の中でわからない点については，担当教員の指導を仰ぐようにする。
成績評価	評価の基準	到達目標1,2について，授業への参加態度，提出物などを総合して評価する。
	評価の方法	実習にむけての意欲・態度（50%） 提出物等の内容・提出状況（50%）を総合する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習指導Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR306
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所）
科目責任者	松原　敬子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30014901　木曜日，1限 30014902　木曜日，2限
教室	講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	保育所，子ども，保育士，責任実習	
学生の到達目標	1.保育実習の意義と目的を理解し，総合的な学びから保育実践力を培う。 2.保育の指導計画の立案や実践から保育の改善について事例を通して学ぶ。 3.実習の総括と自己評価を行い，保育に対する課題や認識を明確にする。	
授業内容	第1回	1．保育実習による総合的な学び （1）子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解（目標１） （2）子どもの保育と保護者支援（目標１）
	第2回	1．保育実習による総合的な学び （1）子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解（目標１） （2）子どもの保育と保護者支援（目標１）
	第3回	2．保育実践力の育成 （1）子どもの状態に応じた適切なかかわり（目標１） （2）保育の表現技術を生かした保育実践（目標１）

第4回	2．保育実践力の育成 （1）子どもの状態に応じた適切なかかわり（目標1） （2）保育の表現技術を生かした保育実践（目標1）
第5回	3．計画と観察，記録，自己評価 （1）保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践（目標2） （2）保育の観察，記録，自己評価に基づく保育の改善（目標2）
第6回	3．計画と観察，記録，自己評価 （1）保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践（目標2） （2）保育の観察，記録，自己評価に基づく保育の改善（目標2）
第7回	3．計画と観察，記録，自己評価 （1）保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践（目標2） （2）保育の観察，記録，自己評価に基づく保育の改善（目標2）
第8回	3．計画と観察，記録，自己評価 （1）保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践（目標2） （2）保育の観察，記録，自己評価に基づく保育の改善（目標2）
第9回	3．計画と観察，記録，自己評価 （1）保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践（目標2） （2）保育の観察，記録，自己評価に基づく保育の改善（目標2）
第10回	3．計画と観察，記録，自己評価 （1）保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践（目標2） （2）保育の観察，記録，自己評価に基づく保育の改善（目標2）
第11回	4．保育士の専門性と職業倫理（目標2）
第12回	4．保育士の専門性と職業倫理（目標2）
第13回	5．事後指導における実習の総括と評価 （1）実習の総括と自己評価（目標3） （2）課題の明確化（目標3）
第14回	5．事後指導における実習の総括と評価 （1）実習の総括と自己評価（目標3） （2）課題の明確化（目標3）
第15回	5．事後指導における実習の総括と評価 （1）実習の総括と自己評価（目標3） （2）課題の明確化（目標3）

予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第1～15回（共通）実習の手引きの内容を熟読し，理解を深める。 実習先についてインターネット等で調べる。 第5～10回　実際に指導案の作成をする。
	復習	第1～12回　実習に必要な準備や練習等を行う。 第13～15回　今後に向けて自己課題を明確にする。
	展開	実習に臨む姿勢や留意するべき事項について確認する。

成績評価	評価の基準	1.実習関係書類や実習の準備等が的確に整えられたか。 2.心身共に体調を整え，実習に臨む姿勢が持てたか。 3.保育実習の目的と保育士に求められる資質等の理解度と定着度。 4.自己課題と今後の展望の明確化。
	評価の方法	授業への受講態度(70%)，提出物(10%)，レポート(20%)

教科書

書籍名	実習の手引き
著者名	本学実習委員会編
出版社	正文社
価格	－

	ISBN・ISSN	－

推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	１９０円+税
	ISBN・ISSN	978-4-577-81242-6

参考URL	
備考	

保育実習指導Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR308
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅲ（施設）
科目責任者	田村　光子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30015001　木曜日，４限
教室	講義室3
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	施設実習，児童福祉施設および障害関係施設における実習，事前事後指導	
学生の到達目標	1.実習にむけて，実習目標，実習課題を明確化し，よりよい実習に臨めるように準備する。 2.実習を通して学んだ専門職として必要な知識・技能について確認する。	
授業内容	第1回	実習の意義と目的（目標１）
	第2回	実習生紹介の作成（下書き）(目標１)
	第3回	実習生紹介の作成（清書）・その他提出書類の作成（目標１）
	第4回	実習施設の理解①　障害児療育の現場の理解（目標１）
	第5回	実習施設の理解②　その他施設の現場の理解（目標１）

	第6回	障害者総合支援法におけるサービスの理解 子ども・利用者への支援的対応について（目標１）
	第7回	記録の意義と記録簿の記入の仕方①　自己目標の設定（目標１）
	第8回	記録の意義と記録簿の記入の仕方②　日々の記録の書き方（目標１）
	第9回	記録の意義と記録簿の記入の仕方③　エピソードおよび感想の書き方（目標１）
	第10回	実習にあたっての手続き①　事前訪問について 検査等提出物（目標１）
	第11回	実習にあたっての手続き②　実習前の記録簿記入事項の確認（目標１）
	第12回	実習事後指導①　自己評価と今後の課題の明確化（目標２）
	第13回	実習事後指導②　指導計画の振り返り（目標２）
	第14回	実習事後指導③　指導案集の作成（目標２）
	第15回	実習事後指導④　指導案集の編集（目標２）
予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	実習の手引きを参照に実習の意義と目的，実習における態度について事前に確認する。(第1回～11回)
	復習	実習に向けた自己目標を作成する。(第7回) 実習施設についての理解，子ども・利用者への支援的対応についてまとめておく。(第1回～15回)
	展開	不明な点については，すぐにあきらかになるように努める。実習事前，事後指導の中でわからない点は，担当教員の指導を仰ぐようにする。
成績評価	評価の基準	到達目標1,2について，授業への参加態度，提出物などを総合して評価する。
	評価の方法	授業への参加態度（50%），提出物等（50%）を総合する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育実習Ⅰ（参観実習）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR102
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	教育実習Ⅰ（参観実習）
科目責任者	相磯　友子
担当教員	松原　敬子 佐藤　愼二 山本　邦晴 漆澤　恭子 田村　光子 根本　曜子 堀　彰人 長嶺　章子 久留島　太郎 中澤　潤
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30014101
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	子ども観，体験，援助と支援	
学生の到達目標	1.幼稚園の保育に接し，保育や子どもを見る際の観点をつかむ。 2.特別支援学校に在籍する子どもたちと触れ合うことを通して，障害ややさしい支援の在り方を理解する。	

授業内容	前期４月～９月までに実施する。 【幼稚園における参観実習】 （１）幼稚園の保育を見学し，保育の流れ・保育者 の動き・子どもの様子等を参観する。子どもたちの活動の中に入り，一緒に遊ぶ。（目標１） （２）幼稚園の園行事を参観し，行事のねらいに沿って展開される保育を体験する。子どもの様子や保育者の動き，保育者が保護者と関わる様子を観察する。（目標１） （３）幼稚園における保育の様子及び幼稚園の園行事に参加した記録をまとめる。（目標１） 【特別支援学校における参観実習】 （１）特別支援学校の各教室で子どもたちの様子を観察する。（目標２） （２）特別支援学校の概要及び役割に関する講義を受ける。（目標２） （３）特別支援学校における参観実習の記録をまとめる。（目標２）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習　自分の住んでいる地域にどのような幼稚園，特別支援学校があるか調べる。 復習　参観実習での記録をまとめる。 展開　幼稚園，特別支援学校でのボランティアに参加する。
成績評価	評価の基準　1.実習内容を理解し，実習に向けて自分なりに準備することができる事。 2.参観記録を適切な言葉づかいで書くことができる事。 評価の方法　授業への取り組み20%，参観記録・レポート80%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

教育実習Ⅱ（幼稚園）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR303
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	教育実習Ⅱ（幼稚園）
科目責任者	久留島　太郎
担当教員	松原　敬子 佐藤　愼二 山本　邦晴 漆澤　恭子 田村　光子 相磯　友子 根本　曜子 堀　彰人 長嶺　章子 中澤　潤
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30014001
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	3
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	幼稚園，教育実習，指導案，保育記録，省察	
学生の到達目標	1.幼稚園の役割や機能と幼稚園教諭の役割について具体的な実践を通して理解を深める。 2.子どもとのかかわりを通して，子どもを理解する力を高める。 3.保育の計画，実践，観察，記録及び自己評価等について実際に取り組む。 4.これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより今後の学習課題を明確にする。	

授業内容	前期の5月下旬～６月中旬に実施する。 ・実習園の概要を知る（目標1） ・子どもたちの生活の実態を知る（目標2） ・幼稚園における保育者の役割を知り，その一部を実際に経験する（目標1） ・実習記録を毎日提出して担当教諭の指導を受け，子どもの理解と保育者の援助の理解を深める（目標2.3） ・指導計画を立て，計画に基づいて準備・実践・評価を行う（目標3.4）

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	翌日の保育の予定を確かめ，教材等の準備をする。 部分実習や責任実習の指導案を作成し，指導を受け，準備する。
	復習	その日の保育を振り返り，ねらいに沿って省察し，実習記録簿に記録する。指導された事項について修正を行う。
	展開	幼児教育の現状と課題について関心を持つ。 自己を振り返り，保育者としての資質・力量の向上に努める。

成績評価	評価の基準	1.幼稚園の役割や機能と幼稚園教諭の役割について具体的な実践を通して理解を深めることができたか。 2.子どもとのかかわりを通して，子どもを理解する力を高めることができたか。 3.保育の計画，実践，観察，記録及び自己評価等について実際に取り組むことができたか。 4.これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより今後の学習課題を明確にすることができたか。
	評価の方法	実習園の評価に，学内担当の評価を加味して評価する。

教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	－
	価格	－
	ISBN・ISSN	－
	書籍名	幼稚園教育要領解説＜平成29年告示＞
	著者名	文部科学省
	出版社	フレーベル館
	価格	149円(税別)
	ISBN・ISSN	9784577814222
	書籍名	幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞
	著者名	内閣府/著　文部科学省/著　厚生労働省/著
	出版社	フレーベル館
	価格	149円(税別)
	ISBN・ISSN	9784577814246

推薦図書等	
参考URL	
備考	事前指導を受けた者のみが参加できる。

教育実習Ⅲ（特別支援学校・学級）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR204
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	教育実習Ⅲ（特別支援学校・学級）
科目責任者	相磯　友子
担当教員	松原　敬子 佐藤　愼二 山本　邦晴 漆澤　恭子 田村　光子 根本　曜子 堀　彰人 長嶺　章子 久留島　太郎 中澤　潤
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30014201
教室	
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	実習の意義，障害観，特別支援学校の教育課程	
学生の到達目標	1.特別支援学校等での実習がよりよく行えるよう，実習の意義や特別支援学校の教育課程を理解する。 2.特別支援学校等において実習を行い，実習を記録簿にまとめる。	

授業内容	後期11月～2月までに実施する。 特別支援学校・小学校特別支援学級での実習 ・実習校でのオリエンテーション（目標1） ・特別支援学校等における実習（目標2） ・観察，参観，部分実習（1週間）（目標2） ・実習校での反省会（目標1・2）	
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	特別支援学校にどのような種類があるのかを調べる。
	復習	自分の実習先の特別支援学校の教育課程について調べ，まとめる。
	展開	朝の会などを想定し，指導案（略案）を作成する。
成績評価	評価の基準	1.特別支援学校等での実習の意義や教育課程を理解しているか。 2.特別支援学校等において，自分なりの課題を意識を持って実習に取り組み，教職員と幼児・児童と関係を築きながら実習を行うことができるか。 記録簿は，適切な言葉で幼児・児童の様子と支援と支援の意図を書くことができるか。
	評価の方法	実習先の特別支援学校等による評価60%，実習記録簿40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育実習Ⅱ・Ⅲ事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR302
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	教育実習Ⅱ・Ⅲ事前事後指導
科目責任者	相磯　友子 久留島　太郎
授業形態	実習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	30015101　月曜日，1・3限 30015102　金曜日，4限
教室	中講義室 大講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	子ども観，障害観，実習の心がまえ，実習の振り返り	
学生の到達目標	1.実習での学習課題を明確にし，実習までに必要な準備を整えることができる。 2.保育，教育の場に入るにあたって，責任ある立場で子どもに接する者としてのあり方を理解する。 3.実習での体験を振り返り文章にまとめることを通して次の実習の課題を知る。	
授業内容	第1回	〈教育実習Ⅱ事前・事後指導〉実習の目的・概要等のオリエンテーション（目標1） 担当教員: 久留島　太郎
	第2回	書類作成と実習中の心構え（目標1.2） 担当教員: 久留島　太郎
	第3回	幼稚園の実際・子どもへのかかわり方（目標2） 担当教員: 久留島　太郎

第4回	記録簿の書き方①（目標1） 担当教員: 久留島　太郎
第5回	記録簿の書き方②（目標1） 担当教員: 久留島　太郎
第6回	幼稚園の教育課程と指導計画（目標1.2） 担当教員: 久留島　太郎
第7回	指導計画の立て方①（目標1） 担当教員: 久留島　太郎
第8回	指導計画の立て方②（目標1） 担当教員: 久留島　太郎
第9回	自己目標の明確化・直前指導（目標1.2） 担当教員: 久留島　太郎
第10回	実習のまとめ（目標3） 担当教員: 久留島　太郎
第11回	〈教育実習Ⅲ事前・事後指導〉　実習の目的・概要等のオリエンテーション（目標1） 担当教員: 相磯　友子
第12回	特別支援学校の概要（目標1,2） 担当教員: 相磯　友子
第13回	特別支援学校の教育課程とキーワード（目標1,2） 担当教員: 相磯　友子
第14回	記録簿の書き方（目標1） 担当教員: 相磯　友子
第15回	実習の振り返り（目標3） 担当教員: 相磯　友子

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回～15回　実習の手引きに目を通し，内容を理解して疑問点を明確にしておく。実習先の園や学校について，インターネット等で調べる。
	復習	第1回～15回　必要な準備や練習等を行う。
	展開	幼稚園教諭としての心得や，保育・教育現場での留意すべき事柄について確認する。

成績評価	評価の基準	1.実習の目的，概要，授業で取り扱った内容を理解し，記録簿や関係書類を適正に整え，実習の準備を行うことができるか。 2.実習生として責任ある立場で子どもに接する者としてのあり方を理解し準備できるか。 3.実習終了後，実習を振り返り，今後に向けて課題を的確にとらえることができるか。
	評価の方法	レポート・課題への取り組みと達成度70%　参加態度や姿勢30%

教科書

書籍名	実習の手引き
著者名	本学実習委員会編
出版社	－
価格	－
ISBN・ISSN	－
書籍名	幼稚園教育要領解説書

著者名	文部科学省
出版社	フレーベル館
価格	１９０円+税
ISBN・ISSN	978-4-577-81245-7

書籍名	流れがわかる　幼稚園・保育所実習　―発達年齢、季節や場所に合った指導案を考えよう―
著者名	松本峰雄　監修　浅川爾子・鍜治礼子・才郷眞弓・田中幸・堀 科　著
出版社	萌文書林
価格	1,800円＋税
ISBN・ISSN	978-4-89347-217-5

推薦図書等

参考URL

備考

教職実践演習（幼稚園）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR401
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	教職実践演習（幼稚園）
科目責任者	佐藤　愼二
担当教員	松原　敬子 山本　邦晴 漆澤　恭子 田村　光子 相磯　友子 根本　曜子 堀　彰人 長嶺　章子 久留島　太郎 中澤　潤
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	50000001　金曜日，1限 50000002　金曜日，1限 50000003　金曜日，1限 50000004　金曜日，1限 50000005　金曜日，1限 50000006　金曜日，1限 50000007　金曜日，1限 50000008　金曜日，1限 50000009　金曜日，1限 50000010　金曜日，1限 50000011　金曜日，1限
教室	中講義室 講義室2 講義室1 講義室13 講義室3 セミナー室1 講義室5 講義室7 セミナー室2 ラーニングコモンズ2 演習室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	幼稚園，子ども，実践	
学生の到達目標	1.障害の有無にかかわりなく，どの子どもも支える学級経営の基本を理解する。 2.学級経営や日常の保育における具体的な支援方法を身につける。 3.保護者や関係機関との連携の基本を身につける。	
授業内容	第1回	オリエンテーション(目標１,２,３)
	第2回	現役教諭による講話と演習「子どもが求める保育者像」(目標１)
	第3回	現役教諭による講話と演習「保護者が求める保育者像」(目標１,３)
	第4回	幼稚園における教師の責任，倫理，服務規律の確認、チームティーチング，保護者対応の確認」(目標１,２,３)
	第5回	救急救命講習会(目標２)
	第6回	子どもの前に立つ－絵本・紙芝居の模擬授業(目標２)
	第7回	子どもの前に立つ－手遊びの模擬授業(目標２)
	第8回	子どもの前に立つ－室内ゲームの模擬授業(目標２)
	第9回	子どもの前に立つ－ピアノなどなど取り入れた音楽遊びの模擬授業(目標２)
	第10回	子どもの前に立つ－図工的な保育・遊びの模擬授業(目標２)
	第11回	子どもの前に立つ－季節に応じた遊びの検討会(目標２)
	第12回	保護者との連携－保護者会の実際的検討(目標３)
	第13回	保護者との連携－個別相談支援の実際的検討(目標３)
	第14回	保育室及び園環境全体のレイアウトの実際的検討(目標１,２)
	第15回	関係機関と連携した早期相談支援の実際(目標３)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回　幼稚園での理想の保育について考えをまとめること。 第２回～第１４回　指示された事前の練習や準備を行うこと。
	復習	第１回～第１５回　指摘を受けた内容については繰り返し練習すること。
	展開	○ボランティア先で，率先して実践すること。
成績評価	評価の基準	1.障害の有無にかかわりなく，どの子どもも支える学級経営の基本を理解すること。 2.学級経営や日常の保育における具体的な支援方法を身につけること。 3.保護者や関係機関との連携の基本を身につけること。
	評価の方法	模擬授業の様子(50%)及びそれへの討論の内容・姿勢(30%)，レポート(20%)を踏まえ，総合的に評価する。
教科書		

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）（中澤）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（中澤）
科目責任者	中澤　潤
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001001　（前期）火曜日，1限 （後期）金曜日，2限
教室	（前期）講義室4 （後期）講義室2
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	発達，保育，インクルーシブ，研究	
学生の到達目標	1.幼児の保育･教育･生活の場での参観･実習･ボランティア活動等を通して，生活の整え方や障害への支援の仕方等について理解を深める。 2.設定したテーマに沿って，論文としてまとめる。	

授業内容

第1回	オリエンテーション（授業の進め方）（目標1,2）
第2回	卒業研究の意義と方法（目標1,2）
第3回	一人ひとりの関心等を発表しあい，テーマ設定を検討（目標1,2）
第4回	一人ひとりの関心等を発表しあい，テーマ設定を検討（目標1,2）
第5回	関係資料の収集，文献研究（目標1,2）
第6回	関係資料の収集，文献研究（目標1,2）

第7回	関係資料の収集，文献研究（目標1,2）
第8回	関係資料の収集，文献研究（目標1,2）
第9回	各自の研究テーマの発表（目標1,2）
第10回	各自の研究テーマの発表（目標1,2）
第11回	各自の研究テーマの発表（目標1,2）
第12回	各自の研究テーマの発表（目標1,2）
第13回	参観・実習を通した研究実施（目標1,2）
第14回	参観・実習を通した研究実施（目標1,2）
第15回	参観・実習を通した研究実施（目標1,2）
第16回	参観・実習を通した研究実施（目標1,2）
第17回	参観・実習を通した研究実施（目標1,2）
第18回	参観・実習を通した研究実施（目標1,2）
第19回	参観・実習を通した研究実施（目標1,2）
第20回	参観・実習を通した研究実施（目標1,2）
第21回	参観・実習を通した研究実施（目標1,2）
第22回	参観・実習を通した研究実施（目標1,2）
第23回	論文の構成，執筆について（目標1,2）
第24回	論文執筆指導（目標1,2）
第25回	論文執筆指導（目標1,2）
第26回	論文執筆指導（目標1,2）
第27回	論文の下書き完成，修正（目標1,2）
第28回	論文の提出（目標1,2）
第29回	発表資料の作成（目標1,2）
第30回	卒業研究発表会（目標1,2）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	設定したテーマに沿って，参考文献等をもとに，関係資料の収集や文献研究を行うとともに，ボランティア活動等調査･研究活動の事前準備を行い実際の状況を把握する。
	復習	個別の協議や研究テーマ発表会・中間発表会等で出された課題等について，再度検討，考察する。
	展開	研究や成果を一層確かなものとするため，関連するテーマの他施設等の情報等を調べたりして，内容を深める。

成績評価	評価の基準	1.自己の問題意識を研究テーマに設定できる。 2.研究テーマについて資料を集め，先行研究を整理することができる。 3.研究テーマについて分かりやすくまとめ，発表することができる。
	評価の方法	論文60%、授業への参加姿勢10% 調査･研究活動への取り組み30%。

教科書

書籍名	心理学マニュアル　観察法
著者名	中澤　潤 ・／大野木　裕明 ・／南　博文 編著

出版社	北大路書房
価格	税込1,404円
ISBN・ISSN	978-4-7628-2076-2

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）（佐藤）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（佐藤）
科目責任者	佐藤　愼二
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001002　（前期）火曜日，1限 （後期）金曜日，2限
教室	中講義室
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	「気になる」子ども，発達障害，具体的支援方法	
学生の到達目標	1.「気になる」子どもや発達障害のある子どもの思いの理解。 2.授業で取り上げる具体的な支援方法を身につける。 3.卒業研究としてまとめる。	
授業内容	第1回	○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ、その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会(目標１,２,３)
	第2回	○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。○

実際的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会(目標１,２,３)

第3回　○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会(目標１,２,３)

第4回　○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会(目標１,２,３)

第5回　○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会(目標１,２,３)

第6回　○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に，進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する(目標３)

第7回　○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に，進路先の相談については，授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する(目標３)

第8回　○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に，進路先の相談については，授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する(目標３)

第9回　○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に，進路先の相談については，授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する(目標３)

第10回　○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に，進路先の相談については，授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する(目標３)

第11回　○執筆と相談(目標３)

第12回　○執筆と相談(目標３)

第13回　○執筆と相談(目標３)

第14回　○執筆と相談(目標３)

第15回　○執筆と相談(目標３)

第16回　○中間発表会 Ⅰ(目標３)

第17回　○執筆と相談(目標３)

第18回　○執筆と相談(目標３)

第19回　○執筆と相談(目標３)

第20回　○執筆と相談(目標３)

第21回　○執筆と相談(目標３)

第22回　○執筆と相談(目標３)

第23回　○中間発表会 Ⅱ(目標３)

第24回　○執筆と相談 →提出(目標３)

第25回　○執筆と相談 →提出(目標３)

第26回　○執筆と相談 →提出(目標３)

第27回　○執筆と相談 →提出(目標３)

	第28回	○執筆と相談 →提出(目標３)
	第29回	○執筆と相談 →提出(目標３)
	第30回	○卒業研究発表会(目標３)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回　卒研の問題意識を簡潔にまとめて提出すること。 第２回～第１４回　毎回のテーマに関して，積極的に資料収集を行い，具体的な支援方法を調べること。
	復習	第１回～第１５回　指摘を受けた点をすぐに論文作成に反映すること。
	展開	○周辺領域の課題について資料にあたること。 ○ボランティア先で，積極的に実践すること。
成績評価	評価の基準	1.「気になる」子どもや発達障害のある子どもの思いの理解すること。 2.授業で取り上げる具体的な支援方法を身につけること。 3.卒業研究としてまとめること。
	評価の方法	卒業研究への努力と熱意(50%)，研究内容(50%)を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）（山本）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（山本）
科目責任者	山本　邦晴
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001003　（前期）火曜日，1限 （後期）金曜日，2限
教室	講義室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定 5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	ボランティア体験，行事計画の立案，障害者スポーツ，課題設定，記録と考察	
学生の到達目標	1.障害等のある子どもの保育･教育･生活の場での参観･実習･ボランティア活動等を通して，実際にその場での生活を体験し，生活の整え方や，障害への支援の仕方等について理解を深める。 2.設定したテーマに沿って，論文としてまとめる。	
授業内容	第1回	○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会（目標１,２）

第2回　○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会（目標１,２）

第3回　○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会（目標１,２）

第4回　○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会（目標１,２）

第5回　○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会（目標１,２）

第6回　○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に，進路先の相談については，授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。（目標１,２）

第7回　○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に，進路先の相談については，授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。（目標１,２）

第8回　○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に，進路先の相談については，授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。（目標１・２）

第9回　○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に，進路先の相談については，授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。（目標１,２）

第10回　○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に，進路先の相談については，授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。（目標１,２）

第11回　○執筆と相談（目標１,２）

第12回　○執筆と相談（目標１,２）

第13回　○執筆と相談（目標１,２）

第14回　○執筆と相談（目標１,２）

第15回　○執筆と相談（目標１,２）

第16回　○中間発表会 Ⅰ（目標１,２）

第17回　○執筆と相談（目標１,２）

第18回　○執筆と相談（目標１,２）

第19回　○執筆と相談（目標１,２）

第20回　○執筆と相談（目標１,２）

第21回　○執筆と相談（目標１,２）

第22回　○執筆と相談（目標１,２）

第23回　○中間発表会 Ⅱ（目標１,２）

第24回　○執筆と相談 →提出（目標１,２）

第25回　○執筆と相談 →提出（目標１,２）

	第26回	○執筆と相談 →提出（目標１,２）
	第27回	○執筆と相談 →提出（目標１,２）
	第28回	○執筆と相談 →提出（目標１,２）
	第29回	○執筆と相談 →提出（目標１,２）
	第30回	○卒業研究発表会（目標１,２）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	設定したテーマに沿って，参考文献等をもとに，関係資料の収集や文献研究を行うとともに，ボランティア活動等調査研究活動を行い実際の状況を把握する。
	復習	別の協議や研究課題発表会・中間発表会等で出された課題等について，再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに，調査研究活動を振り返りまとめる。
	展開	研究や成果を一層確かなものとするため，関連する他施設等の情報等を調べたりして，内容を深める。

成績評価	評価の基準	問題意識・テーマ設定・方法・結果･考察等の妥当性・成果等及び，取り組み姿勢･態度を総合的に評価する。
	評価の方法	論文80%，授業への参加姿勢10%，調査研究活動への取り組み10%ただし，この比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等	書籍名	「今を豊かに生きる」
	著者名	小出進監修　名古屋恒彦･高倉誠一編著
	出版社	大揚社
	価格	2.000円(+消費税)
	ISBN・ISSN	ー
	書籍名	「生活中心教育の展開」
	著者名	小出進監修　生活中心教育研究会編
	出版社	大揚社
	価格	2.800円(+消費税)
	ISBN・ISSN	978-4795243705

参考URL	
備考	

保育実践演習（保育・障害支援）（漆澤）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（漆澤）
科目責任者	漆澤　恭子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001004　（前期）火曜日，1限 （後期）水曜日，1限
教室	（前期）講義室3 （後期）講義室6
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	やりにくさのある子，学級づくり，いきいきとした活動，卒業研究	
学生の到達目標	1.やりにくさのある子どもたちの理解 2.やりにくさのある子も楽しく過ごせる学級づくり，いきいきと活動できるための工夫 3.卒業研究として自分の考えを表し，まとめる	
授業内容	第1回	○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会（目標1,2,3）
	第2回	○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。○

実際的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会（目標１,2,3）

第3回　○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会（目標１,2,3）

第4回　○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会（目標１,2,3）

第5回　○授業の進め方や年間の見通しについての確認。○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。○卒業研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。○実際的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。○個別面談方式による相談会（目標1,2,3）

第6回　○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に，進路先の相談については，授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。（目標3）

第7回　○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に，進路先の相談については，授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する（目標3）

第8回　○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に，進路先の相談については，授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。（目標3）

第9回　○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に，進路先の相談については，授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。（目標3）

第10回　○卒業研究の執筆過程での相談支援。○特に，進路先の相談については，授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。（目標3）

第11回　○執筆と相談（目標3）

第12回　○執筆と相談（目標３）

第13回　○執筆と相談（目標３）

第14回　○執筆と相談（目標３）

第15回　○執筆と相談（目標３）

第16回　中間発表会①（目標3）

第17回　○執筆と相談（目標３）

第18回　○執筆と相談（目標３）

第19回　○執筆と相談（目標３）

第20回　○執筆と相談（目標３）

第21回　○執筆と相談（目標３）

第22回　○執筆と相談（目標３）

第23回　中間発表会②（目標3）

第24回　○執筆と相談→提出（目標３）

第25回　○執筆と相談→提出（目標３）

第26回　○執筆と相談→提出（目標３）

第27回　○執筆と相談→提出（目標３）

	第28回	○執筆と相談→提出（目標３）
	第29回	○執筆と相談→提出（目標３）
	第30回	卒業研究発表会（目標３）
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	日頃から保育・特別支援教育などに関心を持ち，広く情報収集を行うこと。 設定したテーマに添って，資料の収集を心がけておくこと。
	復習	個別の相談や，中間発表における協議で出された課題等については，すぐに論文作成に反映すること。
	展開	○常に課題にそった研究や実践になっているか，意識してすすめ，広く資料をあたること。 ○進んで協議に参加し，異なった意見も理解しようと努めること。
成績評価	評価の基準	1.やりにくさのある子の理解とそれに基づく支援方法を考えているか。 2.過ごしやすい学級，活動できる環境をつくるために周りの子たちへの配慮を工夫しているか。 3.課題に対し自分の意見をもち表すことができるか
	評価の方法	卒業研究への努力　熱意（50%）研究内容（50%）を総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	学生のテーマに合わせて参考文献資料を紹介する。	

保育実践演習（保育・障害支援）（堀）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（堀）
科目責任者	堀　彰人
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001005　（前期）火曜日，1限 （後期）水曜日，1限
教室	（前期）講義室6 （後期）講義室5
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	障害，子ども，コミュニケーション，関係	
学生の到達目標	達成目標を次の２点とする。障害のある子ども等の生活の場―家庭，幼稚園，保育所，小中学校，特別支援学校等におけるコミュニケーションやその支援について，演習や参観やボランティア等を積み重ねて， 1.その基本的な考え方や身近な関わり手としての姿勢を理解する。 2.コミュニケーションの充実や，本来持っている力を十分活用するための基礎的技能を身につける。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（授業の進め方）(以下すべて，目標1,2)
	第2回	卒業研究の意義と方法
	第3回	一人一人の関心等について意見交換し，課題設定
	第4回	一人一人の関心等について意見交換し，課題設定

	第5回	課題設定に基づき，参観・ボランティア先の決定
	第6回	課題設定に基づき，参観・ボランティア先の決定
	第7回	参観記録の方法，問題の明確化
	第8回	各自の研究課題の中間発表・協議
	第9回	各自の研究課題の中間発表・協議
	第10回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第11回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第12回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第13回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第14回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第15回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第16回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第17回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第18回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第19回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第20回	調査研究（ボランティアや資料の蒐集等）
	第21回	論理的構成と論理的考察方法について
	第22回	執筆活動（指導を含む）
	第23回	執筆活動（指導を含む）
	第24回	執筆活動（指導を含む）
	第25回	執筆活動（指導を含む）
	第26回	執筆活動（指導を含む）
	第27回	執筆活動（指導を含む）
	第28回	執筆活動（指導を含む）
	第29回	執筆活動（指導を含む）
	第30回	卒業研究発表会
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	設定したテーマにそって，参考文献をもとに，関係資料の収集や文献研究を行うと共に，ボランティア活動等，調査研究活動を行い，実際の状況を把握する。
	復習	個別の協議や中間発表等で出された課題等について，再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに，調査研究活動を振り返りまとめる。
	展開	研究や成果を一層確かなものとするため，関連する他施設等の情報を調べたりして，内容を深める。
成績評価	評価の基準	1.障害のある子どもとのコミュニケーションにおける基本的な考え方，身近な関わり手としての姿勢を理解したか。 2.障害のある子どもとのコミュニケーションの充実，本来持っている力を活用するための基礎的技能が身についたか。
	評価の方法	論文80%，授業への参加姿勢10%，調査研究活動への取り組み10%。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	まるっと１年マンガでまるほど気になる子の保育
	著者名	久保山茂樹
	出版社	メイト
	価格	1,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-89622-418-4
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）（久留島）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（久留島）
科目責任者	久留島　太郎
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001006　（前期）火曜日，1限 （後期）金曜日，2限
教室	（前期）ゼミ室3 （後期）セミナー室3
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	保育，遊び，環境	
学生の到達目標	1.子どもに関係する事象の中で，自分の興味関心に添って研究テーマを設定し，先行研究を探し,整理する。 2.研究テーマに即して，適切な調査等を実施する。 3.研究テーマについて，調査等の結果・考察をわかりやすくまとめ卒業研究を作成する。	
授業内容	第1回	オリエンテーションを行い，授業の進め方を説明する。（目標1）
	第2回	興味関心，教員との意見交換，文献調査等により研究テーマを検討する。（目標1）
	第3回	興味関心，教員との意見交換，文献調査等により研究テーマを検討する。（目標1）

第4回	興味関心，教員との意見交換，文献調査等により研究テーマを検討する。（目標1）
第5回	研究テーマに関する文献を収集し，先行研究を整理する。（目標1）
第6回	研究テーマに関する文献を収集し，先行研究を整理する。（目標1）
第7回	研究テーマに関する文献を収集し，先行研究を整理する。（目標1）
第8回	研究テーマに関する先行研究を整理し，中間発表資料を作成する。（目標1）
第9回	研究テーマに関する先行研究を整理し，中間発表資料を作成する。（目標1）
第10回	研究テーマに関する先行研究を整理し，中間発表資料を作成する。（目標1）
第11回	研究テーマに関する先行研究を整理し，中間発表資料を作成する。（目標1）
第12回	中間発表を行う。（目標1）
第13回	研究テーマに即して，調査，参加観察等を計画する。（目標2）
第14回	研究テーマに即して，調査，参加観察等を計画する。（目標2）
第15回	研究テーマに即して，調査，参加観察等を計画する。（目標2）
第16回	調査，参加観察等を実施する。（目標2）
第17回	調査，参加観察等を実施する。（目標2）
第18回	調査，参加観察等を実施する。（目標2）
第19回	調査，参加観察等の結果のまとめ方を教員と相談する。（目標3）
第20回	調査，参加観察等の結果をまとめる。（目標3）
第21回	調査，参加観察等の結果をまとめる。（目標3）
第22回	調査，参加観察等の結果をまとめる。（目標3）
第23回	卒業研究を執筆する。（目標3）
第24回	卒業研究を執筆する。（目標3）
第25回	卒業研究の途中経過を教員と相談する。（目標3）
第26回	卒業研究を検討・修正する。（目標3）
第27回	卒業研究を検討・修正する。（目標3）
第28回	卒業研究発表会の資料を作成する。（目標3）
第29回	卒業研究発表会の資料を作成する。（目標3）
第30回	卒業研究発表会を行う。（目標3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回　自分の興味や関心の方向についてまとめておく 第２回～７回　文献収集の方法を調べる。（図書館の所蔵検索，Ciniiでの論文検索等） 第８回～第１２回　中間発表に向けての準備をする 第１３回～第２２回　調査，観察についてまとめる 第２２回～第３０回　発表に向けて研究をまとめる
	復習	第１回～２９回　演習で考えたこと，まとめたことを次回の演習までにまとめ直す。

	展開	中間発表で，研究の経過や明らかにしたい研究目的について明確にし，研究成果のまとめにつなげる
成績評価	評価の基準	1.自ら卒業研究の課題を設定することができる。 2.興味関心をもったことについて，文献を収集し，それを整理し課題を明らかにすることができる。 3.研究結果を分かりやすく説明することができる。
	評価の方法	卒業研究60%，卒業研究の作成過程40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）（松原）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（松原）
科目責任者	松原　敬子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001007　（前期）火曜日，1限 （後期）金曜日，2限
教室	（前期）ゼミ室4 （後期）セミナー室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定

授業のキーワード	保育，実践，体験
学生の到達目標	1.各自，興味関心のある研究テーマの検討をしていく。 2.各自，参観，実習，ボランティアなどの調査研究を進める。 3.卒業研究論文の発表と協議を行う。

授業内容

第1回	オリエンテーション（授業・卒業研究の進め方）（目標１）
第2回	卒業研究の意義と方法について（目標１）
第3回	一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討（目標１）
第4回	一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討（目標１）
第5回	課題設定に基づく、参考文献収集、参観先・ボランティア先の決定（目標１,２）

第6回	課題設定に基づく、参考文献収集、参観先・ボランティア先の決定（目標１,２）
第7回	参観先での記録と深めたい問題の明確化等について検討（目標２）
第8回	各自の研究課題の発表・協議（目標２,３）
第9回	各自の研究課題の発表・協議（目標２,３）
第10回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標２）
第11回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標２）
第12回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標２）
第13回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標２）
第14回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標２）
第15回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標２）
第16回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標２）
第17回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標２）
第18回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標２）
第19回	参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表）（目標２）
第20回	参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表）（目標２）
第21回	論文の構成・体裁と執筆方法について（目標２）
第22回	関係資料の収集・文献研究（目標２）
第23回	関係資料の収集・文献研究（目標２）
第24回	論文の執筆（目標２）
第25回	論文の執筆（目標２）
第26回	論文の執筆（目標２）
第27回	論文の執筆（目標２）
第28回	論文の執筆（目標２）
第29回	論文の検討・修正（目標２,３）
第30回	卒業研究発表会（目標３）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	関連する図書を読んだり，報道について理解しておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	最新の図書や研究成果を調べ，知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.興味関心に添って研究テーマを設定し、問題意識を持って取り組むことができているか。 2.適切な調査等を積極的に実施できているか。 3.研究結果・考察等、わかりやすくまとめることができているか。

		上記1～3について取り組みへの姿勢を考慮し、研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	卒業研究（ 60%）研究過程（ 20%）授業への参加態度（ 20%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

保育実践演習（保育・障害支援）（田村）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（田村）
科目責任者	田村　光子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001008　（前期）火曜日，1限 （後期）金曜日，2限
教室	（前期）セミナー室1 （後期）講義室7
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	地域子育て支援，現場における演習，卒業論文作成	
学生の到達目標	1.地域子育て支援の現場での実際的な体験を通して，子ども・保護者を取り巻く様々な課題を学ぶ 2.子ども関連の企画の策定，実施，モニタリングを通して，実際的な保育力を身につける 3.子ども支援の実際的体験の経過を報告書にまとめることを通して，子どもの心に寄り添う保育について検討する	
授業内容	第1回	授業の進め方や年間の見通しについての確認（目標１,２,３）
	第2回	進路を含めた卒業研究の方向性についての個別面談（目標１,２,３）
	第3回	進路を含めた卒業研究の方向性についての個別面談（目標１,２,３）
	第4回	地域子育て支援について考える（目標１）

第5回	参与観察の方法について（目標２）
第6回	地域子育て支援の現場の視察①（目標１）
第7回	地域子育て支援の現場の視察②（目標１）
第8回	参与観察の記録について（目標２）
第9回	地域子育て支援の現場の視察③（目標１）
第10回	地域子育て支援の現場の視察④（目標１）
第11回	子ども企画のための情報収集・企画の策定①（目標２）
第12回	現場における子ども企画の実施①（目標２）
第13回	現場における子ども企画の再実施②（目標２）
第14回	子ども企画の実施後の報告・討議・再策定（目標２）
第15回	その他、地域子育て支援の現場の視察①（目標１）
第16回	その他、地域子育て支援の現場の視察②（目標１）
第17回	論文の構成・体裁・執筆方法について（目標２,３）
第18回	各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談①（目標３）
第19回	各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談②（目標３）
第20回	各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談③（目標３）
第21回	各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談④（目標３）
第22回	各自執筆に取り組み、必要に応じて個別相談⑤（目標３）
第23回	中間報告会Ⅱ（目標３）
第24回	各自執筆に取り組み，必要に応じて個別相談⑥（目標３）
第25回	各自執筆に取り組み，必要に応じて個別相談⑦（目標３）
第26回	各自執筆に取り組み，必要に応じて個別相談⑧（目標３）
第27回	各自執筆に取り組み，必要に応じて個別相談⑨（目標３）
第28回	各自執筆に取り組み，必要に応じて個別相談⑩（目標３）
第29回	卒業論文の仕上げ・提出（目標３）
第30回	卒業研究発表会（目標３）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	子ども参画企画の策定および実施については，グループで協力し事前準備をしておくこと
	復習	実際的体験を踏まえて，子どもとのかかわりについて記録にまとめておくこと
	展開	現代の子ども・保護者が抱える課題について新聞やテレビなどで情報を得ること 参与観察の仕方や記録の取り方について，知識・理解をふかめておくこと

成績評価	評価の基準	到達目標1,2,3について，卒業研究への努力，熱意，研究内容等を総合的に評価する
	評価の方法	参与観察における努力・熱意（30%） 子ども関連企画の取り組み評価（20%） 報告書の成果（40%） その他総合的に判断される努力・熱意（10%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）（相磯）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（相磯）
科目責任者	相磯　友子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001009　（前期）火曜日，1限 （後期）金曜日，2限
教室	セミナー室2
卒業要件	児童障害福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	先行研究，調査・実践，考察	
学生の到達目標	1.興味関心に添って研究テーマを設定し，先行研究を整理し文章化することができる。 2.研究テーマに即して，適切な調査等を実施することができる。 3.研究テーマの位置づけ・調査等の結果・考察をわかりやすくまとめ卒業研究を作成することができる。	
授業内容	第1回	オリエンテーションを行い，授業の進め方を説明する。（目標1）
	第2回	興味関心，教員との意見交換，文献調査等により研究テーマを検討する。（目標1）
	第3回	興味関心，教員との意見交換，文献調査等により研究テーマを検討する。（目標1）

第4回	興味関心，教員との意見交換，文献調査等により研究テーマを検討する。（目標1）
第5回	研究テーマに関する文献を収集し，先行研究を整理する。（目標1）
第6回	研究テーマに関する文献を収集し，先行研究を整理する。（目標1）
第7回	研究テーマに関する文献を収集し，先行研究を整理する。（目標1）
第8回	研究テーマに関する先行研究を整理し，中間発表資料を作成する。（目標1）
第9回	研究テーマに関する先行研究を整理し，中間発表資料を作成する。（目標1）
第10回	研究テーマに関する先行研究を整理し，中間発表資料を作成する。（目標1）
第11回	研究テーマに関する先行研究を整理し，中間発表資料を作成する。（目標1）
第12回	中間発表を行う。（目標1）
第13回	研究テーマに即して，調査，参加観察等を計画する。（目標2）
第14回	研究テーマに即して，調査，参加観察等を計画する。（目標2）
第15回	研究テーマに即して，調査，参加観察等を計画する。（目標2）
第16回	調査，参加観察等を実施する。（目標2）
第17回	調査，参加観察等を実施する。（目標2）
第18回	調査，参加観察等を実施する。（目標2）
第19回	調査，参加観察等の結果のまとめ方を教員と相談する。（目標3）
第20回	調査，参加観察等の結果をまとめる。（目標3）
第21回	調査，参加観察等の結果をまとめる。（目標3）
第22回	調査，参加観察等の結果をまとめる。（目標3）
第23回	卒業研究を執筆する。（目標3）
第24回	卒業研究を執筆する。（目標3）
第25回	卒業研究の途中経過を教員と相談する。（目標3）
第26回	卒業研究を検討・修正する。（目標3）
第27回	卒業研究を検討・修正する。（目標3）
第28回	卒業研究発表会のプレゼン資料を作成する。（目標3）
第29回	卒業研究発表会を行う。（目標3）
第30回	卒業研究発表会を行う。（目標3）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	本学における文献収集の方法を調べる。（図書館の所蔵検索，Ciniiでの論文検索等）
	復習	自らの興味・関心に合わせて，文献を収集・整理し課題を明確にする。

	展開	研究成果をわかりやすくまとめプレゼンテーションする。
成績評価	評価の基準	1.興味関心に添って研究テーマを設定し，先行研究を整理し文章化することができているか。 2.研究テーマに即して，適切な調査等を実施することができているか。 3.研究テーマの位置づけ・調査等の結果・考察をわかりやすくまとめ卒業研究を作成することができているか。
	評価の方法	卒業研究60%，卒業研究の作成過程40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）（根本）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（根本）
科目責任者	根本　曜子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001010　（前期）火曜日，1限 （後期）金曜日，2限
教室	ラーニングコモンズ2
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	保育，福祉，卒業研究	
学生の到達目標	1.ボランティア，実習など実際に関わり，自ら問題意識を深める 2.研究テーマに基づき，資料を収集するなど研究を進める。 3.研究したテーマを論文にまとめる	
授業内容	第1回	オリエンテーション（授業・卒業研究の進め方）(目標１)
	第2回	総合演習（保育・障害支援）・卒業研究の意義と方法について（目標１）
	第3回	一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討(目標２)

第4回	一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討(目標２)
第5回	課題設定に基づく，参考文献収集，参観先・ボランティア先の決定（目標１）
第6回	課題設定に基づく，参考文献収集，参観先・ボランティア先の決定（目標１）
第7回	参観先での記録と深めたい問題の明確化等について検討(目標２)
第8回	各自の研究課題の発表・協議（目標１,２）
第9回	各自の研究課題の発表・協議（目標１,２）
第10回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標１,２）
第11回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標１,２）
第12回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標１,２）
第13回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標１,２）
第14回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標１,２）
第15回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標１,２）
第16回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標１,２）
第17回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標１,２）
第18回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）（目標１,２）
第19回	参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表）（目標１,２）
第20回	参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表）（目標１,２）
第21回	論文の構成・体裁と執筆方法について（目標３）
第22回	関係資料の収集・文献研究（目標１,２）
第23回	関係資料の収集・文献研究（目標１,２）
第24回	論文の執筆（目標３）
第25回	論文の執筆（目標３）
第26回	論文の執筆（目標３）
第27回	論文の執筆（目標３）
第28回	論文の執筆（目標３）
第29回	論文の検討・修正（目標３）
第30回	卒業研究論文の発表と協議（目標１,２,３）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	各自の研究テーマについて，日常的に関心を高め，資料収集に努める。
	復習	資料に基づき，自らの考えを深め考察をする。

	展開	中間発表などを通し，互いの研究を確認，再考する。
成績評価	評価の基準	1.研究テーマを設定，先行研究を整理し，資料収集をし研究をすすめられるか。 2.研究テーマに沿って調査できるか。 3.研究した内容を文章化し，結果から考察を導き出し卒業研究を作成する。
	評価の方法	研究レポート（ 50%） 研究過程（ 30%） 授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）（長嶺）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	STR301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）（長嶺）
科目責任者	長嶺　章子
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	50001011　（前期）火曜日，1限 （後期）金曜日，2限
教室	（前期）音楽室（後期）演習室1
卒業要件	児童障害福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー カリキュラムポリシー
授業のキーワード	卒業研究，音楽表現活動に関する調査・研究，音楽会の企画
学生の到達目標	1.各自でテーマに基づいて，主体的に調査・実習やボランティアでの実践・研究等を行い，卒業研究としてまとめ発表する。 2.幼児の音楽について知識を広げながら，保育の中で豊かな表現活動を実践する力を養う。 3.皆で協力しあいながら，参加者とともに楽しめる音楽会を開催する。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　卒業研究の意義と方法・資料収集などについて　（目標１） 第3回　各自で興味・関心のあるテーマについて発表したり，研究計画立案。（目標１）参加者と楽しむ音楽会の企画をする。（目標３） 第4回　各自で興味・関心のあるテーマについて発表したり，研究計画立案。（目標１）参加者と楽しむ音楽会の企画をする。（目標３） 第5回　音楽表現活動の研究・発表（動き・手づくり楽器・音を聞く活動）（目標２）

第6回	音楽表現活動の研究・発表（動き・手づくり楽器・音を聞く活動）（目標２）
第7回	音楽表現活動の研究・発表（動き・手づくり楽器・音を聞く活動）（目標２）
第8回	音楽表現活動の研究・発表（動き・手づくり楽器・音を聞く活動）（目標２）
第9回	各自の研究課題の発表･協議（目標１）
第10回	各自の研究課題の発表･協議（目標１）
第11回	参加者と楽しむ音楽会準備・実施（目標２,３）
第12回	参加者と楽しむ音楽会準備・実施（目標２,３）
第13回	参加者と楽しむ音楽会準備・実施（目標２,３）
第14回	各自で調査研究（参観・実習・ボランティア・資料収集等）（目標１）
第15回	各自で調査研究（参観・実習・ボランティア・資料収集等）（目標１）
第16回	各自で調査研究（参観・実習・ボランティア・資料収集等）（目標１）
第17回	各自で調査研究（参観・実習・ボランティア・資料収集等）（目標１）
第18回	各自で調査研究（参観・実習・ボランティア・資料収集等）（目標１）
第19回	中間発表（目標１）
第20回	中間発表（目標１）
第21回	論文の構成・体裁，執筆方法などについて（目標１）
第22回	関係資料の収集・文献研究（目標１）
第23回	関係資料の収集・文献研究（目標１）
第24回	論文の執筆課程での相談支援（目標１）
第25回	論文の執筆課程での相談支援（目標１）
第26回	論文の執筆課程での相談支援（目標１）
第27回	論文の執筆課程での相談支援（目標１）
第28回	論文の加筆・修正・論文の提出（目標１）
第29回	卒業研究発表会（目標１）
第30回	卒業研究発表会（目標１）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第10回　各自の関心のあるテーマや，毎回の課題について簡潔に発表できるよう準備する。 第11回～第13回　仲間と積極的に意見を交換しながら音楽会の企画や準備をする。 第14回～第18回　授業の中で助言や支援を受けながら，各自で研究を進める。 第19回～第20回　これまでの経過を報告するための資料を作成し，発表の準備をする。 第21回～第28回　執筆の過程で受けた支援や指導をもとに，加筆修正する。 第29回～第30回　完成した研究レポートについて報告するための資料を作成し，発表の準備をする。

	復習	第1回～第18回　毎回の授業内容と学んだことをノートにまとめる。各自のテーマに関連したことを情報収集する。 第19回～第20回　発表の結果を振り返り，今後の課題を明確にして研究活動の計画を立てる 第21回～第28回　毎回の授業内容と学んだことをノートにまとめる。各自のテーマに関連したことを情報収集する。 第29回～第30回　発表を振り返り，1年間の研究活動とレポートについて総括する。
	展開	ボランティア活動などを通じて，実際の保育現場で研究したことや学んだことを活用していく。
成績評価	評価の基準	1.研究・実習・ボランティア活動等に主体的に取り組んでいる。自身の活動から学んだことや研究の成果について適切にまとめる文章力がある。 2.幼児の音楽について知識を広げるとともに，保育現場での実践力が養われている。 3.仲間との行事の企画・実行を通して，協調性・主体性が養われている。
	評価の方法	レポート作成過程（30%）　研究レポート内容（50%）　授業に対する意欲（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	創造性を育む音楽あそび・表現あそび
	著者名	須崎朝子他
	出版社	音楽之友社
	価格	2,300＋税金
	ISBN・ISSN	978-4-276-31224-1 C1073
参考URL		
備考	必要に応じて参考文献などを紹介する。	

キャリアガイダンス

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門基礎科目
授業科目名	キャリアガイダンス
科目責任者	佐藤　慎二
担当教員	松原　敬子 山本　邦晴 漆澤　恭子 田村　光子 相磯　友子 根本　曜子 堀　彰人 長嶺　章子 久留島　太郎 中澤　潤
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	12001106　（前期）月曜日，１限（後期）月曜日，4限
教室	ラーニング・コモンズ２
卒業要件	特別支援教育専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	キャリア，自分，将来	
学生の到達目標	1.ありたい自分の将来像を描く。 2.具体的な仕事を選択する。	

授業内容	第1回	オリエンテーション・ワークシートでの演習（自己理解他）
	第2回	教育・保育の各職種及び試験準備の説明会(目標１,２)
	第3回	公務員試験講座 Ⅰ－公務員の自覚(目標１,２)
	第4回	公務員試験講座 Ⅱ－公立保育所の役割(目標１,２)
	第5回	公務員試験講座 Ⅲ－保育者の在り方(目標１,２)
	第6回	教育採用試験講座 Ⅰ－教育公務員の自覚(目標１,２)
	第7回	教育採用試験講座 Ⅱ－教師の在り方(目標１,２)
	第8回	卒業生の話を聞く会(目標１,２)
	第9回	教員採用試験講座 Ⅳ－特別支援学校(目標１,２)
	第10回	教育採用試験講座 Ⅴ－通常の学校(目標１,２)
	第11回	就職活動・履歴書及び模擬面接講座(目標１,２)
	第12回	作文添削講座(目標１,２)
	第13回	公務員試験講座 Ⅳ－公務員服務規程(目標１,２)
	第14回	ビジネスマナー講座(目標１,２)
	第15回	卒業オリエンテーション(目標１,２)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回　「ありたい」自分について簡潔のレポートにまとめること。 第２回～第１４回　「キャリアガイドブック」の指定箇所を読んでおくこと。
	復習	第１回～第１５回　毎回の授業要旨をノート整理すること。
	展開	公務員試験等の準備を自主的に進めること。
成績評価	評価の基準	1.ありたい自分の将来像を描くこと。 2.具体的な仕事を選択すること。
	評価の方法	振り返りカード（80%）授業態度（20%）により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

特別支援教育原論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	特別支援教育原論
科目責任者	漆澤　恭子
担当教員	佐藤　愼二
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30004701　土曜日，3限
教室	講義室1，講義室14
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	特別支援教育，理念，制度，支援方法，連携	
学生の到達目標	1.特別支援教育の理念や制度を理解することができる 2.子どもの理解と支援方法，関係機関，保護者との連携を理解することができる 3.教師として特別支援教育をいかに進めるべきか具体的に考え意見を交換することができる	

授業内容

第1回	特別支援教育の理解とシステム ①特別支援教育の理念と基本的な考え（目標1） 担当教員: 漆澤　恭子
第2回	特別支援教育の理解とシステム ②教育の歴史と現行制度（目標１） 担当教員: 漆澤　恭子
第3回	特別支援教育の理解とシステム ③支援システムの構築と法的制度（目標1） 担当教員: 漆澤　恭子

第4回	特別支援教育の理解とシステム ④特別支援教育とコーディネーター（目標1,2） 担当教員: 漆澤　恭子
第5回	特別支援教育の理解とシステム ⑤個別の指導計画と個別の教育支援計画（目標1,2） 担当教員: 漆澤　恭子
第6回	子どもの理解と指導・支援 ①発達障害の理解と指導・支援（目標2） 担当教員: 漆澤　恭子
第7回	子どもの理解と指導・支援 ②通常の学級における指導・支援（目標2） 担当教員: 漆澤　恭子
第8回	子どもの理解と指導・支援 ③知的障害の理解と指導・支援（目標2,3） 担当教員: 漆澤　恭子
第9回	子どもの理解と指導・支援 ④肢体不自由・病弱・身体虚弱・重複障害の理解と指導・支援（目標2,3） 担当教員: 漆澤　恭子
第10回	子どもの理解と指導・支援 ⑤視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援（目標2,3） 担当教員: 漆澤　恭子
第11回	子どもの理解と指導・支援 ⑥その他の多様な状態を併せ持つ子どもの理解と指導・支援（目標2,3） 担当教員: 漆澤　恭子
第12回	保護者や関係機関との連携 ①保護者との連携（目標2） 担当教員: 佐藤　愼二
第13回	保護者や関係機関との連携 ②専門機関や地域との連携（目標1,2） 担当教員: 佐藤　愼二
第14回	保護者夜間系機関との連携 ③進学支援・就労支援と連携（目標1,2） 担当教員: 佐藤　愼二
第15回	特別支援教育のこれからと課題 グループ協議　（目標2,3） 担当教員: 漆澤　恭子

予習・復習の内容 **（毎回180分程度）**	予習	第１回目　特別支援学校教育実習の内容や経験をまとめて授業に臨むこと。障害児教育に関する既習内容を確認しておくこと。 第２回目～第15回目（共通）次回のテーマと主な内容についての予告に従って準備した上で授業に臨むこと。
	復習	第1回目～第15回目（共通）毎回学習内容については，教科書の関連箇所を再読しておくこと。特に関係法規については，内容を概観しておくこと。 ・研究所公開，講演会等適時参加するので学んだこと，資料等をまとめておくこと。
	展開	・特別支援教育に関するトピックスについて授業で学んだこと，実習での体験，などをもとに自分の考えを述べられるよう，日頃から関心をもっていること。

成績評価	評価の基準	1.特別支援教育の理念や制度が理解できているか。 2.子どもの理解，支援方法，関係機関，保護者との連携について理解できているか。 3.特別支援教育への関心度，参観等では課題をもって参観し自分の考えをまとめることができたか。

	評価の方法	授業中の発言・協議内容（４０%）レポート（３０%） 定期試験（３０%）

教科書	書籍名	教員をめざす人の特別支援教育テキスト
	著者名	奈良教育大学教育研究支援機構特別支援教育研究センタ
	出版社	クリエイツかもがわ
	価格	1296円
	ISBN・ISSN	486342115X

推薦図書等	書籍名	LD　ADHD等関連用語集　第２版
	著者名	日本LD学会
	出版社	日本文化科学社
	価格	1,190円
	ISBN・ISSN	ISBN4-8210-7333-1

参考URL	
備考	研究施設や特別支援学校の参観，講演会参加なども適宜取り入れる ・授業は内容を前後して行うこともある。 ・特別支援教育に関する動向には常に関心を持っておくこと。 ・学内で行われる特別支援教育関連の講演会には積極的に参加し，視野を広げること。

障害教育方法史

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害教育方法史
科目責任者	名古屋　恒彦
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	35001001　9/4（月）～9/6（水）1～5限
教室	講義室12
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	特別支援教育，教育方法，知的障害教育	
学生の到達目標	1.戦後の障害教育方法の変遷過程を理解できる。 2.知的障害教育の目標を理解できる。 3.知的障害教育の内容・方法を理解できる。	
授業内容	第1回	知的障害教育における「生活主義教育」と「生活中心教育」（目標2）
	第2回	生活を大切にする教育の始まり（目標2）
	第3回	本物の生活づくりの徹底（目標1,2,3）
	第4回	生活を大切にする教育の変容と後退（目標1,2,3）
	第5回	生活主義教育の批判・反省の総括的論点（目標2,3）
	第6回	障害の重度化・重複化と知的障害教育（目標1）
	第7回	障害の重度化・重複化と知的障害教育（目標1）

	第8回	生活中心教育における生活単元学習の再興（目標1,2,3）
	第9回	教育課程編成と学校生活づくり（目標1,2,3）
	第10回	学校生活の集団化と個別化（目標1,3）
	第11回	生活中心教育の総括的主張点（目標2,3）
	第12回	今日における知的障害教育方法の具体的展開（目標2,3）
	第13回	今日における知的障害教育方法の具体的展開（目標2,3）
	第14回	今日における知的障害教育方法の具体的展開（目標2,3）
	第15回	今日における知的障害教育方法の具体的展開（目標2,3）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回（共通）教科書に即して進行するので，事前に学習予定の教科書部分を読んでおくこと。
	復習	第1回～第15回（共通）実施した内容について，必要に応じてノート等を参照しながら，教科書を再読し，理解を確認しておくこと。
	展開	知的障害教育の現在の実践について図書等で学び，歴史的背景との関連への理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.戦後の障害教育方法の変遷過程を理解できていること。 2.知的障害教育の目標を理解できていること。 3.知的障害教育の内容・方法を理解できていること。
	評価の方法	試験（70%）授業での発言等（30%）

教科書	書籍名	テーマのある学校生活　子ども主体の特別支援教育
	著者名	山形県立米沢養護学校編著，中坪晃一・名古屋恒彦監修
	出版社	コレール社
	価格	2,500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-87637-712-1

推薦図書等

参考URL

備考

障害者の人権と社会参加

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害者の人権と社会参加
科目責任者	野澤　和弘
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	35001201　水曜日, 4・5限
教室	レクチャーシアター
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	障害児者とのコミュニケーション　権利擁護　行動障害　アート	
学生の到達目標	1．発達障害・知的障害のある子や人のコミュニケーションの特性はなにかを知る。 2．虐待の実態を知り,なぜ虐待が起きるのかを知る。 3．アートなどに見る障害児者の魅力も知る。	
授業内容	第1回	ドラマや映画に登場する障害者
	第2回	福祉と社会の変遷と障害者虐待～現実から学ぶ
	第3回	障害のある子や人の思いをどうやって受け止められるのか
	第4回	なぜ人は虐待するのか～虐待の構造
	第5回	行動障害とは何か～原因と対処法
	第6回	社会と障害者～働くこと、芸術活動など
	第7回	アール・ブリュット～世界で注目される日本の障害者アート

	第8回	障害者のための新聞「ステージ」
	第9回	障害児者とのコミュニケーション
	第10回	障害者差別解消について
	第11回	合理的配慮とイノベーション
	第12回	学校における合理的配慮
	第13回	働くということ
	第14回	マスメディア論
	第15回	総括
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	新聞，テレビ，本，映画などで障害者が出てくる出来事，物語，事件などに関心を持って接すること。自分の中で感想や疑問や意見を思い浮かべ考えること。
	復習	授業の中で出てきた事件，出来事，制度，社会の問題について自分でさらに図書館やパソコンで調べる。そういう癖をつけること。 展開 グループで話し合って，障害者の支援のあり方，権利擁護などについて考えを深める。
	展開	関連する折り折りの報道や図書等に触れ、障害者の人権と社会参加について理解を深める。
成績評価	評価の基準	障害のある子や人のコミュニケーション特性，虐待の構造，権利擁護の基本知識と姿勢が理解できているかどうか。
	評価の方法	期末レポート試験３０%，レポート４０%，授業への取り組み30%。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	条例のある街
	著者名	－野沢和弘
	出版社	ぶどう社
	価格	－１７００円＋税
	ISBN・ISSN	－
	書籍名	障害者のリアル×東大生のリアル
	著者名	野沢和弘編著、障害者のリアルに迫る東大ゼミ
	出版社	ぶどう社
	価格	１５００円＋税
	ISBN・ISSN	－
	□上記の図書等は市販されていません。	
参考URL		
備考		

社会福祉論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	社会福祉論
科目責任者	根本　曜子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	35001401　木曜日，3限
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	福祉，理念，生活支援，障害	
学生の到達目標	1.現代の社会状況を理解する中から社会福祉とは何か，また社会福祉の理念について理解する。 2.社会福祉の政策的動向を踏まえ，特に児童，障害児者への生活支援を理解する。 3.社会福祉の支援体制における連携について理解する。	
授業内容	第1回	自己理解・他者理解(目標1)
	第2回	自分生活と社会福祉(目標1)
	第3回	低所得者問題 ①(目標1,2)
	第4回	低所得者問題 ②(目標1,2)
	第5回	現代の家族について(目標1,2)

	第6回	障害のある子の保育(目標1,2)
	第7回	社会的養護①(目標1,2)
	第8回	社会的養護②(目標1,2)
	第9回	学童保育について(目標1,2)
	第10回	ノーマライゼーションについて(目標1)
	第11回	人権尊重について、自己選択・自己決定(目標1)
	第12回	地域に暮らすということ(目標3)
	第13回	障害のある子が地域に暮らす(目標3)
	第14回	障害のある子のいる家庭を地域で支える(目標3)
	第15回	ソーシャルサポートのネットワークの構築について(目標1,2,3)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～15回　授業計画に沿って基本的情報を得ておく。現代社会の現状や福祉問題に関心を持ち，関連した報道を理解する。
	復習	第1回～15回　授業の中で課題として捉えた問題に関して，資料等で再考する。
	展開	実際に問題をかかえる子ども，家庭を支援する知識，技術を習得する。
成績評価	評価の基準	1.障害者を支援する者として，福祉の理念，視点を理解しているか。 2.社会の福祉課題について考察し意見として伝えることができるか。
	評価の方法	試験 50%，レポート50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

統合保育論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	統合保育論
科目責任者	木下　勝世
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	35001601　水曜日，3限
教室	講義室2
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	インクルーシブ保育	
学生の到達目標	1.インクルーシブ保育の意義を理解し，保育のあり方を考える。 2.インクルーシブ保育の実際を，体験を通して学ぶ。 3.「私のインクルーシブ保育論」をもてるようになる。	
授業内容	第1回	授業者・受講者の自己紹介と本授業への期待（目標１,２,３）授業の内容・進め方の説明　受講上の相談
	第2回	インクルーシブ保育の意義と目的（目標１）
	第3回	インクルーシブ保育の目指すもの（目標１）
	第4回	保育のあり方とインクルーシブ保育（目標１）
	第5回	インクルーシブ保育実践上の課題（目標１） ①保育者と保育者集団のあり方

第6回	インクルーシブ保育実践上の課題(目標１) ②子ども同士の関係の育ち
第7回	インクルーシブ保育実践上の課題（目標１） ③保護者支援の意味と保育者の役割
第8回	現場体験事前オリエンテーション（目標２）
第9回	インクルーシブ保育実践現場体験①－日程は別途相談－（目標２）
第10回	インクルーシブ保育実践現場体験②－日程は別途相談－（目標２）
第11回	インクルーシブ保育実践現場体験③－日程は別途相談－（目標２）
第12回	インクルーシブ保育実践現場体験④－日程は別途相談－(目標２)
第13回	現場体験の振り返りと話し合い（目標２）
第14回	インクルーシブ保育実践上の課題(目標１) ④園文化の醸成と共生社会への展望
第15回	「私のインクルーシブ保育論」提案と協議（目標３）

予習・復習の内容（毎回180分程度）

予習	第１回　授業への期待をまとめておく。 第２～7回　教科書の当該ページを読み，考えや質問点等をまとめておく。 第８回　体験予定保育機関のホームページを閲覧し，理解を得ておく。 第９回　体験・参観についての自分なりの視点をまとめておく。 第10～12回　これまでの現場での体験を踏まえて次回の体験・参観の狙いとし点を明確にする。 第13回　現場体験・参観をまとめ，発表できる準備をする。 第14回　教科書の当該ページを読み，考えや質問等をまとめておく。 第15回　「私のインクルーシブ保育論」の執筆内容を構想し，発表できるようにする。
復習	第１回　受講の意志を確認し登録する。 第２～７回　受講内容をまとめ，レポート「私のインクルーシブ保育論のためのメモ」を書き，提出する。 第８回　とくになし 第９～12回　体験・参観の結果を記録に整理し，予習につなげる。 第13回　体験・参観を総括し，レポート「私のインクルーシブ保育論のためのメモ」を書き，提出する。 第14回　受講内容をまとめ，レポート「私のインクルーシブ保育論のためのメモ」を書き，提出する。 第15回　授業における話し合いを受け，「私のインクルーシブ保育論」を執筆し，提出する。
展開	インクルーシブ保育の課題は障害の有無にかかわらずどの子にも最適な保育を創り出すことであり，共生社会の実現を目指すものであることに考えを至らせ，その担い手としての基礎を確立する。

成績評価

評価の基準	1.授業への参加度と発言の内容 2.実践現場体験への積極的取り組み 3.自分なりの考えを形成する思考
評価の方法	授業内容に関する小レポート　30% 実践現場体験での見取り　20% 期末レポートの内容　50%

教科書

書籍名	子どもによる、子どものための、子どもの園生活づくりとしての保育
著者名	木下勝世

	出版社	ジアース教育新社
	価格	未定（5月発刊予定）
	ISBN・ISSN	未定
推薦図書等	書籍名	インクルーシブ保育っていいね
	著者名	小山望，太田俊己，加藤和成，河合高鋭
	出版社	福村出版
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-571-12121-0
参考URL	愛隣幼稚園ホームページ　http://www.airinyoutien.com	
備考	インクルーシブ保育実践現場体験は愛隣幼稚園で行う。日程については幼稚園と受講者間の都合で相談の上決定するが，調整に協力してもらいたい。	

知的障害の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	知的障害の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯　友子
担当教員	篠﨑　勇介
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005601　土曜日，3限
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	知的障害，障害観，知能，認知特性	
学生の到達目標	1.知的障害のある子どもの心理・生理・病理について基礎的な知識を身につける。 2.知的障害のある子どもに関する最新の研究知見を知る。 3.具体的な事象や事例から，知的障害のある子どもの行動背景を考えられるようになる。	
授業内容	第1回	知的障害観の変遷と知的障害の定義（目標1,2） 担当教員: 相磯　友子
	第2回	知能と知能検査（目標1,2） 担当教員: 相磯　友子
	第3回	知的障害の子どもの認知特性（目標1） 担当教員: 相磯　友子

	第4回	知的障害の子どもの社会性の発達（目標1） 担当教員: 相磯　友子
	第5回	知的障害と自閉症（目標1,2） 担当教員: 相磯　友子
	第6回	知的障害の子どもの心理（目標2,3） 担当教員: 相磯　友子
	第7回	知的障害をきたす疾患（目標1） 担当教員: 篠﨑　勇介
	第8回	知的障害の子どもと医療の関わり（目標1） 担当教員: 篠﨑　勇介

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回～８回　知的障害の子どもに関する本を読む。
	復習	第１回～８回　知的障害に関するキーワードを整理する。
	展開	知的障害の子どもと関わるボランティアに参加する。

成績評価	評価の基準	1.知的障害のある子どもの心理・生理・病理についての基礎的な知識を理解しているか。 2.3.最新の知見についての自分の考え及び知的障害のある子どもの行動背景の推測について具体的，説得的に自分の言葉で書くことができるか。
	評価の方法	小テスト80%，レポート20%

教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書株式会社
	価格	2,160円
	ISBN・ISSN	978-4-7616-0303-8

推薦図書等

参考URL

備考

肢体不自由の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	肢体不自由の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯　友子
担当教員	篠﨑　勇介
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005701　土曜日，4限
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	肢体不自由，脳性まひ，重度心身障害，医療的ケア	
学生の到達目標	1.肢体不自由のある子どもの心理・生理・病理について基礎的な知識を身につける。 2.肢体不自由のある子どもに関する最新の研究知見を知る。 3.具体的な事象や事例から，肢体不自由のある子どもの行動背景を考えられるようになる。	
授業内容	第1回	肢体不自由の定義　（目標1） 担当教員: 相磯　友子
	第2回	肢体不自由の子どもの教育と心理（目標1,3） 担当教員: 相磯　友子
	第3回	肢体不自由の子どもの教育と心理（目標1,3） 担当教員: 相磯　友子

	第4回	重複障害児・者の生活（目標1,3） 担当教員: 相磯　友子
	第5回	重複障害児・者の心理（目標1,3） 担当教員: 相磯　友子
	第6回	重度心身障害と医療的ケア（目標1,2） 担当教員: 相磯　友子
	第7回	肢体不自由をきたす疾患（目標１） 担当教員: 篠﨑　勇介
	第8回	肢体不自由の子どもと医療の関わり（目標１） 担当教員: 篠﨑　勇介

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回～８回　肢体不自由の子どもに関する本を読む。
	復習	第１回～８回　肢体不自由に関するキーワードを整理する。
	展開	肢体不自由の子どもに関わるボランティアに参加する。

成績評価	評価の基準	1.肢体不自由のある子どもの心理・生理・病理についての基礎的な知識を理解しているか。 2.3.最新の知見についての自分の考え及び肢体不自由のある子どもの行動背景の推測について具体的，説得的に自分の言葉で書くことができるか。
	評価の方法	小テスト80%，レポート20%

教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書株式会社
	価格	2,160円
	ISBN・ISSN	978-4-7616-0303-8

推薦図書等

参考URL

備考

病弱の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	病弱の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯　友子
担当教員	篠﨑　勇介
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005801　土曜日，4限
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	病弱，学習空白，不安，院内学級	
学生の到達目標	1.病弱の子どもの心理・生理・病理について基礎的な知識を身につける。 2.病弱の子どもに関する最新の研究知見を知る。 3.具体的な事象や事例から，病弱の子どもの行動背景を考えられるようになる。	
授業内容	第1回	病弱の教育上の定義（目標1） 担当教員: 相磯　友子
	第2回	病弱児・者の生活（目標3） 担当教員: 相磯　友子
	第3回	病弱児・者の心理（目標3） 担当教員: 相磯　友子
	第4回	病弱児・者の進路（目標2） 担当教員: 相磯　友子

	第5回	院内学級・訪問学級（目標1,2） 担当教員: 相磯　友子
	第6回	障害受容について（目標1,2,3） 担当教員: 相磯　友子
	第7回	小児慢性疾患（目標1） 担当教員: 篠﨑　勇介
	第8回	小児精神疾患（目標1） 担当教員: 篠﨑　勇介

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回～８回　病弱の子どもに関する本を読む。
	復習	第１回～８回　病弱の子どもに関するキーワードを整理する。
	展開	病弱の子どもの指導案を考え作成する。

成績評価	評価の基準	1.病弱の子どもの心理・生理・病理についての基礎的な知識を理解しているか。 2.3.最新の知見についての自分の考え及び病弱の子どもの行動背景の推測について具体的，説得的に自分の言葉で書くことができるか
	評価の方法	小テスト80%，レポート20%

教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書株式会社
	価格	2,160円
	ISBN・ISSN	978-4-7616-0303-8

推薦図書等

参考URL

備考

幼児の生理と健康

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	幼児の生理と健康
科目責任者	安藤　啓
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	35004801　水曜日，2限
教室	講義室2
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	幼児、発育、生理学、健康	
学生の到達目標	1．幼児の発育の過程，成人との生理機能の相違について学習する。 2．健康問題に関する理解を深め，健康指導に関する知識を深める。	

授業内容

第1回	オリエンテーション
第2回	幼児の健康（目標１）
第3回	呼吸・循環・血液（目標１）
第4回	体温調節反応（目標１）
第5回	免疫とアレルギー（目標１）
第6回	体性感覚（目標１）
第7回	自律神経（目標１）

	第8回	睡眠（目標１）
	第9回	肥満とやせ（目標２）
	第10回	運動機能・運動時の身体の適応①（目標２）
	第11回	運動機能・運動時の身体の適応②（目標２）
	第12回	食行動・栄養①（目標２）
	第13回	食行動・栄養②（目標２）
	第14回	講義（10-13回）についての考察（目標２）
	第15回	講義全体のまとめ（目標２）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　シラバスの内容に関して目を通しておくこと。 第2回～第14回（共通）　次回のテーマに関連する事柄について、様々な情報媒体から知見を得ておくこと。 第15回　第14回までの授業で取り扱った内容についてまとめておくこと。
	復習	第1回～第15回　授業時に配布した資料を熟読し、要点をまとめた上で保管すること。
	展開	1．授業で取り扱ったヒトの生理機能や健康問題に関して興味を持ち，関連した最新の情報を収集すること。 2．授業内容について自ら考えながら実践し、理解を深めること。

成績評価	評価の基準	１．幼児の発育の過程，成人との生理機能の相違について理解度 ２．健康問題及び健康指導に関する知識について自ら考える能力が養われていること。 上記二点に関して、学習態度，ミニレポート，期末レポートを総合して評価する。
	評価の方法	学習態度（２０％）ミニレポート（３０％）期末レポート（５０％）を総合して評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等	書籍名	小児生理学
	著者名	馬場一雄/監修　原田研介/編集
	出版社	へるす出版
	価格	6,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89269-636-7

参考URL	
備考	

発達障害と自閉症

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	発達障害と自閉症
科目責任者	漆澤　恭子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	35005001　月曜日，3限
教室	ラーニング・コモンズ2
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	発達障害，自閉症（自閉症スペクトラム）アセスメント	
学生の到達目標	1.自閉症を含む発達障害の特性について理解する 2.自閉症スペクトラム等のアセスメントや認知特性に応じた支援の方法を理解し，子どもたちの内面理解も深める 3.学習内容や実習の経験をふまえて，適切な支援方法を考え，発表することができる	

授業内容

第1回	オリエンテーション，発達障害について（目標１）
第2回	自閉症の概念の変遷(目標1)
第3回	発達障害の原因（目標1,2）
第4回	発達障害の定義と診断（目標1,2,3）

第5回	アセスメントの実際　（目標1,2,3）
第6回	アセスメントの実際　演習（目標1,2,3）
第7回	自閉症スペクトラム障害の特徴と支援 ①社会性について（目標1,2,3）
第8回	自閉症スペクトラム障害の特徴と支援 ②コミュニケーションについて（目標1,2,3）
第9回	自閉症スペクトラム障害の特徴と支援 ③こだわりや想像力について（目標1,2,3）
第10回	自閉症スペクトラム障害の特徴と支援 ④その他の困難について（目標1,2,3）
第11回	自閉症スペクトラム障害に伴いやすい障害について（目標1,2,3）
第12回	自閉症スペクトラム障害の子どもたちが抱える困難について（目標1,2,3）
第13回	事例検討①グループ協議（目標1,2,3）
第14回	事例検討②グループ協議（目標1,2,3）
第15回	学習のまとめ／実習　現場実践　研究発表会　参観などの報告　意見交換等を行い学習を共有する(目標1,2,3)

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回目　これまでに学んだ障害関係の授業について復習をして授業に臨むこと。 第２回目～15回目　次回のテーマと主な内容についての予告に従って準備した上で授業に臨むこと。日頃より，発達障害について，関心を持ち，情報の収集に努めること。
	復習	第１回目～第15回目　毎回の授業の資料とノートを見直し，教科書の関連の箇所で確認しておくこと。 積極的にさまざまな事例について積極的に文献等をあたり知識を深めること。
	展開	研究所参観，授業参観等で積極的に新しい知識や教育方法などを学んでいくこと。

成績評価	評価の基準	1.発達障害や自閉症についての理解・定着 2.アセスメントと支援方法についての理解 3.事例にそった支援方法の工夫をプレゼンする
	評価の方法	授業参加態度（協議、発言等）40%　発表30%　レポート等提出物30%　を総合して評価する

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等	書籍名	自閉症児のための絵で見る構造化
	著者名	佐々木正美
	出版社	学研
	価格	1,995円
	ISBN・ISSN	4054021867
	書籍名	高機能自閉症・アスペルガー症候群入門
	著者名	内山登紀夫他
	出版社	ケーアンドエイチ
	価格	2,000円

ISBN・ISSN	ＩＳＢＮ4－8058－2185-Ｘ　Ｃ0037
書籍名	教員をめざす人の特別支援教育テキスト
著者名	奈良教育大学教育研究支援機構特別支援教育研究センター
出版社	クリエイツかもがわ
価格	1296円
ISBN・ISSN	486342115X

参考URL

備考

外部講師によるアセスメントの演習，知的障害を伴う自閉症の子供たちに対して教育を行っている特別支援学校の参観を予定している。
実習参観などの時期により順を入れ替えることもある。

児童相談事例研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	児童相談事例研究
科目責任者	田村　光子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	35005201　月曜日，5限
教室	講義室3
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	子どもの貧困，相談支援の方法，演習，レポート作成	
学生の到達目標	1.地域子育て支援と相談支援について知る 「子どもの貧困」をテーマに文献研究に取り組む 2.実践的な地域子育て支援や障害のある子どもへの支援の現場に赴く	

授業内容

第1回	ガイダンス（目標１,２）
第2回	子どもの視点から相談の必要性を知る～「子どもの貧困」から（目標１）
第3回	子どもの視点から相談の必要性を知る～「子どもの貧困」から（目標１）
第4回	子どもの視点から相談の必要性を知る～「子どもの貧困」から（目標１）

	第5回	子どもの視点から相談の必要性を知る～「子どもの貧困」から（目標１）
	第6回	子どもの視点から相談の必要性を知る～「子どもの貧困」から（目標１）
	第7回	子どもの視点から相談の必要性を知る～「子どもの貧困」から（目標１）
	第8回	子どもの視点から相談の必要性を知る～「子どもの貧困」から（目標１）
	第9回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標２）
	第10回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標２）
	第11回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標２）
	第12回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標２）
	第13回	事例研究～「いま求められる子育て支援」とは（目標１,２）
	第14回	事例研究～「いま求められる子育て支援」とは（目標１,２）
	第15回	事例研究～「いま求められる子育て支援」とは（目標１,２）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～15回　事前に指示する内容についてレポートを作成する。その内容について当日発表できるようにしておくこと。
	復習	第1回～15回　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	子どもの貧困や社会的排除に関する図書や研究成果を調べ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	到達目標1,2について，授業への参加状況，態度，およびレポート提出等を総合して評価する。
	評価の方法	授業への取り組み（３０％）,レポートの作成（５０％）,授業への参加態度（２０％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	「子どもの貧困」
	著者名	阿部　彩
	出版社	岩波新書
	価格	886円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4004311577
	書籍名	「子どもの貧困白書」
	著者名	湯澤直美、中西新太郎
	出版社	明石書店
	価格	3,024円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4750330358
参考URL		
備考		

障害論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害論
科目責任者	堀　彰人
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30004901　月曜日，2限
教室	講義室6
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	障害，障害観，社会的障壁，合理的配慮，ＩＣＦ	
学生の到達目標	１.障害の見方・考え方は，多様で多面的であることを理解する ２.障害観は，個人に属する問題よりも，環境的側面を重視するようになったことについて，実際の活動とその支援に関する演習も通して理解する。 ３.新しい障害の定義を学び，新しい障害観に立つ，障害への基本的対応のあり方について理解する。	
授業内容	第1回	障害の三つの階層・側面－Impairments. Disabilities. Handicapsについて（目標1）
	第2回	障害の三つの階層・側面－Impairments. Disabilities. Handicapsについて（目標1）
	第3回	障害の三つの階層・側面－Impairments. Disabilities. Handicapsについて（目標1）
	第4回	社会的不利益を重要視する障害観－障害を「社会的に負わされた不利益」ととらえる障害観。社会的不利益を最重要視し，それへの対応を最優先する教育観（目標2）

	第5回	社会的不利益を重要視する障害観－障害を「社会的に負わされた不利益」ととらえる障害観。社会的不利益を最重要視し，それへの対応を最優先する教育観（目標2）
	第6回	障害とは何か，障害をどう定義するか－発達に障害があって，そのため生じる社会的不利を解消するには，特別な教育的支援を必要とする状態（目標2）
	第7回	障害とは何か，障害をどう定義するか－発達に障害があって，そのため生じる社会的不利を解消するには，特別な教育的支援を必要とする状態（目標２）
	第8回	障害とは何か，障害をどう定義するか－発達に障害があって，そのため生じる社会的不利を解消するには，特別な教育的支援を必要とする状態（目標2）
	第9回	障害とは何か，障害をどう定義するか－発達に障害があって，そのため生じる社会的不利を解消するには，特別な教育的支援を必要とする状態（目標2）
	第10回	能力の劣弱と教育的対応－視力，聴力，知能，運動能力等が劣ることと，それらを支える対応（目標2,3）
	第11回	社会的不利と教育的対応－障害から生じる社会的不利と，社会的不利の解消を優先する教育。 「できる状況づくり」としての支援（目標2,3）
	第12回	障害と関わる特別な教育的ニーズ－障害観と教育的ニーズ，障害と教育的ニーズ（目標3）
	第13回	教育上問題にされる各障害－視覚障害，聴覚障害，知的障害，肢体不自由，内部障害，言語障害，自閉症，ADHD，LD等々（目標3）
	第14回	ICFの障害観と対応の変化（目標3）
	第15回	障害者差別解消法と合理的配慮（目標3）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～第１５回 配付プリントや参考文献にあらかじめ目を通し，疑問点等を明らかにしておく。
	復習	第１回～第１５回 授業内容のポイントについて整理をする。
	展開	新しい障害観をもとに，障害のある人への福祉・教育のありようを考える。
成績評価	評価の基準	1.障害の見方・考え方は，多様で多面的であることを理解できたか。 ２.障害観は，個人に属する問題よりも，環境的側面を重視するようになったことについて，実際の活動とその支援に関する演習も通して理解できたか。 ３.新しい障害の定義を学び，新しい障害観に立つ，障害への基本的対応のあり方について理解できたか。
	評価の方法	授業参加の姿勢３０％，レポート等課題の提出状況２０％，期末テストの評点５０％を基に，総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	ICF　国際生活機能分類
	著者名	世界保健機関（WHO）
	出版社	中央法規
	価格	3,500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-4417-5

書籍名	発達障害指導事典第２版
著者名	編集代表小出進
出版社	学習研究社
価格	15,000円＋税
ISBN・ISSN	4-05-401096-2

書籍名	知的障害　定義、分類および支援体系
著者名	AAMR米国精神遅滞協会
出版社	日本知的障害者福祉連盟
価格	6,000円＋税
ISBN・ISSN	4-902448-0107

参考URL	
備考	第１２回までは，屋外で遊具の作成とそれを使った遊びの指導の演習も行いますので，動きやすく，汚れてもよい服装で参加して下さい。

障害教育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害教育課程論
科目責任者	山本　邦晴
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	35007001　木曜日，1限
教室	ラーニング・コモンズ2
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	特別支援教育，教育課程の編成，一人一人のニーズ，週日課表，できる状況づくり	
学生の到達目標	1.教育課程の基準（特別支援学校学習指導要領等）についての基礎的理解を深める。 2.県内の特別支援学校を中心に，教育課程編成について調べ，その特色について確認し理解を深める。 3.望ましい教育課程の在り方について，自分の考えをレポートとしてまとめ，発表し合いより理解を深める。	
授業内容	第1回	＜学習指導要領における教育課程の基準＞（目標１,２）①学校教育関連法規・学習指導要領との関係 ②特別支援学校学習指導要領の特色 ③特別支援学校学習指導要領に規定される領域・教科の内容 ④知的障害特別支援学校における教育課程の二重構造。⑤特別支援学級の教育課程
	第2回	＜学習指導要領における教育課程の基準＞（目標１,２） ①学校教育関連法規・学習指導要領との関係 ②特別支援学校学習指導要領の特色 ③特別支援学校学習指導要領に規定される領域・教科の内容 ④知的障害特別支援学校における教育課程の二重構造。⑤特別支援学級の教育課程

第3回	＜学習指導要領における教育課程の基準＞（目標１,２） ①学校教育関連法規・学習指導要領との関係 ②特別支援学校学習指導要領の特色 ③特別支援学校学習指導要領に規定される領域・教科の内容 ④知的障害特別支援学校における教育課程の二重構造。⑤特別支援学級の教育課程
第4回	＜学習指導要領における教育課程の基準＞（目標１,２） ①学校教育関連法規・学習指導要領との関係 ②特別支援学校学習指導要領の特色 ③特別支援学校学習指導要領に規定される領域・教科の内容 ④知的障害特別支援学校における教育課程の二重構造。⑤特別支援学級の教育課程
第5回	＜学習指導要領における教育課程の基準＞（目標１,２） ①学校教育関連法規・学習指導要領との関係 ②特別支援学校学習指導要領の特色 ③特別支援学校学習指導要領に規定される領域・教科の内容 ④知的障害特別支援学校における教育課程の二重構造。 ⑤特別支援学級の教育課程
第6回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞（目標１,２） ①県内知的障害特別支援学校を中心に，実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。②特別支援学級についても同様に行う。
第7回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞（目標１,２） ①県内知的障害特別支援学校を中心に，実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。 ②特別支援学級についても同様に行う。
第8回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞（目標１,２） ①県内知的障害特別支援学校を中心に，実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。 ②特別支援学級についても同様に行う。
第9回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞（目標１,２） ①県内知的障害特別支援学校を中心に，実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。 ②特別支援学級についても同様に行う。
第10回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞（目標１,２） ①県内知的障害特別支援学校を中心に，実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。 ②特別支援学級についても同様に行う。
第11回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞（目標１,２） ①県内知的障害特別支援学校を中心に，実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。 ②特別支援学級についても同様に行う。
第12回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞（目標１,２） ①県内知的障害特別支援学校を中心に，実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。 ②特別支援学級についても同様に行う。
第13回	＜特別支援学校の教育課程の実際＞（目標１,２） ①県内知的障害特別支援学校を中心に，実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。 ②特別支援学級についても同様に行う。
第14回	＜望ましい教育課程編成の在り方＞（目標１,２,３）第 13回までの授業を踏まえて，望ましい教育課程について発表を行う。（目標１,２,３）
第15回	＜望ましい教育課程編成の在り方＞（目標１,２,３）第 13回までの授業を踏まえて，望ましい教育課程について発表を行う。（目標１,２,３）

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～第１５回　授業内容に合わせて，特別支援学校学習指導要領及び解説書に目を通し，下調べをするとともに疑問点等をまとめておく。 第１回～第５回　次時の予告に応じて，関係法規，障害種別に調べて臨む。 第６回～第１３回　県内の特別支援学校を中心に，障害種別による特色や留意点等を予め調べる。 第１４回～第１５回　プレゼンテーションの準備をして発表する。
	復習	第１回～第15回(共通)授業内容に応じて，教育課程編成の在り方や特色についての関係文献や参観校の資料等をフィイルし管理する。 理解等が不十分の場合は，その都度復習して身につくように努める。

	展開	少人数のよさを生かし，調べたことや学修したことを発表する機会を多く設け。主体的に受講できるよう進める。 途中，実際の特別支援学校の見学を組み，教育課程の特色等の理解を深めるとともに，今後の予定されている教育実習に向けても，予備知識を深めスムースに取り組めるようにする。

成績評価	評価の基準	1.教育課程の基準（特別支援学校学習指導要領等）についての基礎的理解を深められたか。 2.教育課程の編成について，各自一校を調べ，特色や要点をまとめられたか。 3.学習指導要領に基づき，教育課程の編成を試み自分の思い込めた発表ができたか。 その他に，授業への参加姿勢や発表，小テスト・レポート提出など，理解度等を確認して総合的に評価する。
	評価の方法	授業への参加姿勢２０％，小テスト３０％，レポート発表５０％，この比率をもとに総合的に評価する。

教科書	書籍名	「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領・高等部学習指導要領」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂
	価格	440円
	ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9
	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂
	価格	450円
	ISBN・ISSN	978-4-316-30016-0

推薦図書等	書籍名	新しい教育課程と学習活動Ｑ＆Ａ
	著者名	全国特別支援学校知的障害教育校長会
	出版社	東洋館出版社
	価格	1,800円
	ISBN・ISSN	978-4-491-02550-6

参考URL

備考

障害教育指導法研究Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害教育指導法研究Ⅰ
科目責任者	佐藤　愼二
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30005001　月曜日，1限
教室	講義室6
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	知的障害教育，遊びの指導，支援の実際	
学生の到達目標	1.知的障害教育の指導法の理解 2.遊びの指導の計画・展開・評価を実際に行う。	
授業内容	第1回	知的障害教育課程と指導法概説(目標１)
	第2回	知的障害教育と「合わせた指導」・「遊びの指導」(目標１)
	第3回	「遊びの指導」の理論(目標１,２)
	第4回	遊び場の構想の流れ(目標１,２)
	第5回	遊び場づくりの実際Ⅰ－全体構造確認(目標１,２)
	第6回	遊び場づくりの実際Ⅱ－遊びのポイントの確認(目標１,２)
	第7回	遊び場づくりの実際Ⅲ－よりよく遊ぶための改善点の検討と実際の修正(目標１,２)

	第8回	遊び場づくりの実際Ⅳ－事故・ケガを防ぐためのポイント(目標１,２)
	第9回	子どもの遊びを高めるための補助的遊具・教師の支援検討(目標１,２)
	第10回	子どもを招待して遊ぶ(目標１,２)
	第11回	子どもを招待して遊ぶ(目標１,２)
	第12回	子どもを招待して遊ぶ(目標１,２)
	第13回	子どもを招待して遊ぶ(目標１,２)
	第14回	遊び場の片付け(目標１,２)
	第15回	「遊びの指導」の有用性の検証・評価(目標１,２)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　「遊びの指導」について自分の考えまとめること。 第２回～第１４回　遊びの指導に関心をもち，図書館の書籍や雑誌に事前に目を通しておくこと。
	復習	第１回～第１５回　授業の要点をまとめておくこと。
	展開	ボランティアに際して，子どもとの遊びの中で確かめること。
成績評価	評価の基準	1.知的障害教育の指導法の理解すること。 2.遊びの指導の計画・展開・評価を実際に行うこと。
	評価の方法	授業参加の意欲（80%）レポート等の内容（20%）を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害教育指導法研究Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害教育指導法研究Ⅱ
科目責任者	山本　邦晴
担当教員	漆澤　恭子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30005101　水曜日，1限
教室	講義室2
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	「特別支援教育」の理念，個別の指導計画，学習指導案，教材制作，模擬授業と評価	
学生の到達目標	1.特別支援教育の理念を学び，多様な場（小・中学校等）で特別支援教育が推進され，適切な指導・支援体制の確立が求められている現状を理解する。 2.子どもたちが生き生きと取り組む授業づくりを想定して，学習指導案の作成及び模擬授業を行い，実践的に理解を深める。 3.各校の公開研究会等に参加して，実際の教育現場の授業づくりから学び，より理解を深める。	
授業内容	第1回	「特別支援教育」の理念について（目標１） 担当教員: 担当教員全員
	第2回	個別の指導計画（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員

	第3回	学校参観（公開研等）～特別支援教育の実践を学ぶ（目標1,２,3） 担当教員: 担当教員全員
	第4回	学校参観（公開研等）～特別支援教育の実践を学ぶ（目標1,２,3） 担当教員: 担当教員全員
	第5回	学校参観（公開研等）～特別支援教育の実践を学ぶ（目標1,２,3） 担当教員: 担当教員全員
	第6回	学校参観（公開研等）～特別支援教育の実践を学ぶ（目標1,２,3） 担当教員: 担当教員全員
	第7回	学習指導案の作成（目標1,２,3） 担当教員: 担当教員全員
	第8回	学習指導案の作成（目標1,２,3） 担当教員: 担当教員全員
	第9回	学習指導案の作成（目標1,２,3） 担当教員: 担当教員全員
	第10回	指導支援の実際を想定した教材の制作（目標1,２,3） 担当教員: 担当教員全員
	第11回	指導支援の実際を想定した教材の制作（目標1,２,3） 担当教員: 担当教員全員
	第12回	模擬授業と協議（目標1,２,3） 担当教員: 担当教員全員
	第13回	模擬授業と協議（目標1,２,3） 担当教員: 担当教員全員
	第14回	模擬授業と協議（目標1,２,3） 担当教員: 担当教員全員
	第15回	学校指導案の作成と模擬授業の評価（目標1,２,3） ※実習、研究会などの時期により，順を入れ替えることがあります。 担当教員: 担当教員全員
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	毎回，授業内容に合わせて，関係文献や資料等に目を通して理解を深めるとともに疑問点等をまとめて臨む。 第１回～第６回　学校概要を調べておく。 第７回～第９回　授業の構想を立てておく。 第１０回～第１１回　教材作りで使う物を学習指導案に基づき用意しておく。 第１２回～第１５回　予め何回か練習して，模擬授業に臨む。
	復習	第1回～第15回　授業内容に応じて，調べた関係文献や配布された資料等はいつでも活用できるようにファイルし管理する。 十分に理解できなかった事柄等は，復習し身につくように務める。
	展開	個別の指導計画や学習指導案の作成では，教育現場で実際に使用しているものを参考にする。模擬授業においても，公開研究会に出向き見習う。 できうる限り，教育現場と密接につながり，現場に出たときに指導法で学んだことが生かせるように進めたい。
成績評価	評価の基準	1.特別支援教育の理念について，習得できたか。 2.学習指導案の作成，模擬授業について，それなりに進められたか。 3.公開研究会や授業錬磨に参加し，何を学んだか，レポートにより確認する。 その他，授業への参加姿勢や発表，小テスト・レポートの内容などにより総合的に評価する。
	評価の方法	授業への参加姿勢２０%，小テスト３０%，レポート内容・発表５０%この比率をもとに総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	書籍名	「特別支援の「子ども理解」」
	著者名	太田俊己　高倉誠一　中坪晃一　監修
	出版社	Ｋ＆Ａ
	価格	1,800円
	ISBN・ISSN	978-4-9905553-2-0
推薦図書等	書籍名	大好きな先生に出会えたら
	著者名	小出進
	出版社	日本生活中心教育研究会（発行）
	価格	450円
	ISBN・ISSN	ー
	□上記の図書等は市販されていません。	
参考URL		
備考		

知的障害教育Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	知的障害教育Ⅰ
科目責任者	佐藤　慎二
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30005901　土曜日，1限
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	知的障害，教育課程，特別支援学校，特別支援学級	
学生の到達目標	1.知的障害及びその教育・支援の特徴について理解する。 2.知的障害教育の学習指導要領と教育課程の考え方やその編成及び実際の状況等について理解する。	

授業内容

第1回	知的障害について(目標２)
第2回	知的障害のある子どもの望ましい支援について(目標１,２)
第3回	知的障害のある子どもの教育・支援の特徴について(目標１,２)
第4回	知的障害教育の教育課程の特色(目標１,２)
第5回	「領域・教科別の指導」について(目標１,２)
第6回	「教科等を合わせた指導」についてⅠ－生活単元学習・日常生活の指導(目標１,２)

	第7回	教科等を合わせた指導」についてⅡ－遊びの指導・作業学習(目標２)
	第8回	知的障害特別支援学級について(目標１,２)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第２回～第８回　授業内容に合わせて，特別支援学校学習指導要領等教科書に目を通し，理解を深めるとともに，不明な点・疑問点等を確認する。
	復習	第１回～第８回　授業内容に応じ，知的障害教育の在り方や進め方について，関係文献や実習校の教育課程資料を調べ再確認をし，一層の理解を深める。
	展開	特別支援学校の実習事前･事後に，実習校の教育課程について特色等を理解，説明する。
成績評価	評価の基準	1.知的障害及びその教育・支援について理解できたか。 2.知的障害教育の学習指導要領と教育課程の考え方やその編成及び実際の状況等について理解できたか。
	評価の方法	毎時間の小テスト80%，授業への参加姿勢20%
教科書	書籍名	特別支援学校・特別支援学級担任ガイドブック
	著者名	佐藤愼二
	出版社	東洋館出版社
	価格	１９４０円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

知的障害教育Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	知的障害教育Ⅱ
科目責任者	山本　邦晴
担当教員	漆澤　恭子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30006001　土曜日，1限
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	「教科等を合わせた指導」，一人一人に合わせた指導・支援，障害者スポーツ，進路指導	
学生の到達目標	1.知的障害教育の指導法の特色である「合わせた指導」の生活単元学習と作業学習について理解する。 2.朝の会やボッチャ等のスポーツ競技，リトミックなど，学校現場での活動を想定して実際に行い，進め方・展開についての理解を深める。 3.また進路指導・キャリア教育の在り方や進め方について，卒業後の課題等も含め理解を深める。	
授業内容	第1回	知的障害とは何か？改めて，考える！（目標１,２,３） 担当教員: 担当教員全員
	第2回	「合わせた指導」の教育課程上の位置づけと考え方（目標１,２,３） 担当教員: 担当教員全員

第3回	朝の会の計画と指導の実際１（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
第4回	生活単元学習の計画と指導の実際１（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
第5回	生活単元学習の計画と指導の実際２（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
第6回	作業学習の計画と指導の実際（目標１,２,３） 担当教員: 担当教員全員
第7回	障害者のスポーツ「ボッチャ」及びリトミックを実践する（目標１,２） 担当教員: 担当教員全員
第8回	進路指導・キャリア教育と卒業後の課題（目標３） 担当教員: 担当教員全員

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回～第８回　教科書として使用している「知的障害教育・基礎知識Ｑ＆Ａ」等に目を通し予備知識を備えるとともに，疑問点等を自分なりにまとめておく。 第１回～第６回　次時の予告に基づき，特別支援学校のホームページを調べ，日課表や授業の実践例を調べて臨む。 第７回　ボッチャ等のルールを確認して臨む。 第８回　特別支援学校の卒業後，どんな課題があるか，調べて臨む。
	復習	第１回～第８回　毎授業の終わりに，授業の要点を確認し，答えられなかった点を復習し確実に身につけるようにする。 また，必要に応じてレポートの提出を求め定着度をみるようにする。
	展開	特別支援学校の実際の活動を映像で紹介したり，指導略案を作成したり，障害者スポーツ「ボッチャ」の競技をしたりして，授業づくりや指導・支援上の留意点，卒業後の生活などについて考え，理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.知的障害教育の指導法の特色である「各教科等を合わせた指導」について理解を深められたか。 2.朝の会等の指導略案を作成して，模擬授業を実際に展開して，内容が練られ参加しやすい授業だったか。 3.進路指導・キャリア教育の在り方や卒業後の課題等について把握ができたか。 その他に授業への取り組み態度や発表，必要に応じて実施する小テスト・レポート提出などにより総合的に評価する。
	評価の方法	授業への取り組み態度や発表２０%，小テスト５０%，レポート提出３０%。この比率をもとに総合的に評価する。

教科書

書籍名	「知的障害教育・基礎知識Ｑ＆Ａ」
著者名	千葉大学教育学部附属養護学校編
出版社	Ｋ＆Ｈ
価格	1,800円
ISBN・ISSN	－

書籍名	「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領・高等部学習指導要領」
著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版
価格	440円+税
ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9

	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	450円+税
	ISBN・ISSN	978-4-316-30016-0
	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	740円+税
	ISBN・ISSN	978-4-303-12412-0
推薦図書等	書籍名	「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-303-12432-8

参考URL

備考

肢体不自由教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	肢体不自由教育
科目責任者	小久保　元
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30006101　土曜日，2限
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	出会い方，足し算文化	
学生の到達目標	1.特別支援教育の一環としての肢体不自由教育について知る。 2.肢体不自由児を育むために必要な「足し算文化」について理解する。 3.教育職として必要な心構えを身につけるために教育内容や指導方法について学ぶ。	
授業内容	第1回	肢体不自由の子どもについて考える(講義及びレポートの視点として)(目標１,２)
	第2回	子ども観・指導観・教育観について見つめ直す(目標１)
	第3回	子どもの自立と学力について考える(目標１,２)
	第4回	子どもの自立と個別の教育支援計画が果たす役割について考える(目標１,２)

第5回	子どもの自立に向けて，個別の指導計画をどのように作成すればよいか考える(目標２)
第6回	子どもの自立に向けて，個別の指導計画の活用のしかたを実践事例から学ぶ(目標２)
第7回	肢体不自由児の教育課程（カリキュラム）について考える(目標１,２)
第8回	学習活動を実践事例を参考にしながら考える(目標２)<教科>
第9回	学習活動を実践事例を参考にしながら考える(目標２)<総合的な学習>
第10回	学習活動を実践事例を参考にしながら考える(目標１,２)<自立活動・個の成長>
第11回	学習活動を実践事例を参考にしながら考える(目標１,２)<自立活動・コミュニケーション>
第12回	コミュニケーション支援の具体的な方法を探る(目標１,２)
第13回	医療的ケアの現状と課題について知る(目標１)
第14回	医療的ケアについて，教育としての取組みの実践事例から心構えを学ぶ(目標２)
第15回	訪問教育の置かれている現状と課題について考える(目標１,２)

予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第１回　肢体不自由児ってどんな子 第２回　幼小中高で味わう生活上の困難さとは 第３回　学びの力はどうやって身につけていくのか 第４回　子どもが「生きていく」ことについて、教育が果たす役割とは 第５回　子どもが実感している生活していく上での力に基づいてこれから身につけていくための計画 第６回　実践例に基づいて具体的な方法を考える 第７回　今,自分（子ども自身）が身につけている力を多くの人と一緒に学び合っていく 第８回　一つ一つ常に具体策として考えていく 第９回　生活上で身につけていきたい内容や方法を考え実践していくためのステップを考えていく 第１０回　共同（学習）する中で具体策がプラスの方向で受け止められるかを考える 第１１回　自分のこと,生活する中で実践しながら意識化を図っていく 第１２回　子どもの意思を表出するための具体を一緒に考えていく 第１３回　器具を使って生活しているこどもの実態について考える 第１４回　ハンデを負って生きていくことについて一緒に生きていく一人として考えを深めていく 第１５回　実態の見えにくい子どもの生き方について実践者としての心構えを身につける
	復習	第１回～１５回（共通）　毎回のレポートで予習・復習することを出題します。 （例）子どもの見方として具体的に書き出してもらった事をもとに授業を進めていきます。
	展開	肢体不自由児の学習姿勢を確立させるための工夫や実際を実践報告や研究報告で調べ，知識や理解を深めると同時に教育観を練る。

成績評価	評価の基準	１.障害のある子ども（肢体不自由）について理解できたか。 ２.肢体不自由児が「今」と「これから」を生きていくための具体として「足し算文化」の考え方を理解し実践していくための姿勢が打ち出されたか。 ３.特別支援教育者として必要な心構えとしての内容を理解し具体策としての指導方法を考えることが出来たか。

評価の方法	肢体不自由（障害のある身）についての基礎的な理解（２０％）特別支援教育に携わる者としての心構えが出来たかどうか（３０％）特別支援教育者として自らの考えを持ち実践しようと心がけることが出来たか（５０％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	授業内容に応じて，グループ学習，ディスカッション，ロールプレイ等の参加型，双方向授業を実施し，児童の側に立った授業の工夫を実践していく。

病弱教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	病弱教育
科目責任者	昆　俊雄
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30006201　土曜日，1限
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	病弱教育の意義，学習空白，病弱教育の教育課程，教育内容の精選，院内学級	
学生の到達目標	1.病弱教育の歴史の概観や，病弱教育の意義，病弱の子どもの心理特性，医療と教育・学校との関係や病弱教育の現代的課題等の基礎的な理解を深める。 2.病弱教育の教育課程や指導法の基礎的な理解を深める。	
授業内容	第1回	病弱教育の歴史(目標1)
	第2回	病気治療における教育の役割(目標1)
	第3回	病気の子の理解・子どもの病気と心のケア(目標1,2)
	第4回	病弱の特別支援学校における教育の実際 喘息，慢性疾患，肥満，小児ガン，心身症，心臓疾患，重症心身障害，腎疾患，筋ジス等の筋疾患，等の教育(目標1,2)

	第5回	院内学級，特別支援教室等の教育の実際(目標1,2)
	第6回	病弱教育の教育課程(目標1,2)
	第7回	医療機関と学校の関係及び医療と教育との連携(目標1)
	第8回	病弱教育の指導法とまとめ(目標1,2)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回～第８回　教育内容に示しているキーワード等，事前に指示するテーマについて調べておくこと。
	復習	第１回～第８回　授業後の要旨をまとめ，整理しておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	授業内容に関連する事項などに関し，教科書や配布資料，参考図書を調べたりするほか，最新の図書や研究成果を調べ知識・理解を深めるようにすること。
成績評価	評価の基準	1.病弱教育の意義，病弱児の心理特性，病種による教育の特徴，病弱教育の歴史の概観等の基礎的な理解度。 2.病弱教育の教育課程や指導法の基礎的な理解度。
	評価の方法	試験20%，レポート等80%で成績を総合する。
教科書	書籍名	病気の子どものガイドブック
	著者名	全国特別支援学校病弱教育校長会/編著　丹羽登/監修
	出版社	ジアース教育新社
	価格	2,600円+税
	ISBN・ISSN	978-4-86371-180-8
推薦図書等	書籍名	「病弱教育Q&A」PART Ⅴ（病弱教育の視点からの医学事典）
	著者名	西間三馨/監修　横田雅史/監修
	出版社	ジアース教育新社
	価格	6,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-921124-20-5
参考URL		
備考		

視覚・聴覚障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	視覚・聴覚障害教育総論
科目責任者	伊藤　和男 松本　末男
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30006301　土曜日，2限
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	視機能の理解，視覚障害に応じた指導，視覚障害乳幼児の育児	
学生の到達目標	（伊藤和男） 1.視覚障害教育を概括的に学習し，視覚障害児の特性と指導法を理解する。 2.特別支援教育における視覚障害教育の意義と今後の広がりについても学習する。 （松本末男） 1.聴覚障害についてその障害の現れ方や，コミュニケーションの方法を理解する。 2.言語を獲得する乳幼児期から幼児期，学齢以降の言語指導について，支援の方法を学ぶ。	
授業内容	第1回　【視覚障害教育の概要】 視覚機構と視覚障害 視機能の検査（教育的評価） 視覚障害児童生徒の実態と教育の場（目標１） 担当教員: 伊藤　和男	

第2回　【教育課程と指導法】
教育課程・指導計画の作成
盲児に対する指導内容・方法と弱視児に対する配慮
視覚障害児のための教材・教具（教科書）（目標１）
担当教員: 伊藤　和男

第3回　【自立活動の基本と指導】
視覚障害児の抱える困難と自立活動の意義
特設時間における指導の進め方と指導内容（目標１）
担当教員: 伊藤　和男

第4回　【乳幼児期における支援】
盲学校幼児部の歩みと現状
幼児部における教育と視覚障害幼児の指導内容
幼稚園や保育所等に通う視覚障害幼児の援助（目標1,2）
担当教員: 伊藤　和男

第5回　「聴覚障害の生理，病理，心理面の理解」
聴覚器官の構造，聴覚障害の原因と分類，聴力検査，聴力レベルとオージオグラム，聴覚補償，難聴体験を通した活動のあり方
担当教員: 松本　末男

第6回　「乳幼児期の支援」
AABRによる周産期の障害発見から母親への支援，乳児への支援のあり方
担当教員: 松本　末男

第7回　「幼児期の指導」
言語獲得期の言語指導のあり方，聴覚の活用のための支援，人工内耳装用児への支援，発音指導，絵日記の活用
担当教員: 松本　末男

第8回　「聴覚障害児，生徒のコミュニケーション」
教科指導，聴覚口話方，手話法，指文字，トータルコミュニケーション，バイリンガル・バイカルチャルアプローチ，普通学級の聴覚障害児への支援
担当教員: 松本　末男

予習・復習の内容
（毎回90分程度）

予習　（伊藤和男）
第１回～４回（共通）予めテキストを読み，関連事項を図書館等で調べるなどして授業に備える。
（松本末男）
第5回　聴覚の各器官の役割を本やインターネットで調べてみる
第6回～第8回（共通）　テキストを事前に読み,分からない事柄を調べる。

復習　（伊藤和男）
第１回～４回（共通）授業で配布されたプリントやノートを読み直すと共に，実践例などを視覚特別支援学校のホームページや関連参考書で確認して定着を図るように心がける。
（松本末男）
第5回　復習プリントを回答し，聴覚の生理と補装具についてまとめておく
第6回　復習プリントを回答し，乳幼児期の支援についてまとめておく
第7回　復習プリントを回答し，幼児期の指導についてまとめておく
第８回　復習プリントを回答し，様々なコミュニケーションについてまとめ，教科の指導についてまとめとく。

展開　（伊藤和男）
それぞれが興味を持った内容について，視覚障害教育の専門書により，さらに学習を深める。
（松本末男）
1.聴覚障害児の教育に関心を持つ，年齢に応じたコミュニケーションについて理解に努めるようにする。
2.聴覚障害児の言語の指導について関心を持ち，自分が指導するとしたらどんな指導をするか考えてみる。

成績評価

評価の基準　（伊藤和男）
1．視覚障害児の特性を理解したうえで，視覚障害教育における自立活動や教科指導の基本的な事項を習得させるために用意されたプリントやテキストの理解度等を，発問やレポートなどを通してその達成度を評価する。
2．視覚障害教育の専門性が，視覚以外の他の特別支援学校や通常学校に在籍する視覚障害を有する児童・生徒にも必要なことを，学生に調べさせた上で，レポートに反映させるなどしてその理解の達成度を評価する。なお，1・2とも授業での態度や取り組み状況も評価判定の基準に加える。
（松本末男）
1.聴覚障害の原因やそれを補う方法を理解し，補装具を理解すること。
2.発達に応じた言語指導のあり方を知り，違いを知っていること。

評価の方法　（伊藤和男）
授業への取り組み40点，レポート60点，合計100点として評価する。
（松本末男）
試験の結果，内容の理解と定着（50%），授業の参加平常点による（授業の取り組み，議論，発表など）（50%）

教科書

書籍名	視覚障害教育に携わる方のために
著者名	香川邦生/編著
出版社	慶應義塾大学出版会
価格	3,000円+税
ISBN・ISSN	978-4-7664-1781-4

書籍名	改訂版聴覚障害教育の基本と実際
著者名	中野善達・根本匡文
出版社	田研出版
価格	2,500円+税
ISBN・ISSN	978-4-86089-018-6

推薦図書等

参考URL

備考

学習障害・重複障害等教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	学習障害・重複障害等教育総論
科目責任者	漆澤　恭子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30006401　土曜日，3限
教室	講義室14
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	発達障害，LD，ADHD，自閉症スペクトラム，重複障害	
学生の到達目標	1.発達障害，重複障害について基本的な内容を説明することができる 2.得た知識をもとに，障害のある子どもたちへの支援方法を考えることができる	

授業内容

第1回	発達障害の理解（目標１）
第2回	LDの基本的理解（目標１）
第3回	LDの教育的支援（目標１,２）
第4回	ADHDの基本的理解（目標１）
第5回	ADHDの教育的支援（目標１,２）
第6回	ASD等の理解と支援（目標１,２）
第7回	重複障害の理解と教育的支援の方法（目標１,２）
第8回	早期発見・早期支援 学習のまとめ（目標１,２）

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回目　1年次に学んだ障害関係の授業について復習をして授業に臨むこと。 第２回目～8回目　次回のテーマと主な内容についての予告に従って準備した上で授業に臨むこと。
	復習	第１回目～第８回目　毎回の授業の資料とノートを見直し，教科書の関連の箇所で確認しておくこと
	展開	協議で出た意見については聞き流すことなくまとめておくこと 授業で学んだことと実習など現場で学んだことを関連づけて考えること

成績評価	評価の基準	1.発達障害，重複障害等について基礎的な内容が理解できていること 2.協議に積極的に参加し，的確に自分の考えを述べ，さらに深めることができていること
	評価の方法	発言・発表（30%）提出物（30%）定期試験（40%） この比率は最終的に若干変更する可能性もある

教科書	書籍名	教員をめざす人の特別支援教育テキスト
	著者名	奈良教育大学教育研究支援機構特別支援教育研究センター
	出版社	クリエイツかもがわ
	価格	1296円
	ISBN・ISSN	486342115X

推薦図書等	書籍名	LD　ADHD＆ASD（季刊誌）
	著者名	上野一彦
	出版社	明治図書
	価格	－
	ISBN・ISSN	－
	書籍名	特別支援教育研究（月刊誌）
	著者名	全日本特別支援教育研究連盟
	出版社	東洋館出版
	価格	－
	ISBN・ISSN	－
	書籍名	LD　ADHD等関連用語集
	著者名	日本LD学会
	出版社	日本文化科学社
	価格	1,190円
	ISBN・ISSN	4-8210-7333-1

参考URL

備考

言語障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	言語障害教育総論
科目責任者	堀　彰人
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30006501　土曜日，1限
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	言語発達，構音障害，吃音，コミュニケーション	
学生の到達目標	1.構音障害，吃音，言語発達の遅れ等に関する基礎的事項を学ぶ。 2.子どもの言語障害に関する指導について，事例を通して学ぶ。 3.学校における言語障害教育への指導に関する制度等について学ぶ。	
授業内容	第1回	オリエンテーション及び言語やコミュニケーションの発達の基礎について学習する。(目標1)
	第2回	言語発達の遅れ，言語性学習障害等に関するアセスメント，指導（AACを含む）について学習する。(目標2)
	第3回	構音障害の基礎について学習する。(目標1)
	第4回	構音障害に関するアセスメント，指導について学習する。(目標2)
	第5回	吃音の基礎について学習する。(目標1)
	第6回	吃音に関するアセスメント，指導について学習する。(目標2)

	第7回	発達障害のある子どものコミュニケーションの支援について学習する（目標2）
	第8回	言語障害教育の歴史や指導の場，通常の学級における理解教育，現状と課題について概観する。(目標3)
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回　子どもとのコミュニケーションやその支援について，自らの体験を通した課題意識をもち，それを整理して表現できるようにしておくこと。 第２回　それぞれのテーマに即して，関連する資料等に目を通しておくこと。
	復習	第１回～第８回　毎回の授業の内容を振り返り，ポイントを整理しておくこと。
	展開	毎回の授業の内容を振り返り，ポイントを整理しておくこと。
成績評価	評価の基準	子どもに日常的に関わる専門職として， 1.構音障害,吃音,言語発達の遅れ等に関する基礎的事項の定着度。 2.子どもの言語障害に関する指導方法や内容，事例の見方，考え方についての理解度。 3.学校における言語障害教育への指導に関する制度等についての理解度，定着度。
	評価の方法	1.毎回のワークシート等の提出５０％ 2.期末テスト５０％。ただし，この比率は，授業への参加態度を加味することも含め，最終的に若干の変更を行う場合がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	子どもがどもっていると感じたら
	著者名	広嶌 忍・堀 彰人　編
	出版社	大月書店
	価格	1,500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-272-40322-6
参考URL	http://nangen.jp http://forum.nise.go.jp/kotoba/htdocs/ http://zengenren.org/ http://kituonkenkyu.org/ http://www.kitsuon-portal.jp/	
備考	推薦図書は随時紹介する。	

統合保育研究Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	統合保育研究Ⅰ
科目責任者	久留島　太郎
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	35008001　月曜日，2限
教室	ラーニング・コモンズ2
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	統合保育，発達支援，インクルーシブ，子育て支援，家庭支援	
学生の到達目標	1.事例を通して，障害をもつ子どもを含めた保育のあり方について考える。 2.発達の気になる子どもの支援，その保護者の支援について理解を深める。 3.インクルーシブな保育の意義を理解する。	

授業内容

第1回	オリエンテーション　授業の概要・目的・進め方・評価についての説明（目標３）
第2回	発達の気になる子どもの発達の特性について（１）（目標１）
第3回	発達の気になる子どもの発達の特性について（２）（目標１）
第4回	障害理解教育について（１）（目標１,２）
第5回	障害理解教育について（２）（目標１,２）
第6回	インクルーシブ保育と「遊び」（１）（目標３）
第7回	インクルーシブ保育と「遊び」（２）（目標３）

	第8回	インクルーシブ保育と「遊び」（３）（目標３）
	第9回	インクルーシブ保育と「環境構成」（１）（目標３）
	第10回	インクルーシブ保育と「環境構成」（２）（目標３）
	第11回	インクルーシブ保育の実際（１）（目標１,３）
	第12回	インクルーシブ保育の実際（２）（目標１,３）
	第13回	インクルーシブ保育の実際（３）（目標１,２,３）
	第14回	インクルーシブ保育の実際（４）（目標１,２,３）
	第15回	インクルーシブ保育について学んだことをまとめて発表する（目標１,２,３）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　障害を持つ子どもを含めた保育ということについて現時点での自分なりの考えを整理して臨む。 第２回～第１４回　授業時に配布される資料を読み，次回のテーマについて準備をした上で授業に臨む。 第１５回　インクルーシブ保育について学んだことの中から自分の考えをまとめて発表する準備をする。
	復習	第１回　障害を持つ子どもを含めた保育について，インクルーシブという視点から振り返る。 第２回～第１４回　授業の目的と内容についてまとめる。 第１５回　発表内容を振り返り，理解を深める。
	展開	特別支援学校での実習をインクルーシブ保育の視点から捉え，学びを深める。
成績評価	評価の基準	1.障害を持つ子どもたちを含めた保育への理解を深めることができる。 2.発達の気になる子どもの支援・保護者支援について保育の視点から考えることができる。 3.インクルーシブな保育のあり方について自己の考えを適切に述べることができる。
	評価の方法	提出物（40%）内容の理解（40%）授業態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	気になる子の本当の発達支援
	著者名	市川 奈緒子【著】
	出版社	風鳴舎
	価格	税込1,836円
	ISBN・ISSN	978-4-88024-537-9
参考URL		
備考		

統合保育研究Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	統合保育研究Ⅱ
科目責任者	田村　光子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	35008101　木曜日，2限
教室	講義室5
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	子ども主体の保育，地域子育て支援，現場演習，レポート作成	
学生の到達目標	1.子ども主体の生活の視点を学ぶ 2.実践を通して，地域における子どもへの支援について考える	
授業内容	第1回	ガイダンス（目標１,２）
	第2回	子どもの視点から暮らしを見る　～「子どもの道くさ」から（目標１）
	第3回	子どもの視点から暮らしを見る　～「子どもの道くさ」から（目標１）
	第4回	子どもの視点から暮らしを見る　～「子どもの道くさ」から（目標１）

	第5回	子どもの視点から暮らしを見る　～「子どもの道くさ」から（目標１）
	第6回	子どもの視点から暮らしを見る　～「子どもの道くさ」から（目標１）
	第7回	子どもの視点から暮らしを見る　～「子どもの道くさ」から（目標１）
	第8回	子どもの視点から暮らしを見る　～「子どもの道くさ」から（目標１）
	第9回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標２）
	第10回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標２）
	第11回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標２）
	第12回	地域子育て支援の活動に見学・参観する（目標２）
	第13回	事例研究　いま求められる子育て支援とは（目標１,２）
	第14回	事例研究　いま求められる子育て支援とは（目標１,２）
	第15回	事例研究　いま求められる子育て支援とは（目標１,２）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～15回　事前に指示する内容についてレポート作成する。その内容について当日発表できるようにしておくこと。
	復習	第1回～15回　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	子ども主体の生活づくりや地域子育て支援に関する図書や研究成果を調べ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	到達目標1,2について，授業を通してレポート発表，提出をもって評価する。さらに，その他加点として，最終レポートの内容や発表の内容や，意欲等をもって判断する。
	評価の方法	レポート作成　６０％，レポート発表　３０％，その他加点　１０％
教科書	書籍名	「子どもの道くさ」
	著者名	水月昭道
	出版社	東信堂
	価格	756円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4887136830

推薦図書等

参考URL

備考

統合保育研究Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	統合保育研究Ⅲ
科目責任者	長嶺　章子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	35008201　月曜日，3限
教室	セミナー室1
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	統合保育，身体表現，音楽表現，見学参加実習	
学生の到達目標	1.身体表現活動を通して，表現力・社会性やコミュニケーション力が養われることを学ぶ。 2.幼児の様々な音楽活動について，実技を通して学び，実践力を養う。 3.統合保育がどのように行われているのかを理解する。	
授業内容	第1回　オリエンテーション	
	第2回　統合保育とは何か　（目標１）	
	第3回　子どもの発達　（目標１）	
	第4回　音楽と動き（１）リトミック　（目標１）	
	第5回　音楽と動き（２）リズム運動　（目標１）	
	第6回　音楽と動き（３）あそび歌　（目標１）	
	第7回　音楽と動き（４）わらべうた　（目標１）	

	第8回	幼稚園における統合保育（見学・参加実習）（目標１）
	第9回	幼稚園における統合保育（見学・参加実習）（目標１）
	第10回	こども園における統合保育（見学・参加実習）（目標２）
	第11回	こども園における統合保育（見学・参加実習）（目標２）
	第12回	音楽療法（１）基本的考え方（目標３）
	第13回	音楽療法（２）特別支援学校の事例から（目標３）
	第14回	課題（目標３）
	第15回	発表・まとめ
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回　簡単な曲をピアノで弾けるようにしたり，音楽活動を引き出す音を各自で準備する。また，毎回出される課題に対して指導計画を準備する。
	復習	第1回～第15回　学習内容をノートにまとめたり，学んだことを実践できるよう準備したり，弾けるようになったピアノ曲を時々弾いてみる。
	展開	今後の実習の中で，積極的に音楽活動を取り入れ実践する。
成績評価	評価の基準	1.身体表現活動の意義や効果について理解している。 2.幼児の様々な音楽活動について幅広い知識を持ち，実践力が養われている。 3.統合保育の定義と現場における実践について理解している。
	評価の方法	レポート（40%）　研究発表（40%）　授業への意欲（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	子どもの世界をよみとく音楽療法
	著者名	加藤　博之　著
	出版社	明治図書
	価格	2,400円＋税
	ISBN・ISSN	10-4180584204
	書籍名	必ずラポールは築ける50のリズム歌あそび
	著者名	城谷　敬子　著
	出版社	あおぞら音楽社
	価格	1,700円＋税
	ISBN・ISSN	10-4904437020
参考URL		
備考		

特別支援教育実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	特別支援教育実習
科目責任者	堀　彰人
担当教員	松原　敬子 佐藤　愼二 山本　邦晴 漆澤　恭子 田村　光子 相磯　友子 根本　曜子 長嶺　章子 久留島　太郎
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	30016601
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻：　　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	教育実習，特別支援学校，職務，授業，指導案	
学生の到達目標	次の３点を達成目標とする。 1.特別支援学校の教員として求められる姿勢，態度等を身につける。 2.子どもへの適切な指導・支援を実践を通して理解する。 3.教育公務員の職務とその使命を理解する。	

授業内容	後期の１０月に実施する。 １．特別支援学校の学校生活の計画と実際を理解する。 ・一日，一週間，一年間の生活の流れ ・教育課程の概要　など（目標3） ２．指導・指導計画の作成や授業の進め方を学ぶ。 ・各授業の年間計画や単元計画の実際 ・指導計画や支援（指導）案の作成 ・授業計画の実際　など（目標1,2） ３．障害のある子どもへの適切な指導・支援を学ぶ。 ・子ども個々の様子の把握の仕方 ・個別の指導（支援）計画 ・支援の実際ー「できる状況づくり」の工夫 ・授業中の声かけや手助け　など（目標1,2） ４．教師のあり方やなすべき様々な仕事の理解 ・望ましい教師の姿 ・教材準備や学級便り作成等，教師の仕事の実際　など（目標３）
予習・復習の内容（毎回120分程度）	予習　実習配属先の学校要覧を取り寄せ,実習先の方針や児童生徒の概要の把握に努める。 復習　授業のポイントを整理し，指導案・支援案の作成に生かす。 展開　個々の様子の把握、個々に応じた支援・指導の工夫を，他の実習等に生かす。
成績評価	評価の基準　実習中の姿勢や意欲，指導案等書類の作成も含めた実習先の評価を参考に評価する。 評価の方法　実習先からの評価表90%と実習に関わる記録簿，指導案等の課題の提出10%をもとに評価を行う。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

特別支援教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	特別支援教育実習事前事後指導
科目責任者	堀　彰人
授業形態	実習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	30006801　（前期）土曜日，5限（後期）土曜日，4限
教室	講義室1
卒業要件	特別支援教育専攻：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	特別支援学校，職務，授業，指導案	
学生の到達目標	1.特別支援学校における指導・支援の実践的体験を通し，特別支援学校教育従事者に必要な肯定的なまなざし，児童生徒理解の視点を学ぶ。 2.特別支援学校の教員としての服務や専門的な知識・技能の基礎を学ぶ。	
授業内容	第1回	実習の意義と目的（目標2）
	第2回	実習の意義と目的（目標2）
	第3回	特別支援学校の概要の理解（目標2）
	第4回	特別支援学校の概要の理解（目標2）
	第5回	児童・生徒への支援的対応について（目標1,2）
	第6回	児童・生徒への支援的対応について（目標1,2）

第7回	実習における態度・実習における自己目標の設定（目標2）
第8回	実習における態度・実習における自己目標の設定（目標2）
第9回	指導案の書き方・実習日誌の意義と記入の仕方（目標1）
第10回	指導案の書き方・実習日誌の意義と記入の仕方（目標1）
第11回	実習先での事前訪問とオリエンテーション（目標2）
第12回	実習校との手続き（目標2）
第13回	実習日誌の整理・実習の自己評価（目標1,2）
第14回	実習日誌の整理・実習の自己評価（目標1,2）
第15回	意見交換と反省・まとめ（目標1,2）

予習・復習の内容（毎回45分程度）

予習	第１回～第４回 実習先の学校要覧をもとに，実習先のカリキュラムや児童生徒の概要の把握をする。 第５回～第１０回 一つの学習活動を想定し，目標，展開などを予め考えておく。 第９回～第１５回 配付した資料に目を通しておく。
復習	第１回～第１５回 授業のポイントについて整理をする。
展開	実際の特別支援学校での実習で学んだことを生かす。

成績評価

評価の基準	1.特別支援教育における児童生徒理解の行動等を肯定的に理解しようとしたか，またその際の視点を理解できたか。 2.特別支援学校の教員としての服務，指導・支援の基礎が理解できたか。
評価の方法	授業の参加姿勢50%，レポート等課題の提出状況50%とする。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	特別支援学校学習指導要領
著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版
価格	462円
ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9

書籍名	特別支援学校学習指導要領解説総則編等
著者名	文部科学省
出版社	教育出版
価格	473円
ISBN・ISSN	978-4-316-30016-0

推薦図書等

書籍名	感じ合い　分かり合い　支え合い
著者名	小出進
出版社	－
価格	1,000円

ISBN・ISSN　　－

□上記の図書等は市販されていません。

参考URL	
備考	第５回～第１０回は，４人ごとのグループを構成し，ロールプレイ等を行います。

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	中澤　潤
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009101
教室	
卒業要件	
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	発達，保育，インクルーシブ，研究	
学生の到達目標	１．実習やボランティアなどに関わり，自ら問題意識を深める。 ２．各自が設定したテーマに基づき資料を収集するなど研究を進める。 3.研究したテーマを論文にまとめる。	
授業内容	※授業は通期で行う。 第１回　オリエンテーション（修了研究の進め方）（目標2） 第２回～３回　一人ひとりの関心について発表し合い，テーマ設定を検討する。（目標1,2） 第４回～２０回　テーマに基づき，資料収集，文献研究に取り組む（目標2） 第２１回　各自の研究課題の発表・協議（目標１，２） 第２２回～４９回　テーマに基づき，参観，調査に取り組む（目標2） 第５０回　中間発表会（目標１，２） 第５１回～５２回　論文の構成，執筆方法（目標3） 第５３回～５６回　論文の執筆支援，修正（目標3） 第５７回～５８回　論文の修正，提出（目標3） 第５９回　発表指導（目標3） 第６０回　修了研究発表会（目標3）	

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　発達・保育における各自の問題意識を整理して授業に臨む。 第2回～20回　研究課題に沿って，先行研究や参観などをもとに資料を集め，発表の準備をする。 第21回　研究課題の発表の準備をする。 第22回～49回　集めた資料と文献をまとめ，経過指導が受けられるようにする。 第50回　中間発表の準備をする。 第51回～60回　修了研究の発表に向けて準備をする。
	復習	第1回　自己の課題を明確にする。 第2回～21回　研究の進め方について整理する。 第22回～59回　研究のまとめに向けて資料をもとに考察し，執筆を進める。 第60回　発表を振り返り，学びを深める。
	展開	資料に基づき自らの考えを深め考察する。個別の協議や中間発表等で出された課題等について、再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに、調査・研究活動を振り返る。
成績評価	評価の基準	問題意識・テーマ設定・方法・結果･考察等の妥当性・成果等及び、取り組み姿勢･態度を総合的に評価する。
	評価の方法	論文60%、授業への参加姿勢10% 調査・研究活動への取り組み30%。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	※必要な資料･文献等を適宜紹介する。	

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	佐藤　愼二
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009102
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻：　　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	保育・教育の場，障害，支援の実際	
学生の到達目標	保育や教育の場，あるいは，学校教育卒業後の場における，発達障害（LD，ADHD，高機能自閉症等），知的障害等のある子ども・青年の理解や支援に関連したテーマで実践研究に取り組み，修了研究をまとめる。	
授業内容	○授業は通期で行います。 第１回　オリエンテーション－修了研究の進め方や年間の見通しについての確認 第２回～第４回　各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談 第５回～第８回　修了研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討 第９回～第30回　資料収集・文献研究 第31回　各自の研究課題の発表と協議 第32回～第49回　資料整理・論文執筆 第50回　中間発表会 第51回～第59回　論文の加筆・修正・提出 第60回　修了研究発表会	

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回　終了研究のテーマに関する問題意識を簡潔にまとめること。 第２回～第１４回　積極的に関連の資料を収集し，自発的にまとめること。
	復習	第１回～第１５回　授業で確認された点をすぐに論文作成に反映すること。
	展開	自発的に周辺領域の文献・資料にあたること。
成績評価	評価の基準	保育や教育の場，あるいは，学校教育卒業後の場における，発達障害（LD，ADHD，高機能自閉症等），知的障害等のある子ども・青年の理解や支援に関連したテーマで実践研究に取り組み，修了研究をまとめること。
	評価の方法	修了研究への意欲・熱意(50%)，修了研究の成果等(50%)を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	山本　邦晴
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009103
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻：　　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定 5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	研究テーマの設定と興味・関心，ボランティア活動と記録，資料収集，研究発表会	
学生の到達目標	1.障害のある子どもや青年･大人の生活の場～特別支援学校や各種障害関係施設等を中心に，参観やボラティア活動等を積み重ね，生活の整え方や障害のある人の支援のありようについて理解を深める。 2.各自が設定したテーマに沿って，論文としてまとめる。	
授業内容	○授業は通期で行います。 第１回　オリエンテーション－修了研究の進め方や年間の見通しについての確認。（目標１,２） 第２回～第４回　各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。（目標１,２） 第５回～第８回　修了研究のテーマ，その構成の仕方，執筆方法についてのモデルの提案と検討。（目標１,２） 第９回～第 30回　資料収集・文献研究。（目標１,２）	

	第 31回	各自の研究課題の発表と協議。（目標１,２）
	第 32回～第 49回	資料整理・論文執筆。（目標１,２）
	第 50回	中間発表会。（目標１,２）
	第 51回～第 59回	論文の加筆・修正・提出。（目標１,２）
	第 60回	修了研究発表会。（目標１,２）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	設定したテーマに沿って，参考文献等をもとに，関係資料の収集や文献研究を行うとともに，ボランティア活動等調査研究活動を行い実際の状況を把握する。 第１回～第８回　テーマの設定に向けて，方向性を見いだせるように下調べをしておく。 第９回～３０回　設定したテーマに基づき関係資料の収集や文献研究，ボランティア活動を行う。 第３０回～第６０回　計画的に論文をまとめられるように努める。
	復習	第１回～第４９回　個別の協議や中間発表等で出された課題等について，再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに，ボランティア活動・調査研究活動を振り返りまとめる。 第５０回～第６０回　まとめの最終段階として，内容の確認・修正に努める。
	展開	関係資料の収集や文献研究，ボランティア活動等計画的に進める。必要に応じて，研究や成果を一層確かなものとするため，関連する他施設等の情報等を調べたりして，内容を深める。
成績評価	評価の基準	1.特別支援学校や各種障害関係施設等の参観やボラティア活動等を取り組み，支援等について学べたか。 2.各自が設定したテーマに沿って，計画的に論文をまとめることができたか。 問題意識・テーマ設定・方法・結果･考察等の妥当性・成果等及び，取り組み姿勢･態度を総合的に評価する。
	評価の方法	論文80%，授業への参加姿勢10%，調査研究活動への取り組み10%ただし，この比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	必要な資料･文献等を適宜紹介する。	

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	漆澤　恭子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009104
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	発達障害，理解啓発，支援，学級経営	
学生の到達目標	1.発達障害のある子どものやりにくさを理解し，望ましい支援について考える 2.周りの子や，学級の理解・啓発について考える 3.これらに関する各自が設定したテーマで研究活動に取り組み修了研究としてまとめる	
授業内容	○授業は通期で行います。（目標１,２,３） 【第１回～第13回】 ○オリエンテーション 研究の進め方や年間の見通しについて ○協議①各自の興味関心について意見交換し，課題設定について検討する ○協議②各自の興味関心について意見交換し，課題設定について検討する ○テーマに基づき，研究方法を考える① ○テーマに基づき，研究方法を考える② ○各自の研究方法に添って研究活動を行う① 文献研究，調査研究，参観研究，ボランティア体験等	

○個別相談を随時行う
【第14回～第１６回】
○中間発表　協議
執筆について（構成，体裁，倫理等）
【第17回~第40回】
○研究活動　個別相談を随時行う
並行し執筆活動
【第41回～第50回】
○執筆活動　個別相談を随時行う
【第51回～第53回】
○発表会　協議
【第54回~第57回】
○加筆　修正
【第58回~第60回】
○修了研究発表会

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回これまでに学んだ発達障害について復習して臨むこと 第2回～第60回（共通）次時の予定に基づき準備した上で臨むこと
	復習	第1回～59回（共通）常に立案した研究・執筆計画に照らして計画的に研究を進めること。
	展開	研究にあたっては，仮説を持ち臨むこと 常に広く情報を収集すること

成績評価	評価の基準	修了研究への取り組みの姿勢，熱意，論文の論理性，成果等も総合的に評価する。
	評価の方法	修了研究への意欲・熱意（50%） 修了研究の論文構成　成果等（50%）を総合的に評価する

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	必要とする参考文献等は随時紹介する

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	堀　彰人
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009105
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	障害，子ども，コミュニケーション，関係	
学生の到達目標	1.障害のある子ども等の生活の場―家庭，幼稚園，保育所，小中学校，特別支援学校等におけるコミュニケーションやその支援について，演習や参観やボランティア等を積み重ねて，基本的な考え方や身近な関わり手としての姿勢，コミュニケーションの充実や，本来持っている力を十分活用するためのスキル等について理解を深める。 2.各自が設定したテーマに沿って，論理的に整理・考察を加える。	
授業内容	○授業は通期で行います。(すべて目標1,2) 第１回　オリエンテーション（修了研究の進め方）。 第２回～第３回　一人ひとりの関心等について，意見交換し，課題設定について検討。 第４回～第 33回　テーマに基づき，参観や資料収集に取り組む。 第 34回　各自の研究課題の発表・協議。 第 35回～第 49回 関係資料の収集・文献研究。 第 50回　中間発表。 第 51回～第 52回　論文の構成・体裁，執筆方法等について。	

	第 53回～第 57回	論文の加筆過程での相談支援。
	第 58回～第 59回	論文の加筆・修正。論文の提出。
	第 60回	修了研究発表会。
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	設定したテーマにそって，参考文献をもとに，関係資料の収集や文献研究を行うと共に，ボランティア活動等，調査研究活動を行い，実際の状況を把握する。
	復習	個別の協議や中間発表等で出された課題等について，再度関係資料の収集や文献研究を行うとともに，調査研究活動を振り返りまとめる。
	展開	研究や成果を一層確かなものとするため，関連する他施設等の情報を調べたりして，内容を深める。
成績評価	評価の基準	1.障害のある子ども等の生活の場―家庭，幼稚園，保育所，小中学校，特別支援学校等におけるコミュニケーションやその支援について，演習や参観やボランティア等を積み重ねて，基本的な考え方や身近な関わり手としての姿勢，コミュニケーションの充実や，本来持っている力を十分活用するためのスキル等について理解できたか。 2.各自が設定したテーマに沿って，論理的に整理・考察できたか。
	評価の方法	論文70%，授業への参加姿勢10%，調査研究活動への取り組み20%。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	久留島　太郎
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009106
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻：　　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	保育論，援助論，インクルーシブ，保護者との連携，保育実践	
学生の到達目標	1.保育について自らの問題意識に沿った先行研究を整理し，研究テーマを設定する。 2.研究テーマに沿って，適切な調査などを実施する。 3.研究テーマの位置づけ・調査等の結果・考察をわかりやすくまとめ修了研究を作成する。	
授業内容	第１回　オリエンテーション（修了研究の進め方）（目標1） 第２～３回　興味関心に基づいて研究課題を検討する（目標1） 第４～３３回　テーマに基づき，参観や資料収集に取り組む（目標２） 第３４回　各自の研究課題の発表・協議（目標２） 第３５～４９回　関係資料の整理・文献研究（目標１,２） 第５０回　中間発表（目標２） 第５１～５２回　論文の構成・体裁，執筆方法等について（目標3） 第５３～５７回　論文の加筆過程での相談支援（目標3） 第５８回　論文の加筆・修正，論文の提出（目標3） 第６０回　修了研究発表会（目標3）	

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　保育における各自の問題意識を整理して授業に臨む 第2回～第33回　研究課題に沿って，先行研究や参観などをもとに資料を集め，競技の準備をする 第34回　研究課題の発表の準備をする 第35回～49回　集めた資料と文献をまとめ，経過指導が受けられるようにする 第50回　中間発表の準備をする 第51回～60回　修了研究の発表に向けて準備をする
	復習	第1回　自己の課題を明確にする 第2回～第34回　研究の進め方について整理する 第35回～59回　研究のまとめに向けて資料を元に考察し，執筆を進める 第60回　発表を振り返り学びを深める
	展開	中間発表で，研究の経過や明らかにしたい研究目的について明確にしておく
成績評価	評価の基準	1.自己の問題意識を研究テーマに設定できる 2.研究テーマについて資料を集め，先行研究を整理することができる 3.研究テーマについて分かりやすくまとめ，発表することができる
	評価の方法	修了研究の過程における評価（３０%） 修了論文の内容における評価（６０%） 授業への参加意欲・態度（１０%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	松原　敬子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009107
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻：　　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	特別支援・保育・教育	
学生の到達目標	１．自らの興味関心に基づいて具体的なテーマを設定していく。 ２．調査・研究活動に取り組む。 ３．発表・協議を重ね、報告書にまとめていく。	
授業内容	○授業は通期で行います。 第１回　オリエンテーション（修了研究の進め方）（目標１） 第２回～第３回　一人ひとりの関心等について意見交換し、課題設定について検討する。（目標１） 第４回～第 33回　テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。（目標２） 第 34回　各自の研究課題の発表・協議（目標２・３） 第 35回～第 49回　関係資料の収集・文献研究（目標２・３） 第 50回　中間発表（目標２・３） 第 51回～第 52回　論文の構成・体裁、執筆方法等について（目標３） 第 53回～第 57回　論文の加筆過程での相談支援（目標３） 第 58回～第 59回　論文の加筆・修正　論文の提出（目標３） 第 60回　修了研究発表会（目標３）	

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	関連する図書を読んだり、報道について理解しておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	取り組みへの姿勢を考慮し、研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	修了研究（60%）・研究過程（20%）・授業への参加態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	田村　光子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009109
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻：　　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	子ども主体の保育，地域子育て支援，現場演習，レポート作成	
学生の到達目標	1.実際の生活の場にかかわりをもって，自ら問題意識を深める 2.個別の支援・指導を基本に，中間発表会等全体で集まる機会を適宜設ける	
授業内容	授業は通期で行います。 第１回　オリエンテーション（修了研究の進め方）（目 標１,２） 第２回～第３回　一人ひとりの関心等について，意見交換し，課題設定について検討（目標１,２） 第４回～第３３回　テーマに基づき，参観や資料収集に取り組む（目標１,２） 第３４回　各自の研究課題の発表・協議（目標１,２） 第３５回～第４９回　関係資料の収集・文献研究（目標１,２） 第５０回　中間発表（目標２） 第５１回～第５２回　論文の構成・体裁，執筆方法等について（目標１,２） 第５３回～第５７回　論文の加筆過程での相談支援（目標１,２） 第５８回～第５９回　論文の加筆・修正，論文の提出（目標１,２） 第６０回　修了研究発表会（目標２）	

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	テーマに基づき，参観や資料収集に取り組み，わかったことについてまとめておくこと。
	復習	経過的指導を受けられるようにまとめておく。 また，指導を受けた内容についても，ポイントを整理し，論文に加筆・修正できるようにしておく。
	展開	中間発表では，これまで研究の経過や明らかにしたい研究目的について明確にしておくこと。
成績評価	評価の基準	到達目標1，2について，レポートの作成過程とその内容で評価する
	評価の方法	修了研究の過程における評価（３０％）修了論文の内容における評価（６０％）授業への参加意欲・態度（１０％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	随時参考文献など紹介する	

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	相磯　友子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009110
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	先行研究，調査・実践，考察	
学生の到達目標	1.興味関心に添って自ら研究テーマを設定し，先行研究を整理し文章化することができる。 2.研究テーマに即して，適切な調査等を実施することができる。 3.研究テーマの位置づけ・調査等の結果・考察をわかりやすくまとめ修了研究を作成することができる。	
授業内容	○授業は通期で行います。 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）（目標1） 第2～3回 興味関心に基づいて研究課題を探す（目標1） 第3～5回 研究課題に関する文献を収集する（目標1） 第6～7回 研究課題に関する文献を読み込む（目標1） 第8～9回 研究課題の明確化（目標1） 第10～12回 研究課題に即した研究方法を検討する（目標2） 第13～32回 研究課題に関する文献またはデータの収集（目標2） 第33～37回 文献の整理（目標1,2） 第38～42回 データの分析（目標2）	

	第43～52回 修了研究の執筆（目標3） 第53～55回 修了研究についての助言・相談支援（目標3） 第56～58回 修了研究の修正（目標3） 第59回 修了研究の提出（目標3） 第60回 修了研究発表会の実施（目標3）	
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	本学における文献収集の方法を調べる。（図書館の蔵書検索，Ciniiでの論文検索等）
	復習	自らの興味・関心に合わせて，文献を収集・整理し課題を明確にする。
	展開	研究成果をわかりやすくまとめプレゼンテーションする。
成績評価	評価の基準	1.興味関心に添って自ら研究テーマを設定し，先行研究を整理し文章化することができているか。 2.研究テーマに即して，適切な調査等を実施することができているか。 3.研究テーマの位置づけ・調査等の結果・考察をわかりやすくまとめ修了研究を作成することができているか。
	評価の方法	修了研究60%,修了研究の作成過程40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	根本　曜子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009111
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻：　　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 5 「卒業研究」を必修とし,学生各自が課題設定・研究・調査を行い論文等にまとめる科目設定：2年次設定
授業のキーワード	福祉，実践，研究	
学生の到達目標	1.実習，ボランティアなど実際に関わり，自ら問題意識を深める。 2.研究テーマに基づき，資料を収集するなど研究を進める。 3.研究したテーマを論文にまとめる。	
授業内容	○授業は通期で行います。 第１回　オリエンテーション（修了研究の進め方）。（目標２） 第２回～第３回　一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。（目標１） 第４回～第 33回　テーマに基づき，参観や資料収集に取り組む。（目標２） 第 34回　各自の研究課題の発表・協議。（目標２） 第 35回～第 49回　関係資料の収集・文献研究。（目標２） 第 50回　中間発表。（目標２） 第 51回～第 52回　論文の構成・体裁，執筆方法等について。（目標３） 第 53回～第 57回　論文の加筆過程での相談支援。（目標３） 第 58回～第 59回　論文の加筆・修正。論文の提出（目標３） 第 60回　修了研究発表会（目標１,２,３）	

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	各自の研究テーマについて，日常的に関心を高め，資料収集に努める。
	復習	資料に基づき，自らの考えを深め考察をする。
	展開	中間発表などを通し，互いの研究を確認，再考する。
成績評価	評価の基準	1.2.自ら問題意識を持ち，研究テーマに沿って先行研究を整理し，資料収集できるか。 3.研究結果から考察を導き出し終了研究を作成する。
	評価の方法	研究レポート（ 50%）研究過程（ 30%）授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	修了研究
科目責任者	長嶺　章子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35009111
教室	
卒業要件	特別支援教育専攻：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 児童障害福祉（保育所・幼稚園・障害関係施設等）に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	修了研究，音楽表現，実践	
学生の到達目標	1.各自が抱いている問題意識や関心事の中から，研究テーマを設定し，様々な情報収集を行う。 2.保育・教育現場での実習やボランティアなどを経験しながら研究を深める。 3.研究結果を適切にまとめる。	
授業内容	○授業は通期で行います。 第１回　オリエンテーション（修了研究の進め方） 第２回～第３回　一人ひとりの関心等について，意見交換し，課題設定について検討（目標１） 第４回～第33回　テーマに基づき，参観や資料収集に取り組む（目標１・２） 第34回　各自の研究課題の発表・協議（目標３） 第35回～第49回　関係資料の収集・文献研究（目標１,２） 第50回　中間発表（目標３） 第51回～第52回　論文の構成・体裁，執筆方法等について（目標３） 第53回～第57回　論文の加筆過程での相談支援（目標３） 第58回～第59回　論文の加筆・修正論文の提出（目標３） 第60回　修了研究発表会　（目標３）	

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第49回　興味や関心のあることに関連した著書を読んだり，情報収集を行う。またボランティア活動などを経験し，音楽が果たしている役割について考える。 第50回　これまでの経過を報告するための資料を作成し，発表の準備をする。 第51回～第59回　執筆の過程で受けた支援や指導をもとに，加筆修正する。 第60回　完成した研究論文について報告するための資料を作成し，発表の準備をする。
	復習	第1回～第49回　毎回の討議を通して学んだことや気づいたこと等を整理して研究活動に活かし，研究を発展させる。 第50回　発表を振り返り，今後の課題を明確にする。 第51回～第59回　執筆の過程で受けた支援や指導をもとに，加筆修正する。 第60回　発表を振り返り，1年間の研究活動と論文について総括する。
	展開	研究したことを実践できる機会を設ける。
成績評価	評価の基準	1.研究テーマや方法についての意見や助言を受け止めながら，主体的に調査・研究に取り組んでいる。 2.文献調査から得た知見と，実習やボランティア活動等の実践を関連付けながら，研究をより深めることに努めている。 3.研究の成果について論理的に報告する文章力がある。
	評価の方法	研究レポート（50%），研究過程（30%），授業への意欲（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリアガイダンス

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門基礎科目
授業科目名	キャリアガイダンス
科目責任者	川村　博子
担当教員	今井　訓子 清宮　宏臣
授業形態	演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	12001105　（前期）水曜日，２限（後期）水曜日，1限
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	自己理解　職業選択　職場定着　キャリア　アサーション	
学生の到達目標	1.自らの就職観、勤労観を培うとともに自己の考え方・行動の傾向を知り、社会に適応できる方法を身につける。 2.将来の自分がイメージできるとともに就職活動に必要な心構えを身につける。	
授業内容	第1回	オリエンテーション、自己理解を深める、職業選択について (目標1) 担当教員: 川村　博子
	第2回	グループワーク (目標1) 担当教員: 今井　訓子
	第3回	情報収集 (目標1) 担当教員: 担当教員全員

	第4回	履歴書の書き方 担当教員: 清宮　宏臣
	第5回	現場の期待する社会人基礎力 担当教員: 担当教員全員
	第6回	アサーティブ講座 (目標2) 担当教員: 担当教員全員
	第7回	卒業生の話を聞く会 (目標2) 担当教員: 担当教員全員
	第8回	講演会 (目標2)
	第9回	ストレスマネージメント講座 (目標2)
	第10回	ライフプラン（保険）講座 (目標2)
	第11回	職場定着のための労働・社会保障関係法の知識 (目標2)
	第12回	ハラスメント講座 (目標2)
	第13回	グループ面談（進路希望）(目標2)
	第14回	グループ面談（進路希望）(目標2)
	第15回	現場の話しを聞く会(目標2)
予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	第１回　キャリアとは何かを事前に調べておくこと。 第２～１５回（共通）自分の進路について考える
	復習	第１回　職業選択の意味を復讐する。 第２～１５回（共通）指示されたレポート等の課題を期限までに提出のこと。 指示されたレポート課題等を期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.自らの就職観、勤労観の理解度。 2.将来の自分がイメージできたか。就職活動に必要な心構えを身につけられたかどうか。
	評価の方法	提出レポート（８０%）授業参加態度等（２０%）を総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護保険制度とその他の諸制度

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護保険制度とその他の諸制度
科目責任者	松井　奈美
担当教員	川村　博子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20000301　金曜日，4限
教室	講義室3
卒業要件	介護福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	人権，生活，介護保険法，障害者総合支援法	
学生の到達目標	1.介護保険制度の仕組みとサービス内容を理解する。 2.障害者総合支援法の仕組みとサービス内容を理解する。 3.その他関連する諸制度の目的を理解したうえで，利用者の生活や多職種連携の状況がイメージできる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション:社会保障制度の概要を確認（復習）する。（目標１） 担当教員: 松井　奈美
	第2回	我が国の介護保険制度創設の背景と目的，変遷について理解する。（目標１） 担当教員: 松井　奈美
	第3回	介護保険制度の仕組みを理解する。（目標１） 担当教員: 松井　奈美

	第4回	介護保険サービス利用の流れと介護サービスの種類を把握する。（目標１） 担当教員: 松井　奈美
	第5回	日本の介護保険制度の課題と展望について考察する。（目標１） 担当教員: 松井　奈美
	第6回	介護保険制度と関連諸制度との関係及び各専門職の役割を理解する。（目標１,３） 担当教員: 松井　奈美
	第7回	障害者総合支援法創設の背景と目的，動向を理解する。（目標２） 担当教員: 川村　博子
	第8回	障害者総合支援法の仕組み①（自立支援給付・利用者負担・障害福祉事業者・施設・専門職と役割について学ぶ）（目標２） 担当教員: 川村　博子
	第9回	障害者総合支援法の仕組み②（障害者福祉サービス利用の流れ・種類と内容，組織・団体の役割について学ぶ）（目標２） 担当教員: 川村　博子
	第10回	介護福祉実践に関連する諸制度①（日常生活自立支援事業・成年後見制度等を理解する）（目標１,３） 担当教員: 松井　奈美
	第11回	介護福祉実践に関連する諸制度②（高齢者虐待防止法・高齢者保健医療制度を理解する）（目標１,３） 担当教員: 松井　奈美
	第12回	介護福祉実践に関連する諸制度③（介護予防施策・難病対策・感染症予防などの制度を理解する）（目標１,３） 担当教員: 松井　奈美
	第13回	介護福祉実践に関連する諸制度④（生活保護法等、生活を支える諸制度の概要を理解する）（目標３） 担当教員: 松井　奈美
	第14回	介護福祉実践に関連する諸制度⑤（高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度の概要の理解及び諸外国の社会保障制度を確認する）（目標３） 担当教員: 松井　奈美
	第15回	介護福祉専門職が諸制度を理解することの必要性を確認する（目標１,２,３） 担当教員: 松井　奈美
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回(共通)テキストの該当ページに目を通し，学習概要を把握しておくこと
	復習	第1回～第15回(共通)レジュメやテキストを用いて重要であると説明された内容や用語をノートに整理すること
	展開	各制度の仕組みやサービスが，介護を必要とする人々の生活とどのようにかかわっているか，また，日本における各制度の課題等を理解することができる
成績評価	評価の基準	1.介護保険制度の仕組みとサービス内容が理解できている。 2.障害者総合支援法の仕組みとサービス内容が理解できている。 3.その他関連する諸制度の目的を理解したうえで，利用者の生活や多職種連携の状況がイメージできている。
	評価の方法	松井：定期テスト（60%）　ミニテスト（20%） 川村：定期テスト（20%） 【評価持ち点】松井：80点、川村：20点

教科書	書籍名	最新介護福祉全書2『人間と社会－社会の理解』
	著者名	小澤温・秋元美世（編）
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3100円（税別）
	ISBN・ISSN	978－4－8392－3163－7
推薦図書等	書籍名	新・介護福祉士養成講座２『社会と制度の理解』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規出版
	価格	2200円（税別）
	ISBN・ISSN	978－4－8058－5110－4

参考URL

備考

・第1～第6回/第10～第15回：松井担当
・第7回～第9回：川村担当

〈松井〉
・復習として前回授業のミニテストを毎回実施する

介護福祉特論Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護福祉特論Ⅰ
科目責任者	清宮　宏臣
担当教員	井口　ひとみ 布施　千草 今井　訓子 川村　博子 中西　正人 松井　奈美 山田　美知代
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	31002701　水曜日，2限・3限
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護福祉士，国家試験，専門的知識	
学生の到達目標	１．介護福祉士として活動するために必要となる基礎的な知識について理解を深めることができる。 ２．国家試験に合格できる力を身につけることができる。 ３．国家試験対策としての勉強法を確立することができる。	
授業内容	第1回	模擬試験①（目標１） 担当教員: 清宮　宏臣
	第2回	模擬試験②（目標１） 担当教員: 清宮　宏臣
	第3回	生活支援技術①（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）（目標２） 担当教員: 山田　美知代

第4回	生活支援技術②（生活支援技術Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ）（目標２） 担当教員: 山田　美知代
第5回	人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション（目標２） 担当教員: 川村　博子
第6回	発達と老化の理解（目標２） 担当教員: 井口　ひとみ
第7回	こころとからだのしくみ（目標２） 担当教員: 今井　訓子
第8回	コミュニケーション技術（目標２） 担当教員: 松井　奈美
第9回	介護過程（目標２） 担当教員: 清宮　宏臣
第10回	認知症の理解（目標２） 担当教員: 布施　千草
第11回	障害の理解（目標２） 担当教員: 川村　博子
第12回	介護の基本①（介護の基本Ⅰ・Ⅱ）（目標２） 担当教員: 布施　千草
第13回	介護の基本②（介護の基本Ⅲ）（目標２） 担当教員: 今井　訓子
第14回	社会の理解（目標２） 担当教員: 松井　奈美
第15回	総合問題（目標２） 担当教員: 清宮　宏臣

予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第１回～第２回 ・各科目のキーワードについて確認しておくこと。 第３回～第１５回 ・初回実施の模擬試験について，正答及びその根拠について調べておくこと。
	復習	第１回～第１５回 ・授業で示されたポイントに加え，関連する内容について確認し整理すること。 ・指示されたレポート課題等を期限までに提出すること。
	展開	・模擬試験を通じて国家試験について理解を深める。 ・最新の図書等で知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	１．各科目における理解度について自己分析ができている。 ２．国家試験に向けた効果的な自己学習の方法について検討することができている。
	評価の方法	授業への取り組み20%，レポート80%の成績を総合する。ただし，この比率は，最終的に若干変更する可能性がある。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等	書籍名	介護福祉士　受験ワークブック
	著者名	介護福祉士受験ワークブック編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	3,024円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-5003-9

参考URL	
備考	・各回の授業では，当該科目開講時に使用するテキスト及び初回実施の模擬試験の問題を持参すること。

介護福祉特論Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護福祉特論Ⅱ
科目責任者	清宮　宏臣
担当教員	井口　ひとみ 布施　千草 今井　訓子 川村　博子 中西　正人 松井　奈美 山田　美知代
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	31002801　金曜日，2・3限
教室	講義室14
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護福祉士　国家試験　専門的知識	
学生の到達目標	1．介護福祉士として活動するために必要となる専門的知識について理解を深めることができる。 2．国家試験に合格できる力を身につけることができる。	
授業内容	第1回	模擬試験① 担当教員: 清宮　宏臣
	第2回	人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション 担当教員: 川村　博子

第3回	介護の基本①（介護の基本Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ） 担当教員: 布施　千草
第4回	介護の基本②（介護の基本Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ） 担当教員: 今井　訓子
第5回	発達と老化の理解 担当教員: 井口　ひとみ
第6回	認知症の理解 担当教員: 布施　千草
第7回	障害の理解 担当教員: 川村　博子
第8回	こころとからだのしくみ 担当教員: 今井　訓子
第9回	社会の理解 担当教員: 松井　奈美
第10回	コミュニケーション技術 担当教員: 松井　奈美
第11回	生活支援技術①（環境、移動、食事、入浴） 担当教員: 山田　美知代
第12回	生活支援技術②（身じたく、排泄、睡眠・終末期） 担当教員: 山田　美知代
第13回	介護過程 担当教員: 清宮　宏臣
第14回	医療的ケア 担当教員: 井口　ひとみ
第15回	総合問題 担当教員: 清宮　宏臣

予習・復習の内容 （毎回90分程度）	予習	第１回 ・各科目の振り返りを行っておくこと。 第２回～第１５回（共通） ・初回実施の模擬試験について、正答及びその根拠について調べておくこと。
	復習	第１回～第１５回（共通） ・授業で示されたポイントに加え、関連する内容について確認し整理すること。 ・指示されたレポート課題等を期限までに提出すること。
	展開	・介護福祉士国家試験に関する資料などを参考に各科目毎の理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.介護福祉士国家試験の出題科目それぞれが理解できている。 2.学力評価試験において，介護福祉士国家試験に合格できる点数を取ることができる。
	評価の方法	授業への取り組み20%、試験での得点80%の成績を総合する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	見て覚える！　介護福祉士国士ナビ
著者名	いとう総研資格取得支援センター
出版社	中央法規
価格	2,592円（税込）

ISBN・ISSN　978-4-8058-5014-5

推薦図書等	
参考URL	
備考	・各回の授業では、当該科目開講時に使用したテキスト及び初回模擬試験で使用した問題を持参すること。

音楽療法

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	音楽療法
科目責任者	池田　仁美
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	11003001　月曜日・3限（6/19，7/17），3･4限（6/26，7/3，7/10）
教室	講義室5
卒業要件	介護福祉専攻：　　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	ＱＯＬの維持向上　楽しく歌う　身体表現	
学生の到達目標	1.音楽療法について理解を深め音楽活動ができるようになる 2.音楽活動について考え高齢者のＱＯＬの維持向上に役立つ力をつける 3.高齢者が楽しめる音楽活動を身につける	
授業内容	第1回	音楽療法の意義,授業の進め方等のガイダンス（目標1）
	第2回	精神科病院・高齢者施設・通所施設での音楽療法（目標1）
	第3回	季節の歌を使った音楽療法（目標2,3）
	第4回	童謡・唱歌を使った音楽療法（目標2,3）
	第5回	ナツメロを使った音楽療法①（目標2,3）レポート提出
	第6回	ナツメロを使った音楽療法②（目標2,3）

	第7回	楽器を使った音楽療法（目標2,3）
	第8回	まとめ－高齢者が楽しめる音楽活動を想定し発表する。（目標1,2,3）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第2回　高齢者施設等の音楽活動を調べ発表できるように準備する。 第3回　高齢者の好む季節の歌を想定し，授業内で発表できるように準備する。 第4回　高齢者の好む童謡唱歌を調べ授業内で発表できるように準備する。 第5回　高齢者の好むナツメロを想定し授業内で発表できるように準備する。 第6回　高齢者の好むナツメロに振り付けし授業内で発表できるように準備する。 第7回　高齢者の曲に楽器のリズムを付け授業内で発表できるように準備する。 第8回　レポートを基にした音楽活動を想定し発表できるように準備する。
	復習	第3回～第7回 前回の授業内で使用した曲を暗譜で歌えるようにする。
	展開	高齢者が楽しめる音楽活動を提供できるように，より多くの曲を覚え，利用者の様子を観察しサポートできるようになる。
成績評価	評価の基準	1．音楽療法についての理解度，定着度。 2．QOLの維持向上に役立つ音楽活動能力が養われていること。 3．楽しめる音楽活動能力が養われていること。
	評価の方法	試験（25%），レポート（10%），授業内での発表等（20%），予習・復習への取り組み状況（20%）、目標への到達度（25%）
教科書	書籍名	歌の宝石箱
	著者名	呉竹英一 編
	出版社	ドレミ音楽出版社
	価格	2,000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-285-14276-1
推薦図書等		
参考URL		
備考	推薦図書については，必要に応じて紹介する。	

介護の基本Ⅰ（介護福祉論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅰ（介護福祉論）
科目責任者	布施　千草
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010505　水曜日，5限
教室	講義室1
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護の歴史　現代社会の課題　介護福祉士　介護福祉の課題	
学生の到達目標	1. 超高齢社会を担う介護福祉士としての社会的役割を理解できる。 2.「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える。 3.介護におけるチームケア等について、理解する。	

授業内容

第1回	ガイダンス　介護福祉士を取り巻く状況、介護の歴史：小説、体験記から学ぶ家族介護の変化{目標１}
第2回	現代社会と介護―介護問題の背景① ―日本の高齢化の特徴、家族形態、家族機能　{目標１、２}
第3回	現代社会と介護―介護問題の背景② ―老老介護、孤独死、高齢者虐待、認認介護　{目標１、２}
第4回	尊厳を支える介護　福祉の主要理念（ノーマライゼーション、QOL利用者主体、自立支援個別ケア、 ICF）{目標2}

	第5回	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護福祉士法 ①定義、倫理、養成制度、プライバシーの保護{目標1}
	第6回	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護福祉士法 ②専門職能団体の活動、職業倫理{目標1}
	第7回	介護実践における連携①多職種連携 ―チームの種類と機能、連携の意義と目的　{目標3}
	第8回	介護実践における連携② ―他の福祉職の機能と連携　{目標３}
	第9回	介護実践における連携③ ―保健医療職との連携、医療行為　{目標3}
	第10回	介護実践における連携④地域連携 ―地域連携の意義と目的　{目標３}
	第11回	介護実践における連携⑤ ―インフォーマルな社会資源の重要さ　{目標3}
	第12回	介護実践における連携⑥ ―地域包括支援センターの機能と役割、行政　{目標3}
	第13回	海外における介護福祉の動向{目標1}
	第14回	今後の介護福祉の課題｛目標１，２｝
	第15回	今後の介護福祉の課題と学生の発表｛目標1，2}
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第１回 家族介護について書かれている本を読み，「介護]についての考えを持ち授業に臨むこと。 第２回～15回教科書を読み、主な内容を準備した上で授業に臨むこと。
	復習	第1回～15回｛共通｝教科書の練習問題を解き、知識の確認をする。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	介護の専門性について最新の図書を調べ，知識理解を深めること。
成績評価	評価の基準	1. 超高齢社会を担う介護福祉士としての社会的役割を説明できる。 2.「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を説明でき、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えることができる 3.介護におけるチームケア等について、説明できる。
	評価の方法	試験70%、レポート30%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書　第３巻
	著者名	西村洋子編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3190-3Ｃ3336
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅱ（介護対象論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅱ（介護対象論）
科目責任者	布施　千草
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010601　火曜日，2限
教室	講義室4
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	対象理解，人間関係，介護福祉の実際，終末期	
学生の到達目標	1.介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面の特徴を知る。 2.その人への介護（特に尊厳を支える介護・自立への介護）について考える。 3.介護者の在り方について学びを深める。	
授業内容	第1回	ガイダンス　VTR｛目標3｝
	第2回	介護を必要とする人の理解Ⅰ－①人間の多様性・複雑性の理解（生活史）｛目標１｝
	第3回	介護を必要とする人の理解Ⅰ－②人間の多様性・複雑性の理解（生活習慣・生活様式）｛目標1｝
	第4回	介護を必要とする人の理解Ⅰ－③高齢者の暮らしの理解（世帯構成、役割、社会活動）｛目標1,2｝
	第5回	介護を必要とする人の理解Ⅰ－④高齢者の暮らしの理解（住まいと環境、収入、雇用）｛目標１｝

	第6回	介護を必要とする人の理解 Ⅰ－⑤障害のある人の暮らしの理解（生活ニーズ）｛目標１,２｝
	第7回	介護を必要とする人の理解 Ⅰ－⑥障害のある人の暮らし（生活を支える基盤）｛目標１,２｝
	第8回	介護を必要とする人の理解 Ⅰ－⑦生活環境としての地域の存在そのⅠ｛目標３｝
	第9回	介護を必要とする人の理解 Ⅰ－⑦生活環境としての地域の存在その２｛目標３｝
	第10回	介護を必要とする人の理解 Ⅱ－①高齢者の身体的・心理的特徴｛目標１｝
	第11回	介護を必要とする人の理解 Ⅱ－②障害者の身体的・心理的特徴｛目標１｝
	第12回	介護を必要とする人の理解 Ⅱ－③終末期にある人の理解 Ⅰ｛目標１｝
	第13回	介護を必要とする人の理解 Ⅱ－④終末期にある人の理解 Ⅱ｛目標１,２｝
	第14回	介護を必要とする人の理解 Ⅱ－⑤終末期にある人の理解 Ⅲ｛目標１,２,３｝
	第15回	学生による発表と討議｛目標1,2,3｝
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回　自らの暮らし，高齢者の暮らし，関心を持ち，授業に臨むこと。 第2回～15回　教科書等を読み，「介護を必要とする人」について基礎知識を持ち授業に臨むこと。
	復習	第1回～15回｛共通｝教科書の練習問題を解き、知識を確認する。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。配布された資料を確認し、保管すること。
	展開	高齢者，障害者，そして終末期にある人の心理について関連図書を読み，知識・理解を深めること。
成績評価	評価の基準	1.介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面の特徴を述べることができる。 2.その人への介護（特に尊厳を支える介護・自立への介護）について説明できる。 3.介護者の在り方について説明できる。
	評価の方法	試験70%、レポート30%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書　第３巻
	著者名	西村洋子編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3190-3 C3336
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅲ（リスクマネジメント）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅲ（リスクマネジメント）
科目責任者	今井　訓子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20010705　火曜日，3限
教室	講義室5
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	危機管理　感染対策　安全対策　ストレスマネージメント　労働安全	
学生の到達目標	1.リスクマネジメントの目的を理解する。 2.介護者と利用者の安全を確保するための留意点を理解する。 3.施設介護、在宅介護の場における事故についての知識を深め、その予防法について学ぶ。	
授業内容	第1回	ガイダンス、リスクマネジメントの考え方（目標１）
	第2回	セーフティマネジメント（介護の質の向上と安全確保）（目標１）
	第3回	リスクコントロール・リスクファイナンシング（目標１,２）
	第4回	介護における安全確保とリスクマネジメント ①ケアマネジメントとリスクマネジメント（目標２）
	第5回	介護における安全確保とリスクマネジメント ②ヒヤリハット事例の分析（目標２,３）
	第6回	介護における安全確保とリスクマネジメント ③在宅での事故の特徴と対策（目標２,３）

	第7回	介護における安全確保とリスクマネジメント ④施設内の事故の特徴と対策（目標２,３）
	第8回	介護における安全確保とリスクマネジメント ⑤感染予防（目標２,３）
	第9回	介護における安全確保とリスクマネジメント ⑥緊急時・医療対応時の対応（目標２,３）
	第10回	介護における安全確保とリスクマネジメント ⑦防災時のネットワーク（目標２,３）
	第11回	認知症高齢者の事故対策（目標２,３）
	第12回	介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ①心の健康管理（スーパービジョンの存在）（目標２）
	第13回	介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ②腰痛等身体の健康管理（福祉用具の活用）（目標２）
	第14回	介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ③感染予防の対策と労働安全（関係法規）（目標２）
	第15回	マニュアル作成（目標１,２,３）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回　過去に起こった介護事故についてその経緯を調べ、対策を考えておくこと。 第2回～15回 次回のテーマと主な内容について参考図書等を調べておくこと
	復習	第1回～第15回　毎回の授業の要旨および配布資料の内容をまとめておくこと。
	展開	利用者、介護者それぞれの視点でのリスクマネジメントを理解する。セーフティマネージメントとして考えられるように配慮する。
成績評価	評価の基準	テスト、課題レポート・作成マニュアル　授業態度により評価する。
	評価の方法	試験70%、レポート20%、授業態度10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書３　介護の基本
	著者名	西村洋子編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3192-7
推薦図書等	書籍名	介護分野におけるリスクマネジメント
	著者名	金子努
	出版社	中央法規出版株式会社
	価格	2000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-2614-0
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）
科目責任者	宮﨑　陽夫
担当教員	山﨑　敦
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010801　木曜日，4限
教室	講義室2
卒業要件	介護福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	高齢者　障害　リハビリテーション	
学生の到達目標	1.高齢者の肢体不自由をきたす疾患・障害についての知識を身につける。 2.リハビリテーションの考え方とそれに基づく介護論を客観的,科学的な思考ができるようにする。	
授業内容	第1回	リハビリテーション概論(目標1.2) 担当教員: 宮﨑　陽夫
	第2回	障害の医学的基礎知識（骨・筋肉解剖）(目標1.2) 担当教員: 山﨑　敦
	第3回	障害の医学的基礎知識（神経・生理学）(目標1.2) 担当教員: 宮﨑　陽夫
	第4回	脳血管疾患に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 山﨑　敦

	第5回	進行性疾患に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 宮﨑　陽夫
	第6回	骨折に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 宮﨑　陽夫
	第7回	運動麻痺に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 山﨑　敦
	第8回	言語・排尿・嚥下障害に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 宮﨑　陽夫
	第9回	脊髄損傷・切断に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 山﨑　敦
	第10回	廃用症候群に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 宮﨑　陽夫
	第11回	認知症に対するリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 山﨑　敦
	第12回	終末期に対すリハビリテーション(目標1.2) 担当教員: 山﨑　敦
	第13回	地域リハビリテーション(目標2) 担当教員: 山﨑　敦
	第14回	シーティングについて(目標2) 担当教員: 宮﨑　陽夫
	第15回	リハビリテーション論のまとめ 担当教員: 山﨑　敦
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第１回～１５回（共通）授業内容に関するテーマを事前に調べておくこと
	復習	第１回～１５回（共通）授業に配布する関係資料の理解を深めること
	展開	臨床実習においてリハビリテーション知識を応用できること
成績評価	評価の基準	1.高齢者の肢体不自由をきたす疾患、障害についての理解度。 2.リハビリテーションの考え方とそれに基づく介護論の客観的、科学的な思考をもって説明できる。
	評価の方法	期末筆記試験（90%） 小レポート（10%）
教科書	書籍名	最新介護福祉全書別巻２　リハビリテーション論
	著者名	編集　澤村誠志
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	￥2730
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3157-6
推薦図書等		
参考URL		
備考	毎授業ごとに必要な資料は配布する。	

介護の基本Ⅴ（レクリエーション）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅴ（レクリエーション）
科目責任者	八鍬　拓
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20010901　月曜日，5限
教室	講義室4
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	レクリエーション　余暇活動　福祉レク　レクリエーション・インストラクター	
学生の到達目標	1.「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解する。 2.「介護を必要とする人」を,生活の観点から捉えるために,生活の一部であるレクリエーション援助の実践のための知識を習得する。	
授業内容	第1回	ガイダンス（「尊厳の保持」「自立支援」のためのレクリエーション）（目標1・2）
	第2回	講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解①（目標1・2）
	第3回	講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解②（目標1・2）
	第4回	講義：レクリエーションの活動領域と意義①（目標1・2）
	第5回	講義：レクリエーションの活動領域と意義②（目標1・2）
	第6回	講義：レクリエーション活動の主体（目標1・2）
	第7回	講義：レクリエーション計画作成及び実施（目標1・2）

	第8回	講義：レクリエーション指導者の配慮（目標1・2）
	第9回	講義：レクリエーション活動の実践（目標1・2）
	第10回	講義：高齢者・障害者レクリエーションの実際（目標1・2）
	第11回	講義：レクリエーションワークの指導法（目標1・2）
	第12回	集団レク援助実習１レク計画作成（目標1・2）
	第13回	集団レク援助実習２レク計画作成（目標1・2）
	第14回	集団レク援助実習３レク計画作成（目標1・2）
	第15回	福祉レクリエーション援助のまとめ（目標1・2）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1～11回　次回テーマの主な内容についてテキストを確認しておく。 第12～14回　集団レク支援実習計画の展開について準備しておく。 第15回　前回までの授業資料及びテキストを読み返しておく。
	復習	第1～14回　授業において配布した資料とテキストの内容を確認し、保管すること。 第15回　全授業で配布された資料の確認と福祉におけるレクリエーションの展開を考察すること。
	展開	高齢者・障害者に対するレクリエーションの必要性を考察し、理解・知識を深める。
成績評価	評価の基準	1.高齢者・障害者のレクリエーション（余暇活動）について、基礎的な内容が理解できていること。 2.レクリエーション計画作成及び実施の方法を理解していること。
	評価の方法	レポート課題（20%）、期末筆記試験（70%）、授業への取り組む態度（10%）
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅵ（介護サービス事務）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本Ⅵ（介護サービス事務）
科目責任者	大塚　克巳
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011001　月曜日，3・4限
教室	講義室4
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護保険，単位数，地域単価，補足給付	
学生の到達目標	1.介護保険制度の仕組みやサービス種別の内容を学ぶとともに、介護給付費に関わる請求事務に精通する。 2.介護保険事務に関わる実務全般を習熟し、即戦力として請求事務に従事できるスキルを養う。	
授業内容	第1回	テキスト第１章　共通事項　サービス全般にわたる共通事項 (目標1)
	第2回	テキスト第１章　共通事項　サービス全般にわたる共通事項 (目標1,2)
	第3回	テキスト第２章　居宅サービス　１.訪問介護・介護予防訪問介護 ２.訪問入浴介護・介護予防訪問入浴介護 (目標1,2)
	第4回	テキスト第２章　居宅サービス　３.訪問看護・介護予防訪問看護 ４.訪問リハビリテーション・介護予防訪問リハビリテーション (目標1,2)

	第5回	テキスト第２章　居宅サービス　５.居宅療養管理指導・介護予防居宅療養管理指導　６.通所介護・介護予 防通所介護 (目標1,2)
	第6回	テキスト第２章　居宅サービス　７.通所リハビリテーション・介護予防通所リハビリテーション　８.福祉用具貸与・介護予防福祉用具貸与 (目標1,2)
	第7回	テキスト第２章　居宅サービス　９.短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護　10.短期入所療養介護・介護予防短期入所療養介護 (目標1,2)
	第8回	テキスト第２章　居宅サービス　11.特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護　12.居宅介護支援・介護予防居宅介護支援 (目標1,2)
	第9回	テキスト第３章　地域密着型サービス (目標1,2)
	第10回	テキスト第３章　地域密着型サービス テキスト第４章　施設サービス (目標1,2)
	第11回	テキスト第４章　施設サービス (目標1,2)
	第12回	テキスト第５章　介護給付費の請求方法 (目標2)
	第13回	練習問題　様式第二、様式第八の事例問題 解答・解説 (目標2)
	第14回	練習問題　様式第二、様式第八の事例問題 解答・解説 (目標2)
	第15回	練習問題　様式第二、様式第八の事例問題の解答・解説及び振り返り (目標2)
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	事前準備として介護給付費単位数等サービスコード表の活用に当たり、インデックス等を活用し各サービス種類を検索しやすいようにしておくこと。（共通） 第１回～第１２回 各回の項目に沿ってテキストの事前の読み込みを行っておくこと。 第１３回～第１５回 練習問題の事前学習、また定められた時間内に様式第二および様式第八を作成できるようサービスコード表の検索時間を短くできるようにする。
	復習	第１回～第１２回 毎回の講義において、介護保険の仕組みおよびサービス種別について確認し、講義中の事例問題を確実に解答できるよう今一度の振り返りを行うこと。 第１３回～第１５回 練習問題や事例問題で間違えた箇所があれば、今一度、同じ問題を解いて間違えた理由を認識し同じ過ちをしないように理解すること。
	展開	・事前のテキストの読み込みで介護保険制度の大枠とサービス種別の内容を理解できるようにする。 ・介護請求事務の実践に欠かすことができない、介護給付費単位数等サービスコード表の活用を迅速かつ適切に行うことができるようにする。 ・講義中において、適宜、各サービス種別における介護報酬の算定方法についてサービスコード表から読み取ることができるようにする。
成績評価	評価の基準	1.介護保険制度の仕組みやサービス種別を把握することに加えて、介護給付費に関わる請求事務の仕組みの理解度。 2.介護保険事務士として、請求事務に従事できるよスキルを養うこと。

評価の方法	介護保険事務士認定試験において、１００点満点中６０点以上を要する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	推薦図書は必要に応じて随時資料配布

コミュニケーション技術Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	コミュニケーション技術Ⅰ
科目責任者	古川　繁子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20001105　金曜日，1限
教室	講義室14
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	意思疎通、共感的理解、介護家族心理、心身状況に応じたコミュニケーション、コミュニケーション機器	
学生の到達目標	1.介護と必要とする者の理解や援助的関係・援助的コミュニケーションについて理解する。 2.利用者や利用者家族，あるいは多職種協働する際のコミュニケーション能力を身につける。	
授業内容	第1回	介護コミュニケーションの基本：介護におけるコミュニケーションの意義，目的，役割を知る。(目標1)
	第2回	利用者・家族との関係つくり（波長合わせ・ラポールの取り方）(目標2)
	第3回	介護の場面における利用者・家族とのコミュニケーションの実際（話を聞く技法，利用者の感情表現を察する技法－気づき，洞察力，その他）(目標1,2)
	第4回	利用者・家族とのコミュニケーションの実際（非言語的コミュニケーション）(目標1,2)

第5回	利用者・家族とのコミュニケーションの実際（納得と同意を得る方法。相談・助言・指導。意欲を引き出す技法。利用者本人と家族の意向の調整。その他）(目標1,2)
第6回	利用者の状況に応じたコミュニケーションの実際（感覚機能が低下している人とのコミュニケーション。運動機能の低下している人とのコミュニケーション。認知・知覚機能の低下している人とのコミュニケーション。その他）(目標1)
第7回	記録による情報の共有化（介護における記録の意義・目的・介護に関する記録の種類記録の技法－方法，留意点）(目標1,2)
第8回	記録による情報の共有化（記録の方法・留意点。記録の管理。介護記録の共有化）(目標1)
第9回	情報通信機器を活用した記録の意義と実際。活用の留意点。個人情報の保護、活用。(目標1)
第10回	介護におけるチームコミュニケーション報告の意義・目的（報告・通知・相談の方法・留意点）(目標1,2)
第11回	会議の意義と目的（会議の種類・方法・留意点。その他）(目標1,2)
第12回	話を聞く技法②（傾聴とカウンセリングマインド・個別的な価値に気付く）(目標1)
第13回	話を聞く技法③（家族とのコミュニケーションの実際）(目標1)
第14回	記録の技法②（マッピング：ジェノグラム・ソシオグラム）(目標1,2)
第15回	記録の技法③（評価：アセスメント・エバリューション・モニタリング）(目標1,2)

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～１５回（共通） ・授業で指示された語句や事柄を調べる。 ・毎回渡される、次回の授業のためのワークを下調べしながら完成させる。
	復習	第１回～１５回（共通） ・予習内容を含め，自分のノートを作成し，授業内容を整理する。整理しながら，関連する項目を独自に調べ，「コミュニケーションノート」を作る。 ・宿題のワークや授業中のワークを理解し整理しながらノートを作成する。
	展開	・対人援助職として，介護場面に限らず，その他の援助場面で必要なコミュニケーションを図ることができる。 ・必要な事柄を自分で調べ，まとめ，プレゼンテーションすることができる。 ・傾聴や記録・プレゼンテーションのスキルなどを他に教えることができる。

成績評価	評価の基準	１．対象者の利用者や家族の心理を具体的に理解していることを、授業中のロールプレイへの参加態度や演習レポート、リアクションペーパーなどの提出物のより評価。 ２．上記に加え、定期試験により評価
	評価の方法	提出物・演習レポート(30%)定期試験(70%)により評価

教科書

書籍名	新介護福祉士養成講座５「コミュニケーション技術」
著者名	介護福祉士養成講座編集委員会＝編集
出版社	中央法規出版

	価格	2,200円(税別)
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3769-6
推薦図書等	書籍名	コミュニケーション技術－人間関係の形成と実践技術
	著者名	黒澤他編著
	出版社	建帛社
	価格	2,200円(税別)
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3353-5
参考URL		
備考	授業の進め方は、講義形式とDVD等視聴覚教材を使ったもの、そしてロールプレイやプレゼンテーションなどの参加型授業があるので、それらには積極的に参加して下さい。 その際、守秘義務遵守などの約束を課します。	

コミュニケーション技術Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	CSC301
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	コミュニケーション技術Ⅱ
科目責任者	髙橋　恵子 唯野　玲子
授業形態	演習
開講時期	前期・後期
登録コード・曜日・時限	20001205　（前期）水曜日，1限（後期）土曜日，2限
教室	（前期）講義室1（後期）講義室4
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	手話　点字を通したコミュニケーション	
学生の到達目標	（唯野玲子） 1．聴覚障害者とのコミュニケーションに必要な手話技術の基礎を身につける。 2．聴覚補償や様々な視覚情報を活用することによってコミュニケーションを充実させる方法を習得する。 3．聴覚障害全般についての理解を深める。 （髙橋恵子） 点字の基本的な学習を行い，視覚障害を持つがゆえの特性を考慮した介護技術，視覚障害者に関する諸問題，視覚障害リハビリテーションなど，視覚障害全般について学習する。理論だけでなく，実際に役立つ事項を多く学習する。	
授業内容	第1回	(唯野玲子) 手話実技：あいさつ，天気／季節の表現（目標1,2） 講義：聴覚障害の原因と二次障害，三次障害の表れ方(目標3)
	第2回	手話実技：家族，質問の表現（目標1,2） 講義：聴覚障害者のコミュニケーションの方法(目標3)
	第3回	手話実技：好き／嫌い，数／月日の表現(目標1,2) 講義：手話の種類，構造，特徴(目標3)

第4回	手話実技：時間，過去／現在／未来の表現(目標1,2) 講義：聴覚補償の実際(目標3)
第5回	手話実技：動き，食べ物／味覚の表現(目標1,2) 講義：文字や視覚情報の活用(目標3)
第6回	手話実技：形容，気持ちの表現(目標1,2) 講義：聴覚障害者の社会生活(目標3)
第7回	手話実技：思考，可能／必要の表現(目標1,2) 講義：聾重複障害者，盲聾者の支援(目標3)
第8回	手話実技：復習とまとめ(目標1,2) 講義：聴覚障害者の生活の質の向上(目標３)
第9回	(髙橋恵子) 視覚障害とは。発生原因・視覚判定の方法
第10回	視覚障害者補助器具の種類と機能
第11回	視覚障害とコミュニケーション。情報伝達方法
第12回	視覚障害の歴史と視覚障害教育の歴史・制度
第13回	視覚障害者の暮らし
第14回	点字技術演習（１）
第15回	点字技術演習（２）
第16回	総括・討論

予習・復習の内容 （毎回45分程度）	予習	（唯野玲子） 第１回～第１５回（共通）　テキストに目を通し，授業の概要を把握する。 （髙橋恵子） 第１回 駅構内や自宅の家電製品など、どのようなところに点字表示がされているかについて調べてみること。 第２回～第８回（共通） 点字の歴史や仕組み、仮名遣いについて、次回の予告に従って，準備した上で授業に臨むこと。
	復習	（唯野玲子） 第１回～第１５回（共通）　授業で学習した手話表現の練習を繰り返す。 （髙橋恵子） 第１回～第８回（共通）　毎回の授業において，テキストの内容を確認し，点字の読み書きができるようにすること。また，視覚障碍者の状況に関する講話に基づき、視覚障害による不自由さなどを考えることに努める。
	展開	（唯野玲子） 第１回～第１５回（共通）　友人との間で，学習した手話を使ったコミュニケーションを行う。可能であれば，実際に聴覚障害者と会ってコミュニケーションを行う。（髙橋恵子） 公共施設内の点字表示や食品，家電製品などに書かれている点字を読んでみる。また，視覚障碍者を見かけたら，積極的に声をかけて援助する。

成績評価	評価の基準	（唯野玲子） 基本的な手話表現の読み取りと表出ができること，聴覚障害者が用いる様々なコミュニケーション手段について理解し，それを説明できることを合格基準とする。 （髙橋恵子） 点字の歴史と，視覚障碍者にとっての点字の意義について説明できること。また，点字の仕組みと仮名遣いを理解し，簡単な読み書きができること。

	評価の方法	（唯野玲子） 小レポート20%，受講態度20%，試験60%の成績を総合する。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。 （髙橋恵子） 受講態度(40%)と試験または課題採点結果(60%)の成績を総合的に評価する。

教科書	書籍名	NHKテレビテキスト「みんなの手話」2014年10月～12月
	著者名	早瀬憲太郎/著
	出版社	NHK出版
	価格	362円+税
	ISBN・ISSN	978-4-14-910893-3
推薦図書等	書籍名	初めての点訳 第２版
	著者名	全国視覚障害者情報提供施設協会/編集
	出版社	全国視覚障害者情報提供施設協会
	価格	1,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-907272-05-0
	書籍名	新日本語－手話辞典
	著者名	全国手話研修センター日本手話研究所/編集　米川明彦/監修
	出版社	全日本聾唖連盟
	価格	22,000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3450-3

参考URL	http://www.nhk.or.jp/heart-net/syuwa/
備考	

生活支援技術Ⅰ（参加・環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅰ（参加・環境）
科目責任者	山田　美知代
担当教員	今井　訓子 中西　正人
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011105　木曜日，3限
教室	講義室5
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	生活支援　居住環境　ＩＣＦ	
学生の到達目標	1.介護を必要とする方の生活や生活しやすい環境整備のあり方について理解することができる。 2. 居住環境整備の一つとして、ベッドメイキングをすることができる。 ３．生活支援におけるICFや社会参加について理解することができる。また，生活行為場面ごとの支援のあり方について理解する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、生活形成のプロセス（ライフサイクル）や生活行動（生活経営）について（目標1） 担当教員: 中西　正人

第2回	生活支援について（支援対象者、支援対象者の住まい、居住環境について）（目標1） 担当教員: 中西　正人
第3回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習１）（目標2） 担当教員: 担当教員全員
第4回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習２）（目標2） 担当教員: 担当教員全員
第5回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習３）（目標2） 担当教員: 担当教員全員
第6回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習４）（目標2） 担当教員: 担当教員全員
第7回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習５）（目標2） 担当教員: 担当教員全員
第8回	居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習６）（目標2） 担当教員: 担当教員全員
第9回	ＩＣＦと生活支援について１（ＩＣＦの構成要素、ＩＣＦの生活支援への活用）（目標3） 担当教員: 中西　正人
第10回	ＩＣＦと生活支援について２（参加に向けて；自己実現、生きがい、地域への参加）（目標3） 担当教員: 中西　正人
第11回	居住環境の整備に向けて１（安全な住まい、快適な室内環境、課題や問題点）（目標1） 担当教員: 中西　正人
第12回	居住環境の整備に向けて２（暮らし易さへの工夫・方法、福祉用具の活用、住宅改修事例，介護保険制度）（目標1） 担当教員: 中西　正人
第13回	居住環境の整備に向けて３（施設における工夫、認知症高齢者への環境支援、ユニバーサルデザイン）（目標1） 担当教員: 中西　正人
第14回	生活行為への支援（身じたく、清潔・入浴）（目標3） 担当教員: 中西　正人
第15回	生活行為への支援（睡眠、排泄）（目標3） 担当教員: 中西　正人

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回～第2回（共通）　自分自身の生活時間の使い方や行動を振り返り、生活を支援することについて考える。 第3回～第8回（共通）　ベッドメイキングの演習にむけた身だしなみの準備や習得した技術を忘れないようにする。 第9回～第10回（共通）　ＩＣＩＤＨやＩＣＦについて調べる。 第11回～第13回（共通）　介護保険制度における福祉用具や住宅改修について調べる。 第14回～第15回（共通）　後期開講予定科目である「身じたく」「清潔・入浴」「排泄」「睡眠」の各支援の意義と目的について、教科書を読んでおく。
	復習	第1回～第15回（共通）　毎回の授業において、教科書や配布資料などを確認し、資料は保管する。個別の指摘事項については、知識や技術を身につけるよう努める。また、適宜、指示する課題（レポートほか）を期限までに提出する。
	展開	・ベッドメイキングの習得では、介護実習室が空いている時間に、各自が都合のつく時間を利用して自己練習をする。 ・福祉用具に関する最近の動向を調べ、知識、理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.環境整備としてのベッドメイキングが適切にできる技術の習得度。 2.ＩＣＦの理解度 3.住環境整備における福祉用具の活用方法や住宅改修の方法、介護保険制度における福祉用具や住宅改修についての理解度
	評価の方法	・参加状況（態度や意欲、演習時の身だしなみなど）（10%）、課題（レポートほか）（10%）、試験（80%）などを総合的に評価する。ただし、この比率は、最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	最新介護福祉全書５　生活支援技術Ｉ
	著者名	川井太加子 編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2900円+税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3153-8

推薦図書等	書籍名	新しい介護
	著者名	太田仁史・三好春樹
	出版社	講談社
	価格	3,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-06-282462-0

参考URL

備考	・技術演習時は、動きやすい服装（原則、ジャージ。ジーンズ不可。上履き｛かかとがあるもの｝）、身だしなみを整える（爪は短くする、長い髪は束ねる。髭は剃る。装飾品[ネックレス、イヤリング、ブレスレットなど]は着用しないなど）こと。

生活支援技術Ⅱ（移動）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅱ（移動）
科目責任者	山田　美知代
担当教員	今井　訓子 中西　正人
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011305　月曜日，1限
教室	講義室1
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	生活支援　尊厳の保持　自立支援　ICF　ボディメカニクス	
学生の到達目標	1．利用者の視点で移動や移乗介助の必要性を理解することができる。 2．移動や移乗介助に必要となる知識と技術を理解することができる。 3．利用者・介護者にとって安全で安心できる移動や移乗介助を実践することができる。	
授業内容	第1回	移動の意義と目的（目標1・2）
	第2回	移動の介護の基本（目標1・2）
	第3回	移動に関するアセスメントと目標設定（目標1・2）
	第4回	安全で気兼ねなく動けることを支える介護（目標1・2）

第5回	安全で的確な移動介助の方法①　基本的留意点（ボディメカニクス）（目標2）
第6回	安全で的確な移動介助の方法②　基本的留意点（環境整備）（目標2）
第7回	安全で的確な移動介助の方法③　体位変換　安楽な体位の保持（目標2） 担当教員: 中西　正人
第8回	移動介助演習①　体位変換　安楽な体位の保持（目標3） 担当教員: 担当教員全員
第9回	安全で的確な移動介助の方法④　歩行介護（目標2） 移動介助演習②　歩行介護（目標3）
第10回	安全で的確な移動介助の方法⑤　車いすの移乗（目標2）
第11回	移動介助演習③　車いすの移乗（目標3） 担当教員: 担当教員全員
第12回	安全で的確な移動介助の方法⑥　車いすの移動（目標2）
第13回	移動介護演習④　車いす移動（目標3）
第14回	移動介護演習⑤　振り返り演習（目標3）
第15回	利用者の状態・状況に応じた移動の介護の留意点、他の職種の役割と協働について（目標1・2） 担当教員: 山田　美知代

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回～第１５回（共通） ・障害を持つ人の移動について日常から関心を持ち、関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 ・授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。 ・事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。 第８・１１・１３・１４回（共通） ・授業時に確認した移動に関する技術について再度確認しておくこと。
	復習	第１回～第１５回（共通） ・毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	・移動や移乗介助に関する図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.利用者の視点で移動や移乗介助の必要性を理解するこ　とができている。 2.移乗介助に必要となる知識について理解できている。 3.基礎的な移動に関する技術について理解することがで　きている。
	評価の方法	・参加状況（授業時の態度、授業への取り組み意欲、演習時の身だしなみ）10%、課題（レポート等）30%、期末試験60%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある

教科書

書籍名	最新介護福祉全書５　生活支援技術Ⅰ
著者名	編集　川井太加子
出版社	メヂカルフレンド社
価格	2,900円＋税

	ISBN・ISSN	978-4-8392-3153-8

推薦図書等	書籍名	看護・介護を助ける姿勢と動作
	著者名	小川鑛一
	出版社	東京電機大学出版局
	価格	2,300円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-501-41860-1

参考URL	
備考	・演習時は、介護実習室に集合 ・演習時は、グループに分かれて演習を行う。 ・演習時は、実習同様に身だしなみ（着衣はジャージ、上履きを使用。爪は短くする。長い髪は束ねる。アクセサリー類は身につけない）を整え参加すること。

生活支援技術Ⅲ（食事）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅲ（食事）
科目責任者	山田　美知代
担当教員	今井　訓子
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011405　火曜日，5限
教室	講義室4
卒業要件	介護福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	食事介助　ICF　安全　自立支援	
学生の到達目標	1．食べることが，人間らしく生きることといかに深い関係をもつ行為であるかについて理解する。 2．食事介護の基本的な進め方について理解する。 3．安全に，おいしく食事を摂るための介護について理解する。	
授業内容	第1回	ガイダンス，自立に向けた食事の介助：食事の意義と目的　（目標1） 担当教員: 今井　訓子
	第2回	食事に関する利用者のアセスメントⅠ（目標1・2・3） 担当教員: 今井　訓子

第3回	食事に関する利用者のアセスメントⅡ（目標1・2・3） 担当教員: 今井　訓子
第4回	「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫Ⅰ（目標1・2・3） 担当教員: 今井　訓子
第5回	「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫Ⅱ（目標1・2・3） 担当教員: 今井　訓子
第6回	安全で的確な食事介助（目標2・3） 担当教員: 今井　訓子
第7回	感覚機能が低下している人の介助（事例検討）（目標2・3） 担当教員: 山田　美知代
第8回	運動機能が低下している人の介助（事例検討）（目標2・3） 担当教員: 山田　美知代
第9回	認知・知覚機能が低下している人の介助（事例検討）（目標2・3） 担当教員: 山田　美知代
第10回	誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点（目標2・3） 担当教員: 山田　美知代
第11回	脱水予防（目標1） 担当教員: 山田　美知代・今井　訓子
第12回	食事介助(1)（演習）（目標2・3） 担当教員: 山田　美知代・今井　訓子
第13回	食事介助(2)（演習）（目標2・3） 担当教員: 山田　美知代
第14回	他職種の役割と協働（経管栄養と行っている人の介護の留意点）（目標1・2・3） 担当教員: 今井　訓子
第15回	演習後レポートからの気付き、重要項目の再確認（目標1・2・3） 担当教員: 山田　美知代・今井　訓子

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回　嚥下の仕組みについて学習しておく。 おいしい食事につながる環境についてまとめておく。 第2回～第15回　次回のテーマと主な内容について、こころとからだのしくみと合わせ調べておくこと。 第11回、第12回　演習内容について片麻痺を設定し利用者体験をしておくこと。
	復習	第1回～第14回　毎回の授業について要旨をまとめておくこと。指示されたレポートを期日までに提出すること。 第15回　事前に提出したレポートを授業後に修正、追加した内容を比較しまとめておくこと 第1回～第15回（共通）授業の要旨をまとめておく。
	展開	「こころとからだのしくみ」の授業とあわせ、理解を深める。

成績評価	評価の基準	1.講義演習を通して、食事の意義や目的、方法を述べることができる。 2.演習で学んだ技術を習得している。 テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト70%、レポート20%、授業態度 10%

教科書

書籍名	最新介護福祉全書５　生活支援技術Ⅰ
著者名	編集　川井太加子

出版社	メヂカルフレンド社
価格	2900円＋税
ISBN・ISSN	9784839231453

推薦図書等

参考URL

備考

生活支援技術Ⅳ（清潔・入浴）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅳ（清潔・入浴）
科目責任者	山田　美知代
担当教員	中西　正人
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20011505　月曜日，4限
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	入浴・清潔保持，入浴環境，自立支援	
学生の到達目標	1．清潔・入浴に関する意義や目的，介護の必要な方の支援の方法を理解できる。 2．演習を通じて，清潔保持（ベッド上での清拭や洗髪など）や入浴支援をすることができる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（科目の概要，授業の進め方など），支援を要する利用者や清潔について（意義と目的）（目標１） 担当教員: 中西　正人
	第2回	入浴、清潔にむけた利用者のアセスメントの視点、爽快感・安楽を支える介護（入浴を楽しむ環境作りや安全で安楽な入浴（目標１） 担当教員: 中西　正人

第3回	全身入浴について（演習にむけて;家庭浴槽、機械浴槽、簡易浴槽）（目標１） 担当教員: 中西　正人
第4回	全身入浴（家庭浴槽、機械浴槽、簡易浴槽）の介護（演習１）（目標２） 担当教員: 担当教員全員
第5回	全身入浴（家庭浴槽、寝台機械浴槽、簡易浴槽）の介護（演習２）（目標２） 担当教員: 担当教員全員
第6回	洗髪、足浴、全身清拭について（演習にむけて）（目標１） 担当教員: 山田　美知代
第7回	洗髪の介護（演習１）（目標２） 担当教員: 担当教員全員
第8回	洗髪の介護（演習２）（目標２） 担当教員: 担当教員全員
第9回	全身清拭の介護（演習）（目標２） 担当教員: 担当教員全員
第10回	足浴の介護（演習）（目標２） 担当教員: 担当教員全員
第11回	グループワーク（演習の振り返り）（目標１、２） 担当教員: 中西　正人
第12回	個別浴槽の種類や設置について（入浴環境整備）（目標１） 担当教員: 中西　正人
第13回	入浴における物理作用１（効果とリスク）（目標１） 担当教員: 中西　正人
第14回	入浴における物理作用２（効果とリスク）（目標１） 入浴における留意事項）（高齢者の特徴を踏まえて；水分の重要性）（目標１） 担当教員: 中西　正人
第15回	感覚機能・運動機能・認知機能・知覚機能が低下している人の介助の留意点（事例を通して）（目標１） 担当教員: 中西　正人

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回～第2回（共通）　普段当たり前のように行っている清潔保持や入浴行為について、その意義や目的、諸動作について考えてみる。 第3回～第10回（共通）次回の内容、特に技術演習について、準備した上で授業に臨む。 第11回　演習時の気づきや学びを整理する。 第12回　自分の家の浴槽や浴室の状態を調べる。 第13～15回（共通）　次回の内容について、関連する事柄を調べて授業に臨む。
	復習	第1回～第15回（共通）　毎回の授業において、教科書や配布資料などを確認し、資料は保管する。個別の指摘事項については、知識や技術を身につけるよう努める。また、適宜、指示する課題（レポートほか）を期限までに提出する。
	展開	自宅の入浴環境（脱衣室も含む）について、心身機能の状況に応じた使い勝手を考え、理解を深める。

成績評価	評価の基準	1. 入浴・清潔保持の意義や目的、介護の基本の理解度 2. 入浴・清潔保持の方法、留意点などの知識や理解度

	評価の方法	参加状況（態度や意欲，演習時の身だしなみなど）（10%），課題（レポートほか）（10%），試験（80%）などを総合的に評価する。ただし，この比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	最新介護福祉全書６　生活支援技術Ⅱ
	著者名	川井太加子 編集
	出版社	メジカルフレンド社
	価格	2,600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3154-5

推薦図書等	書籍名	新しい介護
	著者名	太田仁史
	出版社	講談社
	価格	3,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-06-282462-0

参考URL	
備考	技術演習時は，動きやすい服装（原則，ジャージ。ジーンズ不可。上履き），身だしなみを整える（爪は短くする，長い髪は束ねる。髭は剃る。装飾品[イヤリング，ネックレス，ブレスレットなど]は着用しないなど）こと。

生活支援技術Ⅴ（身じたく）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅴ（身じたく）
科目責任者	山田　美知代
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011605　月曜日，2限
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	自立支援　ICF　　身じたく　尊厳の保持	
学生の到達目標	1．日常生活における身じたくの介護の意義と目的、アセスメントの必要性について理解できる。 2．身じたくに関して必要な知識と技術が理解できる。 3.利用者の能力に応じた身じたく・整容行動の介助方法を理解し、安全・安楽に介助ができる。	

授業内容

第1回	ガイダンス、身じたくの意義と目的（目標１）
第2回	身じたくに関する整容の必要性・衣生活の基礎知識（目標１・２）
第3回	身じたくからみた尊厳・自立の介護　（目標１・２・３）
第4回	身じたくに関するアセスメントと目標設定（目標１・２・３）
第5回	個々の生活習慣とおしゃれを楽しむ生活支援（目標１・２・３）
第6回	衣生活についての知識と介助の方法について（目標２・３）
第7回	衣服（座位での更衣）の着脱・介助の方法　演習①（目標２・３）
第8回	衣服（臥衣での更衣）の着脱・介助の方法　演習②（目標２・３）

第9回	利用者の能力に応じた衣服の着脱（実技試験）（目標３）
第10回	整容行動（洗面・口腔ケア・整髪）についての知識と介助の方法について（目標１・２）
第11回	整容行動（洗面・口腔ケア・整髪）の介助　演習③（目標３）
第12回	整容行動（ひげ・爪・化粧）についての知識と介護の方法について（目標１・２）
第13回	整容行動（ひげ・化粧・爪の手入れ）の介助　演習④（目標３）
第14回	障害別にみた身じたくについて（目標１・２・３）
第15回	身じたくに関する他職種の役割と協働について（目標１・２）

予習・復習の内容（毎回45分程度）

予習	第1回～第15回（共通） 日常生活の中で、身じたく・整容に関して関心を持ち，見識を広げておくこと。 第3・4回目　指示されたテーマについて調べ発表できること。
復習	第１回～第１５回（共通） ・毎回の授業の要旨をまとめて自己の学びを深める。 第7・8・11・13回（共通） 授業時に確認した身じたくに関する技術について再度確認しておくこと。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
展開	基礎的な学びを通して，さまざまな事例について自ら考え、調べ、知識を深める。また安全・安楽に身じたくに関する技術を習得する。

成績評価

評価の基準	１身じたくに必要な知識・視点の理解度 ２身じたくに関する技術と安全・安楽な方法の理解
評価の方法	筆記試験60%、課題（レポート等） 20%、参加状況（授業時の態度、取り組み意欲等）10%、実技試験10%の成績を統合する。ただしこの比率は、最終的に変更する可能性もある。

教科書

書籍名	最新介護福祉全書５　生活支援技術 Ⅰ
著者名	編集　川井太加子
出版社	メヂカルフレンド社
価格	2,900円＋税
ISBN・ISSN	978-4-8392-3153-8

推薦図書等

書籍名	基礎から学ぶ口腔ケア第2版；口をまもる　生命をまもる
著者名	菊谷　武
出版社	学研メディカル秀潤社
価格	2520円
ISBN・ISSN	ISBN：978-4-7809-1114-5

参考URL

備考

・演習時は、介護実習室集合。
・演習時は、実習同様身だしなみ（着衣はジャージ、上履き使用。爪を短くする。長い髪は束ねる。アクセサリー類を身につけない）を整え参加すること。

生活支援技術Ⅵ（排泄）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅵ（排泄）
科目責任者	井口　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20011705　木曜日，1限
教室	講義室6
卒業要件	介護福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	排泄、その人らしい生活、排泄に関する福祉用具	
学生の到達目標	１．学生自身の体験を取り入れながら排泄について考えることができる。 ２．利用者がその人らしい生活を過ごすことができるような排泄の介護が考えられる。	
授業内容	第1回	ガイダンス、排泄の意義、目的、排泄の解剖・生理的機序（目標１）
	第2回	ガイダンス、排泄の意義、目的、排泄の解剖・生理的機序（目標１）
	第3回	おむつ着用による排泄と生活体験（課題）のグループワークと発表、正常な排泄とできる条件について（課題）（講義、演習）（目標１、２）
	第4回	気持ちよい排泄をささえる介護、（課題）男性の下着と排泄について、を含む、排泄障害を支える介護（講義、演習））（目標１、２）
	第5回	気持ちよい排泄をささえる介護、（課題）男性の下着と排泄について、を含む、排泄障害を支える介護（講義、演習））（目標１、２）

	第6回	気持ちよい排泄をささえる介護、（課題）男性の下着と排泄について、を含む、排泄障害を支える介護（講義、演習））（目標１、２）
	第7回	安全的確な排泄の介助の技法（トイレ・ポータブルトイレ、採尿器・差し込み便器、おむつ）（講義）（目標２）
	第8回	排泄ケア用品の理解と排泄に関する公的制度の活用（講義）（目標２）
	第9回	数種類のおむつの吸水実験と排泄の介護の技法（演習）　（目標２）
	第10回	数種類のおむつの吸水実験と排泄の介護の技法（演習）（目標２）
	第11回	その人らしい生活のためのよりよい排泄のケアになっているか。（成功事例を使用して）（講義、演習）（目標２）
	第12回	その人らしい生活のためのよりよい排泄のケアになっているか。（成功事例を使用して）（講義、演習）（目標２）
	第13回	その人らしい生活のためのよりよい排泄のケアになっているか。（成功事例を使用して）（講義、演習）（目標２）
	第14回	他職種の役割と協働（坐薬、浣腸、留置カルーテル含む）（講義、演習）
	第15回	他職種の役割と協働（坐薬、浣腸、留置カルーテル含む）（講義、演習）（目標２）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～15回：日常生活の中で排泄に関して関心を持ち，観察する視点を身につけられるようにする。 テキストは，最低限予習し，疑問点を明らかにしておく。
	復習	第１回～15回：課題，発表を通して，自己の学びを深めるようにする。各キーワードについて説明できる。
	展開	基礎的な学びを通して，さまざまな事例について自ら考え調べ，知識・理解を深める。 演習は、必要時授業展開を修正し増やす場合もある。
成績評価	評価の基準	テスト及び課題発表により評価する。 基本的な知識と応用の知識が理解できているか評価する。
	評価の方法	テスト（ 70%）　課題レポート（３０%）
教科書	書籍名	最新介護福祉全書６　生活支援技術 Ⅱ
	著者名	川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2808円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3154-5
推薦図書等	書籍名	よくわかる排便・便秘のケア
	著者名	河井啓三・大沼敏夫
	出版社	中央法規出版
	価格	2,160円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-1515-9

参考URL	
備考	推薦図書等については，適宜提示する。

生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）
科目責任者	山田　美知代
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20011805　月曜日，2限
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	睡眠 環境　尊厳　終末期　看取り制度	
学生の到達目標	1．人間にとって睡眠の意義、また良眠を得るための介助方法について理解する。 2．終末期の苦痛や介護の進め方を学び介護者としての姿勢を理解する。 3．緊急時の対応方法を理解する。	
授業内容	第1回	ガイダンス、睡眠の意義、目的を理解する（目標1）
	第2回	睡眠に関するアセスメント（目標1）
	第3回	安眠のための介護、安眠を促す介護の技法（目標1）
	第4回	睡眠にかかわる福祉用具の活用　介護における他職種の役割と協働（目標1）
	第5回	安眠を促す介護方法（罨法、マッサージの演習①）（目標1）
	第6回	緊急時のアセスメント（目標３）

	第7回	緊急時の状況観察と応急手当　演習②（目標3）
	第8回	終末期における介護の意義と目的（目標2）
	第9回	終末期の介護の基本（介護の基本的視点、介護が行われる場）（目標2）
	第10回	終末期に関するアセスメントの視点と目標設定（目標2・3）
	第11回	終末期における介護の具体的展開方法の理解（目標2・3）
	第12回	施設・在宅での看取りのための制度について（目標2）
	第13回	臨終時の観察と介護方法のと理解（目標2・3）
	第14回	尊厳の保持の観点からエンゼルケアを実施する。演習③（目標2）
	第15回	グリーフケアの意義、方法と留意点（目標2）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1～第5回（共通） 良眠を促す条件をまとめておくこと。 第8～15回（共通） ターミナルケアについて図書を読み、終末期を理解する。
	復習	授業とテキストの内容について，自己の学びを深める。 第5・7・14回　演習後の学びをレポート提出する。
	展開	１睡眠が生活に及ぼす影響について考える。 ２終末期の意味や介護の役割を理解する。
成績評価	評価の基準	１睡眠の意義・目的の理解や安眠を得る方法の技術の習得 ２終末期の苦痛や尊厳ある介護の方法を理解できる。 ３緊急時の観察や対応を理解できる。
	評価の方法	期末試験 70%、課題（レポート等）20%　参加状況（授業時の態度、授業への取り組み意欲）10% ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書６　生活支援技術Ⅱ
	著者名	編集　川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2,600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3154-5
推薦図書等		
参考URL		
備考	・演習時は介護実習室に集合 動きやすい服装（原則，ジャージ。ジーンズ不可。上履き），身だしなみを整える（爪は短くする，長い髪は束ねる。髭は剃る。装飾品[イヤリング，ネックレス，ブレスレットなど着用しない]） ・適宜参考図書を紹介する。	

生活支援技術Ⅷ（障害別）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅷ（障害別）
科目責任者	井口　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20011905　月曜日，5限
教室	ラーニング・コモンズ1
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	心身の障害，生活支援，障害を持つ人の状況	
学生の到達目標	1.心身の障害とその障害を持つ人々の状況を理解できる。 2.障害に応じた生活支援が理解できる。 3.課題学習についてプレゼンテーションができ，事例について自分の考えを述べることができる。	

授業内容

第1回	ガイダンス
第2回	運動機能障害のある人の生活支援　（目標１,２）
第3回	内部障害のある人の生活技術の基本　（目標１,２）
第4回	心臓の機能障害のある人の生活支援　（目標１,２）
第5回	呼吸器の障害のある人の生活支援　（目標１,２）
第6回	腎障害のある人、排泄障害のある人の生活支援　（目標１,２）
第7回	視覚機能障害のある人の生活支援　（目標１,２）
第8回	聴覚機能障害のある人の生活支援　（目標１,２）

	第9回	言語に障害を認める人の生活支援１　（目標１,２）
	第10回	言語に障害を認める人の生活支援２　（目標１,２）
	第11回	課題に対する検討　（目標１,２,３）
	第12回	精神障害のある人への生活支援　（目標１,２）
	第13回	高次機能障害のある人の生活支援　（目標１,２）
	第14回	全介助を要する人および難病の生活支援　（目標１,２）
	第15回	課題学習発表（目標１,２,３）
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第2回～第10回，第12回～14回：授業の内容に示している項目内容について，事前に調べておくこと。事前に決定したテーマについて調べ，発表できるようにする。
	復習	第Ｉ回～第10回，第12回～14回：要旨の作成 第15回　課題のレポート提出
	展開	プレゼンテーションを通して学びを深める。 事例について学習したことを総合して考える。
成績評価	評価の基準	テスト及び課題レポート，発表を総合する。
	評価の方法	テスト70%，課題レポート・発表30%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書　別巻４障害別生活支援技術
	著者名	谷口敏代他
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3348円
	ISBN・ISSN	978－4－8392－3155－2
推薦図書等		
参考URL		
備考		

家事生活支援技術Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	家事生活支援技術Ⅰ
科目責任者	廣橋　比刀美
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20002001　木曜日，2限
教室	被服工芸室
卒業要件	介護福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	快適な生活　豊かな生活　自立した生活	
学生の到達目標	1．自立に向けた家事の援助・介助に関する知識と技術を身につける。 2．自分自身の生活のなかで自立して家事全般ができること。 3．快適で豊かな生活を送るにはどうすればよいか考えることができる。	
授業内容	第1回	授業オリエンテーション，注意事項，自己紹介 家事の意義と目的・家事に関する利用者のアセスメント(目標3)
	第2回	被服・繊維について…繊維の講義，繊維の実験の準備(目標3)
	第3回	被服・繊維について…繊維の実験（燃焼性・吸水性）(目標2)
	第4回	被服・繊維について…繊維の実験・しみ抜きの準備(目標2)
	第5回	しみ抜きの実習(目標2)
	第6回	洗濯の実習（セーターの洗濯）(目標2)
	第7回	しみ抜き・洗濯のまとめ(目標１)

	第8回	被服実習…基本の縫い方・繕いについて(目標2)
	第9回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタンづけの練習など）(目標2)
	第10回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタンづけの練習など）(目標2)
	第11回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタンづけの練習など）(目標2)
	第12回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタンづけの練習など）(目標2)
	第13回	被服実習…おむつ・アームカバーを縫う（ボタンづけの練習など）(目標2)
	第14回	快適な室内環境(目標1,3)
	第15回	まとめ…家事援助に求められる事(目標3)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回　家事とは何かを考えて授業に臨む。 第２回～第７回（共通）　自分の着ている衣服について材料,管理などについて考える。 第８回～第１３回（共通）　生活の中で縫い物を少しでも実践してみる。昔習った裁縫を思い出してみる。 第１４回　自分の生活環境（温度・湿度・換気）など適切かどうか考えてみる。 第１５回　今まで学んできたことが実践できたかどうか振り返ってみる。家事援助とは何かを考える。
	復習	第１回～第１５回（共通）　授業で学んだ被服繊維・裁縫の内容を確認してみる。快適な生活とは何かを再度考えて実践してみる。
	展開	日々の家事を行う事で授業内容を確実なものとし、自分の生活、家事援助へつなげていく。
成績評価	評価の基準	１.家で授業で学んだ知識が実践できているか ２.自立して家事全般ができているか ３.介護が必要な人達の生活を考えることができるようになったかどうか。自分の毎日の生活を振り返ってみる。
	評価の方法	試験60%，レポート他40%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書５　生活支援技術Ⅰ
	著者名	川井 太加子／編集
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3145-3
推薦図書等	書籍名	介護福祉のための家政学
	著者名	中川 英子／編集　石川 周子／〔ほか〕共著
	出版社	建帛社
	価格	2,300円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7679-3575-1
	書籍名	介護福祉のための家政学実習

著者名	中川 英子／編集　大塚 順子／〔ほか〕共著
出版社	建帛社
価格	2,300円＋税
ISBN・ISSN	978-4-7679-3605-5

参考URL

備考

家事生活支援技術Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	家事生活支援技術Ⅱ
科目責任者	三幣　周子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20002101　水曜日，4・5限
教室	講義室5，調理実習室
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	生活支援調理実習，高齢者の食事，障害者の生活支援	
学生の到達目標	１．高齢者，障害者の心身の健康の保持増進をはかるために食生活の重要性を認識させる。 ２．食生活の中での栄養学，食品学，調理学等の知識を養い，実践的な技術を学び，支援が個々の生活に対応できる能力を養う。	
授業内容	第1回	講義①食生活の意義，健康と栄養，状態別栄養（目標１,２）
	第2回	講義②高齢者の心身の特性を知った上での形態別配慮と対応（生活習慣病予防），献立と調理（目標１,２）
	第3回	講義③日常食から介護職への展開（目標１,２）
	第4回	調理実習①高齢者の食事・身体活動保持と疾病予防（目標１,２）
	第5回	講義④障害者の食事（障害の程度に応じた食事）（目標１,２）調理実習②③運動機能が低下している場合・自助具（各班の献立作成提出）（目標１,２）
	第6回	調理実習②③運動機能が低下している場合・自助具（各班の献立作成提出）（目標１,２）

	第7回	調理実習④生活習慣病の食事（簡単な食事）（目標１,２）
	第8回	調理実習⑤各班の献立実習（目標１,２）
	第9回	調理実習⑥⑦高齢者疾病予防の食事（ノートプリント提出）（目標１,２）
	第10回	調理実習⑥⑦高齢者疾病予防の食事（ノートプリント提出）（目標１,２）
	第11回	調理実習⑧⑨障害者の食事・障害の程度による食事（ノートプリント返却）（目標１,２）
	第12回	調理実習⑧⑨障害者の食事・障害の程度による食事（ノートプリント返却）（目標１,２）
	第13回	調理実習⑩⑪千葉県伝統料理（太巻き祭りずし）手軽なスイーツ（目標１,２）
	第14回	調理実習⑩⑪千葉県伝統料理（太巻き祭りずし）手軽なスイーツ（目標１,２）
	第15回	家事生活支援技術のまとめ（目標１,２）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第１回～第１４回　次回の実習内容を知らせるのでそのことについて予習する。普段から自分の食事についても関心をもち，介護に関係するニュース，新聞，雑誌などの記事に目をむけて読み，内容を記録する。
	復習	第１回～第１４回　毎回授業内容をまとめて，きちんとノートに整理しておく。講義・実習についてプリント等を配布するので提出する。
	展開	生活技術全般の総合理解をもとに，その人の生活歴を含め知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	１．高齢者，障害者の心身の健康の保持増進をはかるために食生活の重要性を認識させることができ，指導を行うことができるか。 ２．食生活の中での栄養学，食品学，調理学等の知識を養い，実践的な技術を学び，支援が個々の生活に対応できる能力を養うことができているか。
	評価の方法	期末テスト80%，欠席レポート提出10%，授業態度10%
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考	※実習衣（割烹着・三角巾）を着用。第１回の授業で説明します。 推薦図書はその他必要に応じてプリントを配布	

介護過程Ⅰ（総論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅰ（総論）
科目責任者	松井　奈美
担当教員	川村　博子 清宮　宏臣 根本　曜子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20012205　金曜日，5限
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	介護過程，アセスメント，生活課題，個別介護計画，ICF	
学生の到達目標	1.他科目で学習した知識や技術を統合して，介護過程を展開し，介護計画を立案し，適切な介護サービスの提供が出来る能力を養う。 2.介護過程の意義，目的，内容，展開方法について学ぶ。	
授業内容	第1回	介護過程とは、意義と目的（目標２） 担当教員: 川村　博子
	第2回	介護過程の必要性，視点（VTR，ICFの視点，新しい介護）（目標２） 担当教員: 清宮　宏臣
	第3回	介護課程の全体像（ケアマネジメントと介護課程，介護課程のプロセス説明）（目標２） 担当教員: 清宮　宏臣
	第4回	ケアマネジメント展開する際の諸サービスと関係法（目標１,２） 担当教員: 川村　博子

	第5回	ケアマネジメント展開する際の諸サービスと関係法（目標１,２） 担当教員: 清宮　宏臣
	第6回	アセスメントとは（ICFの視点を踏まえて）（目標１,２） 担当教員: 清宮　宏臣
	第7回	アセスメントとは（情報収集，記録，ジェノグラム，エコグラム）（目標１,２） 担当教員: 川村　博子
	第8回	計画の立案とは，目標の設定（目標１,２） 担当教員: 川村　博子
	第9回	計画の立案の実践（目標１,２） 担当教員: 根本　曜子
	第10回	実施とは，準備と留意点（目標１,２） 担当教員: 根本　曜子
	第11回	評価とは（目標１,２） 担当教員: 根本　曜子
	第12回	事例に基づく介護課程の展開の実際（目標１,２） 担当教員: 根本　曜子
	第13回	事例に基づく介護課程の展開の実際（目標１,２） 担当教員: 松井　奈美
	第14回	介護課程の展開の実際（目標１,２） 担当教員: 松井　奈美
	第15回	介護課程の展開の実際（目標１,２） 担当教員: 松井　奈美
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回：テキストに目を通し学習内容を確認しておくこと 第2回～第15回(共通)事前に指示するテーマについて調べ，当日発表できるようにすること。
	復習	第1回～第15回(共通)学んだことを確認しながら指示されたレポート課題をまとめ，期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。
成績評価	評価の基準	1.他科目で学習した知識や技術を統合して，介護過程を展開し，介護計画を立案し，適切な介護サービスの提供が出来る能力が養なわれている。 2.介護過程の意義，目的，内容，展開方法について理解できている。
	評価の方法	レポート80%，授業態度20%の割合で総合的な評価を行う。
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座9　『介護過程』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規
	価格	2,200円（税別）
	ISBN・ISSN	978－4－8058－5112－8
推薦図書等		
参考URL		
備考	教員の業務状況によっては，各回の担当教員を変更する場合がある。	

介護過程Ⅱ（演習）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅱ（演習）
科目責任者	松井　奈美
担当教員	川村　博子 清宮　宏臣 根本　曜子
授業形態	演習
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
登録コード・曜日・時限	20012305　金曜日，3・4限
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護過程，アセスメント，計画，実施，評価	
学生の到達目標	1.様々な事例における介護過程の展開を行い，利用者に適した介護を考える。 2.自分の考える介護について説明することができる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション 介護過程の理解（目標１,２） 担当教員: 松井　奈美
	第2回	オリエンテーション 実習事例のプロセスレコード作成（目標１,２） 担当教員: 松井　奈美
	第3回	ガイダンス，事例Ａの説明（目標１,２） 担当教員: 根本　曜子
	第4回	ガイダンス，事例Ａの説明（目標１,２） 担当教員: 根本　曜子

第5回　アセスメント（目標１,２）
担当教員: 根本　曜子

第6回　アセスメント（目標１,２）
担当教員: 根本　曜子

第7回　計画・実施・評価（目標１,２）
担当教員: 根本　曜子

第8回　計画・実施・評価（目標１,２）
担当教員: 根本　曜子

第9回　ガイダンス，事例Ｂの説明（目標１,２）
担当教員: 根本　曜子

第10回　ガイダンス，事例Ｂの説明（目標１,２）
担当教員: 根本　曜子

第11回　アセスメント（目標１,２）
担当教員: 川村　博子

第12回　アセスメント（目標１,２）
担当教員: 川村　博子

第13回　計画・実施・評価（目標１,２）
担当教員: 川村　博子

第14回　計画・実施・評価（目標１,２）
担当教員: 川村　博子

第15回　ガイダンス，事例Ｃの説明（目標１,２）
担当教員: 川村　博子

第16回　ガイダンス，事例Ｃの説明（目標１,２）
担当教員: 川村　博子

第17回　アセスメント（目標１,２）
担当教員: 川村　博子

第18回　アセスメント（目標１,２）
担当教員: 川村　博子

第19回　計画・実施・評価（目標１,２）
担当教員: 清宮　宏臣

第20回　計画・実施・評価（目標１,２）
担当教員: 清宮　宏臣

第21回　ガイダンス，事例Ｄの説明（目標１,２）
担当教員: 清宮　宏臣

第22回　ガイダンス，事例Ｄの説明（目標１,２）
担当教員: 清宮　宏臣

第23回　アセスメント（目標１,２）
担当教員: 清宮　宏臣

第24回　アセスメント（目標１,２）
担当教員: 清宮　宏臣

第25回　計画・実施・評価（目標１,２）
担当教員: 清宮　宏臣

第26回　計画・実施・評価（目標１,２）
担当教員: 清宮　宏臣

第27回　発表準備（目標１,２）
担当教員: 清宮　宏臣

第28回　発表準備（目標１,２）
担当教員: 清宮　宏臣

第29回　発表（目標１,２）
担当教員: 松井　奈美

	第30回	発表（目標１,２） 担当教員: 松井　奈美
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習	第1回：テキストに目を通し学習内容を確認しておくこと。 第2回～第15回(共通)事前に指示するテーマについて調べ，当日発表できるようにすること。
	復習	第1回～第15回(共通)学んだことを確認し，指示されたレポート課題をまとめ，期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。
成績評価	評価の基準	1.様々な事例における介護過程の展開の演習を通して，利用者に適した介護を考える力が養われている。 2.自分の考える介護について説明することができている。
	評価の方法	レポート80%，授業態度20%の割合の基準で，4人の担当教員が評価したものを統合させる。 教員の持ち点：1人25点
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座9『介護過程』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規
	価格	2,200円（税別）
	ISBN・ISSN	978－4－8058－5112－8
推薦図書等	書籍名	「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用
	著者名	大川　弥生
	出版社	中央法規
	価格	1,800円（税別）
	ISBN・ISSN	978－4－8058－3206－6
参考URL		
備考	グループワークを基本とする。4教員が各グループを担当し、諸事例を用いて介護過程の展開を行う。なお、進行状況を見ながら授業展開するため各回の授業内容が変化する可能性がある。	

介護過程Ⅲ（チームアプローチ）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅲ（チームアプローチ）
科目責任者	松井　奈美
担当教員	川村　博子 清宮　宏臣 根本　曜子
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20012405　火曜日，4限
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	チームアプローチ，他職種の役割と機能，多職種連携，多職種理解	
学生の到達目標	1.他職種の役割や機能を理解する。 2.介護場面におけるチームアプローチの必要性を理解する。 3.チームの一員としての介護職の役割や実践課題を理解する。	
授業内容	第1回	ガイダンス，グループ分け（目標２） 担当教員: 川村　博子
	第2回	看護業務：役割と連携について（目標１,２,３） 担当教員: 川村　博子
	第3回	ケアマネ－ジャーの役割と連携について（目標１,２,３） 担当教員: 清宮　宏臣

	第4回	作業療法士（OT)の業務・役割と連携について（目標１,２,３） 担当教員: 川村　博子
	第5回	理学療法士（PT)の業務・役割と連携について（目標１,２,３） 担当教員: 根本　曜子
	第6回	歯科医又は言語聴覚士（ST)の業務・役割連携について（目標１,２,３） 担当教員: 松井　奈美
	第7回	OJT等について（目標３） 担当教員: 根本　曜子
	第8回	研究事例発表大会参加（目標１,２,３） 担当教員: 松井　奈美・川村　博子・清宮　宏臣
	第9回	研究事例発表大会参加（目標１,２,３） 担当教員: 松井　奈美・川村　博子・清宮　宏臣
	第10回	研究事例発表大会参加（目標１,２,３） 担当教員: 松井　奈美・川村　博子・清宮　宏臣
	第11回	研究事例発表大会からの学び（目標１,２,３） 担当教員: 清宮　宏臣
	第12回	教科書以外から学ぶチームアプローチ（目標１,２,３） 担当教員: 根本　曜子
	第13回	チームアプローチの事例（目標１,２,３） 担当教員: 松井　奈美
	第14回	チームアプローチの事例（目標１,２,３） 担当教員: 松井　奈美
	第15回	チームアプローチの理解（目標１,２,３） 担当教員: 川村　博子
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回　学習する内容をテキストで確認しておくこと。 第2回～第15回　指示するテーマについて調べておくこと。
	復習	第1回～第15回　学んだことを確認したうえで，指示されたレポート課題をまとめ，各期限までに提出すること。
	展開	最新の図書等で理解を深めること。
成績評価	評価の基準	1.他職種の役割や機能が理解できている。 2.介護場面におけるチームアプローチの必要性が理解できている。 3.チームの一員としての介護職の役割や実践課題が理解できている。
	評価の方法	レポート（80%），授業態度（20%）の割合で評価する。
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座９　『介護過程』
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規
	価格	2,200円（税別）
	ISBN・ISSN	978－4－8058－5112－8
推薦図書等		

参考URL	
備考	・各専門職の業務や役割を他者に説明できるようになることを目指す。 ・外部講師の講義日は特に真摯に傾聴するとともに，積極的に質問することを心掛けてほしい。 ・外部講師の都合を優先するため各回の内容が変更する場合がある。

介護過程Ⅳ（事例研究）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅳ（事例研究）
科目責任者	川村　博子
担当教員	井口　ひとみ 布施　千草 今井　訓子 清宮　宏臣 中西　正人 松井　奈美 山田　美知代
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20012501　火曜日，5限　木曜日，1限
教室	（火曜日）講義室1，2，3，7（木曜日）講義室1，6，7，ラーニング・コモンズ1
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	実習の振りかえり，介護過程の展開，事例報告書作成，発表	
学生の到達目標	実習での事例を振り返り，介護過程展開の意義や方法の理解を深める。	
授業内容	第1回	ガイダンス（全体） 担当教員: 川村　博子
	第2回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振りかえり 担当教員: 担当教員全員
	第3回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振り帰り 担当教員: 担当教員全員
	第4回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振り帰り 担当教員: 担当教員全員

第5回	実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振り帰り 担当教員: 担当教員全員
第6回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備 担当教員: 担当教員全員
第7回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備 担当教員: 担当教員全員
第8回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備 担当教員: 担当教員全員
第9回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備 担当教員: 担当教員全員
第10回	実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備 担当教員: 担当教員全員
第11回	発表準備・印刷（全体） 担当教員: 担当教員全員
第12回	発表準備・製本（全体） 担当教員: 担当教員全員
第13回	発表（全体） 担当教員: 担当教員全員
第14回	発表（全体） 担当教員: 担当教員全員
第15回	発表会 担当教員: 松井　奈美

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第２回～第14回（共通）実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振りかえり。
	復習	第２回～第14回（共通）実習で受け持った利用者の介護過程の展開を記録として起こす。
	展開	介護過程の展開について図書等で理解を深める。

成績評価	評価の基準	介護過程展開の意義や方法の理解度で総合的に判断する。
	評価の方法	レポート80%、授業態度20%

教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座９　介護過程」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2,200円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3421-3

推薦図書等

参考URL

備考

介護総合演習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護総合演習Ⅰ
科目責任者	山田　美知代
授業形態	演習
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20002605　火曜日，3限
教室	講義室6
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護実習，福祉施設，在宅福祉サービス，根拠法	
学生の到達目標	1．介護実習の意義と目的を理解することができる。 2．実習施設の種別毎の理解ができる。 3．介護実習Ⅰ・Ⅱに向けて必要な知識を得る。また準備を整えることができる。	
授業内容	第1回	オリエンテーション（科目の概要，授業の進め方，実習の時期や概要など）（目標1）
	第2回	認知症高齢者グループホームを理解する①（意義・目的，施設の概要，法的根拠など）（目標1,2,3）
	第3回	認知症高齢者グループホーム実習に向けて②（実習目標の設定，実習課題について）（目標2,3）

第4回	入居生活施設を理解する（入居者施設についての課題を発表。意義・目的，施設の概要）（目標1,2,3）
第5回	入居生活施設実習に向けて②（実習目標の設定，実習課題について）（目標2,3）
第6回	実習Ⅰおよび実習Ⅱへの準備（学生個人票，実習目標など提出書類の作成）（目標3）
第7回	児童福祉施設を理解する①（児童施設についての課題を発表。意義・目的，心得など）（目標（1,2,3）
第8回	児童福祉施設実習に向けて②（実習目標の設定，実習課題について）（目標2,3）
第9回	居宅介護事業所を理解する①（居宅介護施設についての課題を発表。意義・目的，心得など）(目標1,2,3)
第10回	居宅介護実習に向けて②（実習目標の設定，実習課題について）（目標2,3）
第11回	実習Ⅰの事前指導（介護実習Ⅰ・Ⅱ）（目標3）
第12回	記録の書き方（記録の意義や目的，基本的な書き方や文体など）（目標3）
第13回	実習全体の確認事項（実習課題の取り組み方，カンファレンスへの臨み方など）（目標3）
第14回	実習において予測される諸問題（リスクマネジメント・個人情報・ターミナルケアなど），まとめ　（目標3）
第15回	介護実習Ⅰの直前指導（目標3）

予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	障がいを持つ児童や高齢者について日常から関心をもち，関連記事や図書をみる。 第4・8・10回　実習施設について調べる。
	復習	第6回　個人票・実習目標を作成し期日までに担当教員に提出する。
	展開	施設や関係法令に関することを調べ、知識・理解を深める。

成績評価	評価の基準	1実習施設の種別毎の理解度・定着度 2介護実習の提出物等期日までに準備ができる。 3課題レポートの提出
	評価の方法	期末試験60%　課題（レポート等）30%、 参加状況（授業への取り組み意欲・態度）10%などを総合的に評価する。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性がある。

教科書	書籍名	最新介護福祉全書　第８巻　介護総合演習
	著者名	坪内孝・能田茂代編
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,100円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3195-8

推薦図書等

参考URL

備考	・授業の時は、教科書・実習の手引き・記録簿を常に持参すること。 ファイルを用意し配布資料・課題を保管すること。 ・第11・15回の事前・直前指導は地域介護福祉専攻1年生と実施する。

介護総合演習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護総合演習Ⅱ
科目責任者	山田　美知代
授業形態	演習
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20002705　月曜日，3限　木曜日，3限
教室	（月曜日）講義室6（木曜日）講義室7
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	1 建学の精神を含みこむ科目,社会から信頼される高い人間観・倫理感を培う科目,情報化・グローバル化に対応した科目の設定：1年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護実習，生活支援技術，介護過程，介護観	
学生の到達目標	1．介護実習Ⅱに向けて必要な準備を整えることができる。 2．介護福祉士として必要な知識・技術を習得することができる。 3．介護実習Ⅰ・Ⅱを振り返り，自己の介護観を構築する。	
授業内容	第1回	介護実習Ⅱの実習直前指導（目標1）
	第2回	オリエンテーション（授業の進め方，介護実習Ⅰ・Ⅱの課題提出）（目標2,3）
	第3回	実習Ⅰの振り返り①（児童福祉施設実習）（目標2,3）
	第4回	実習Ⅰの振り返り②（認知症高齢者グループホーム実習）（目標2,3）

	第5回	実習Ⅱの振り返り①（居宅介護実習）（目標2,3）
	第6回	実習Ⅱの振り返り②（入居生活施設実習）（目標2,3）
	第7回	実習で課題となった生活支援技術について①（移動）（目標2）
	第8回	実習で課題となった生活支援技術について②（排泄・身じたく）（目標2）
	第9回	アクティビティの定義について（目標2）
	第10回	アクティビティの計画・立案・発表（目標2）
	第11回	介護過程の展開①（事例を作成）（目標2）
	第12回	介護過程の展開②（上記事例をアセスメント，目標・計画を作成、発表）（目標2）
	第13回	介護実習先における事故とリスク管理（目標2,3）
	第14回	介護福祉における研究の視点（問題意識や課題提起に関連した先行研究，事例研究について）（目標2,3）
	第15回	実習全体を通しての学び（「介護観」について）（目標2,3）
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	障がいを持つ人や高齢者について日常から関心を持ち，関連する図書や映像を観るなどして見識を広げておくこと。 第7・8回　実習で課題となった技術について手順等作成する。 第10回　アクティビティを計画する。 第11・12　事例を作成しアセスメント，計画・発表する。
	復習	事前に提示したレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	介護実習の経験をもとにグループワークを実施し，自身の課題や介護観などについて明確にすること。
成績評価	評価の基準	1指示されたレポート課題を期限までに提出 2振り返りを行い，介護福祉士に必要となる知識や技術の確認 3介護観の構築
	評価の方法	課題（レポート・内容）80%，参加状況（授業への参加や取り組み意欲）20%などを総合的に評価する。ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性がある。定期試験は行わない。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書　第8巻　介護総合演習
	著者名	坪内孝・能田茂代編
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,100円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3195-8
推薦図書等		
参考URL		
備考	第7・8回の生活支援技術については，演習室で行う。身だしなみ（着衣はジャージ，上履きをはく。爪を短くする。長い髪は束ねる。アクセサリーは身に着けない）を整えること。 第1・5・6回は，地域介護福祉専攻2年生と実施する。 第3・4回は，地域介護福祉専攻1年生と実施する。	

介護実習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護実習Ⅰ
科目責任者	布施　千草
担当教員	井口　ひとみ 今井　訓子 川村　博子 清宮　宏臣 中西　正人 松井　奈美 山田　美知代
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	20002905
教室	
卒業要件	介護福祉専攻：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性 1 福祉や教育の基本理念と優れた実践力
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護ニーズ，施設職員の役割，生活環境の理解	
学生の到達目標	1.福祉施設において利用者はどのような介護ニーズをもって生活しているか理解する。 2.福祉施設において職員は利用者の介護ニーズに応えるためにどのような支援をしているか理解する。 3.心身に関して介護を要する児童の利用者が福祉施設においてどのように日中を過ごしているか理解する。	

授業内容	＊実習時期 ・児童福祉施設：8月～9月 ・認知症高齢者グループホーム：8月～9月 ＊実習日数 ・児童福祉施設において1日の実習をおこなう。 ・認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）において5日の介護実習をおこなう。 ＊実習先と実習形態（学校で指定した実習先に学生を配属する） ・児童福祉施設における実習：肢体不自由や知的障害のある児童が通ったり居住したりする福祉施設における日勤時間帯の実習 ・認知症高齢者グループホーム：1ユニット９人以下で利用者が共同生活するグループホームにおける日勤時間帯の実習
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習　グループホーム・児童福祉施設について調べておくこと。介護総合演習での学びを生かし実習目標を作成しておくこと。 復習　指示されたレポート課題を期限までに提出すること。 展開　グループホーム・児童福祉施設に関する最新の情報を調べ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準　設定された達成目標の各々について，授業内容を踏まえ適確に説明できること又は，実践できることを基準とする。 評価の方法　実習記録，及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者(50%)と教員(50%)の評価に基づき決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　最新介護福祉全書　第８巻　介護総合演習 著者名　坪内孝・能田茂代編 出版社　メヂカルフレンド社 価格　3,100円＋税 ISBN・ISSN　978-4-8392-3195-8
参考URL	
備考	

介護実習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護実習Ⅱ
科目責任者	布施　千草
担当教員	井口　ひとみ 今井　訓子 川村　博子 清宮　宏臣 中西　正人 松井　奈美 山田　美知代
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	20003005
教室	
卒業要件	介護福祉専攻：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	介護過程，夜勤，通所介護，介護観	
学生の到達目標	1.介護過程の展開実習を通して利用者を全人間的に支援するかかわりの重要性を理解する。 2.実際に真のニーズを理解しそれに応えていくために生活支援技術をいかに生かしていったらよいのかを理解する。 3.ホームヘルプ，デイサービス，ショートステイなどの居宅生活支援事業の重要性を理解する。	

授業内容	＊実習時期：10月（定められた実習期間が終了し次第後期授業開始となる） ＊実習日数：合計20日｛目標1・２・３｝ ・入居生活する福祉施設において30日の期間中に18日の介護過程の展開実習をおこなう。 ・ホームヘルパーと同行するなどして介護過程の展開実習と同じ30日の期間中に2日の居宅介護実習をおこなう。 ＊実習先と実習形態（学校で指定した実習先に学生を配属する） ・介護過程の展開実習：入居生活する福祉施設における，早番，遅番，夜勤などの勤務時間の違う実習 ・居宅介護実習：訪問介護または訪問入浴介護事業所からの同行訪問，支援センターでの支援業務のいずれかの実習 ※なお，上記と同じ期間において，実習先の状況や学生の学習状況によって，デイサービスやデイケアなどの通所事業所の実習を実施する場合もある。
予習・復習の内容（毎回90分程度）	予習　介護過程についての事前学習を振り返る。介護技術の総点検を行い，自分の課題を明確にしておく。 復習　指示されたレポート課題を期限までに提出すること。 展開　「介護観」として「介護論」理解のため，文献学習を行い，知識の定着をはかる。
成績評価	評価の基準　設定された達成目標の各々について，授業内容を踏まえ適確に説明できること又は，実践できることを基準とする。 評価の方法　実習記録，及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者(50%)と教員(50%)の評価に基づき決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	書籍名　最新介護福祉全書　第8巻　介護総合演習 著者名　坪田孝・能田茂代編 出版社　メヂカルフレンド社 価格　3,100円＋税 ISBN・ISSN　978-4-8392-3195-8
参考URL	
備考	

発達と老化の理解Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	発達と老化の理解Ⅰ
科目責任者	丹羽　真里
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20003301　土曜日，1・2限
教室	講義室4
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	高齢者，心理学，認知症，精神疾患，ケースワーク	
学生の到達目標	1.高齢者の心理学的特徴を理解する。 2.高齢者支援の環境や課題を理解する。 3.高齢者支援に関わる支援者のあり方を理解する。	

授業内容

第1回	講義及びレポート等のガイダンス，高齢社会と高齢者の心理(目標１)
第2回	高齢社会と高齢者の心理学　高齢者の健康，長寿とライフスタイル(目標１,２)
第3回	老化と認知症について　ビデオを観て学ぶ(目標１,２,３)
第4回	高齢者の認知症と精神疾患(１)(目標１,３)
第5回	高齢者の認知症と精神疾患(２)(目標１,３)
第6回	身体・生理・心理機能の加齢変化(目標１)
第7回	高齢者支援に関わる支援者(１)ビデオを観て学ぶ(目標３)
第8回	高齢者支援に関わる支援者(２)ビデオを観て学ぶ(目標３)

	第9回	高齢者の知能・創造性・知恵の発達(目標１)
	第10回	高齢期の人格，自己概念の特徴(目標１)
	第11回	適応理論とサクセスフルエイジング(目標１)
	第12回	高齢期の家族，対人関係と社会生活(目標１)
	第13回	高齢者の支援(１)(目標１,2,3)
	第14回	高齢者の支援(２)(目標１,２,３)
	第15回	発達と老化の理解のまとめ

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～１５回（共通）高齢者に関わる事象に日常から関心を持ち，関連する資料や報道について理解する。
	復習	第１回～１５回（共通）毎回の授業の要旨をまとめる。
	展開	授業で扱った事柄の中から，興味や関心を持った領域についてさらに調べ，理解を深める。

成績評価	評価の基準	１．子どもからの成長に伴う変化と，高齢者特有の特徴を理解する。 ２．高齢者の心理・社会的状態を理解する。 ３．高齢者支援の基本的な知識の有無を成績評価の基準とする。
	評価の方法	平常点50%，レポート50% ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	発達と老化の理解
	著者名	(編集)介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3422-0

推薦図書等

参考URL

備考

発達と老化の理解Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	発達と老化の理解Ⅱ
科目責任者	井口　ひとみ
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20003405　木曜日，2限
教室	ラーニング・コモンズ1
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	老化、心身の変化、高齢者の疾病の特徴、日常生活留意点	
学生の到達目標	1．老化による身体的変化やライフサイクルの中における老年期について理解できる。 2．高齢者に起こりやすい疾病の特徴および日常生活での留意点などが理解できる。 3．他職種との連携について理解できる。	
授業内容	第1回	ガイダンス 人間の成長と発達の理解（目標１）
	第2回	身体機能の発達（目標１）
	第3回	心理社会的発達社会（目標１）
	第4回	社会からみた老年期 社会は老年期をどうとらえてきたか（目標１）
	第5回	社会からみた老年期（目標１） 高齢者施策の推移
	第6回	社会からみた老年期（目標１） 今日の老年期をめぐる問題

	第7回	ライフサイクルの中の老年期（目標１）
	第8回	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 老化に伴う心身の変化（目標２）
	第9回	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 日常生活への影響（目標２）
	第10回	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 機能低下の予防（目標２）
	第11回	高齢者に多い症状と日常生活での留意点（目標２）
	第12回	高齢者に多い病気と日常生活での留意点（１）（目標２）
	第13回	高齢者に多い病気・日常生活での留意点（２）（目標２）
	第14回	要介護高齢者にかかわる介護福祉士と保健・医療職との連携（目標３）
	第15回	要介護高齢者の介護で出合う病気
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回：日常生活の中で「発達」「老化」に関心を持ち，考えを深めることができる。 テキストは最低限予習し，疑問点を明らかにする。
	復習	第1回～第15回：要旨を整理する。 間で2回ほど課題学習を提示する。レポートを指示した日に提出する。
	展開	老化について理解を深め，特徴を理解したうえで日常生活での留意点について知識を深める。
成績評価	評価の基準	テスト及び課題レポートを総合する。
	評価の方法	テスト70%，課題レポート30%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書９
	著者名	林泰史他
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2592円
	ISBN・ISSN	９７８－４－８３９２－３１９６－５
推薦図書等		
参考URL		
備考		

認知症の理解Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	認知症の理解Ⅰ
科目責任者	布施　千草
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20003505　火曜日，1限
教室	講義室5
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定 3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	認知症ケアの歴史，認知症の症状，検査と治療，家族介護者，若年性認知症	
学生の到達目標	1 認知症ケアの歴史を理解する。 2 医学的視点に基づく認知症の症状・検査診断を理解する。 3 認知症のある人と家族への支援について学ぶ。	
授業内容	第1回	認知症ケアの歴史的変遷（認知症の疫学，施策も含む）その Ⅰ 〔目標1〕
	第2回	医学的側面からの認知症についての基礎的理解（原因となる疾患と特徴）〔目標2〕
	第3回	認知症の検査や治療法の理解〔目標2〕
	第4回	中核症状と周辺症状の特徴の理解　その Ⅰ　記憶障害・見当識障害・失語・失行・失認・その他〔目標２〕

	第5回	中核症状と周辺症状の特徴の理解　その Ⅱ　徘徊・妄想・食行動異常・その他｛目標2｝
	第6回	認知症進行に伴う症状変化の理解（ステージアプローチの必要性）｛目標2，3｝
	第7回	コミュニケーション障害としての認知症｛目標2，3｝
	第8回	認知症のある人が抱える心理的な問題（不快，不安，混乱，被害感等）｛目標2，3｝
	第9回	認知症のある人にみられるさまざまな行動（徘徊，異食，妄想，介護拒否等）｛目標2，3｝
	第10回	BPSDの出現原因，介護者との関係｛目標2｝
	第11回	認知症のある人の家族の心理と障害受容｛ 目標3｝
	第12回	認知症のある人を介護する家族への支援｛目標3｝
	第13回	若年性認知症のある人と家族の支援　その Ⅰ｛目標3｝
	第14回	若年性認知症のある人と家族の支援　その Ⅱ｛目標3｝
	第15回	学生による発表と討論｛目標1,2,3｝
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第14回　認知症に関連する報道に関心を持つこと。教科書を事前に読み，授業に臨むこと。
	復習	第1回～14回　指示されたレポート課題を期限までに提出すること。毎回の授業要旨をまとめておくこと。
	展開	認知症に関する最新の図書や研究成果を調べ，知識・理解を深めること。
成績評価	評価の基準	１認知症ケアの歴史について説明できる。 ２医学的視点に基づく認知症の症状・検査診断をについて述べることができる。 ３認知症のある人と家族への支援について具体的援助法を述べることができる
	評価の方法	レポート提出（20%）期末テスト（80%）
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座12　認知症の理解
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2,376円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3770-2
推薦図書等		
参考URL		
備考		

認知症の理解Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	認知症の理解Ⅱ
科目責任者	布施　千草
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20003605　月曜日，1限
教室	講義室7
卒業要件	介護福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	認知症ケアの実際，心理療法，認知症予防，認知症政策	
学生の到達目標	1.認知症ケアに関する基礎的知識を習得する。 2.認知症ケアの今後の展望について理解する。 3.認知症の心理療法・予防について理解する。	
授業内容	第1回	認知症ケアの理念について｛目標1｝
	第2回	パーソンセンタードケアについて　その Ⅰ｛目標1｝
	第3回	パーソンセンタードケアについて　その Ⅱ｛目標1｝
	第4回	ユマニチュードそのⅠ｛目標1｝
	第5回	ユマニチュードそのⅡ｛目標1｝
	第6回	認知症のある人のケアマネジメント　竹内式　その Ⅰ｛目標1｝
	第7回	認知症のある人のケアマネジメント　竹内式　その Ⅱ｛目標1｝
	第8回	認知症の心理療法｛目標3｝Ⅰ

	第9回	認知症のある人のケアマネジメント　センター方式｛目標1｝
	第10回	認知症介護ひも解きシート｛目標1｝
	第11回	認知症の予防｛目標3｝
	第12回	認知症のある人の地方包括ケア（連携と協働）－尾道市の取り組みの紹介　その Ⅰ｛目標2｝
	第13回	認知症のある人の地方包括ケア（連携と協働）－尾道市の取り組みの紹介　その Ⅱ｛目標2｝
	第14回	認知症ケアの今後の課題｛目標2｝
	第15回	学生による発表と討論｛目標1,2,3｝

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～14回　認知症に関連する報道に関心をもち，学習すること。テキスト（特に認知症のケアの部分）を事前に読むこと。
	復習	第1回～15回　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	認知症に関する最新の図書や研究成果，図書や研究成果，国の政策などを調べ，知識・理解を深めること。

成績評価	評価の基準	１.認知症ケアに関する基礎的知識を習得している。 ２.認知症ケアの今後の展望について説明できる。 ３.認知症の心理療法・予防について述べることができる。
	評価の方法	テスト（２０％）小論文（８０％）により評価する。

教科書	書籍名	新・介護福祉士講座12　認知症の理解
	著者名	介護福祉士養成講座委員会
	出版社	中央法規
	価格	2,376円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3770-2

推薦図書等

参考URL

備考

障害の理解

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害の理解
科目責任者	松井　奈美
担当教員	川村　博子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20003805　火曜日，2限
教室	講義室5
卒業要件	介護福祉専攻：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 2 高い人間観・倫理観
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	障害特性の理解，障害者の生活理解，人権と尊厳	
学生の到達目標	1.障害のある人の心理に関する基礎的知識を学ぶ。 2.障害のある人の日常生活上の課題を理解する。 3.本人および家族を含めた生活支援の留意点・自立に向けた介護のあり方を理解する。	
授業内容	第1回	オリエンテーション，障害の概念 (目標1)
	第2回	障害福祉の基本理念 (目標1)
	第3回	障害福祉の基本理念 (目標1)
	第4回	視覚障害のある人の理解 (目標2,3)
	第5回	聴覚・言語障害，重複障害のある人の理解 (目標2,3)
	第6回	肢体不自由のある人の理解 (目標2,3)

	第7回	内部障害のある人の理解 (目標2,3)
	第8回	難病のある人の理解 (目標2,3)
	第9回	知的障害のある人の生活の理解 (目標2)
	第10回	発達障害のある人の生活の理解 (目標2)
	第11回	精神障害のある人の生活の理解 (目標2)
	第12回	高次機能障害のある人の理解 (目標2)
	第13回	障害のある人への介護の理解 (目標2,3)
	第14回	家族への支援 (目標2)
	第15回	地域におけるサポート体制の理解 (目標2)
予習・復習の内容（毎回45分程度）	予習	第1回～第15回　テキストで授業範囲を確認し，必ず一読しておくこと。
	復習	第1回～第15回　レジュメや講義内容をメモした自筆ノートを再読すること。
	展開	障害当事者が書いた書籍を読み障害理解を深める。
成績評価	評価の基準	1.障害のある人の心理に関する基礎的知識を習得している。 2.障害のある人の日常生活上の課題が理解できている。 3.本人および家族を含めた生活支援の留意点・自立に向けた介護のあり方が理解できている。
	評価の方法	定期試験100% 【担当教員の評価割合：川村60%，松井40%】
教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座13　障害の理解」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会（編）
	出版社	中央法規
	価格	2,200円（税別）
	ISBN・ISSN	978－4－8058－5115－9
推薦図書等	書籍名	最新　介護福祉全書11　『障害の理解』
	著者名	谷口　敏代（編）
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3,100円（税別）
	ISBN・ISSN	978－4－8392－3198－9
参考URL		
備考	・1年次生と合同授業を行う回もある。	

こころとからだのしくみⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	こころとからだのしくみⅠ
科目責任者	大野　孝則
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20004005　金曜日，1限
教室	講義室4
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	人体解剖，生理（一部生化学），生命維持	
学生の到達目標	1．介護に必要な人体の構造や機能についての基本を学ぶ。 2．一般教養としての自然科学としても通用する内容を目標とする。	

授業内容

第1回	細胞，生体膜，核，DNA，ATP (目標1,2)
第2回	組織（上皮，支持，筋，神経）(目標1,2)
第3回	組織（血液），ホメオスターシス (目標1,2)
第4回	皮膚・骨格系の解剖と生理 (目標1,2)
第5回	筋系の解剖と生理 (目標1,2)
第6回	呼吸器系の解剖と生理 (目標1,2)
第7回	循環器系の解剖と生理 (目標1,2)
第8回	消化器系の解剖と生理 (目標1,2)
第9回	腎・泌尿器系の解剖と生理 (目標1,2)
第10回	血液造血器系，内分泌系，生殖系の解剖と生理 (目標1,2)

	第11回	脳・神経系の解剖と生理 (目標1,2)
	第12回	脳・神経系の解剖と生理 (目標1,2)
	第13回	脳・神経系の解剖と生理 (目標1,2)
	第14回	感覚器系の解剖と生理 (目標1,2)
	第15回	感覚器系の解剖と生理 (目標1,2)
予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～１５回　講義の最後に，次回講義の予告をする。予告したものを予習する。
	復習	第１回～１５回　講義の最後にまとめたものを復習する。
	展開	講義した基本内容を理解する。
成績評価	評価の基準	学生の到達目標１．２と人体の構造と機能を理解し介護に応用する事ができたか。
	評価の方法	試験（100%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	目でみるからだのメカニズム[第2版]
	著者名	堺　章
	出版社	医学書院
	価格	税込3,240円
	ISBN・ISSN	978-4-260-02776-2
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	こころとからだのしくみⅡ
科目責任者	井口　ひとみ
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20004105　金曜日，2限
教室	ラーニング・コモンズ1
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	2 履修科目のナンバリングで学習段階を明確にしての基礎的な専門科目の設定：1年次設定
授業のキーワード	身体のしくみ，こころのしくみ，日常生活に関連した身体のしくみ	
学生の到達目標	1.人体各部の名称と，日常生活に関連した身体の仕組みと心について理解できる。 2.将来的に介護技術を行う際に身体の仕組みやこころについて関連付けて考えることができる。	
授業内容	第1回	人体部位の名称，生命の維持のしくみ（目標１）
	第2回	人体部位の名称，生命の維持のしくみ（目標１）
	第3回	移動に関連した解剖生理（目標１）
	第4回	移動に関連したこころのしくみ・ボディメカニクス（目標２）
	第5回	食事に関連した解剖生理　（目標１） 機能低下が食事に及ぼす影響
	第6回	栄養摂取の意義・安全な食事のための留意点（目標２）
	第7回	入浴，清潔保持に関連した解剖生理 皮膚のしくみ・頭髪のしくみ・機能低下が入浴に及ぼす影響（目標１）
	第8回	入浴，清潔保持の実際（目標２）

	第9回	身じたくの関連した解剖生理 機能低下が身じたくに及ぼす影響（目標１,２）
	第10回	身じたくの関連したこころのしくみ（目標２） 疾病（障害）と介護（感染症、免疫）
	第11回	排泄に関連した解剖生理，こころのしくみ（目標１,２） 機能低下が排泄に及ぼす影響 疾病（障害）と介護（悪性腫瘍、虚血系心疾患、脳血管障害）
	第12回	疾病（障害）と介護（高血圧、糖尿病など）
	第13回	睡眠の構造と睡眠障害 睡眠に関連したこころのしくみ（目標１,２）
	第14回	終末期の心身の状況・死後の変化 死に対するこころの理解（目標１,２）
	第15回	疑似体験を通して相手の立場を理解する（目標１,２）
予習・復習の内容 （毎回180分程度）	予習	第1回～14回　生活を行ううえでの身体の仕組みや心について，関連する図書を読んだりしておく。テキストも事前に目を通しておくこと。
	復習	第1回～14回　解剖生理と介護援助を関連づけて考えることができるようにする。
	展開	機能低下が日常生活に及ぼす影響について，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	テスト及び課題レポートを総合する。
	評価の方法	テスト（70%），課題レポート（30%）
教科書	書籍名	最新介護福祉全書　第 12巻こころとからだのしくみ
	著者名	小板橋喜久代
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3456円
	ISBN・ISSN	978－4－8392－3199－6
推薦図書等	書籍名	カラー人体解剖学
	著者名	Ｆ．Ｈ．マティーニ他
	出版社	西村書店
	価格	7,800円＋税
	ISBN・ISSN	978－4－8913－305－5
	書籍名	シンプル解剖生理学
	著者名	樋口隆，河田光博
	出版社	南江堂
	価格	3200円＋税
	ISBN・ISSN	978－4－524－22054－0
参考URL		
備考		

医療的ケアⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	医療的ケアⅠ
科目責任者	布施　千草
担当教員	井口　ひとみ 今井　訓子 山田　美知代
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20014501　火曜日，4限
教室	講義室7，介護実習質
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	医行為　医療的ケア　リスクマネージメント	
学生の到達目標	1．医行為における介護者の役割がわかる。 2．医療的ケアの基礎知識について理解できる。 3．医行為を安全に行うためのリスクマネジメントについて理解できる。	
授業内容	第1回	人間と社会　｛目標１｝ 担当教員: 布施　千草
	第2回	健康状態の把握｛目標１.２｝ 担当教員: 布施　千草
	第3回	消化器のしみ｛目標２｝ 担当教員: 井口　ひとみ

	第4回	消化、吸収とよくある症状・経管栄養について｛目標２｝ 担当教員: 井口　ひとみ
	第5回	経管栄養のしくみ・注入する内容について｛目標２｝ 担当教員: 井口　ひとみ
	第6回	経管栄養実施上の留意点・こどもの経管栄養｛目標２.３｝ 担当教員: 井口　ひとみ
	第7回	こどもの経管栄養・感染予防｛目標２.３｝ 担当教員: 山田　美知代
	第8回	利用者、家族の気持ちの理解・安全確認｛目標２.３｝ 担当教員: 山田　美知代
	第9回	事故発生予防、対策｛目標１.３｝ 担当教員: 今井　訓子
	第10回	呼吸器のしくみ｛目標２｝ 担当教員: 今井　訓子
	第11回	呼吸の異常と対策｛目標１.２｝ 担当教員: 今井　訓子
	第12回	人工呼吸器と吸引｛目標１.２.３｝ 担当教員: 今井　訓子
	第13回	子どもの吸引」・家族の気持ち｛目標２｝ 担当教員: 今井　訓子
	第14回	喀痰吸引によって生じる危険、安全確認｛目標１.２.３｝ 担当教員: 今井　訓子
	第15回	喀痰吸引によって生じる危険、安全確認｛目標１.２.３｝ 担当教員: 今井　訓子

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第１回～第15回　既習の関連科目に目を通し、確認しておく。教科書を事前に読んで、疑問点等整理して授業に臨む。
	復習	第1回～第15回（共通）授業の要旨をまとめること。配布資料の整理をする。
	展開	介護職への医行為導入に至る社会情勢について理解すること。 医療的ケアⅡとあわせて知識を深めること。

成績評価	評価の基準	１．医行為における介護者の役割を説明できる。 ２．医療的ケアの基礎知識を習得している。 ３．医行為を安全に行うためのリスクマネジメントについて説明できる。
	評価の方法	試験７０％、レポート３０％

教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座１５医療的ケア
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会 編集
	出版社	中央法規
	価格	2,376円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3944-7

推薦図書等

参考URL

備考

医療的ケアⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	MCC302
開講年度	2017年度
科目区分	専門科目
授業科目名	医療的ケアⅡ
科目責任者	布施　千草
担当教員	井口　ひとみ 今井　訓子 山田　美知代
授業形態	講義・演習
開講時期	通期
登録コード・曜日・時限	20014601　（前期）木曜日，5限（後期）木曜日，4・5限
教室	（前期）講義室7，介護実習室 （後期）講義室7
卒業要件	介護福祉専攻：　　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

ポリシーとの関連	ディプロマポリシー	1 地域介護福祉の基本理念と優れた実践力 3 介護福祉士に関する知識・技能の専門性
	カリキュラムポリシー	3 必修取得資格や関連する資格・免許の取得に関する科目の設定：1・2年次設定 4 各専攻それぞれを特色づける対象者との触れ合いのできる体験や実習に関する科目の設定：1・2年次設定
授業のキーワード	喀痰吸引，経管栄養，手順，医療者との連携	
学生の到達目標	1.医療的ケアについて介護職の役割と連携が理解できる。 2.シュミレーターを用いて経管栄養が効果的に行える。 3.シュミレーターを用いて喀痰吸引が効果的に行える。	
授業内容	第1回	保健医療チーム制度，法律とチーム医療{目標1} 担当教員: 布施　千草
	第2回	チーム医療と介護職員の連携・喀痰吸引，経管栄養の安全な実施{目標1.2.3} 担当教員: 布施　千草

第3回　経管栄養の安全な実施｛目標2｝
担当教員：布施　千草

第4回　救急蘇生法｛目標2.3｝
担当教員：今井　訓子

第5回　救急蘇生法（演習）｛目標2.3｝
担当教員：担当教員全員

第6回　感染予防{目標1.2.3}
担当教員：今井　訓子

第7回　滅菌と消毒（演習）｛目標2.3｝
担当教員：担当教員全員

第8回　健康状態の把握，利用者・家族の気落ちの理解，安全確認｛目標1.2.3｝
担当教員：今井　訓子

第9回　経管栄養で用いる器具・器材とその仕組み｛目標2｝
担当教員：井口　ひとみ

第10回　経管栄養の技術とその留意点　そのⅠ｛目標2｝
担当教員：井口　ひとみ

第11回　経管栄養の技術とその留意点　その２｛目標2｝
担当教員：井口　ひとみ

第12回　経管栄養の技術とその留意点その3｛目標2｝
担当教員：井口　ひとみ

第13回　経管栄養に必要なケア・記録・報告　その１｛目標1.2｝
担当教員：井口　ひとみ

第14回　経管栄養に必要なケア・記録・報告　その２｛目標1.2｝
担当教員：井口　ひとみ

第15回　経管栄養の技術（演習）その１｛目標1.2｝
担当教員：担当教員全員

第16回　経管栄養の技術（演習）その２｛目標1.2｝
担当教員：布施　千草・井口　ひとみ・今井　訓子・山田　美知代

第17回　経管栄養の技術（演習）その３｛目標1.2｝
担当教員：担当教員全員

第18回　喀痰吸引に用いる器具・器材とその仕組み｛目標3｝
担当教員：山田　美知代

第19回　喀痰吸引の技術と留意点　その１｛目標3｝
担当教員：山田　美知代

第20回　喀痰吸引の技術と留意点　その２｛目標3｝
担当教員：山田　美知代

第21回　喀痰吸引の技術と留意点　その３｛目標3｝
担当教員：山田　美知代

第22回　喀痰吸引に伴うケア・記録・報告　その１｛目標1.3｝
担当教員：山田　美知代

第23回　喀痰吸引に伴うケア・記録・報告　その２｛目標1.3｝
担当教員：山田　美知代

第24回　喀痰吸引の技術（演習）その１｛目標1.3｝
担当教員：担当教員全員

第25回　喀痰吸引の技術（演習）その２｛目標1.3｝
担当教員：担当教員全員

第26回　喀痰吸引の技術（演習）その３｛目標1.3｝
担当教員：担当教員全員

	第27回	評価について{目標1.2.3} 担当教員: 布施　千草
	第28回	技術演習（演習）｛目標1.2.3｝ 担当教員: 担当教員全員
	第29回	技術演習（演習）その１｛目標1.2.3｝ 担当教員: 担当教員全員
	第30回	技術演習（演習）その2　｛目標1.2.3｝ 担当教員: 担当教員全員

予習・復習の内容（毎回180分程度）	予習	第1回～第15回｛共通）「既習の関連」科目に目を通し，確認をしておくこと。 教科書を読み，準備をして授業に臨むこと。
	復習	第1回～第15回｛共通）授業の要旨をまとめておくこと。手順を頭に入れるように，練習を重ねること
	展開	介護職への医行為導入に至る社会情勢を理解すること。 医療的ケアＩと合わせて理解を深め，技術の習得を目指すこと。

成績評価	評価の基準	１.医療的ケアについて介護職の役割と連携を説明できる。 ２.シュミレーターを用いて経管栄養を手順通り実施できる。 ３.シュミレーターを用いて喀痰吸引を手順通り実施できる。
	評価の方法	筆記・実技試験（100%）で判定する。

教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座　15医療的ケア
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会 編集
	出版社	中央法規
	価格	2,376円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-8058-3944-7

推薦図書等

参考URL

備考